

II 調査の結果

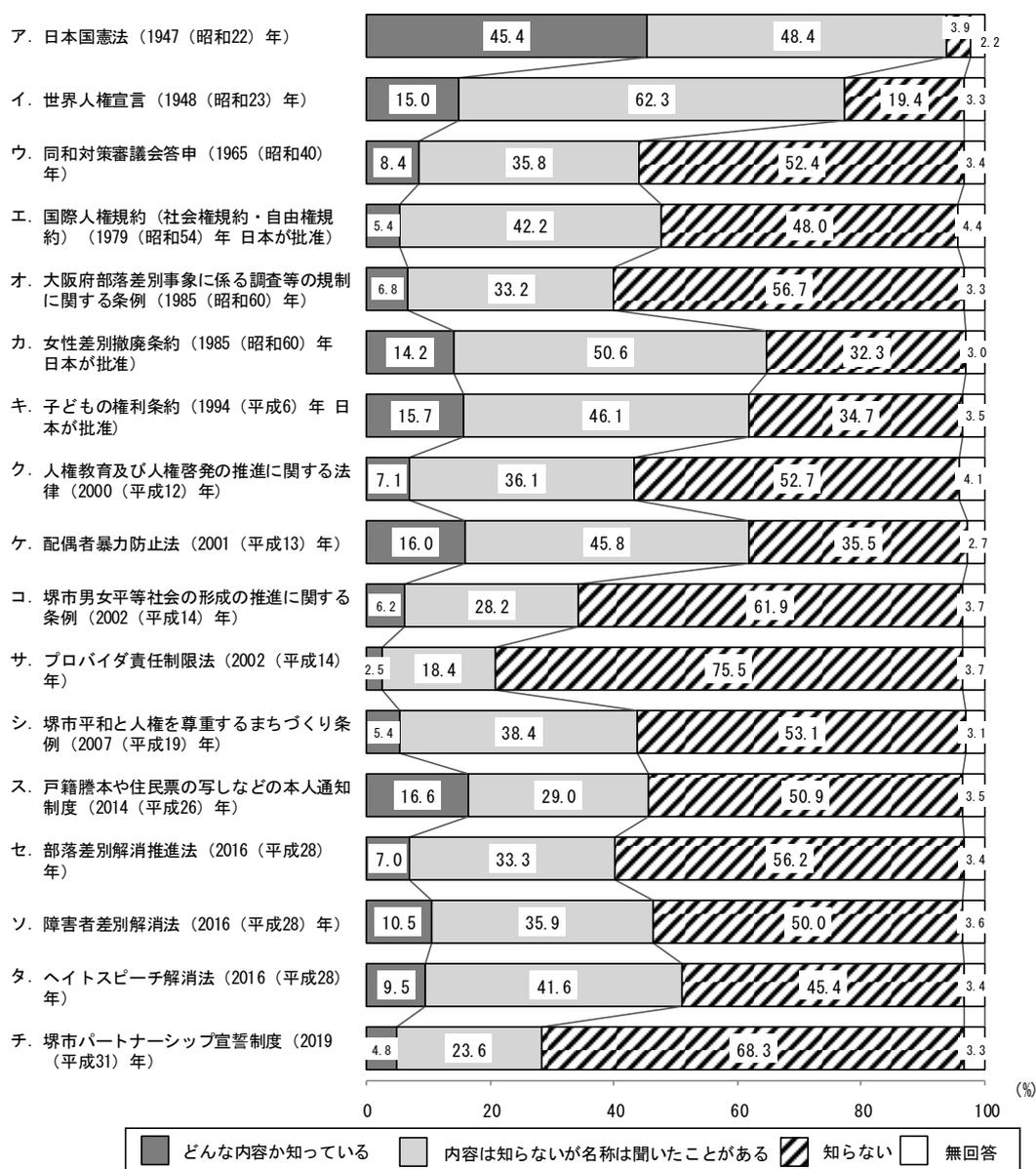
1 人権に関する考え方について

(1) 人権に関する宣言、法律、条約等の認知状況

問5 あなたは、次の人権に関する宣言や条約、法律等について、どの程度知っていますか。
(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 1-1 人権に関する宣言、法律、条約等の認知状況】

(N=1,165)

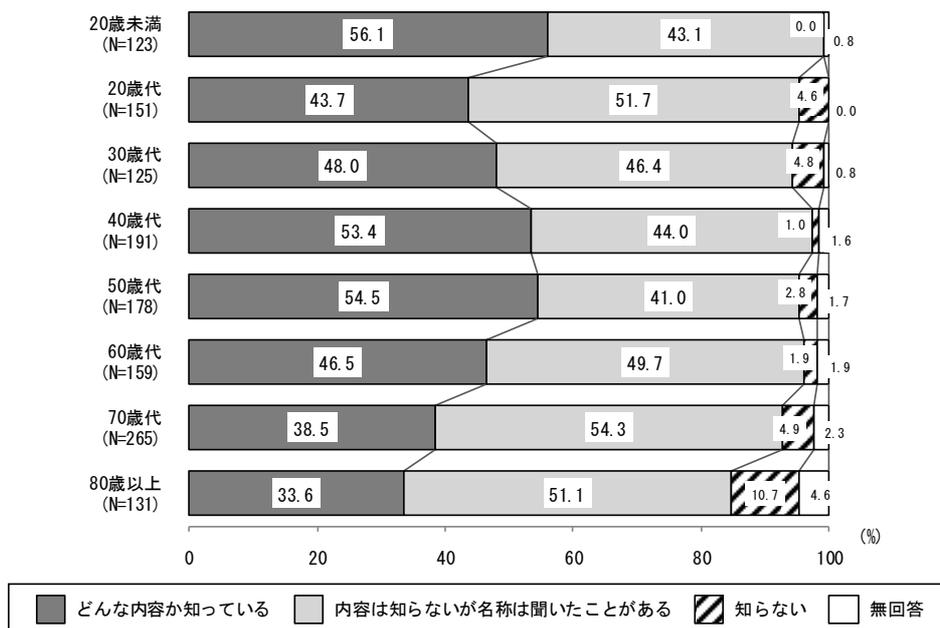


人権に関する宣言、法律、条約等の認知状況について、「どんな内容か知っている」が最も高い項目は「ア. 日本国憲法 (1947 (昭和22) 年)」(45.4%)で、各項目の中で唯一4割以上となっている。次いで

「ス. 戸籍謄本や住民票の写しなどの本人通知制度 (2014 (平成 26) 年)」(16.6%)、「ケ. 配偶者暴力防止法 (2001 (平成 13) 年)」(16.0%)、「キ. 子どもの権利条約 (1994 (平成 6) 年 日本が批准)」(15.7%)、「イ. 世界人権宣言 (1948 (昭和 23) 年)」(15.0%) となっている。

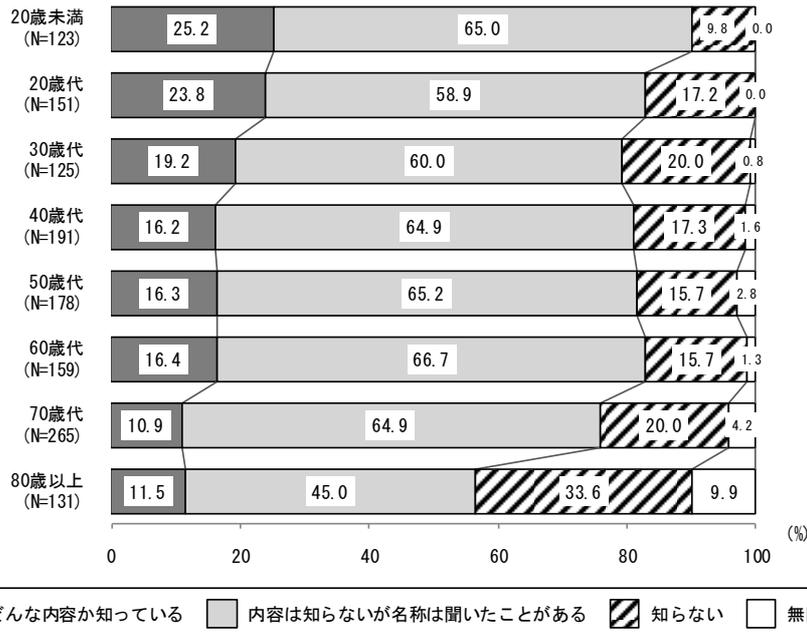
「知らない」が過半数を占めている上位 5 項目は、割合が高い順に「サ. プロバイダ責任制限法 (2002 (平成 14) 年)」(75.5%)、「チ. 堺市パートナーシップ宣誓制度 (2019 (平成 31) 年)」(68.3%)、「コ. 堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例 (2002 (平成 14) 年)」(61.9%)、「オ. 大阪府部落差別事象に係る調査等の規制に関する条例 (1985 (昭和 60) 年)」(56.7%)、「セ. 部落差別解消推進法 (2016 (平成 28) 年)」(56.2%) となっている。(図表 1-1)

【図表 1-1-1 年齢別 ア. 日本国憲法 (1947 (昭和 22) 年)】



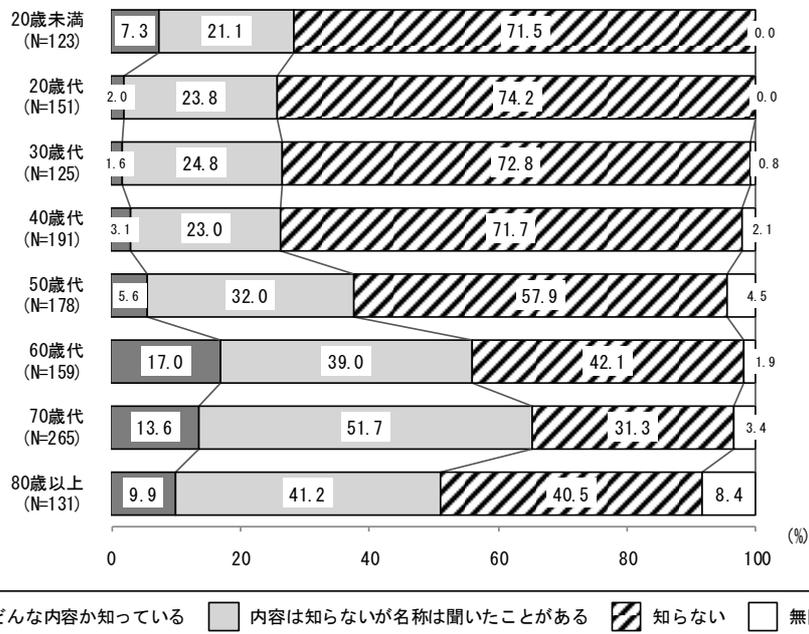
「ア. 日本国憲法 (1947 (昭和 22) 年)」を年齢別で見ると、全ての年齢で「どんな内容か知っている」が 3 割を超えており、中でも 20 歳未満、40 歳代、50 歳代では過半数を超えている。「どんな内容か知っている」を 20 歳以上の年齢層で見ると、20 歳代から 50 歳代にかけて高くなっているが、60 歳以上では一転して年齢があがるにつれ低下しており、80 歳以上では「知らない」が約 1 割を占めている。(図表 1-1-1)

【図表 1-1-2 年齢別 イ. 世界人権宣言（1948（昭和23）年）】



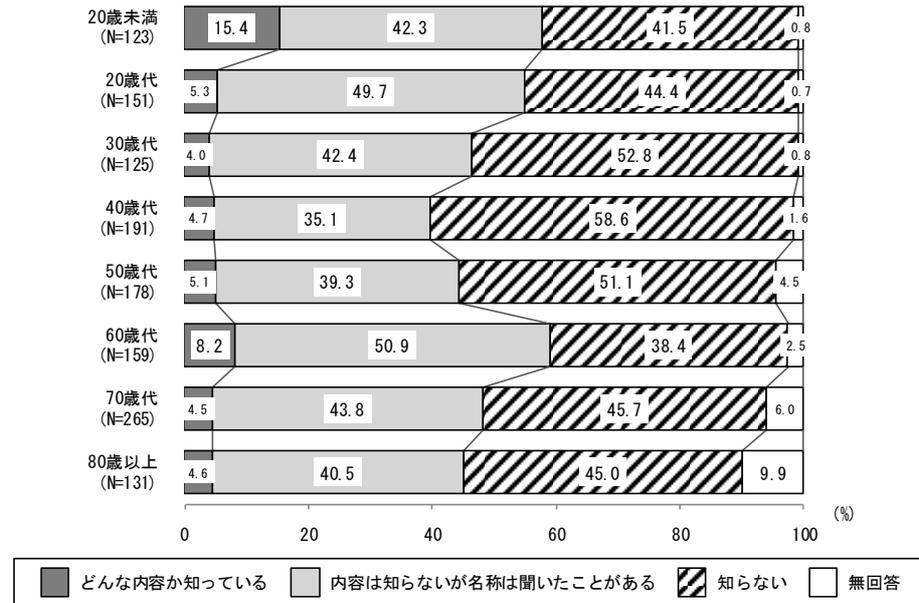
「イ. 世界人権宣言（1948（昭和23）年）」を年齢別で見ると、20歳代以下では「どんな内容か知っている」は25%前後で、他の年齢より比較的高い割合となっている。「知らない」は、20歳未満が1割未満と低く、20～70歳代では概ね2割程度、80歳以上では3割程度と、年齢層が上がるにつれ段階的に「知らない」が高くなっている。（図表 1-1-2）

【図表 1-1-3 年齢別 ウ. 同和対策審議会答申（1965（昭和40）年）】



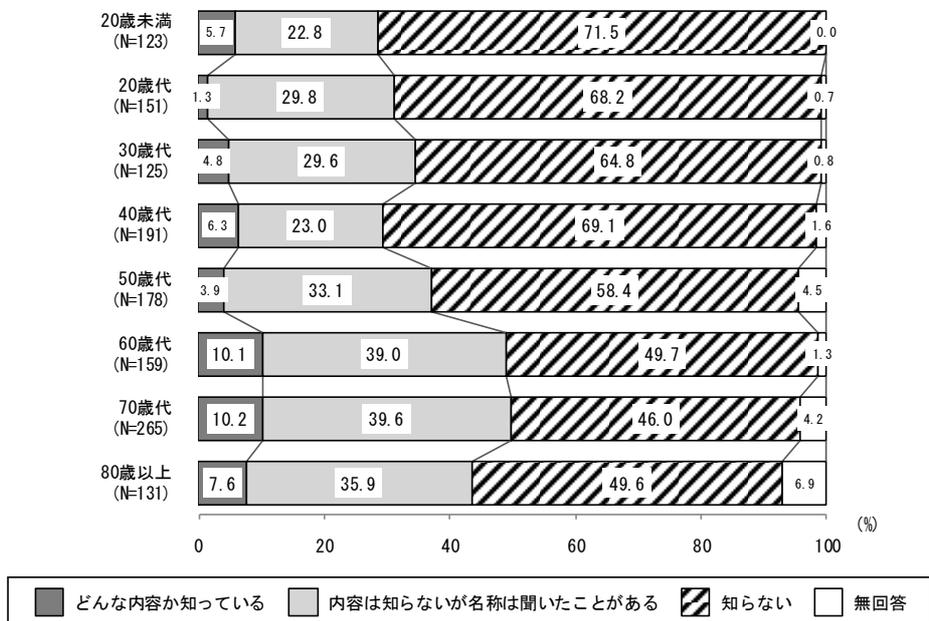
「ウ. 同和対策審議会答申（1965（昭和40）年）」を年齢別で見ると、40歳代以下は「知らない」が7割を超えており、中でも20～40歳代は「どんな内容か知っている」が約3%以下と低い。50歳代～70歳代では年齢層が上がるにつれ「知らない」が3割まで低下しており、60歳代では「どんな内容か知っている」が約2割近くを占めている。（図表 1-1-3）

【図表 1-1-4 年齢別 エ. 国際人権規約 (1979 (昭和 54) 年 日本が批准)】



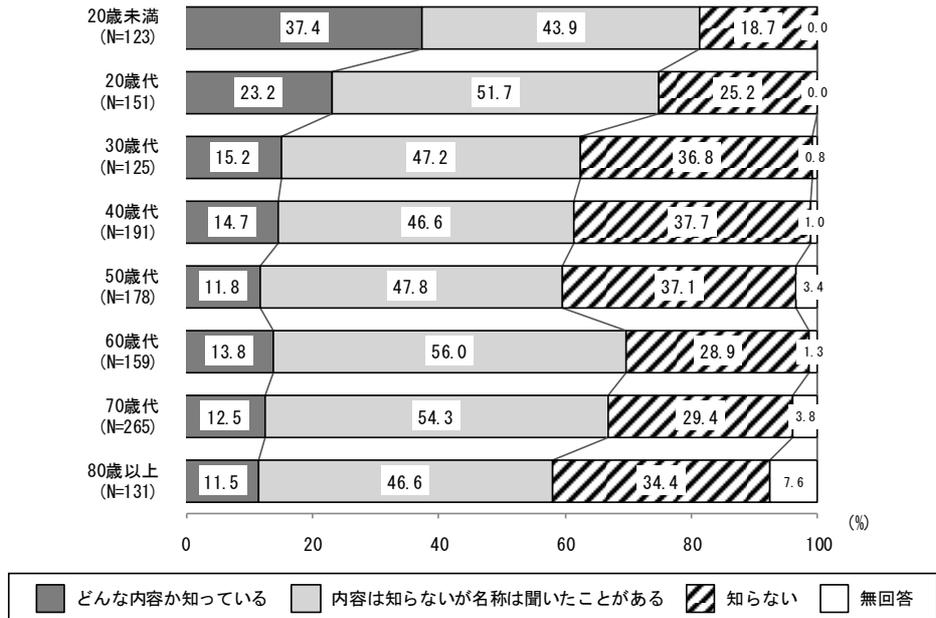
「エ. 国際人権規約 (1979 (昭和 54) 年 日本が批准)」を年齢別で見ると、20 歳未満は「どんな内容か知っている」が 15.4%だが、20 歳以上では 1 割未満となっている。「知らない」は 20 歳代以下及び 60 歳代で 4 割程度、30 歳代及び 50 歳代で約 5 割、40 歳代で約 6 割となっている。(図表 1-1-4)

【図表 1-1-5 年齢別 オ. 大阪府部落差別事象に係る調査等の規制に関する条例 (1985 (昭和 60) 年)】



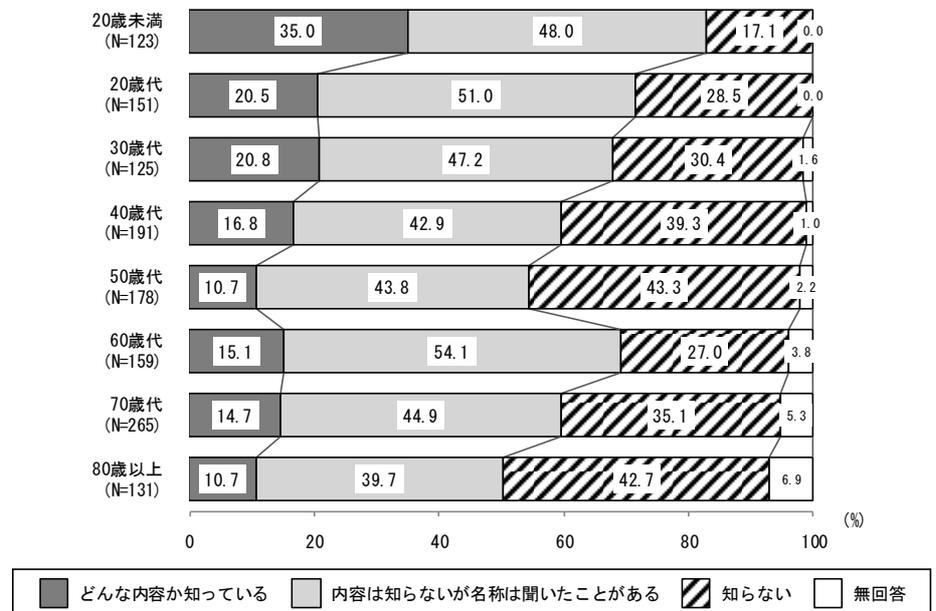
「オ. 大阪府部落差別事象に係る調査等の規制に関する条例 (1985 (昭和 60) 年)」を年齢別で見ると、「どんな内容か知っている」は 60 歳代及び 70 歳代で 1 割となっているが、それ以外の年齢では 5%前後に留まっている。「知らない」は 40 歳代以下で 7 割前後、50 歳代で 6 割程度、60 歳以上では 5 割程度となっている。(図表 1-1-5)

【図表 1-1-6 年齢別 カ. 女性差別撤廃条約（1985（昭和60）年 日本が批准）】



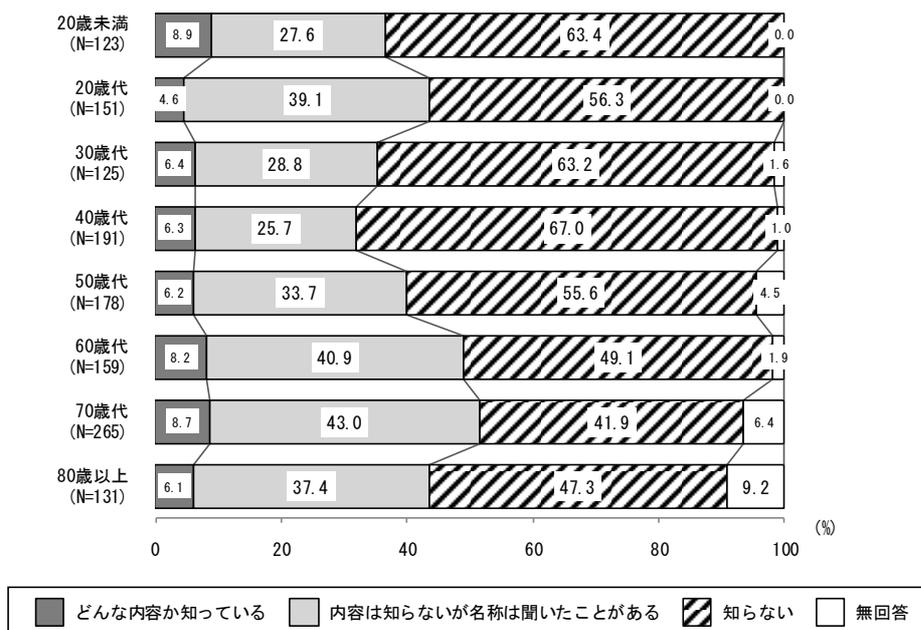
「カ. 女性差別撤廃条約（1985（昭和60）年 日本が批准）」を年齢別で見ると、20歳未満の「どんな内容か知っている」は37.4%で、他の年齢に比べ高い割合となっており、20歳代も23.2%であることから、若年層での認知状況がとりわけ高くなっている。「どんな内容か知っている」は30歳以上でそれぞれ同程度の割合であるが、「知らない」は20歳代以下で約2割以下、30～50歳代で約4割、60～70歳代で約3割となっており、中間の年齢層で認知状況がやや低い傾向にある。（図表 1-1-6）

【図表 1-1-7 年齢別 キ. 子どもの権利条約（1994（平成6）年 日本が批准）】



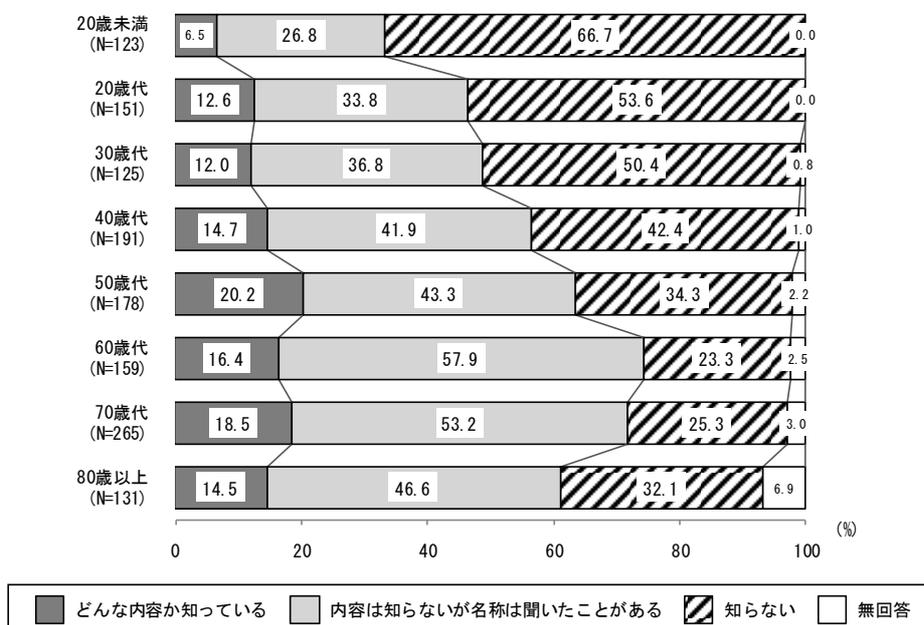
「キ. 子どもの権利条約（1994（平成6）年 日本が批准）」を年齢別で見ると、「どんな内容か知っている」は20歳未満が35.0%で最も高く、その他の年齢は1割から2割程度である。「知らない」は、20歳未満（17.1%）から50歳代（43.3%）にかけて徐々に高くなっている。一転して60歳代では27.0%まで下がるが、80歳以上（42.7%）にかけて再び高くなっている。（図表 1-1-7）

【図表 1-1-8 年齢別 ク. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律（2000（平成12）年）】



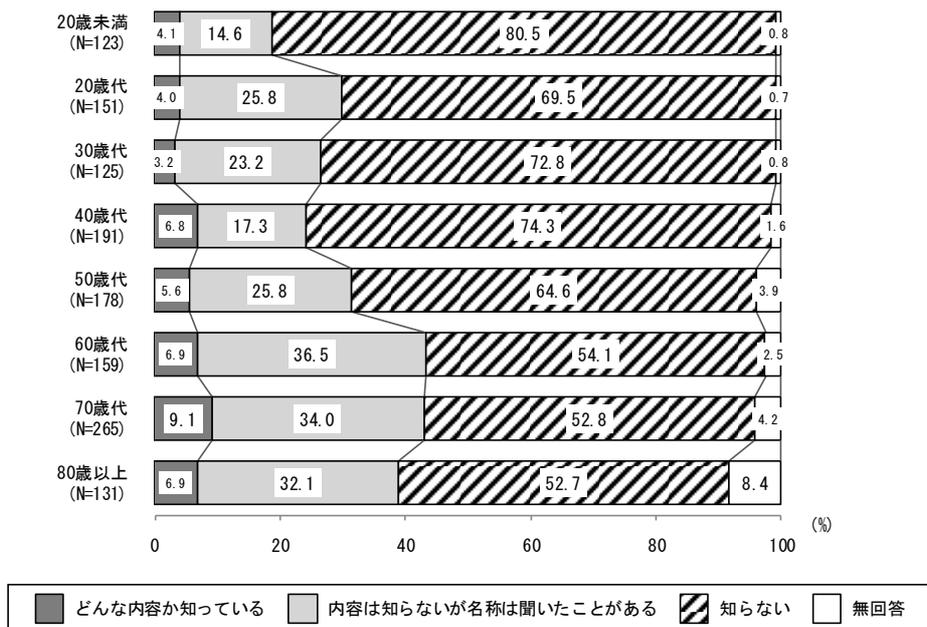
「ク. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律（2000（平成12）年）」を年齢別で見ると、「どんな内容か知っている」はいずれの年齢も1割未満となっている。「知らない」は50歳代以下の年齢で過半数を超えており、60歳以上では4割台となっている。（図表 1-1-8）

【図表 1-1-9 年齢別 ケ. 配偶者暴力防止法（2001（平成13）年）】



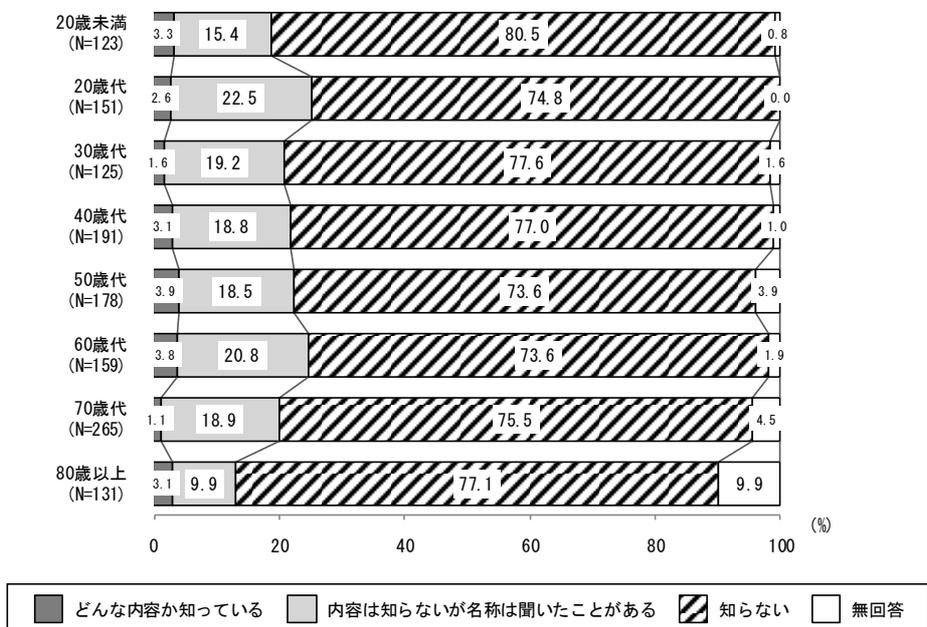
「ケ. 配偶者暴力防止法（2001（平成13）年）」を年齢別で見ると、「どんな内容か知っている」は50歳代が20.2%、20歳未満が6.5%で、その他の年齢は1割台となっている。「知らない」は30歳代以下が5割から6割程度と過半数を超えているが、40歳以上では4割以下となっている。特に、60～70歳代では2割台と他の年齢に比べ低くなっている。（図表 1-1-9）

【図表 1-1-10 年齢別 コ. 堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例 (2002 (平成 14) 年)】



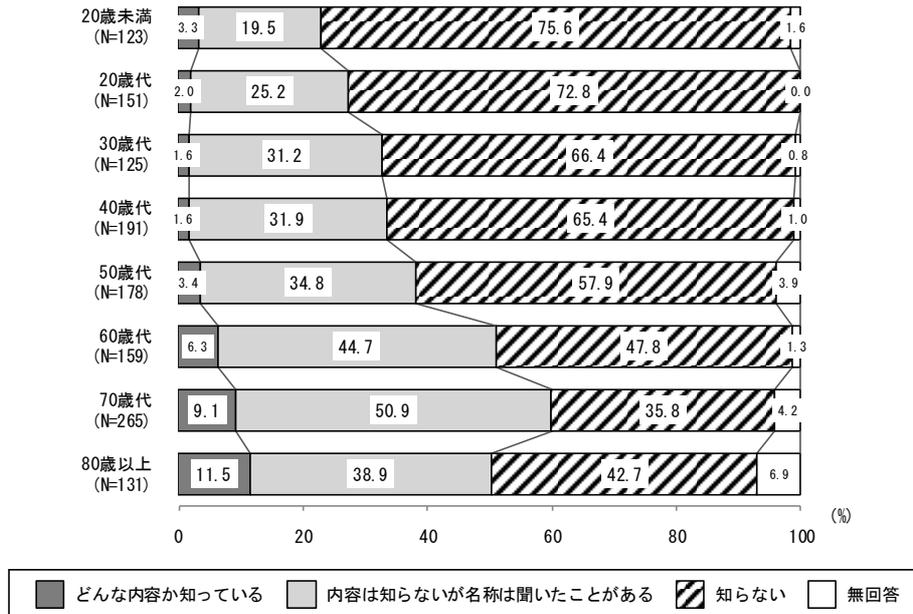
「コ. 堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例 (2002 (平成 14) 年)」を年齢別で見ると、全ての年齢で「どんな内容か知っている」は1割未満に留まっており、「知らない」は過半数を超えている。「知らない」は20歳未満で80.5%と最も高く、20歳代~50歳代の年齢で6~7割程度、60歳以上では5割程度と、概ね年齢が上がるにつれ「知らない」は低下している。(図表 1-1-10)

【図表 1-1-11 年齢別 サ. プロバイダ責任制限法 (2002 (平成 14) 年)】



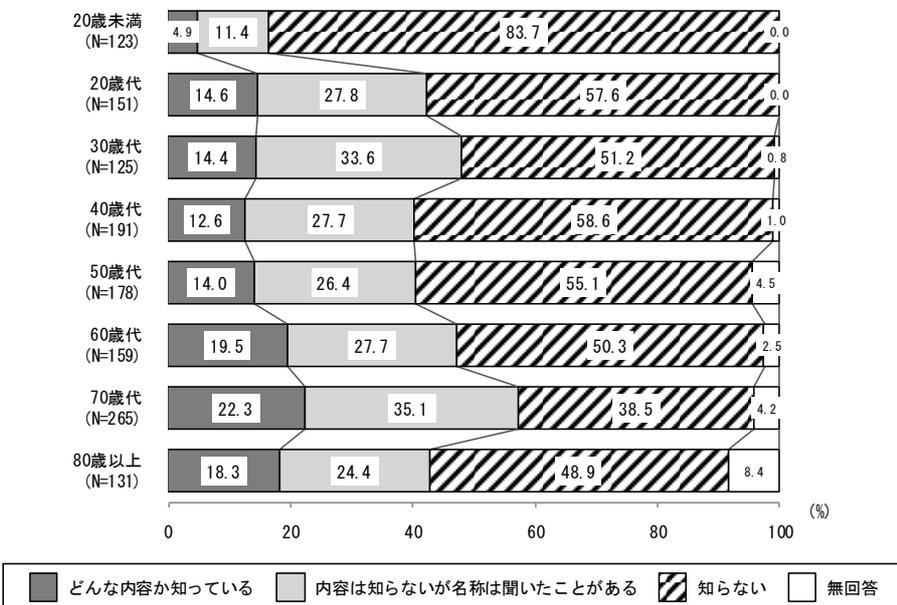
「サ. プロバイダ責任制限法 (2002 (平成 14) 年)」を年齢別で見ると、いずれの年齢も「どんな内容か知っている」は4%未満であり、「知らない」は7割を超えている。特に20歳未満では「知らない」が80.5%と最も高くなっている。(図表 1-1-11)

【図表 1-1-12 年齢別 シ. 堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例 (2007 (平成 19) 年)】



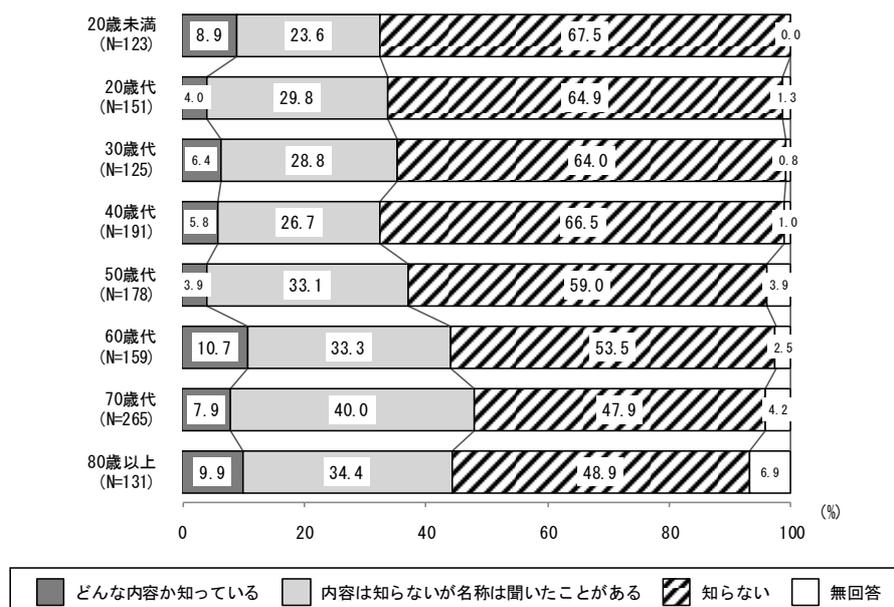
「シ. 堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例 (2007 (平成 19) 年)」を年齢別でみると、「どんな内容か知っている」は80歳以上が11.5%と最も高く、70歳代以下では1割未満となっている。「知らない」は、70歳代以下の年齢層では、年齢が上がるにつれて低くなっている。70歳代では「内容は知らないが名称は聞いたことがある」が過半数を占めており、「知らない」は3割台となっている。(図表 1-1-12)

【図表 1-1-13 年齢別 ス. 戸籍謄本や住民票の写しなどの本人通知制度 (2014 (平成 26) 年)】



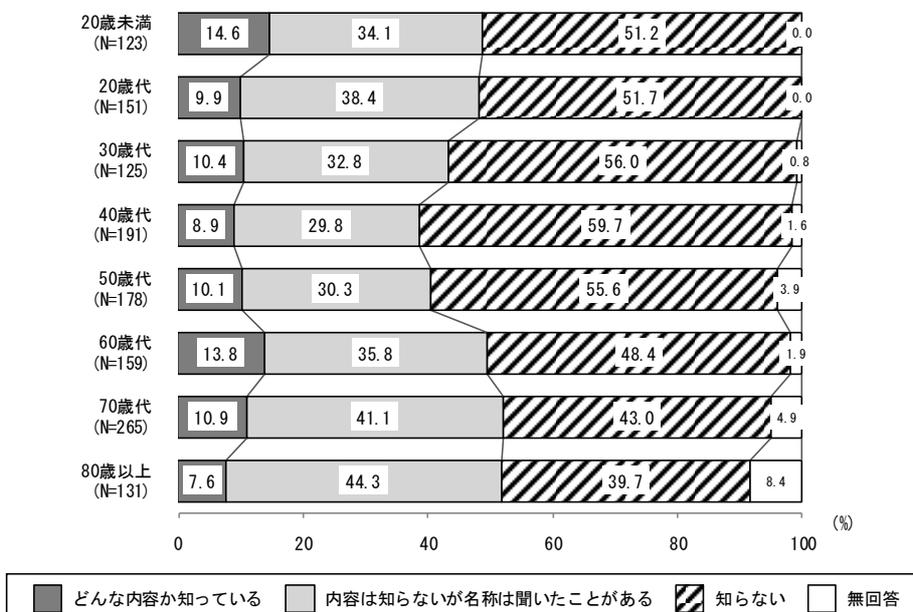
「ス. 戸籍謄本や住民票の写しなどの本人通知制度 (2014 (平成 26) 年)」を年齢別でみると、20歳未満の「どんな内容か知っている」は4.9%と最も低く、「知らない」は8割台となっている。20歳以上は「どんな内容か知っている」が1~2割程度であり、20~60歳では「知らない」が5割程度となっている。70歳代は「知らない」が38.5%であり、その他の年齢に比べ低くなっている。(図表 1-1-13)

【図表 1-1-14 年齢別 セ. 部落差別解消推進法（2016（平成28）年）】



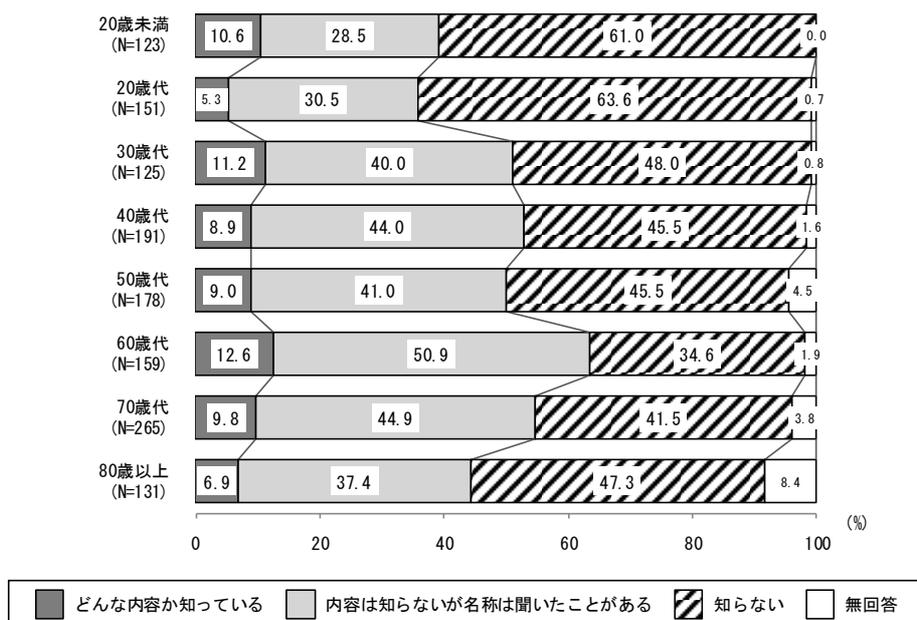
「セ. 部落差別解消推進法（2016（平成28）年）」を年齢別で見ると、「どんな内容か知っている」は60歳代（10.7%）で最も高く、その他の年齢では1割未満となっている。「知らない」は40歳代以下で6割台であり、50～60歳代では5割台、70歳以上では4割台となっている。70歳代は各年齢の中で「内容は知らないが名称は聞いたことがある」（40.0%）が最も高く、「知らない」（47.9%）は最も低い。（図表1-1-14）

【図表 1-1-15 年齢別 ソ. 障害者差別解消法（2016（平成28）年）】



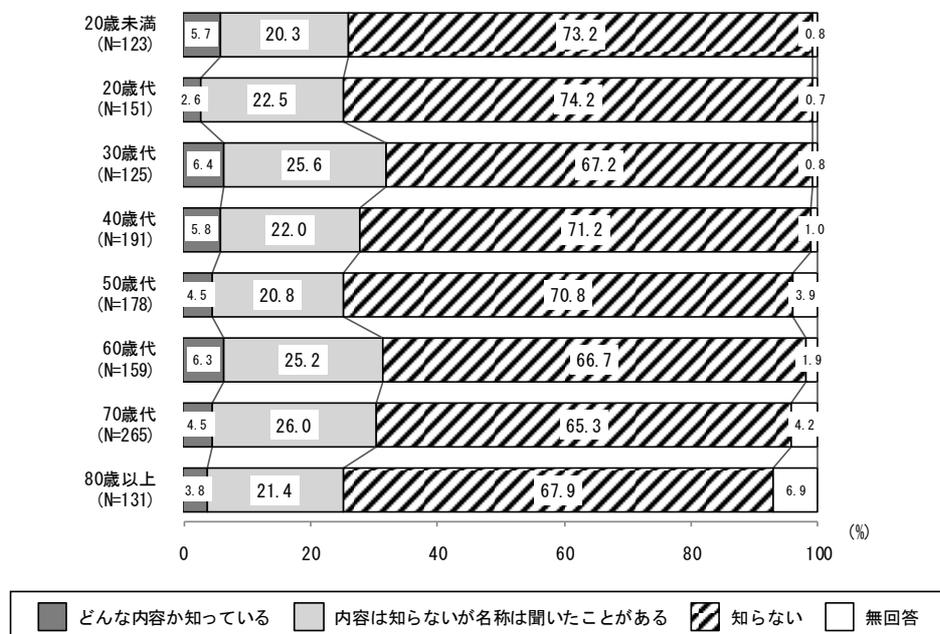
「ソ. 障害者差別解消法（2016（平成28）年）」を年齢別で見ると、いずれの年齢も「どんな内容か知っている」は10%前後であり、最も高いのは20歳未満（14.6%）、次いで60歳代（13.8%）となっている。「知らない」は50歳代以下の年齢で過半数を超えており、40歳代では約6割となっている。（図表1-1-15）

【図表 1-1-16 年齢別 タ.ヘイトスピーチ解消法（2016（平成28）年）】



「タ.ヘイトスピーチ解消法（2016（平成28）年）」を年齢別で見ると、60歳代は各年齢の中で「どんな内容か知っている」が12.6%と最も高く、「知らない」は34.6%と最も低い。一方で、20歳代は各年齢の中で「どんな内容か知っている」が5.3%と最も低く、「知らない」は63.6%と最も高い。20歳未満は「どんな内容か知っている」が10.6%と比較的高いものの、「知らない」も61.0%と20歳代に次いで高い。（図表 1-1-16）

【図表 1-1-17 年齢別 チ.堺市パートナーシップ宣誓制度（2019（平成31）年）】



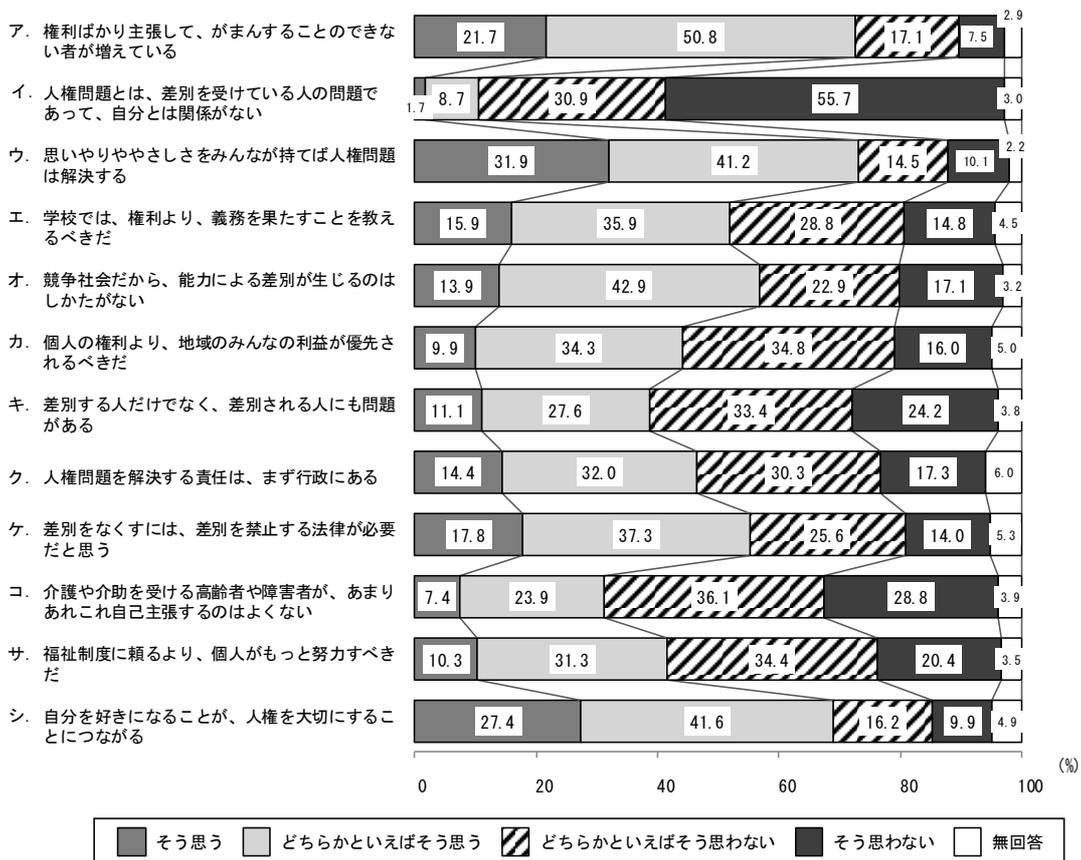
「チ.堺市パートナーシップ宣誓制度（2019（平成31）年）」を年齢別で見ると、「どんな内容か知っている」はいずれの年齢も5%前後に留まり、「知らない」はいずれの年齢も6～7割程度となっている。年齢による傾向の違いはあまりみられない。（図表 1-1-17）

(2) 人権に関する考え方

問6 人権について、いろいろな考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 1-2 人権に関する考え方】

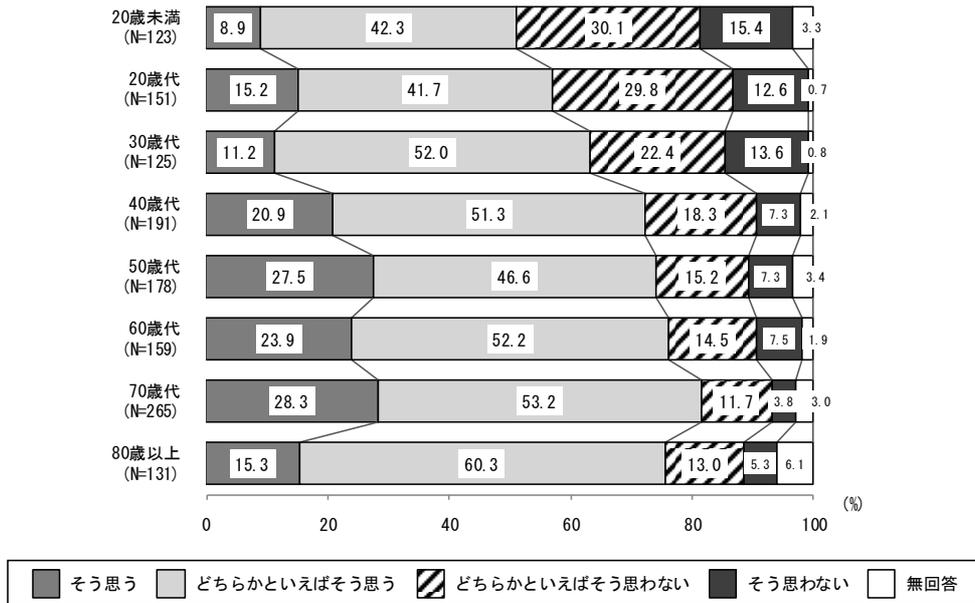
(N=1,165)



人権に関する考え方について、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、割合が高い順に「ウ. 思いやりやさしさをみんなが持てば人権問題は解決する」（73.1%）、「ア. 権利ばかり主張して、がまんすることのできない者が増えている」（72.5%）、「シ. 自分を好きになることが、人権を大切にすることにつながる」（69.0%）、「オ. 競争社会だから、能力による差別が生じるのはしかたがない」（56.8%）、「ケ. 差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う」（55.1%）、「エ. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」（51.8%）となっている。

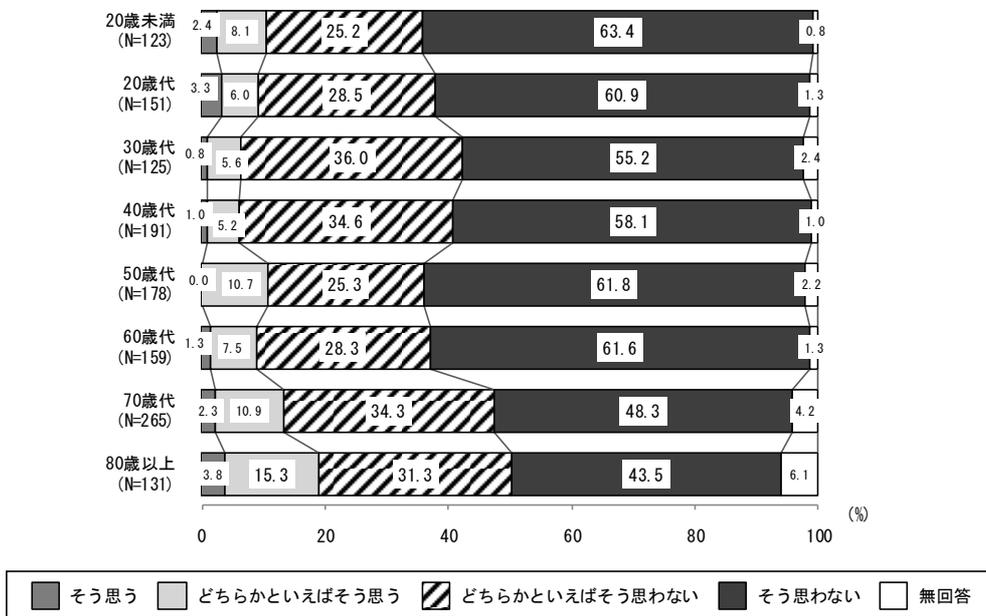
一方で、“そう思わない”が“そう思う”を上回る項目は、割合が高い順に「イ. 人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、自分とは関係がない」（86.6%）、「コ. 介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」（64.9%）、「キ. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」（57.6%）、「サ. 福祉制度に頼るより、個人がもっと努力すべきだ」（54.8%）、「カ. 個人の権利より、地域みんなの利益が優先されるべきだ」（50.8%）、「ク. 人権問題を解決する責任は、まず行政にある」（47.6%）となっている。（図表 1-2）

【図表 1-2-1 年齢別 ア. 権利ばかり主張して、がまんすることのできない者が増えている】



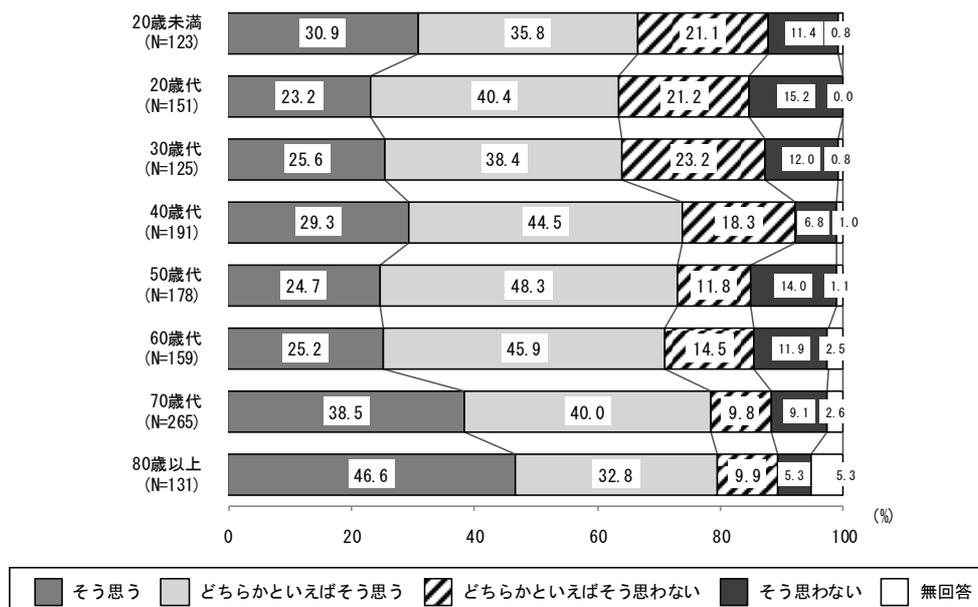
「ア. 権利ばかり主張して、がまんすることのできない者が増えている」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が過半数を占めている。70歳代以下は、年齢が上がるにつれて“そう思う”の割合は高くなる傾向にある。80歳以上は「どちらかといえばそう思う」(60.3%)の割合が他の年齢に比べ高い。(図表 1-2-1)

【図表 1-2-2 年齢別 イ. 人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、自分とは関係がない】



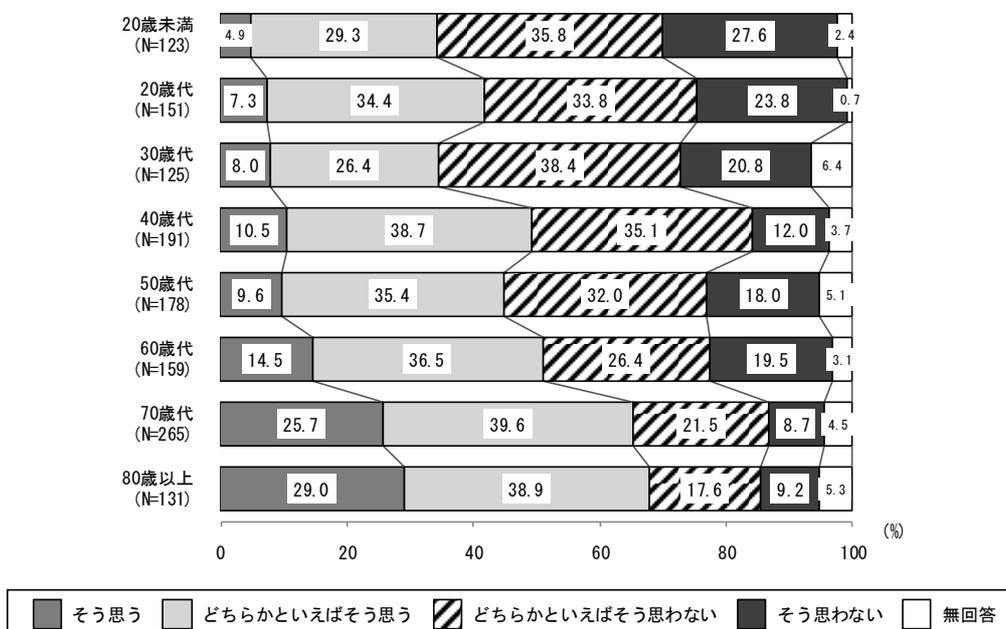
「イ. 人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、自分とは関係がない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が7～9割を占めている。“そう思わない”が最も高いのは40歳代で、92.7%。“そう思わない”が最も低いのは80歳以上で、74.8%となっている。(図表 1-2-2)

【図表 1-2-3 年齢別 ウ. 思いやりやさしさをみんなが持てば人権問題は解決する】



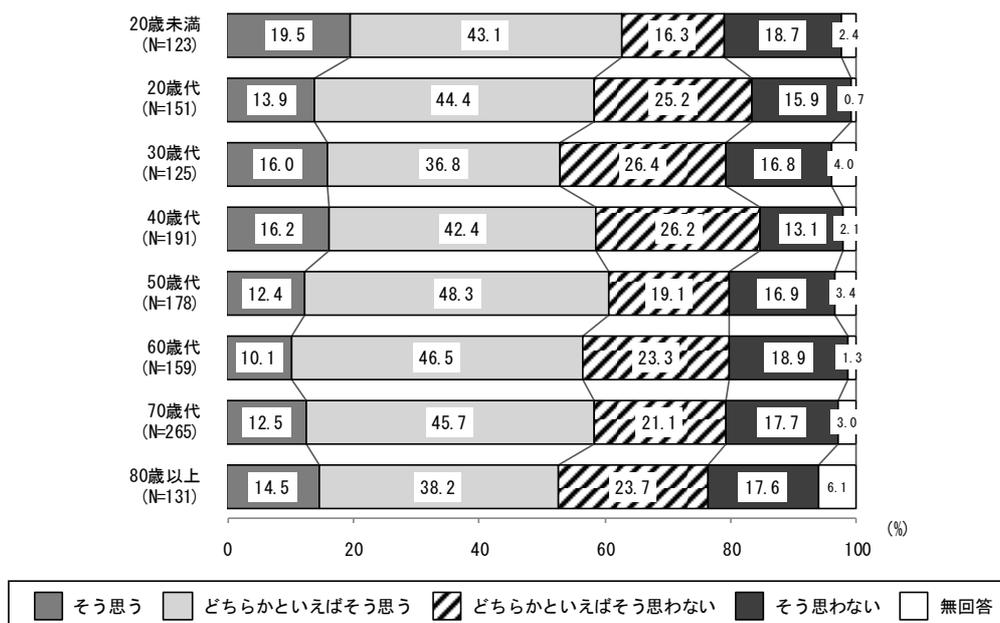
「ウ. 思いやりやさしさをみんなが持てば人権問題は解決する」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が過半数を占めている。40歳以上の年齢では“そう思う”が7割台を占めているが、30歳代以下の年齢では“そう思う”は6割台となっている。特に80歳以上は「そう思う」が46.6%と高く、“そう思わない”は15.2%と各年齢の中で最も低い。(図表 1-2-3)

【図表 1-2-4 年齢別 エ. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ】



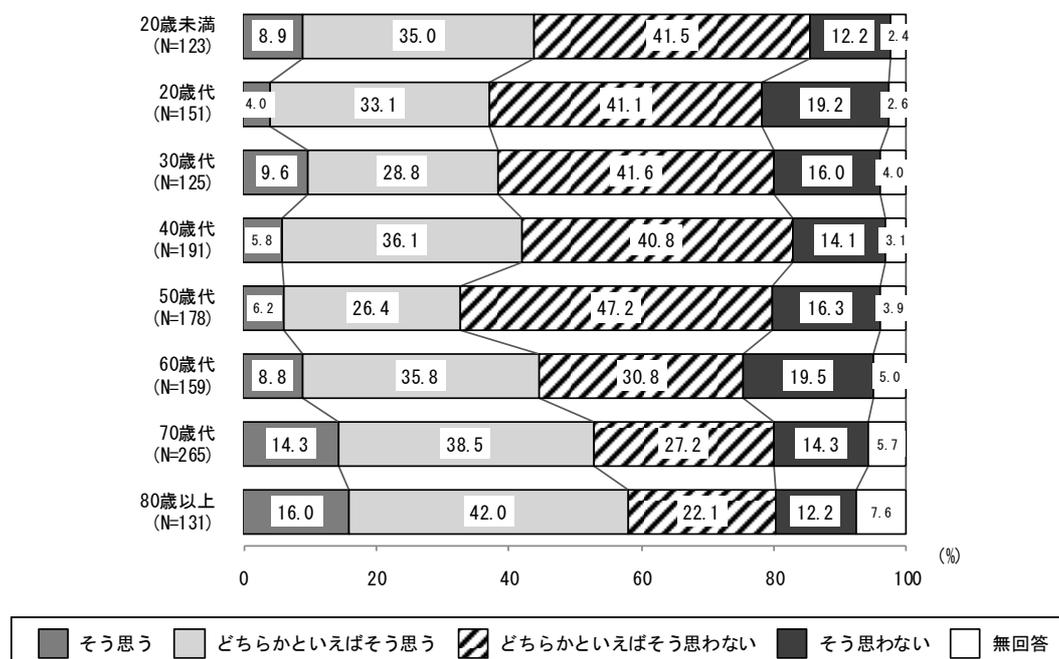
「エ. 学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだ」を年齢別でみると、60歳以上の年齢で“そう思う”が過半数を占めている。70歳以上の年齢では“そう思わない”が約3割前後であるが、30歳代以下の年齢では、“そう思わない”が6割前後となっている。(図表 1-2-4)

【図表 1-2-5 年齢別 オ. 競争社会だから、能力による差別が生じるのはしかたがない】



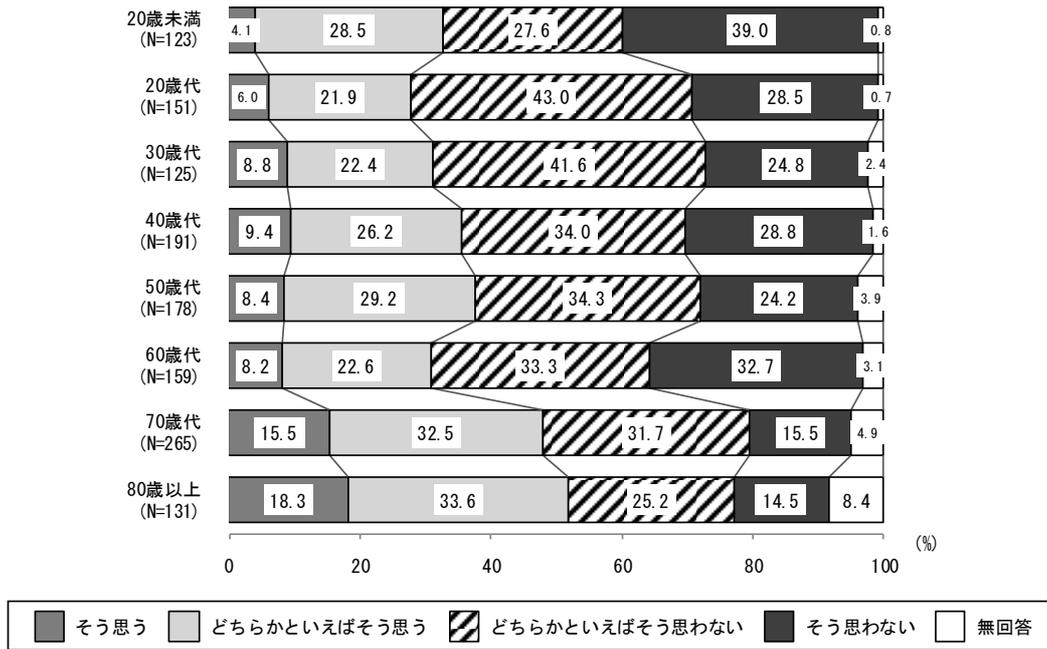
「オ. 競争社会だから、能力による差別が生じるのはしかたがない」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が過半数を占めており、5～6割台となっている。年齢による大きな傾向の変化はあまりみられない。(図表 1-2-5)

【図表 1-2-6 年齢別 カ. 個人の権利より、地域みんなの利益が優先されるべきだ】



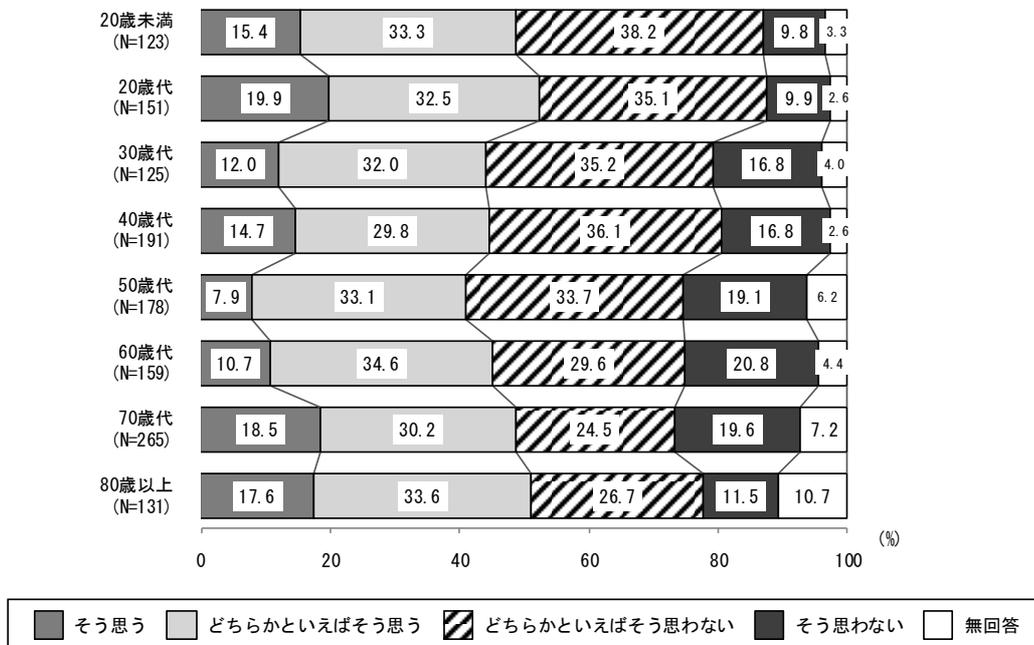
「カ. 個人の権利より、地域みんなの利益が優先されるべきだ」を年齢別で見ると、60歳以下の年齢は“そう思わない”が過半数を占めており、70歳以上の年齢では“そう思う”が過半数となっている。“そう思わない”が最も高い年齢は50歳代で、63.5%である。一方で、“そう思う”が最も高い年齢は80歳以上で、58.0%となっている。(図表 1-2-6)

【図表 1-2-7 年齢別 キ. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある】



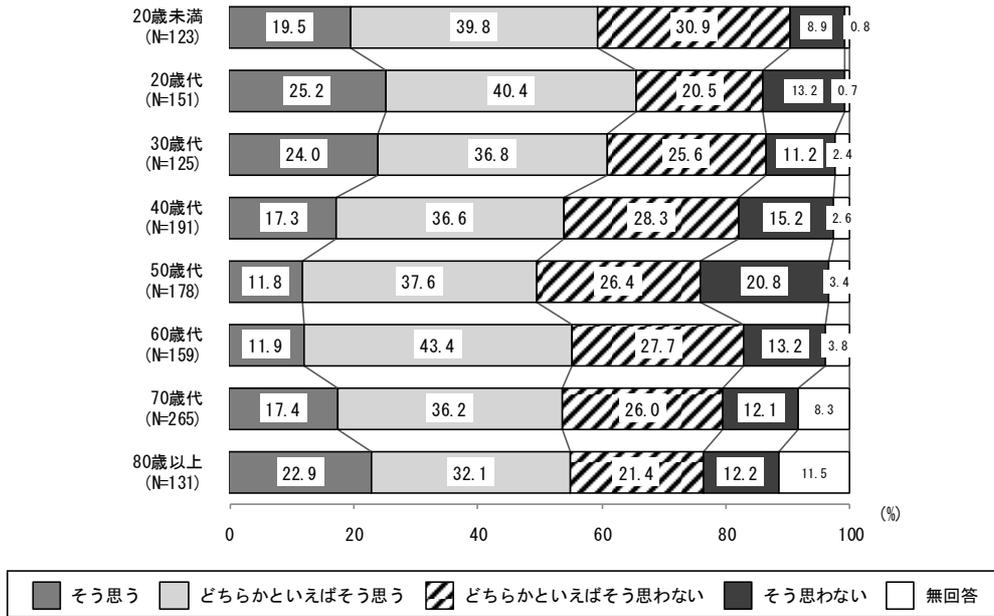
「キ. 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」を年齢別で見ると、60歳代以下の年齢で“そう思わない”が過半数を占めている。80歳以上は“そう思う”が51.9%と各年齢の中で最も高い。70歳代は、“そう思う”(48.0%)と“そう思わない”(47.2%)の差がほとんどみられない。(図表 1-2-7)

【図表 1-2-8 年齢別 ク. 人権問題を解決する責任は、まず行政にある】



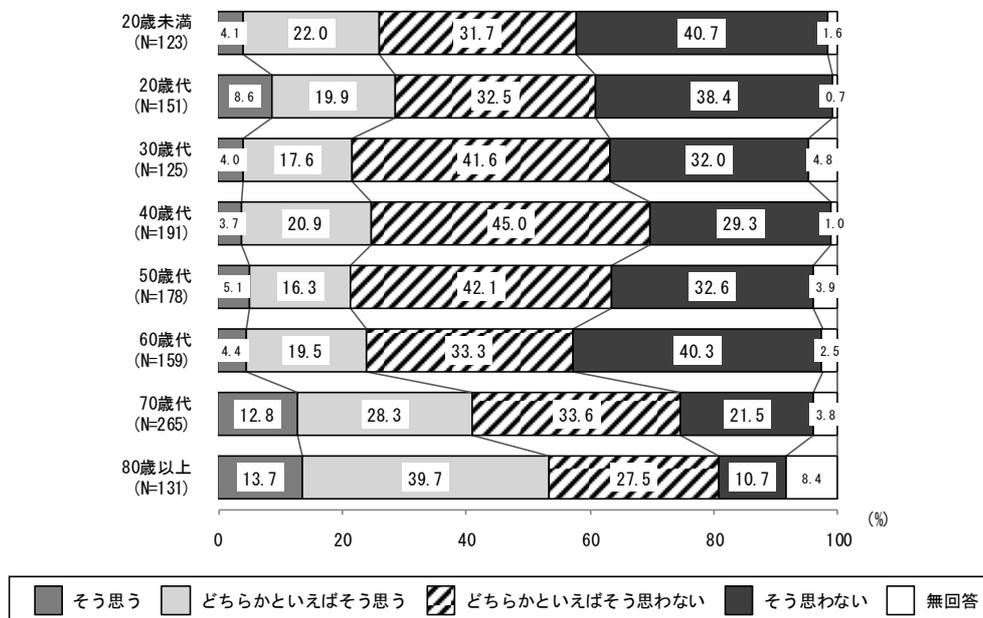
「ク. 人権問題を解決する責任は、まず行政にある」を年齢別で見ると、“そう思う”は20歳代及び80歳以上の年齢で過半数となっており、20歳代(52.4%)で最も高い。20歳未満では、“そう思う”(48.7%)と“そう思わない”(48.0%)はほぼ同程度である。(図表 1-2-8)

【図表 1-2-9 年齢別 ケ. 差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う】



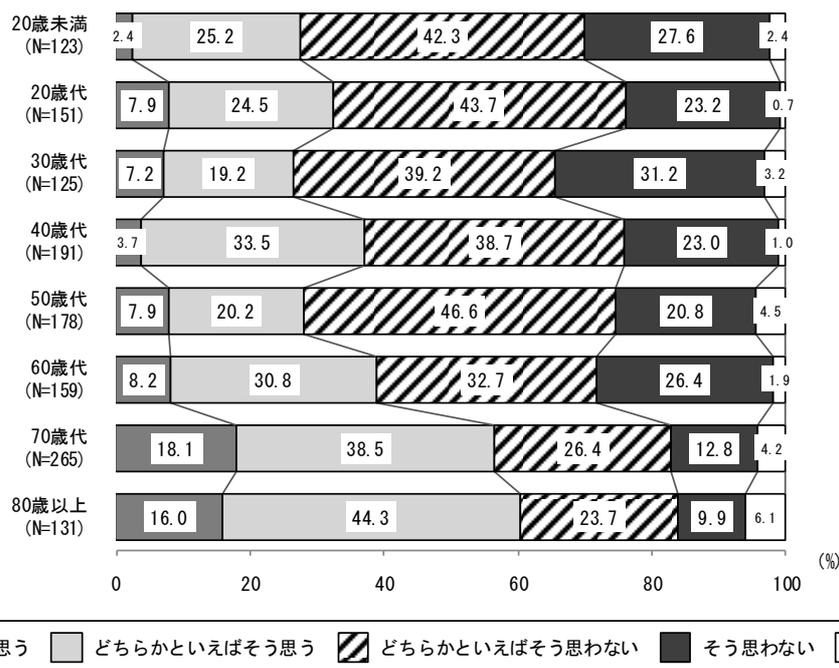
「ケ. 差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う」を年齢別で見ると、50歳代を除く全ての年齢で“そう思う”が過半数となっており、最も“そう思う”が多い年齢は20歳代(65.6%)である。50歳代は、“そう思う”(49.4%)と“そう思わない”(47.2%)の差が比較的小さい。(図表 1-2-9)

【図表 1-2-10 年齢別 コ. 介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない】



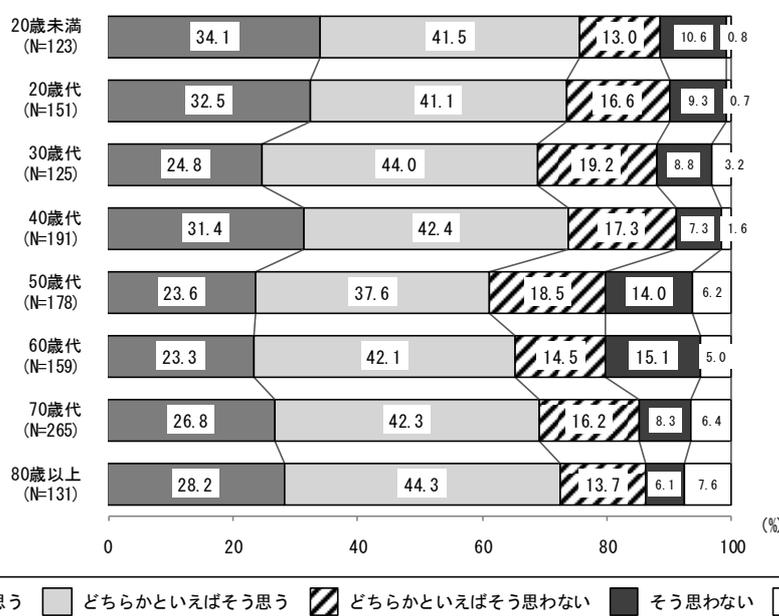
「コ. 介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」を年齢別で見ると、70歳代以下は“そう思わない”が過半数を占めており、60歳代以下では7割程度となっている。80歳以上のみ“そう思う”が過半数を占めており、53.4%となっている。(図表 1-2-10)

【図表 1-2-11 年齢別 サ. 福祉制度に頼るより、個人がもっと努力すべきだ】



「サ. 福祉制度に頼るより、個人がもっと努力すべきだ」を年齢別でみると、60歳代以下の年齢で“そう思わない”が約6～7割と過半数を占めており、特に20歳未満、30歳代、50歳代では“そう思う”が2割台に留まっている。一方で、70歳以上では“そう思う”が過半数となっている。(図表 1-2-11)

【図表 1-2-12 年齢別 シ. 自分を好きになることが、人権を大切にすることにつながる】

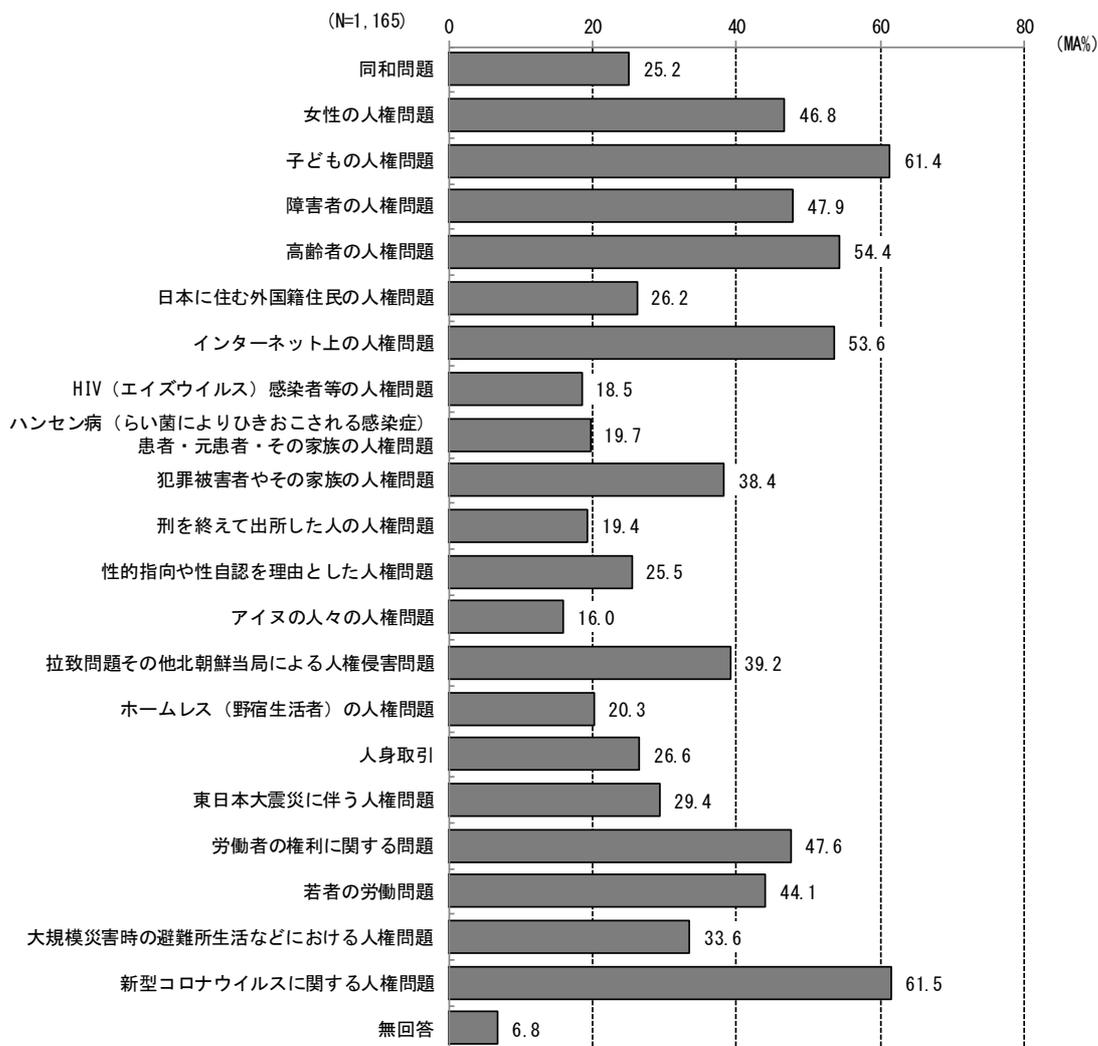


「シ. 自分を好きになることが、人権を大切にすることにつながる」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が6～7割程度を占めている。各年齢の中で“そう思う”が最も高いのは20歳未満で、75.6%である。“そう思わない”が最も高いのは50歳代で、32.5%となっている。(図表 1-2-12)

(3) 人権問題への関心

問7 あなたが、次の人権問題で関心のあるものに○をつけてください。
(あてはまる番号すべてに○)

【図表 1-3 人権問題への関心】



人権問題への関心については、「新型コロナウイルスに関する人権問題」が 61.5%と最も高く、次いで、「子どもの人権問題」が 61.4%、「高齢者の人権問題」が 54.4%、「インターネット上の人権問題」が 53.6%、「障害者の人権問題」が 47.9%となっている。（図表 1-3）

【図表 1-3-1 年齢別 人権問題への関心】

年齢別	上段：回答者数 (人) 下段：構成比率 (%)	回答者数	同和問題	女性の 人権問題	子ども の人権問題	障害者 の人権問題	高齢者 の人権問題	日本に住む 外国籍住民 の人権問題	インターネット 上の人権問題	H I V (エイズ ウイルス) 感 染者等の人 権問題	ハンセン病 (らい菌)に よる患者・ 元患者の人 権問題	犯罪被害者 やその家族 の人権問題	刑を終えて 出所した人 の人権問題
年齢別	20歳未満	123 100.0	27 22.0	47 38.2	76 61.8	54 43.9	37 30.1	36 29.3	77 62.6	26 21.1	19 15.4	40 32.5	32 26.0
	20歳代	151 100.0	30 19.9	96 63.6	98 64.9	71 47.0	54 35.8	58 38.4	97 64.2	34 22.5	26 17.2	59 39.1	30 19.9
	30歳代	125 100.0	30 24.0	68 54.4	92 73.6	55 44.0	53 42.4	33 26.4	70 56.0	20 16.0	15 12.0	53 42.4	16 12.8
	40歳代	191 100.0	46 24.1	93 48.7	129 67.5	85 44.5	89 46.6	52 27.2	132 69.1	36 18.8	40 20.9	78 40.8	34 17.8
	50歳代	178 100.0	47 26.4	88 49.4	109 61.2	80 44.9	85 47.8	36 20.2	104 58.4	26 14.6	26 14.6	72 40.4	20 11.2
	60歳代	159 100.0	56 35.2	75 47.2	106 66.7	95 59.7	109 68.6	44 27.7	96 60.4	32 20.1	36 22.6	68 42.8	42 26.4
	70歳代	265 100.0	63 23.8	111 41.9	153 57.7	127 47.9	176 66.4	76 28.7	113 42.6	53 20.0	60 22.6	93 35.1	58 21.9
	80歳以上	131 100.0	31 23.7	45 34.4	62 47.3	60 45.8	78 59.5	25 19.1	36 27.5	22 16.8	28 21.4	38 29.0	32 24.4
年齢別	20歳未満	123 100.0	44 35.8	17 13.8	34 27.6	32 26.0	24 19.5	37 30.1	50 40.7	60 48.8	29 23.6	65 52.8	8 6.5
	20歳代	151 100.0	67 44.4	19 12.6	27 17.9	34 22.5	40 26.5	36 23.8	90 59.6	99 65.6	45 29.8	83 55.0	3 2.0
	30歳代	125 100.0	40 32.0	20 16.0	24 19.2	20 16.0	32 25.6	35 28.0	62 49.6	54 43.2	38 30.4	68 54.4	9 7.2
	40歳代	191 100.0	55 28.8	26 13.6	61 31.9	34 17.8	58 30.4	49 25.7	109 57.1	85 44.5	64 33.5	126 66.0	7 3.7
	50歳代	178 100.0	42 23.6	21 11.8	61 34.3	29 16.3	39 21.9	38 21.3	89 50.0	73 41.0	64 36.0	102 57.3	8 4.5
	60歳代	159 100.0	42 26.4	32 20.1	79 49.7	34 21.4	42 26.4	55 34.6	79 49.7	70 44.0	62 39.0	114 71.7	4 2.5
	70歳代	265 100.0	45 17.0	49 18.5	150 56.6	55 20.8	76 28.7	107 40.4	100 37.7	113 42.6	90 34.0	180 67.9	19 7.2
	80歳以上	131 100.0	20 15.3	22 16.8	62 47.3	38 29.0	30 22.9	35 26.7	41 31.3	45 34.4	44 33.6	72 55.0	26 19.8

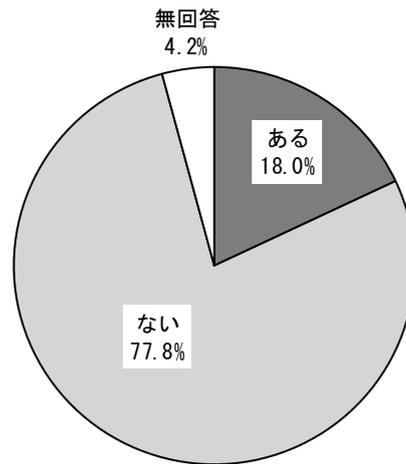
人権問題への関心を年齢別でみると、各年齢で最も関心が高い項目は、20歳未満及び40歳代は「インターネット上の人権問題」(各62.6%、69.1%)、20歳代は「若者の労働問題」(65.6%)、30歳代及び50歳代は「子どもの人権問題」(各73.6%、61.2%)、60歳代及び70歳代は「新型コロナウイルスに関する人権問題」(各71.7%、67.9%)、80歳以上は「高齢者の人権問題」(59.5%)となっている。(図表 1-3-1)

2 自分自身に関することについて

(1) 人権を侵害された経験

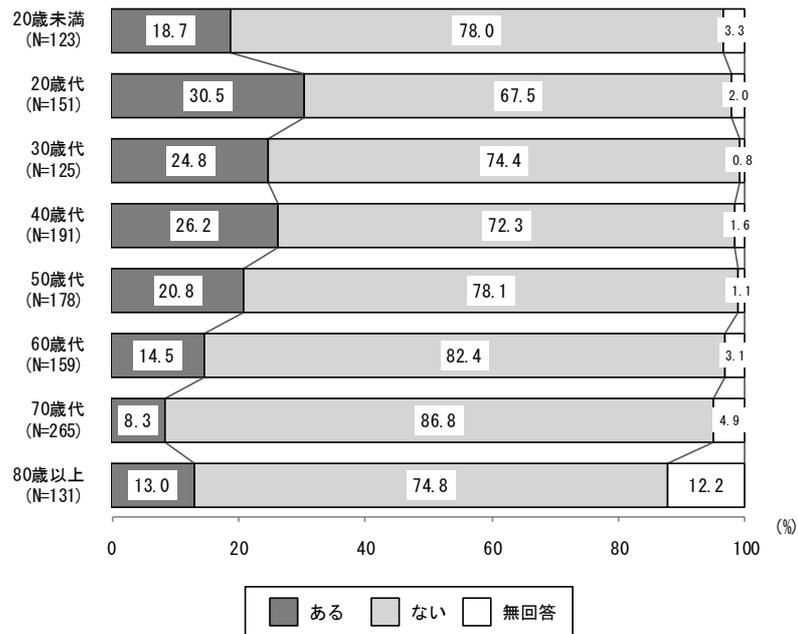
問8 あなたは日常生活の中で、過去5年ほどの間に人権を侵害されたと感じたことはありますか。
(あてはまる番号1つに○)

【図表 2-1 人権を侵害された経験】



人権を侵害された経験については、「ある」が18.0%、「ない」が77.8%となっている。(図表 2-1)

【図表 2-1-1 年齢別 人権を侵害された経験】



人権を侵害された経験を年齢別で見ると、いずれの年齢も「ない」が概ね7割以上となっている。「ある」が最も高い年齢は20歳代で30.5%となっている。一方で、「ある」が最も低い年齢は70歳代で8.3%と1割を下回っている。(図表 2-1-1)

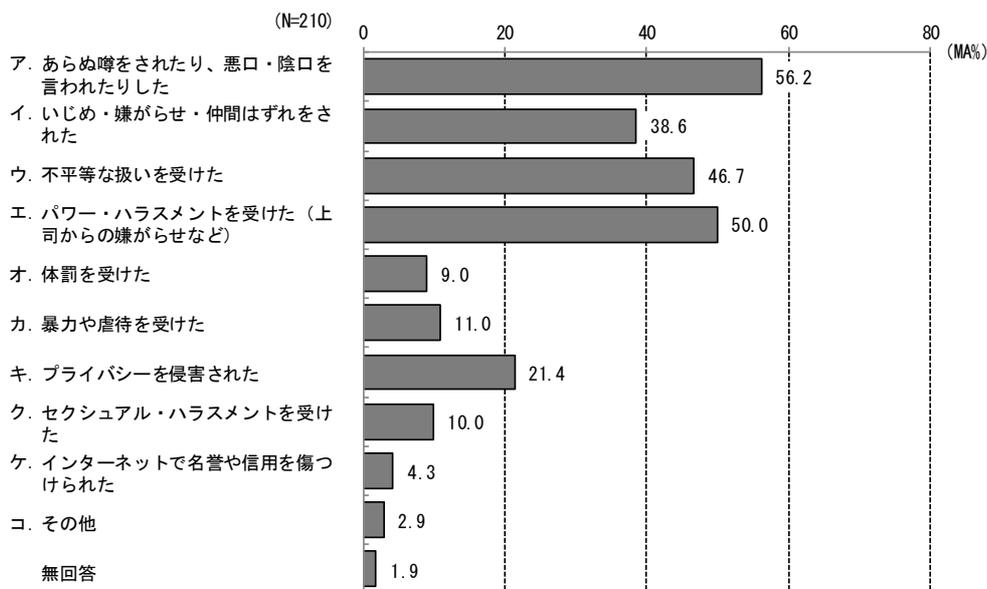
(2) 人権を侵害された内容

問9 問8で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

それはどのような内容で、誰（どこ）から人権を侵害されたと感じましたか。

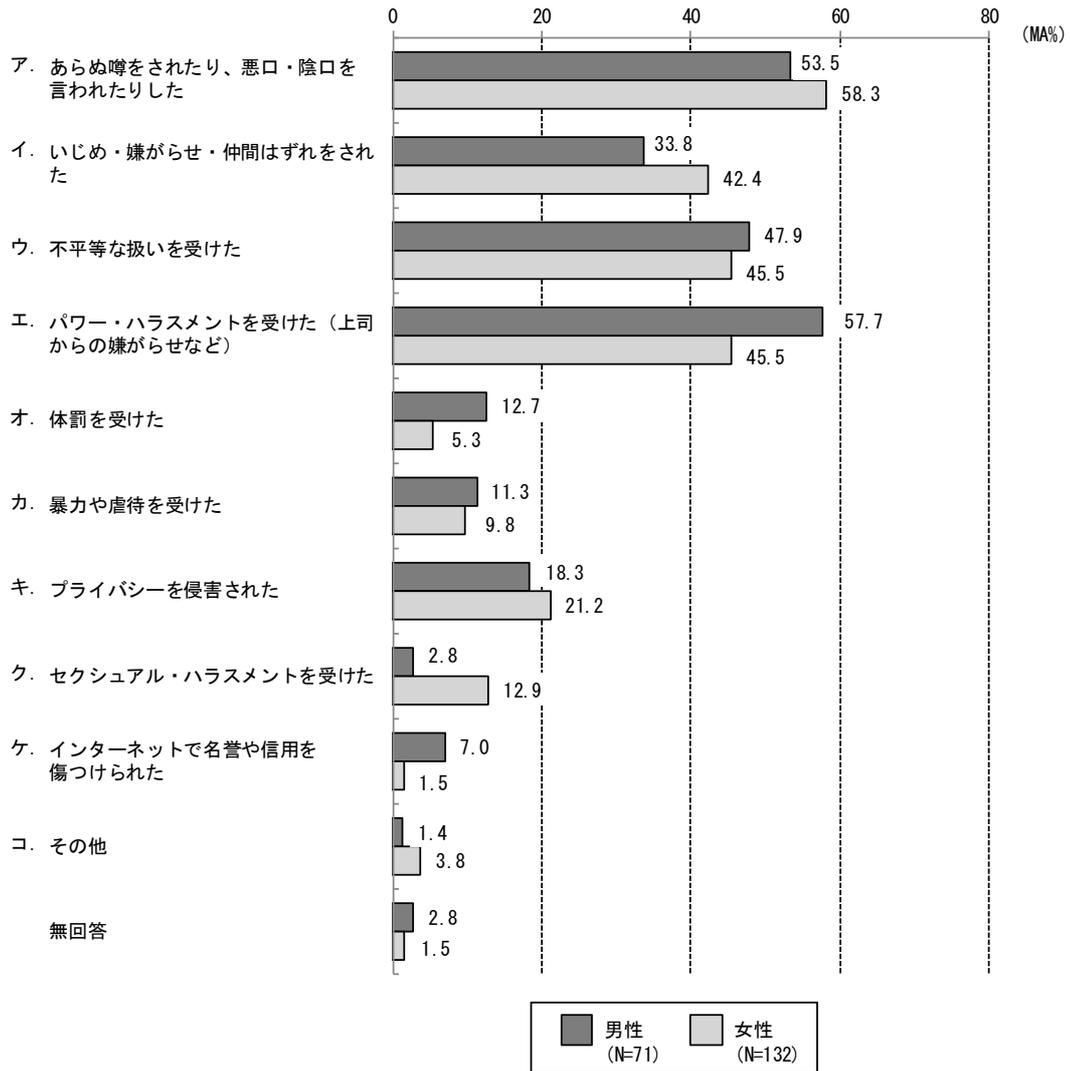
(それぞれあてはまる番号すべてに○)

【図表 2-2 人権を侵害された内容】



人権を侵害された内容については、「ア. あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」が56.2%と最も高く、次いで、「エ. パワー・ハラスメントを受けた（上司からの嫌がらせなど）」が50.0%、「ウ. 不平等な扱いを受けた」が46.7%、「イ. いじめ・嫌がらせ・仲間はずれをされた」が38.6%、「キ. プライバシーを侵害された」が21.4%となっている。（図表 2-2）

【図表 2-2-1 性別 人権を侵害された内容】



人権を侵害された内容を性別でみると、各性別で最も割合が高い項目は、男性は「エ. パワー・ハラスメントを受けた（上司からの嫌がらせなど）」（57.7%）、女性は「ア. あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」（58.3%）となっている。

性別で比較的差が大きかった項目は、「エ. パワー・ハラスメントを受けた（上司からの嫌がらせなど）」、「オ. 体罰を受けた」で男性が女性に比べそれぞれ 12.2 ポイント、7.4 ポイント高く、「ク. セクシュアル・ハラスメントを受けた」、「イ. いじめ・嫌がらせ・仲間はずれをされた」で女性が男性に比べそれぞれ 10.1 ポイント、8.6 ポイント高くなっている。（図表 2-2-1）

【図表 2-2-2 年齢別 人権を侵害された内容】

	回答者数	口を言われたり、悪口・陰口を言われたりした	いじめ・嫌がらせ・仲間はずれをされた	不平等な扱いを受けた	パワー・ハラスメントを受けた（上司からの嫌がらせなど）	体罰を受けた	暴力や虐待を受けた	プライバシーを侵害された	セクシュアル・ハラスメントを受けた	インターネットで名誉や信用を傷つけられた	その他	無回答	
													上段：回答者数（人） 下段：構成比率（%）
年齢別	20歳未満	23 100.0	14 60.9	15 65.2	12 52.2	6 26.1	1 4.3	2 8.7	4 17.4	1 4.3	1 4.3	- -	
	20歳代	46 100.0	26 56.5	17 37.0	23 50.0	22 47.8	5 10.9	7 15.2	8 17.4	13 28.3	4 8.7	3 6.5	1 2.2
	30歳代	31 100.0	17 54.8	14 45.2	11 35.5	18 58.1	3 9.7	3 9.7	7 22.6	7 22.6	1 3.2	- -	1 3.2
	40歳代	50 100.0	27 54.0	23 46.0	27 54.0	31 62.0	3 6.0	7 14.0	14 28.0	3 6.0	2 4.0	1 2.0	- -
	50歳代	37 100.0	21 56.8	12 32.4	22 59.5	22 59.5	6 16.2	5 13.5	10 27.0	3 8.1	4 10.8	2 5.4	- -
	60歳代	23 100.0	12 52.2	5 21.7	9 39.1	11 47.8	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 4.3
	70歳代	22 100.0	15 68.2	6 27.3	7 31.8	6 27.3	1 4.5	1 4.5	2 9.1	- -	- -	- -	- -
	80歳以上	17 100.0	10 58.8	6 35.3	6 35.3	3 17.6	2 11.8	2 11.8	3 17.6	2 11.8	1 5.9	1 5.9	1 5.9

人権を侵害された内容を年齢別で見ると、各年齢で最も高い項目は、20歳未満は「イ. いじめ・嫌がらせ・仲間はずれをされた」(65.2%)、20歳代は「ア. あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」(56.5%)、30歳代及び40歳代は「エ. パワー・ハラスメントを受けた（上司からの嫌がらせなど）」(各58.1%、62.0%)、50歳代は「ウ. 不平等な扱いを受けた」と「エ. パワー・ハラスメントを受けた（上司からの嫌がらせなど）」(各59.5%)、60歳代、70歳代、80歳以上は「ア. あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」(各52.2%、68.2%、58.8%)となっている。(図表 2-2-2)

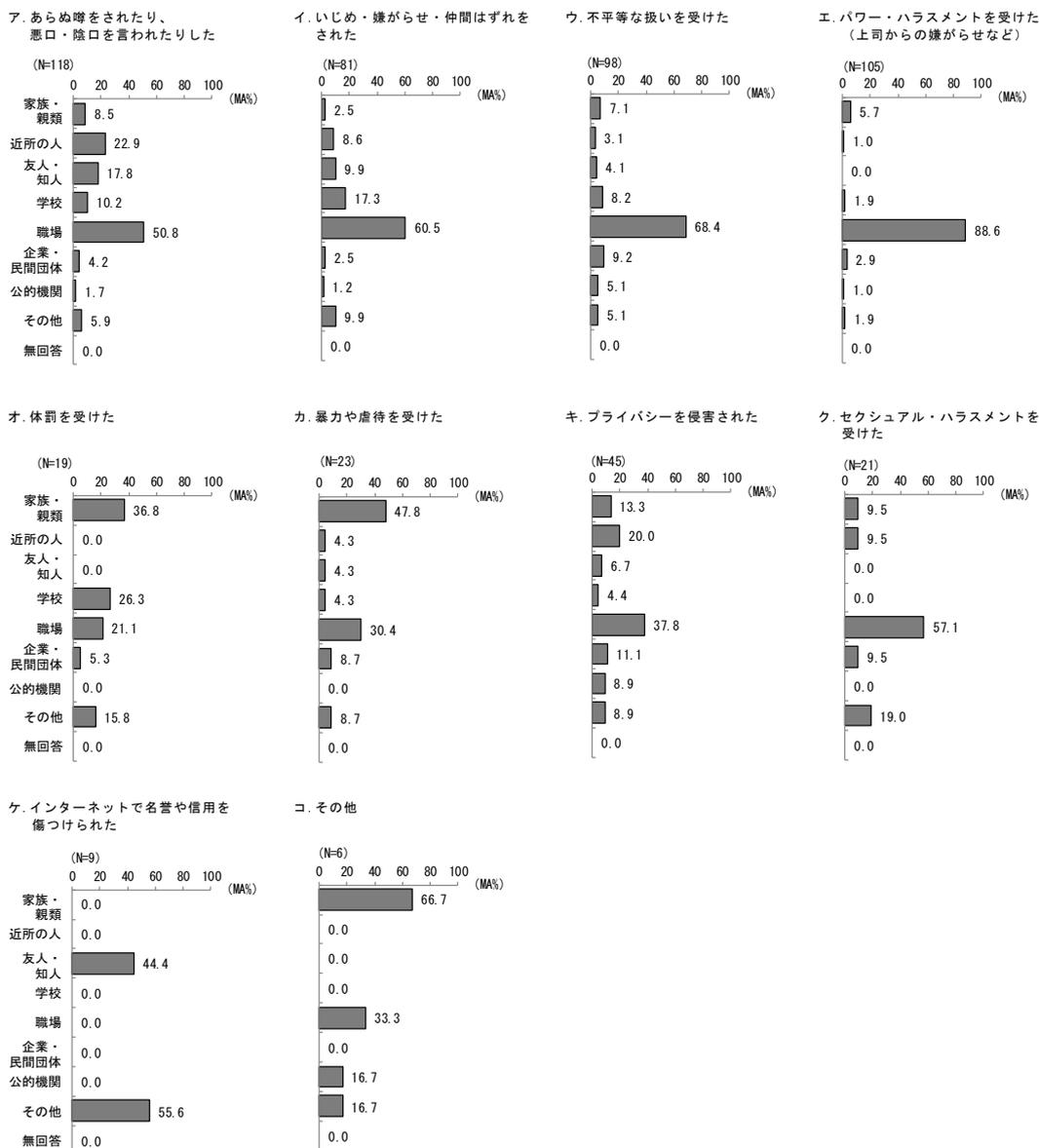
(3) 人権を侵害された相手

問9 問8で、「1.ある」と答えた方にお聞きします。

それはどのような内容で、誰(どこ)から人権を侵害されたと感じましたか。

(それぞれあてはまる番号すべてに○)

【図表 2-3 人権を侵害された相手】



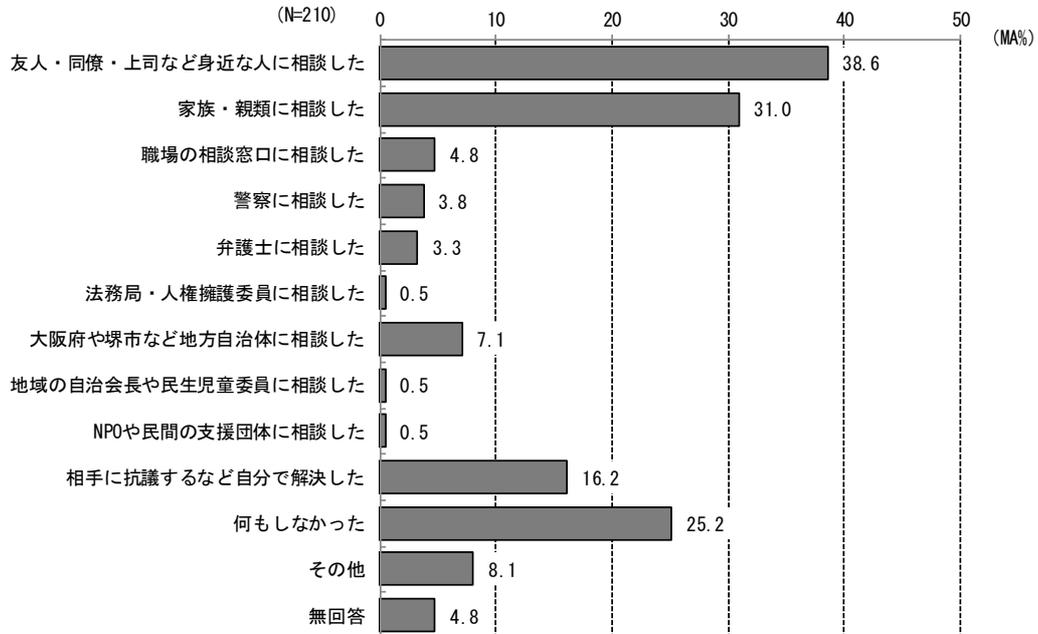
人権を侵害された相手については、職場の割合が最も高い項目は「ア. あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」(50.8%)、「イ. いじめ・嫌がらせ・仲間はずれをされた」(60.5%)、「ウ. 不平等な扱いを受けた」(68.4%)、「エ. パワー・ハラスメントを受けた(上司からの嫌がらせなど)」(88.6%)、「キ. プライバシーを侵害された」(37.8%)、「ク. セクシュアル・ハラスメントを受けた」(57.1%)で、家族・親類の割合が最も高い項目は「オ. 体罰を受けた」(36.8%)、「カ. 暴力や虐待を受けた」(47.8%)となっている。(図表 2-3)

(4) 人権を侵害されたときの対応

問10 問8で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

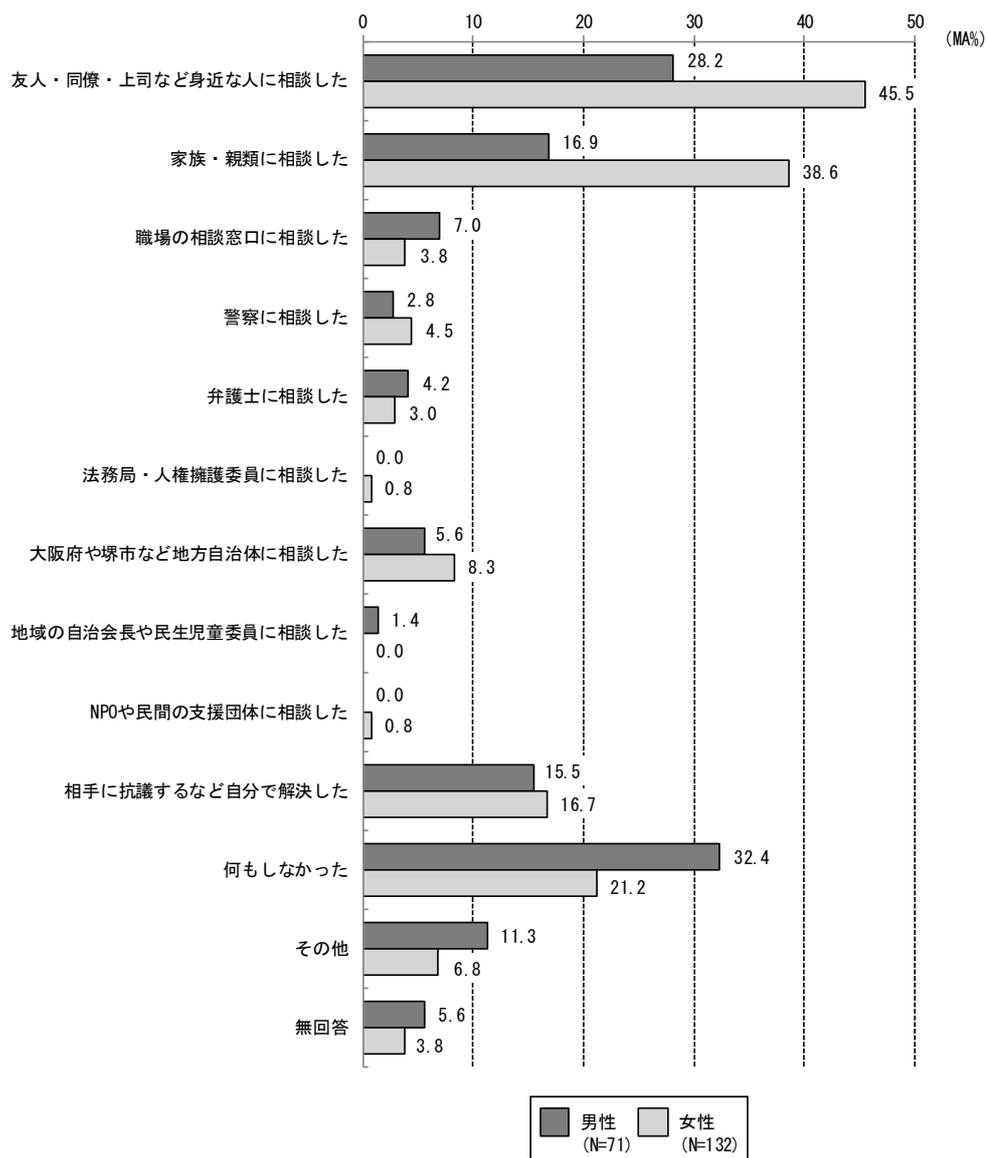
あなたは人権を侵害された時、どうしましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図表 2-4 人権を侵害されたときの対応】



人権を侵害されたときの対応については、「友人・同僚・上司など身近な人に相談した」が38.6%と最も高く、次いで、「家族・親類に相談した」が31.0%、「何もしなかった」が25.2%、「相手に抗議するなど自分で解決した」が16.2%、「大阪府や堺市など地方自治体に相談した」が7.1%となっている。(図表 2-4)

【図表 2-4-1 性別 人権を侵害されたときの対応】



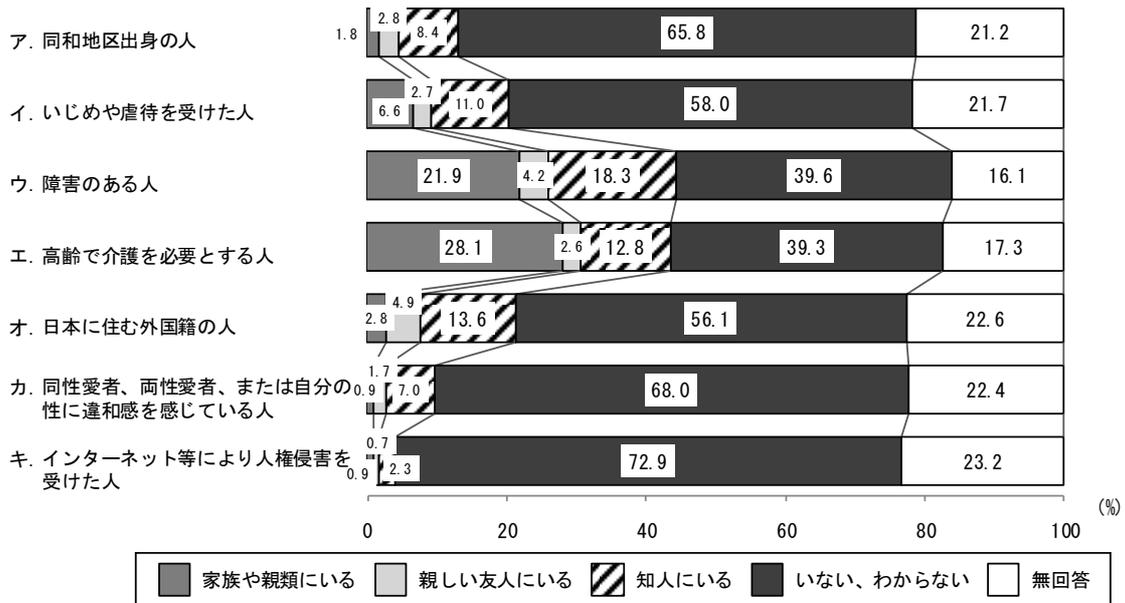
人権を侵害されたときの対応を性別で見ると、男性は「何もしなかった」が32.4%で最も高く、次いで「友人・同僚・上司など身近な人に相談した」が28.2%、「家族・親類に相談した」が16.9%となっている。女性は「友人・同僚・上司など身近な人に相談した」が45.5%で最も高く、次いで「家族・親類に相談した」が38.6%、「何もしなかった」が21.2%となっている。(図表 2-4-1)

(5) 身近な人について

問11 あなたの身近な人の中に、以下のような方はいますか。
(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 2-5 身近な人について】

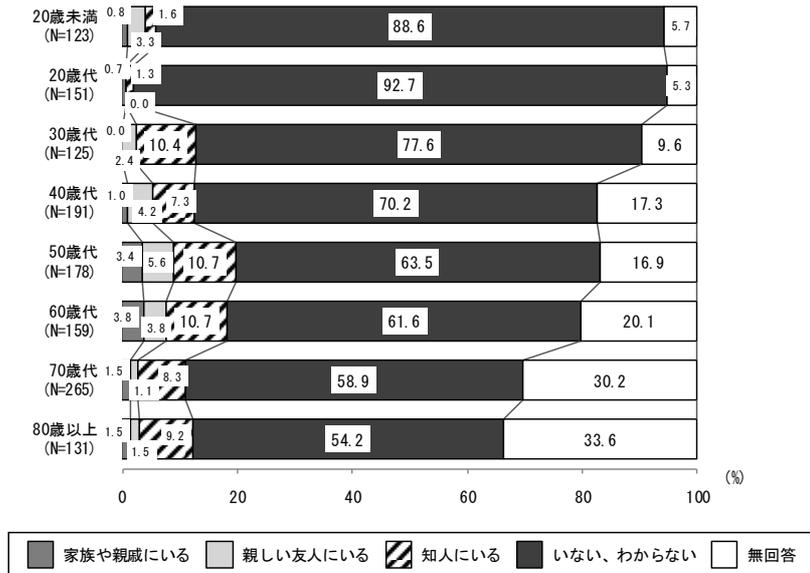
(N=1,165)



身近な人については、いずれの項目も「いない、わからない」が最も高くなっている。“身近にいる”（「家族や親類にいる」、「親しい友人にいる」、「知人にいる」を合わせた数）が比較的高い項目は、高い順に「ウ. 障害のある人」（44.4%）、「エ. 高齢で介護を必要とする人」（43.5%）、「オ. 日本に住む外国籍の人」（21.3%）、「イ. いじめや虐待を受けた人」（20.3%）となっている。

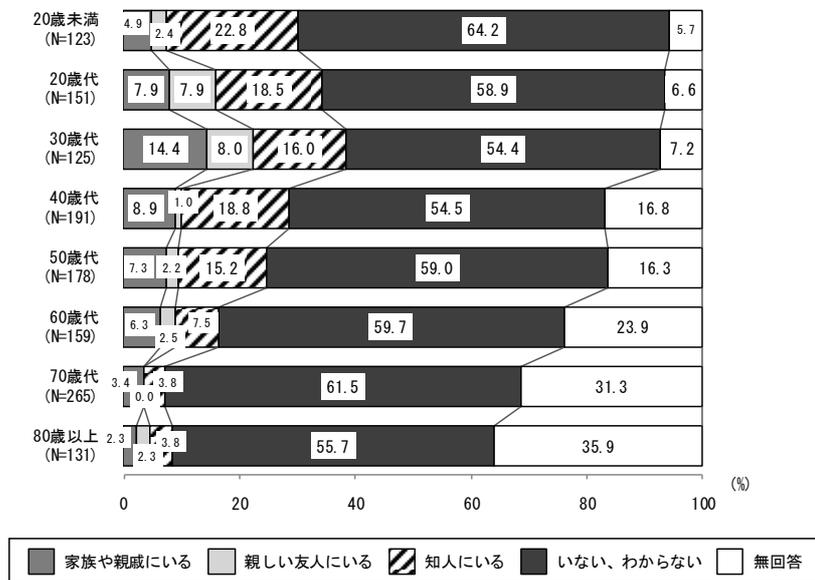
「ウ. 障害のある人」は「家族や親戚にいる」及び「知人にいる」がそれぞれ2割程度となっている。「エ. 高齢で介護を必要とする人」は「家族や親類にいる」が約3割みられる。「ア. 同和地区出身の人」、「カ. 同性愛者、両性愛者、または自分の性に違和感を感じている人」、「キ. インターネット等により人権侵害を受けた人」は、「いない、わからない」が7割前後を占めている。（図表 2-5）

【図表 2-5-1 年齢別 ア. 同和地区出身の人】



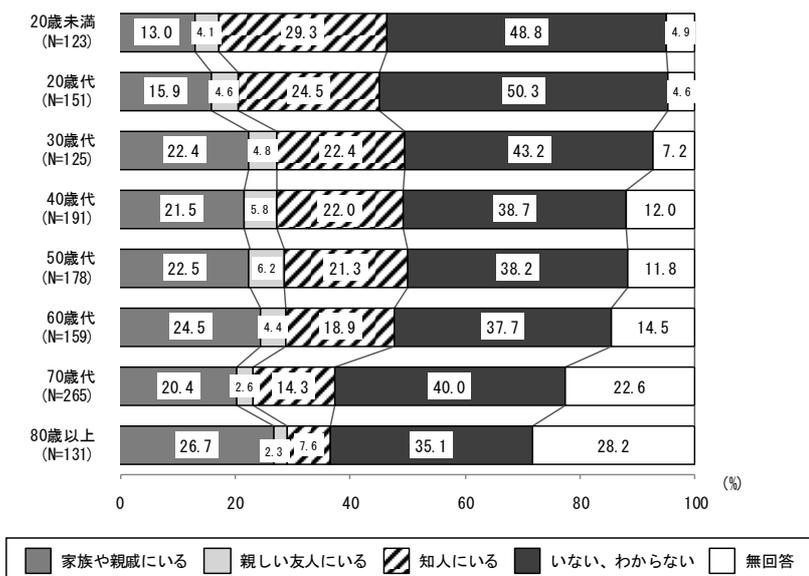
「ア. 同和地区出身の人」を年齢別でみると、20歳代以下は「知人にいる」の割合が2%未満だが、30歳以上は約7~10%程度となっている。「家族や親戚にいる」、「親しい友人にいる」については、年齢による大きな差はみられず、いずれの年齢も1割未満となっている。(図表 2-5-1)

【図表 2-5-2 年齢別 イ. いじめや虐待を受けた人】



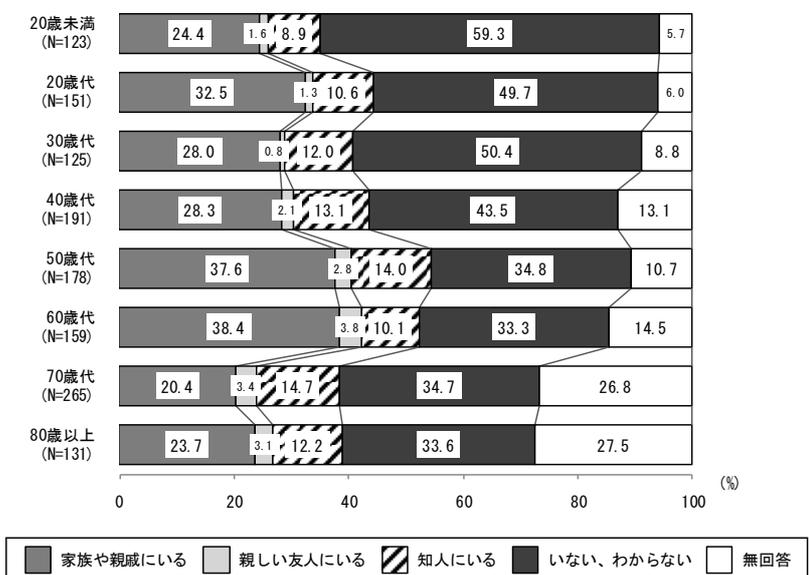
「イ. いじめや虐待を受けた人」を年齢別でみると、「身近にいる」は30歳代(38.4%)を頂点に年齢が離れるにつれその割合は低下する傾向にあり、70歳代では7.2%となっている。「知人にいる」は60歳代以上では1割未満だが、50歳代以下では約15%以上となっており、特に20歳未満は22.8%と他の年齢に比べ高い。また、「家族や親戚にいる」は30歳代(14.4%)で他の年代に比べ高い。(図表 2-5-2)

【図表 2-5-3 年齢別 ウ. 障害のある人】



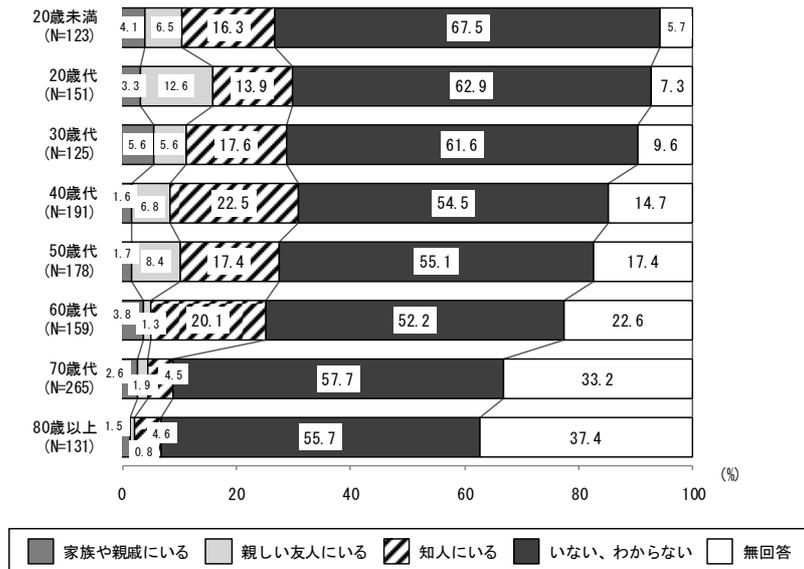
「ウ. 障害のある人」を年齢別で見ると、「家族や親戚にいる」は20歳代以下では2割未満だが、30歳以上では2割以上みられる。「知人にいる」は年齢が下がるにつれ割合が高くなっており、50歳代以下ではいずれの年齢も2割台である。(図表 2-5-3)

【図表 2-5-4 年齢別 エ. 高齢で介護を必要とする人】



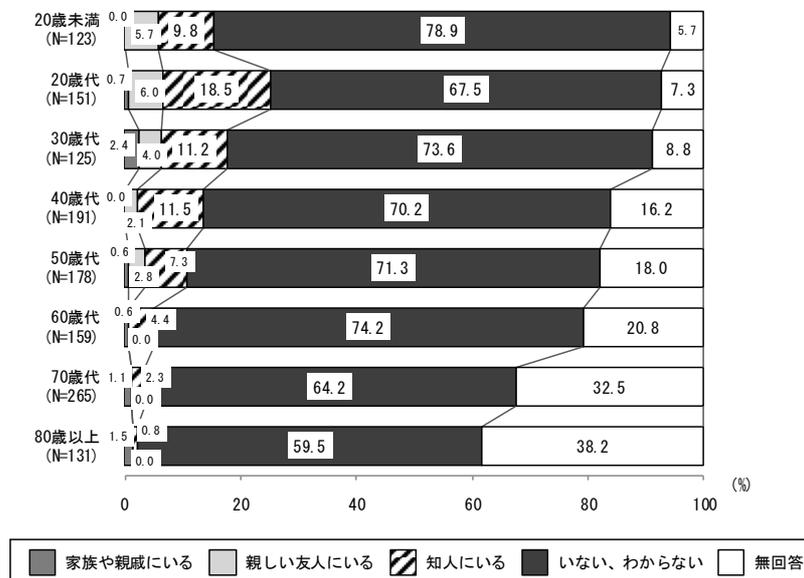
「エ. 高齢で介護を必要とする人」を年齢別で見ると、「身近にいる」は20歳未満(34.9%)で最も低く、50歳代(54.4%)で最も高い。「家族や親戚にいる」は50~60歳代で4割近い割合を占めている。また、「いない、わからない」は20歳未満で約6割にのぼっており、20~40歳代では4~5割程度、50歳代以上では3割程度となっている。(図表 2-5-4)

【図表 2-5-5 年齢別 オ. 日本に住む外国籍の人】



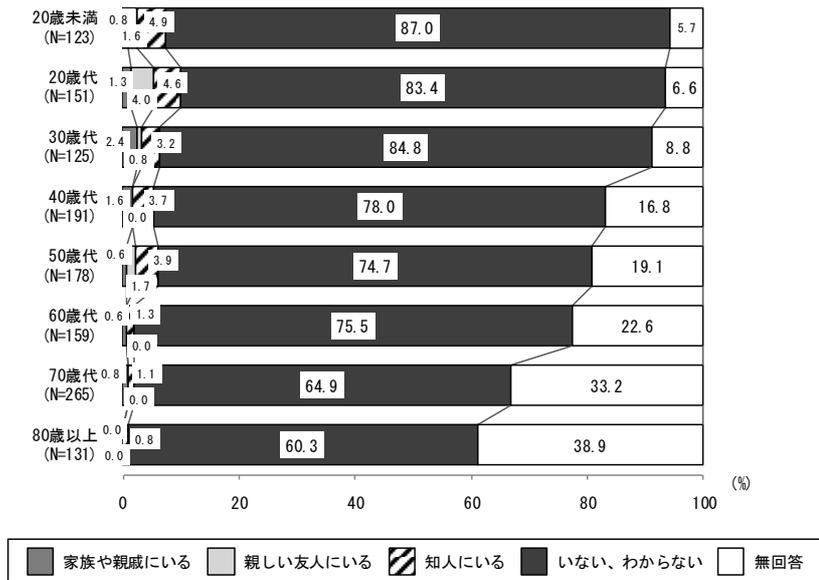
「オ. 日本に住む外国籍の人」を年齢別で見ると、“身近にいる”は60歳代以下では2割～3割となっているが、70歳以上では1割に満たない。「親しい友人にいる」は20歳代で最も高く、12.6%となっている。「知人にいる」は70歳代以上で5.0%未満だが、その他の年齢では1割以上となっており、中でも40歳代及び60歳代では2割程度みられる。(図表 2-5-5)

【図表 2-5-6 年齢別 カ. 同性愛者、両性愛者、または自分の性に違和感を感じている人】



「カ. 同性愛者、両性愛者、または自分の性に違和感を感じている人」を年齢別で見ると、“身近にいる”は20歳代(25.2%)を頂点として、年齢が離れるにつれその割合は低くなっており、60歳代以上は5.0%以下である。「家族や親戚にいる」はいずれの年齢も3.0%未満となっている。また、「親しい友人にいる」は50歳代以下では約2～6%程度となっているが、60歳以上では0.0%と全くみられない。「知人にいる」は、20歳未満及び50歳以上では1割未満だが、20～40歳代では1割台みられ、中でも20歳代は18.5%と他の年齢に比べ高い。(図表 2-5-6)

【図表 2-5-7 年齢別 キ. インターネット等により人権侵害を受けた人】



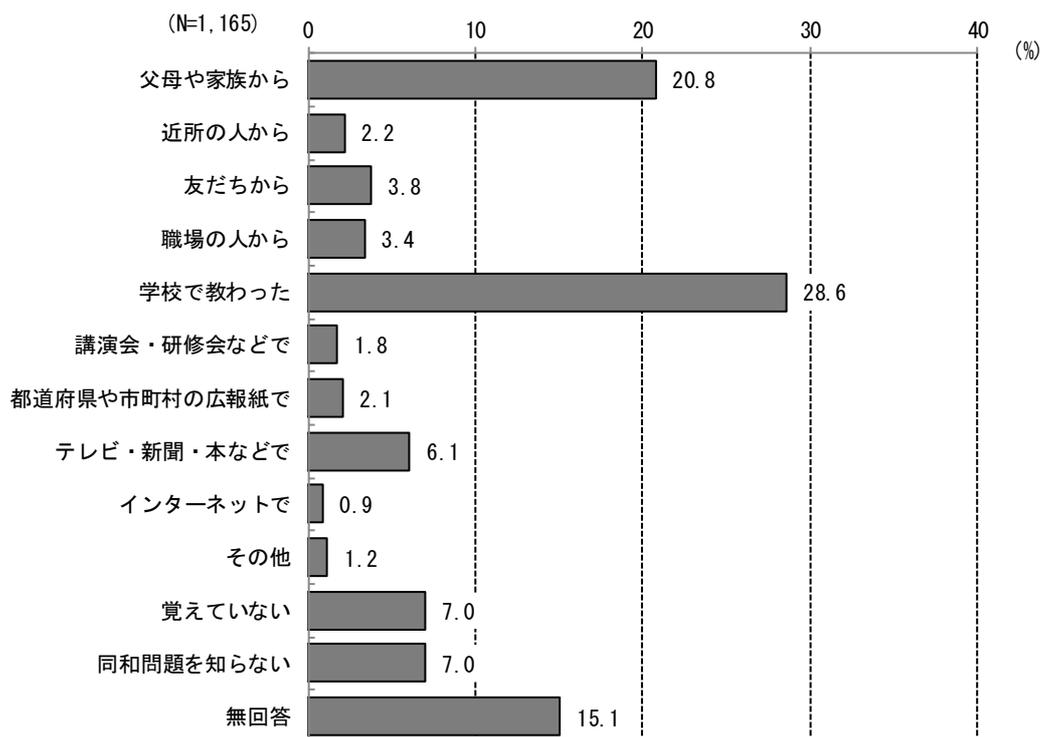
「キ. インターネット等により人権侵害を受けた人」を年齢別で見ると、「身近にいる」はいずれの年齢も1割未満となっている。「親しい友人にいる」は20歳代で4.0%となっているが、その他の年齢では0.0~1.7%と低い。「知人にいる」についても、全ての年齢で5.0%未満となっており、いずれの年齢も「いない、わからない」の回答割合が際立っている。(図表 2-5-7)

3 同和問題について

(1) 同和問題や被差別部落を知った経緯

問12 あなたは同和問題や被差別部落（同和地区）があることを、どのようにして知りましたか。
（あてはまる番号1つに○）

【図表 3-1 同和問題や被差別部落を知った経緯】



同和問題や被差別部落を知った経緯については、「学校で教わった」が28.6%と最も高く、次いで、「父母や家族から」が20.8%と比較的高い。それ以外の項目は1割未満となっている。（図表 3-1）

【図表 3-1-1 年齢別 同和問題や被差別部落を知った経緯】

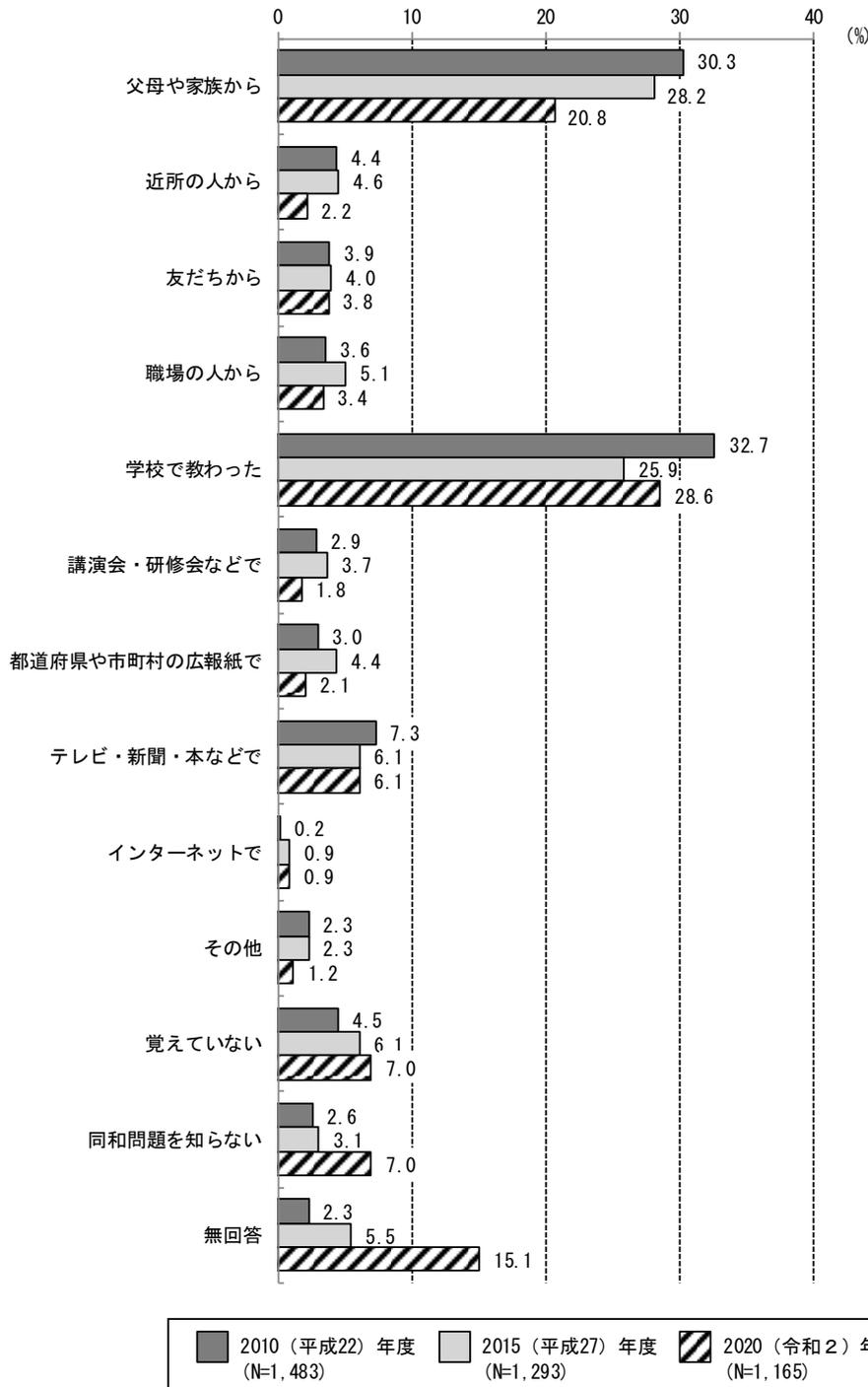
	上段：回答者数 (人) 下段：構成比率 (%)	回答者数	父母や家族から	近所の人から	友だちから	職場の人から	学校で教わった	講演会・研修会などで	都道府県や市町村の広報紙で	テレビ・新聞・本などで	インターネットで	その他	覚えていない	同和問題を知らない	無回答
年齢別	20歳未満	123 100.0	13 10.6	- -	1 0.8	- -	50 40.7	1 0.8	- -	6 4.9	4 3.3	- -	7 5.7	30 24.4	11 8.9
	20歳代	151 100.0	27 17.9	- -	3 2.0	4 2.6	42 27.8	- -	- -	3 2.0	7 4.6	1 0.7	9 6.0	47 31.1	8 5.3
	30歳代	125 100.0	15 12.0	- -	4 3.2	4 3.2	55 44.0	1 0.8	- -	5 4.0	2 1.6	- -	7 5.6	15 12.0	17 13.6
	40歳代	191 100.0	28 14.7	- -	5 2.6	2 1.0	95 49.7	2 1.0	1 0.5	3 1.6	3 1.6	2 1.0	10 5.2	8 4.2	32 16.8
	50歳代	178 100.0	33 18.5	- -	5 2.8	4 2.2	86 48.3	1 0.6	1 0.6	7 3.9	- -	2 1.1	6 3.4	3 1.7	30 16.9
	60歳代	159 100.0	46 28.9	2 1.3	4 2.5	6 3.8	49 30.8	6 3.8	4 2.5	11 6.9	- -	1 0.6	6 3.8	2 1.3	22 13.8
	70歳代	265 100.0	72 27.2	15 5.7	14 5.3	14 5.3	11 4.2	8 3.0	15 5.7	25 9.4	- -	5 1.9	32 12.1	10 3.8	44 16.6
	80歳以上	131 100.0	29 22.1	8 6.1	9 6.9	7 5.3	8 6.1	2 1.5	3 2.3	17 13.0	1 0.8	4 3.1	15 11.5	6 4.6	22 16.8

同和問題や被差別部落を知った経緯を年齢別で見ると、20歳未満及び30～60歳代の年齢で「学校で教わった」が最も高く、中でも40～50歳代では5割近くと高い割合を占めている。20歳代は「同和問題を知らない」が最も高く、31.1%となっている。また、20歳未満も「同和問題を知らない」は24.4%と他の年齢に比べ高くなっている。

60歳代は「学校で教わった」(30.8%)と「父母や家族から」(28.9%)に大きな差はみられない。

70歳以上は「父母や家族から」が最も高いが、その割合は2割台であり、他の年齢に比べ各項目に回答が分散している傾向にある。(図表 3-1-1)

【図表 3-1-2 経年比較 同和問題や被差別部落を知った経緯】



同和問題や被差別部落を知った経緯の経年比較をみると、前々回調査及び今回調査は「学校で教わった」が最も高く、前回調査は「父母や家族から」が最も高くなっている。「学校で教わった」は前回調査に比べ2.7ポイント増加しているが、前々回調査からは4.1ポイント減少している。「父母や家族から」は減少傾向にあり、前回調査からは7.4ポイント減少している。一方で、「同和問題を知らない」は増加傾向にあり、前回調査からは3.9ポイント増加している。

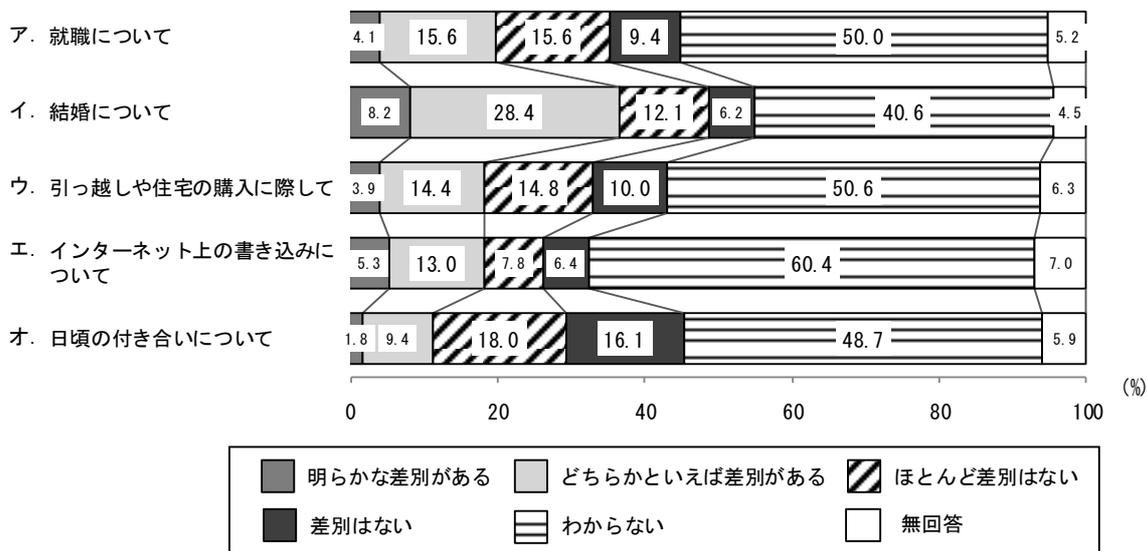
なお、前回調査では、単一回答形式の本設問に対し複数回答があったサンプルは、選択肢番号の一番若い回答のみを採用していることから、採用した選択肢以降の割合に影響を及ぼしている可能性が高く、数値を比較する際は留意が必要である。今回調査では、複数回答があったサンプルは無回答として集計を行っている。(図表 3-1-2)

(2) 就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別について

問13 現在、次のことについて部落差別があると思いますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 3-2 就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別について】

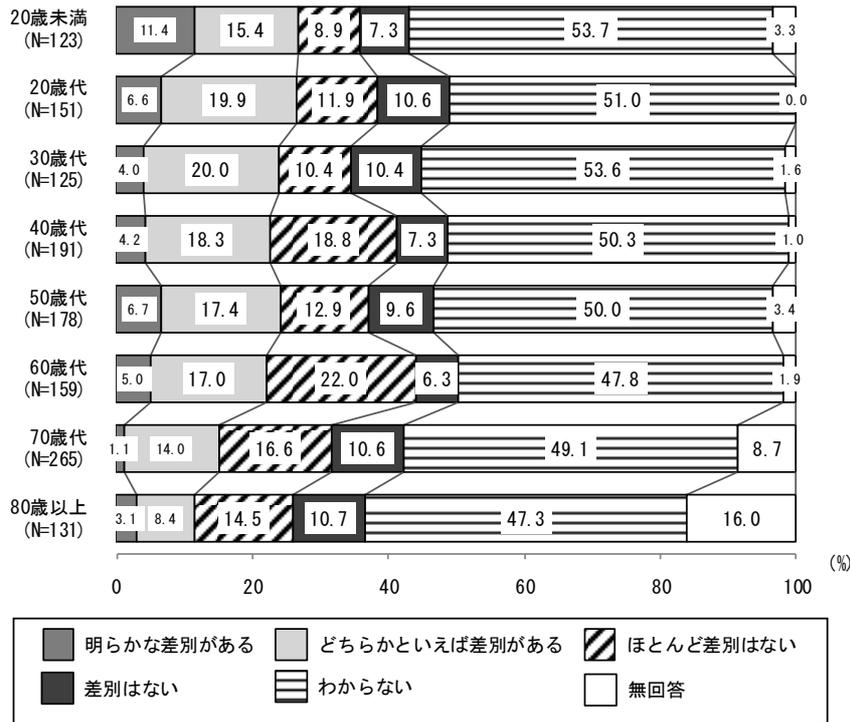
(N=1,165)



就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別については、“差別がある”（「明らかな差別がある」と「どちらかといえば差別がある」を合わせた数）は、「イ. 結婚について」が36.6%で最も高く、次いで「ア. 就職について」が19.7%、「ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して」及び「エ. インターネットの書き込みについて」が各18.3%、「オ. 日頃の付き合いについて」が11.2%となっている。

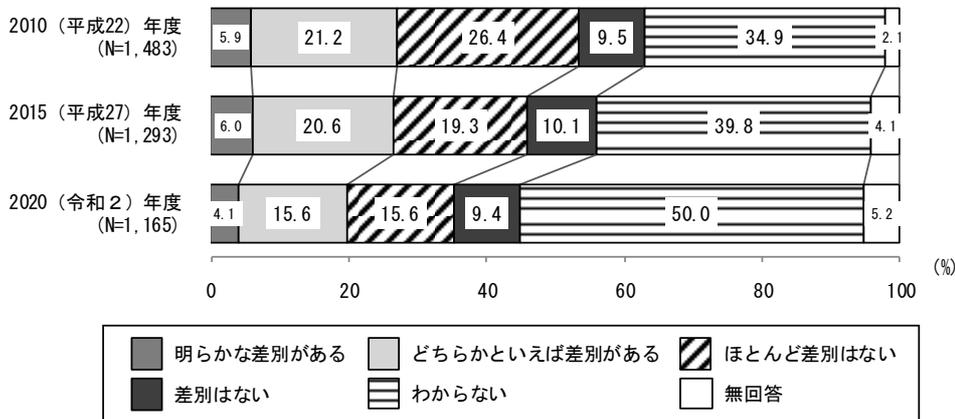
“差別はない”（「ほとんど差別はない」と「差別はない」を合わせた数）は、「オ. 日頃の付き合いについて」が34.1%で最も高く、次いで「ア. 就職について」が25.0%、「ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して」が24.8%、「イ. 結婚について」が18.3%、「エ. インターネットの書き込みについて」が14.2%となっている。（図表 3-2）

【図表 3-2-1 年齢別 ア. 就職について】



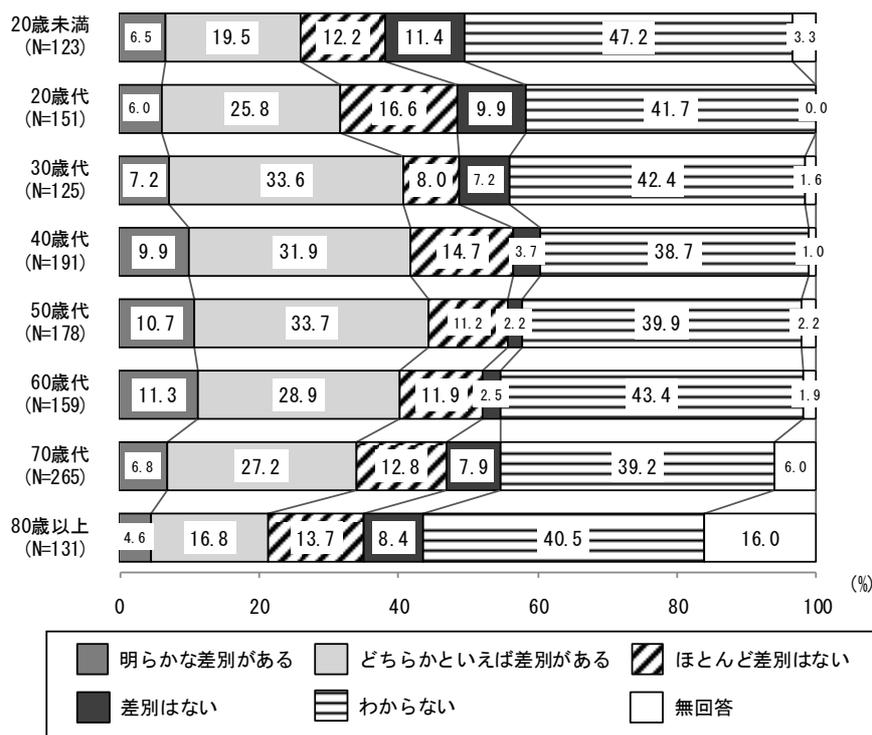
「ア. 就職について」を年齢別で見ると、「差別がある」は60歳代以下の年齢で2割台となっており、「明らかな差別がある」の割合は、20歳未満で11.4%と比較的高い。一方で、70歳以上では「差別がある」は1割台となっている。「差別はない」は60歳代で28.3%と最も高い（図表 3-2-1）

【図表 3-2-2 経年比較 ア. 就職について】



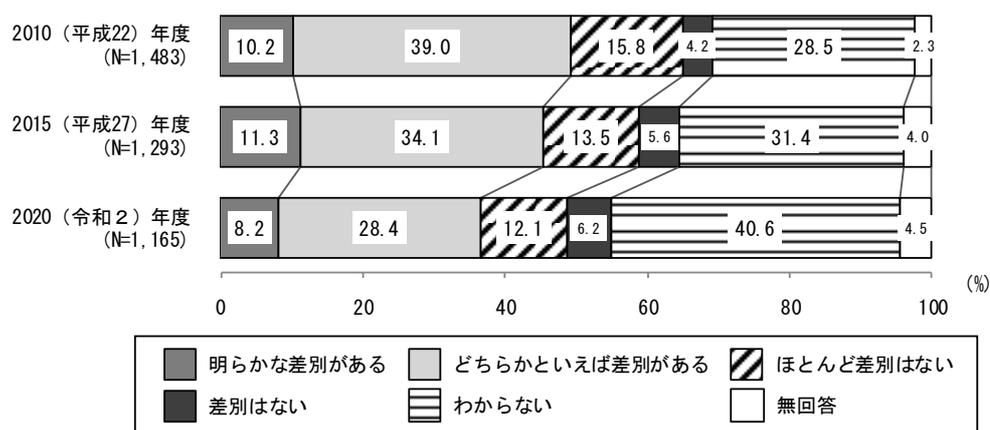
「ア. 就職について」の経年比較をみると、「わからない」のみ増加傾向にある。それ以外の項目は前回調査から概ね減少しており、「差別がある」は前回調査に比べ6.9ポイントの減少、「差別はない」は前回調査に比べ4.4ポイントの減少となっている。（図表 3-2-2）

【図表 3-2-3 年齢別 イ. 結婚について】



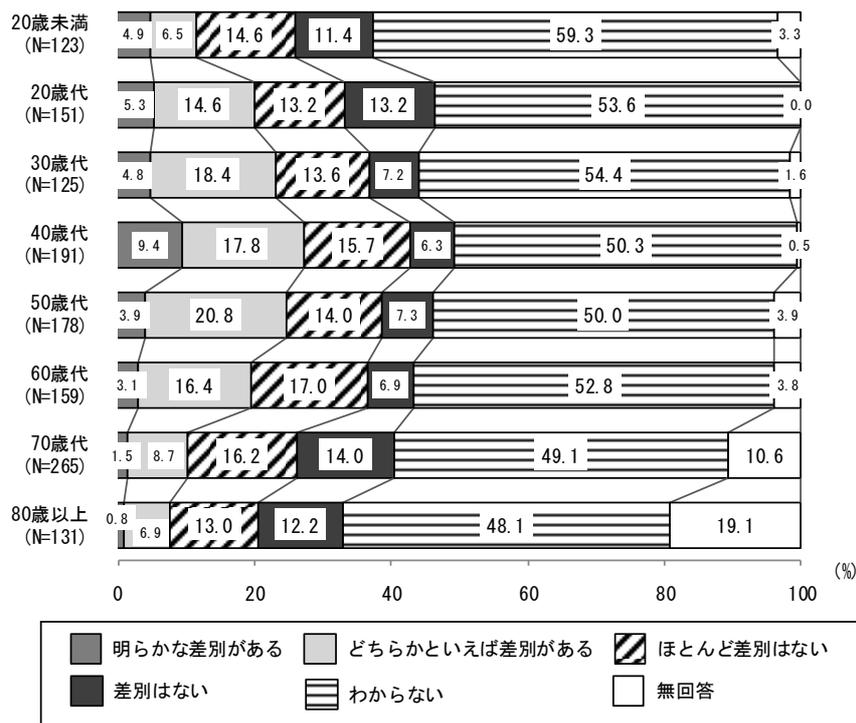
「イ. 結婚について」を年齢別で見ると、40～60歳代は「明らかな差別がある」が1割前後と比較的高くなっており、特に50歳代は“差別がある”が44.4%を占め、“差別はない”は13.4%と各年齢の中で最も低くなっている。一方で、80歳以上と20歳未満は“差別がある”がそれぞれ21.4%、26.0%と比較的低い。(図表 3-2-3)

【図表 3-2-4 経年比較 イ. 結婚について】



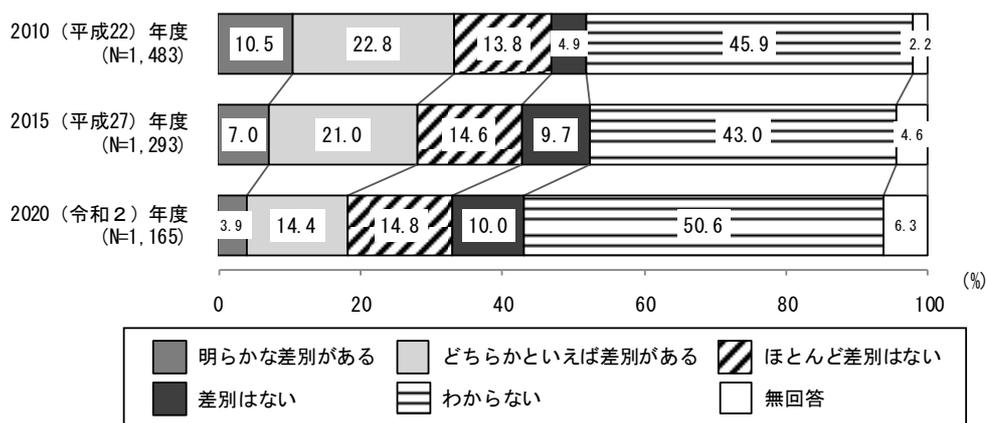
「イ. 結婚について」の経年比較をみると、「わからない」が前回、前々回調査に比べ増加している。“差別がある”は前回調査に比べ8.8ポイント減少しているが、“差別はない”は0.8ポイントの減少にとどまっており、大きな変化はみられない。(図表 3-2-4)

【図表 3-2-5 年齢別 ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して】



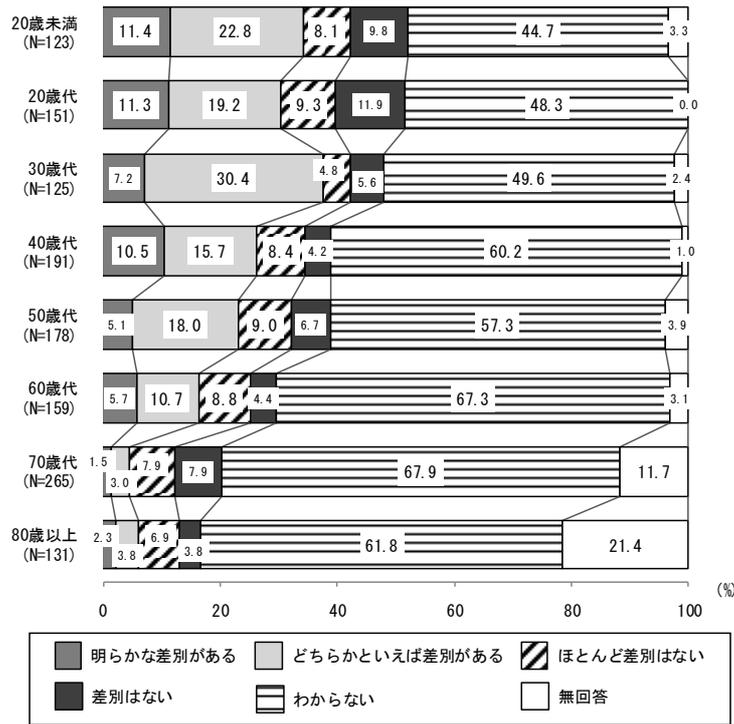
「ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して」を年齢別で見ると、“差別がある”は40歳代が最も高く27.2%となっており、40歳代を頂点として各年齢の割合は低下傾向にある。80歳以上及び20歳未満は“差別がある”がそれぞれ7.7%、11.4%と比較的低い。“差別がない”は、70歳代が30.2%で最も高い。(図表 3-2-5)

【図表 3-2-6 経年比較 ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して】



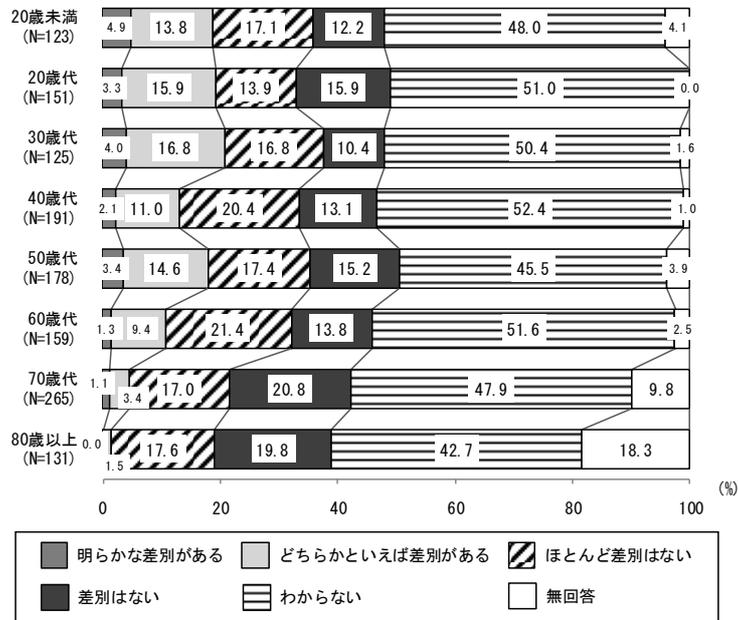
「ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して」の経年比較をみると、“差別がある”は前々回調査からは15.0ポイント、前回調査からは9.7ポイント減少している。“差別はない”は前回調査から大きな変化がみられず、0.5ポイントの微増に留まっている。(図表 3-2-6)

【図表 3-2-7 年齢別 エ. インターネット上の書き込みについて】



「エ. インターネットの書き込みについて」を年齢別で見ると、30歳代以下で“差別がある”が3割台となっており、特に30歳代は37.6%と高い。ただし、各年齢で“差別はない”が最も高いのは20歳代(21.2%)である。70歳以上は“差別がある”が5%前後と低くなっている。(図表 3-2-7)

【図表 3-2-8 年齢別 オ. 日頃の付き合いについて】

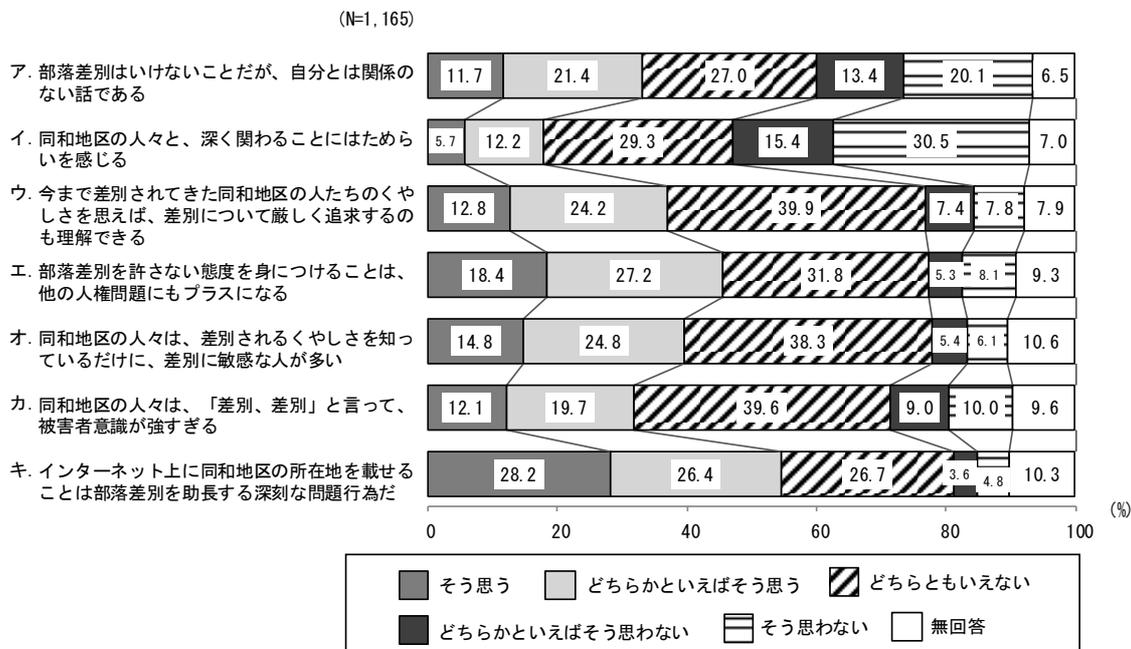


「オ. 日頃の付き合いについて」を年齢別で見ると、“差別がある”は30歳代以下と50歳代で2割前後みられるが、70歳以上は5%未満と低い。“差別はない”は30歳代以下では2割台、40歳以上では3割台となっている。(図表 3-2-8)

(3) 同和問題についての考え方

問 14 同和問題について、次のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。
(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 3-3 同和問題についての考え方】

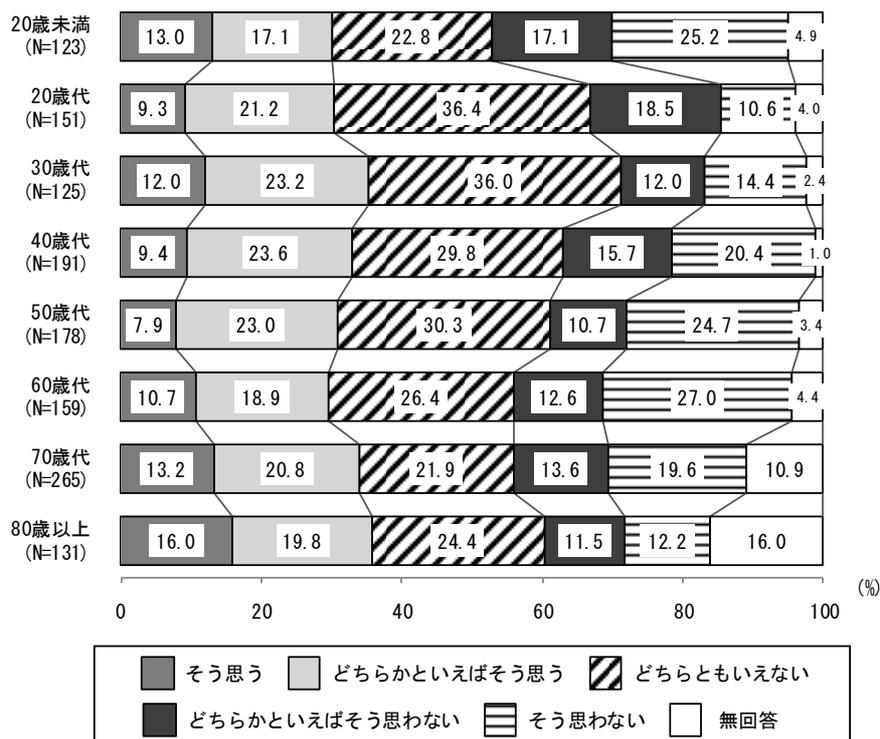


同和問題についての考え方について、「キ. インターネット上に同和地区の所在地を載せることは部落差別を助長する深刻な問題行為だ」は、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が54.6%と過半数を超えている。次いで“そう思う”が高い項目は「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」で、45.6%を占めている。

「ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」及び「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」以外の5項目は、“そう思う”が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）に比べ高くなっている。

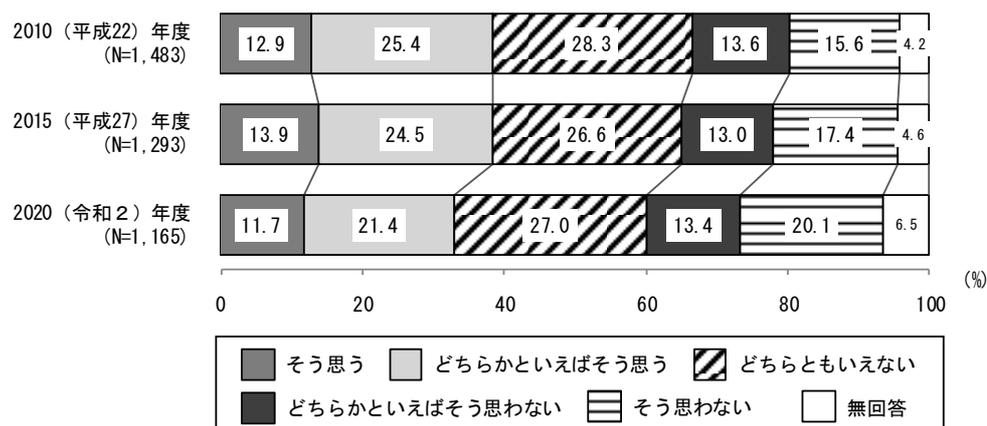
「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」は、“そう思わない”が45.9%を占めており、他の項目に比べ大幅に高い。次いで“そう思わない”が高い項目は「ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」で33.5%となっている。（図表 3-3）

【図表 3-3-1 年齢別 ア. 部落差別はいけなことが、自分とは関係のない話である】



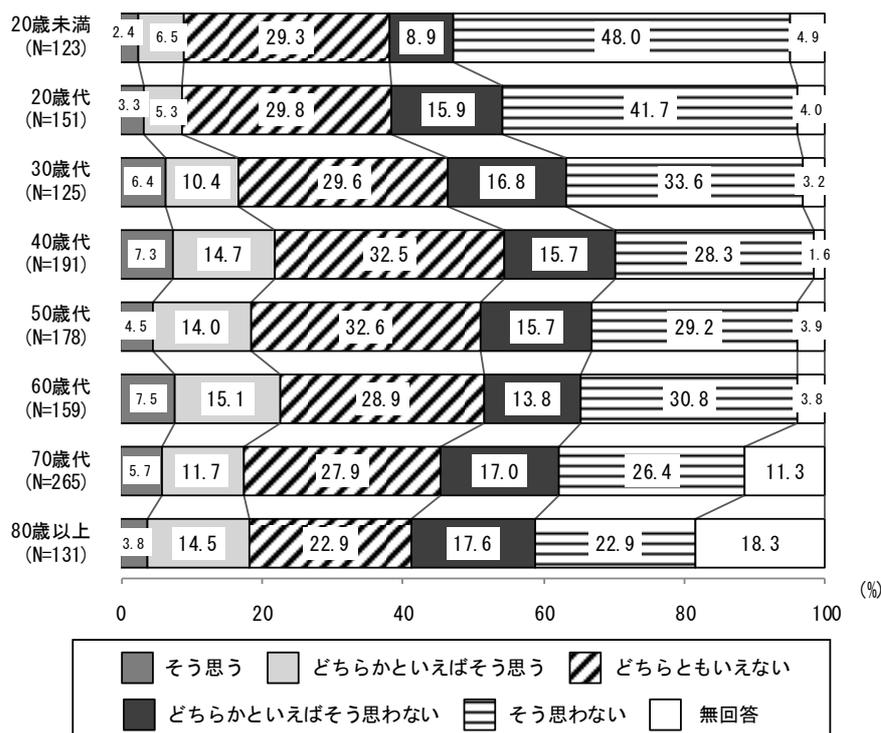
「ア. 部落差別はいけなことが、自分とは関係のない話である」を年齢別で見ると、“そう思う”は各年齢で大きな差はみられず、概ね 30%台となっているが、“そう思わない”は 20 歳未満及び 60 歳代で高く（各 42.3%、39.6%）、30 歳代及び 80 歳以上は低くなっている（各 26.4%、23.7%）。(図表 3-3-1)

【図表 3-3-2 経年比較 ア. 部落差別はいけなことが、自分とは関係のない話である】



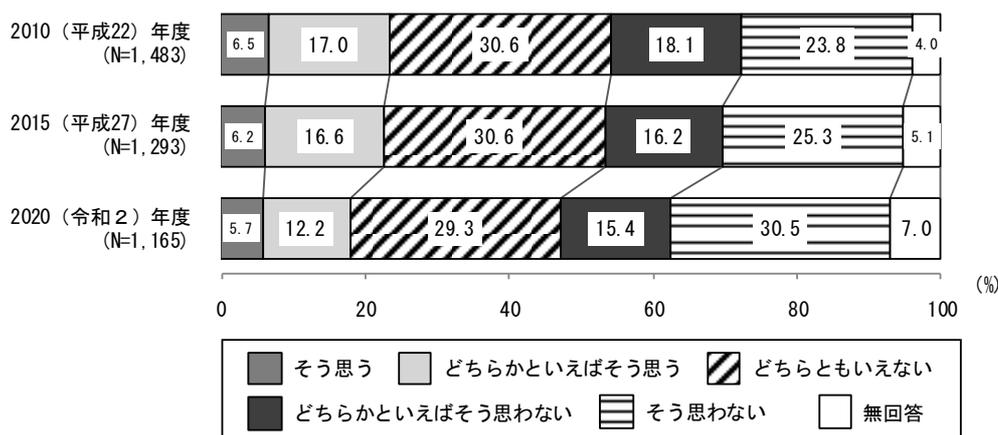
「ア. 部落差別はいけなことが、自分とは関係のない話である」の経年比較をみると、“そう思う”は前回調査に比べ 5.3 ポイントの減少がみられる。“そう思わない”は増加傾向にあり、前回調査との比較では 3.1 ポイント増加している。(図表 3-3-2)

【図表 3-3-3 年齢別 イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる】



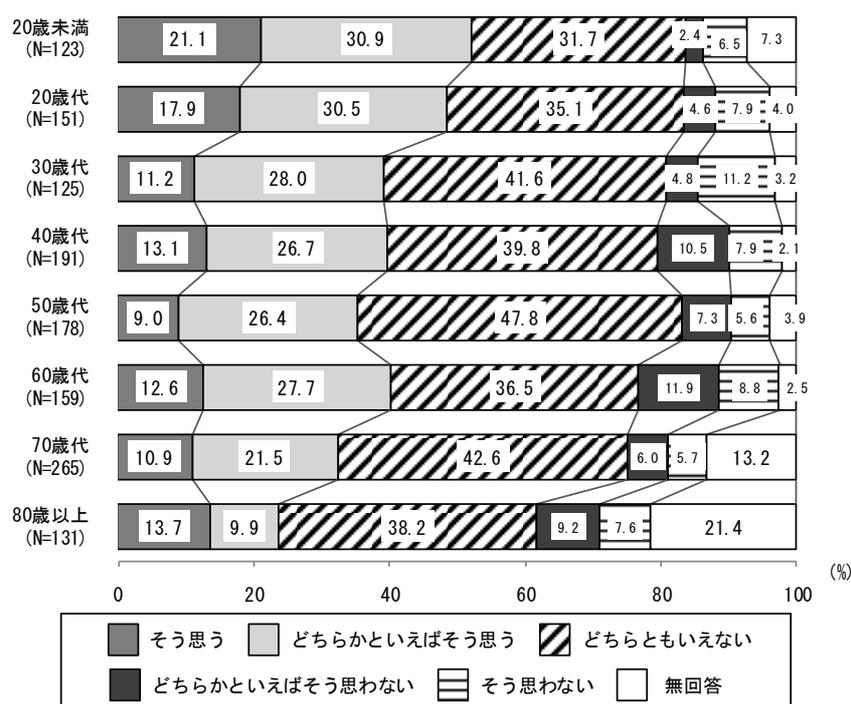
「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」を年齢別で見ると、“そう思う”は20歳代以下で1割未満と比較的低いが、40歳代及び60歳代では約2割と比較的高い。20歳代以下は“そう思わない”が6割近くを占めており、30歳代でも“そう思わない”が約5割となっている。その他の年齢では、“そう思わない”は4割程度である。(図表 3-3-3)

【図表 3-3-4 経年比較 イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる】



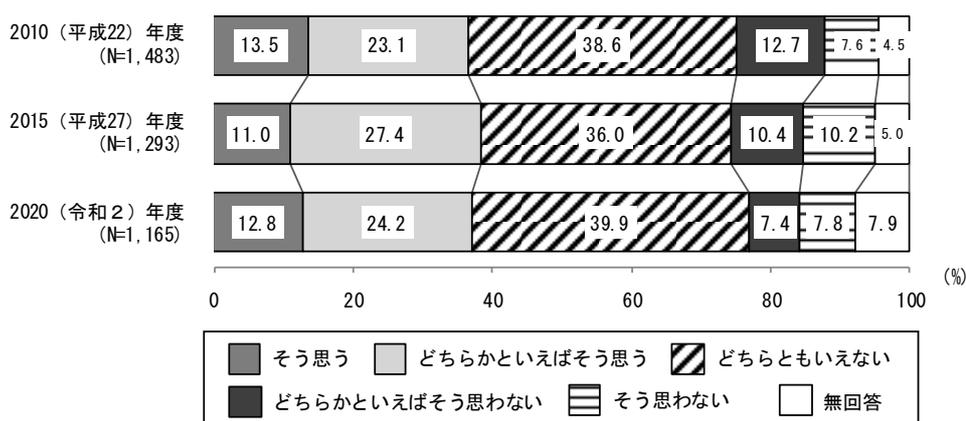
「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」の経年比較をみると、“そう思う”は前回調査に比べ4.9ポイント減少している。一方で、“そう思わない”は前回調査に比べ4.4ポイント増加しており、中でも「そう思わない」は前回調査から5.2ポイントの増加が見られる。(図表 3-3-4)

【図表 3-3-5 年齢別 ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人たちのくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる】



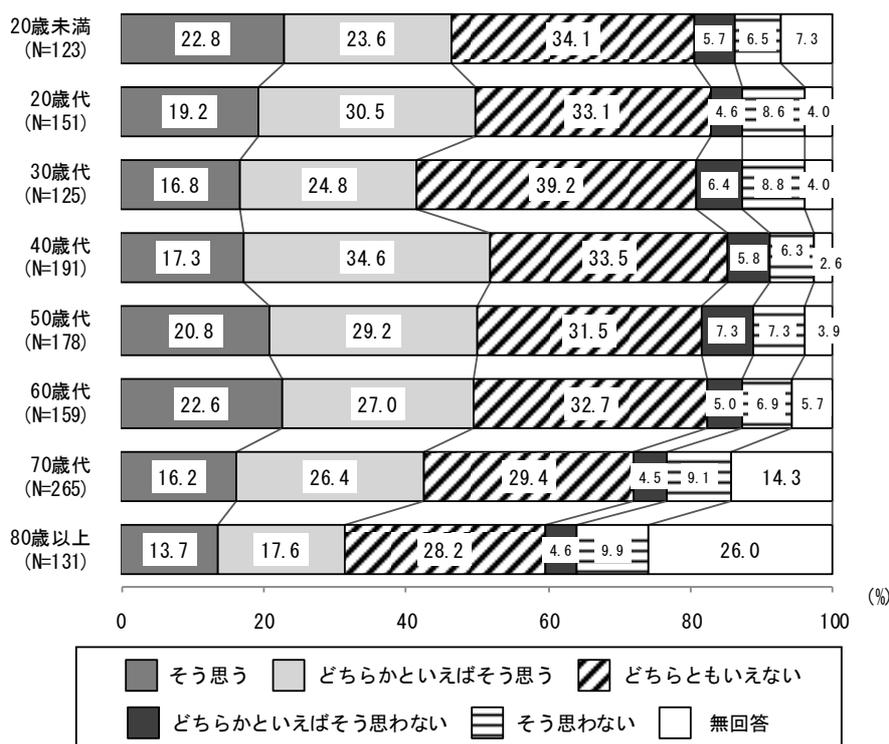
「ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人たちのくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる」を年齢別で見ると、“そう思う”は20歳代以下で5割前後と他の年齢に比べ高く、80歳以上では2割程度と比較的低くなっている。“そう思わない”は全ての年齢で2割以下となっており、特に20歳未満は8.9%と低い。(図表 3-3-5)

【図表 3-3-6 経年比較 ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人たちのくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる】



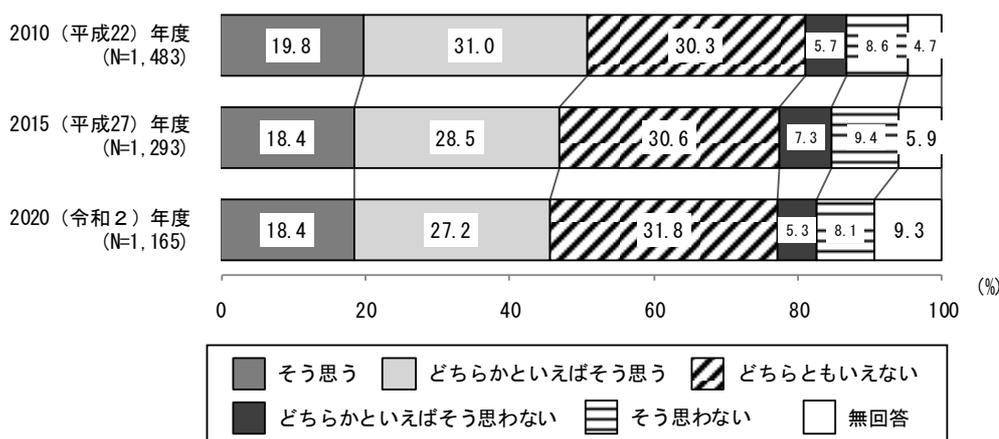
「ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人たちのくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる」の経年比較をみると、“そう思う”は前回調査に比べ1.4ポイント微減しているが、「そう思う」は1.8ポイント微増している。“そう思わない”は、前回調査に比べ5.4ポイント減少している。(図表 3-3-6)

【図表 3-3-7 年齢別 エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる】



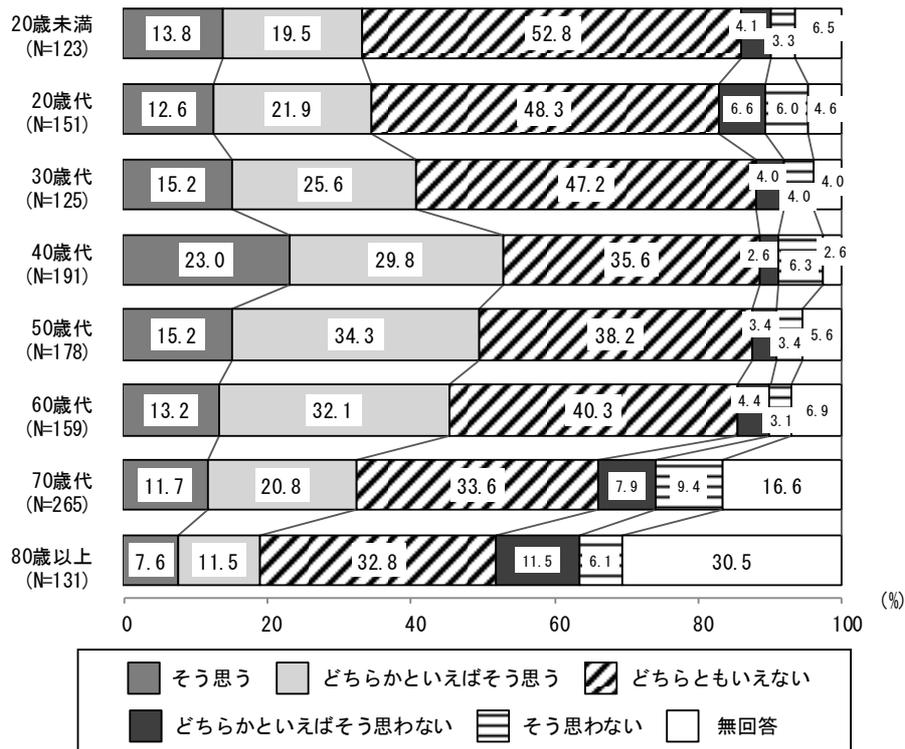
「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」を年齢別でみると、“そう思う”は30歳代と70歳以上で割合の落ち込みがみられるが、それ以外の年齢では、“そう思う”が5割前後となっている。“そう思わない”は全ての年齢で1割台である。(図表 3-3-7)

【図表 3-3-8 経年比較 エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる】



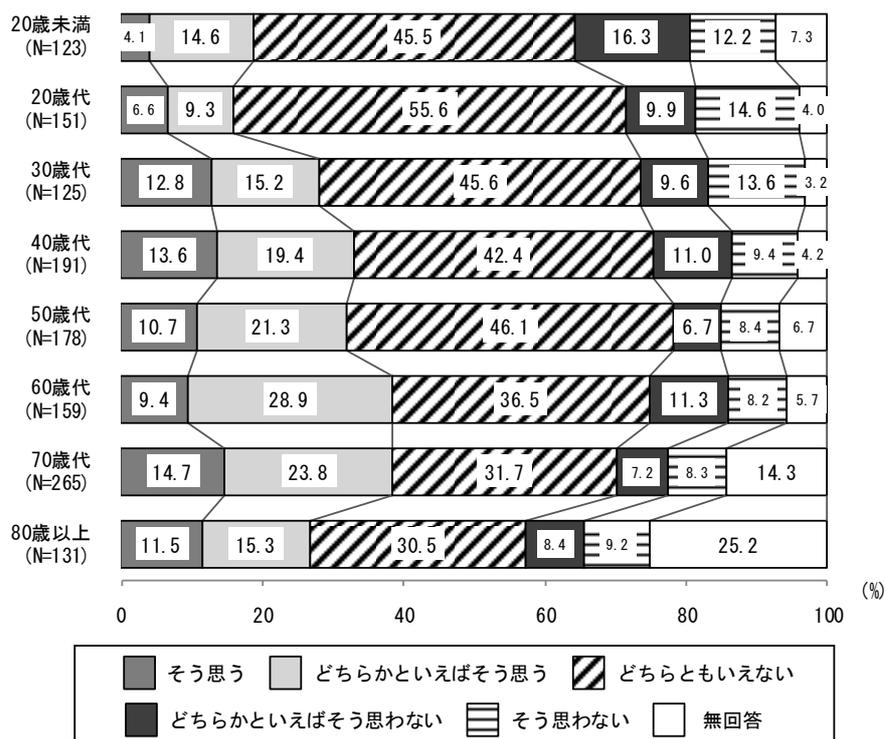
「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」の経年比較をみると、“そう思う”は減少傾向にあり、前回調査との比較では1.3ポイント減少している。“そう思わない”は、前々回調査との比較では大きな変化はないものの、前回調査との比較では、3.3ポイント減少している。(図表 3-3-8)

【図表 3-3-9 年齢別 オ. 同和地区の人々は、差別されるくやしさを
知っているだけに、差別に敏感な人が多い】



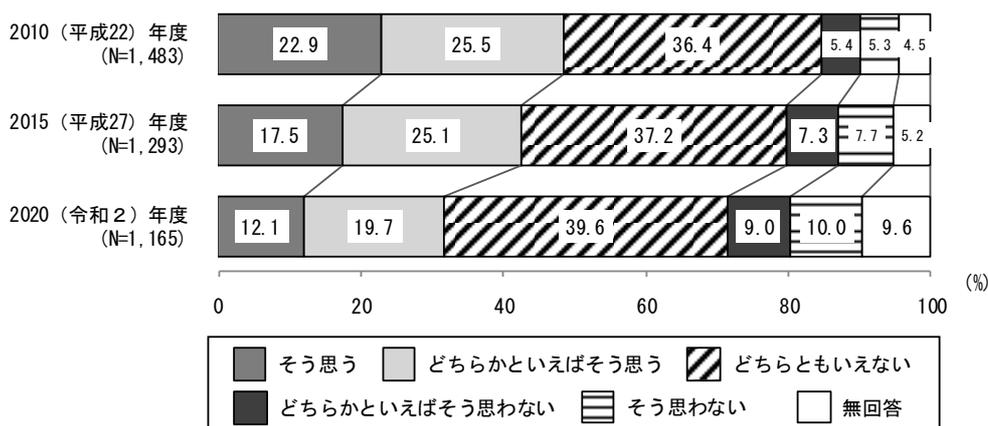
「オ. 同和地区の人々は、差別されるくやしさを知っているだけに、差別に敏感な人が多い」を年齢別でみると、“そう思う”は40歳代の52.8%を頂点として、年齢が離れるごとに低下している。“そう思わない”は20歳代及び70歳代以上で1割台、それ以外の年齢では1割以下となっている。(図表 3-3-9)

【図表 3-3-10 年齢別 カ.同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる】



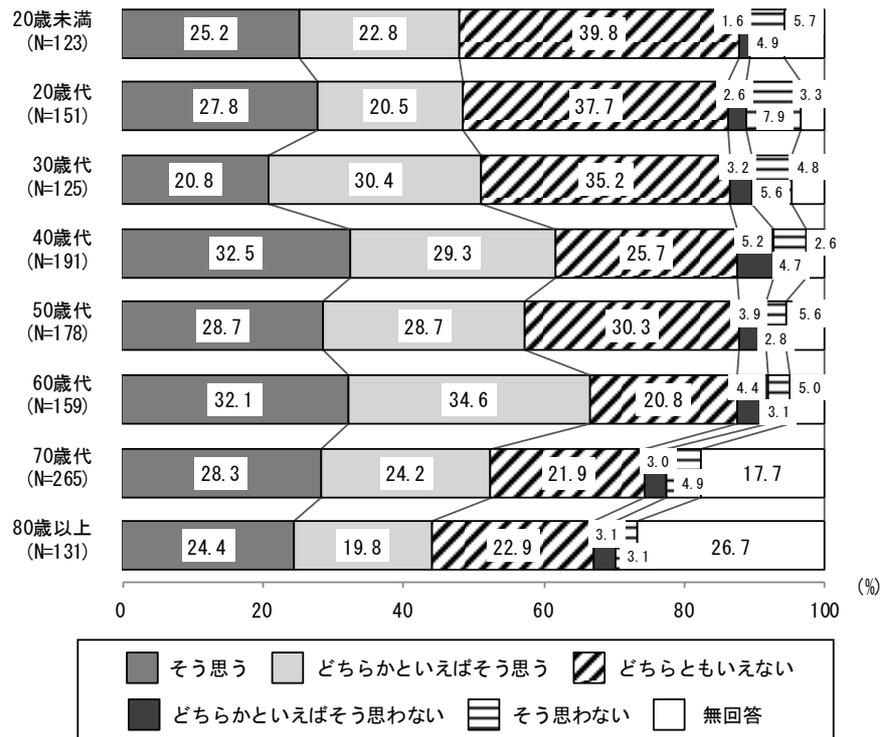
「カ.同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」を年齢別にみると、20歳代以下は“そう思う”が2割を切っており、他の年齢に比べ低くなっている。年齢が上がるにつれ“そう思う”の割合が概ね高くなる傾向にあるが、80歳以上（26.8%）は一転して低く、70歳代（38.5%）と10ポイント以上の差が発生している。（図表 3-3-10）

【図表 3-3-11 経年比較 カ.同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる】



「カ.同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」の経年比較をみると、“そう思う”は減少傾向にあり、前回調査に比べ10.8ポイント減少している。一方で、“そう思わない”は増加傾向にあり、前回調査に比べ4.0ポイント増加している。（図表 3-3-11）

【図表 3-3-12 年齢別 キ. インターネット上に同和地区の所在地を載せることは
部落差別を助長する深刻な問題行為だ】



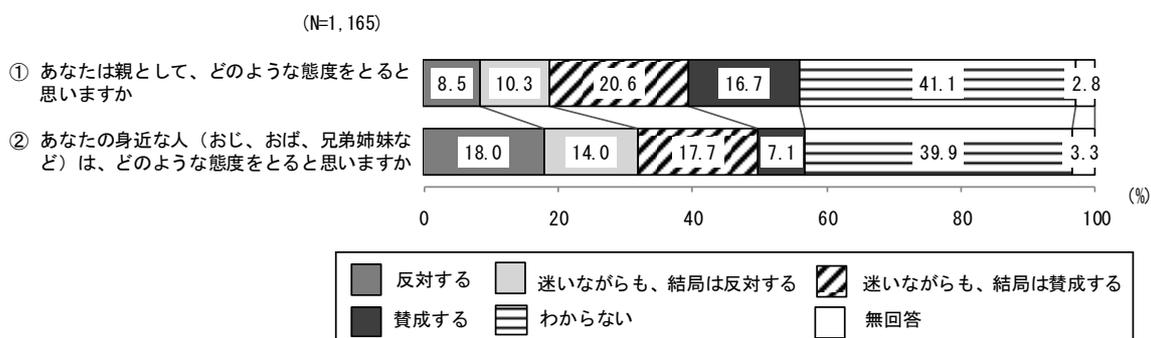
「キ. インターネット上に同和地区の所在地を載せることは部落差別を助長する深刻な問題行為だ」を年齢別にみると、30～70歳代で“そう思う”が過半数を占めており、中でも40歳代及び60歳代は“そう思う”が6割台となっている。“そう思わない”はいずれの年齢も概ね1割以下に留まっている。(図表 3-3-12)

(4) 同和地区の方との結婚について

問15 ①もし、あなたのお子さん（お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください）が恋愛をし、結婚をしたいと言っている相手が同和地区の人であった場合、あなたは親として、どのような態度をとると思いますか。（あてはまる番号1つに○）

②もし、あなたが結婚しようとしている相手が同和地区の人であった場合、あなたの身近な人（おじ、おば、兄弟姉妹など）は、どのような態度をとると思いますか。（あてはまる番号1つに○）

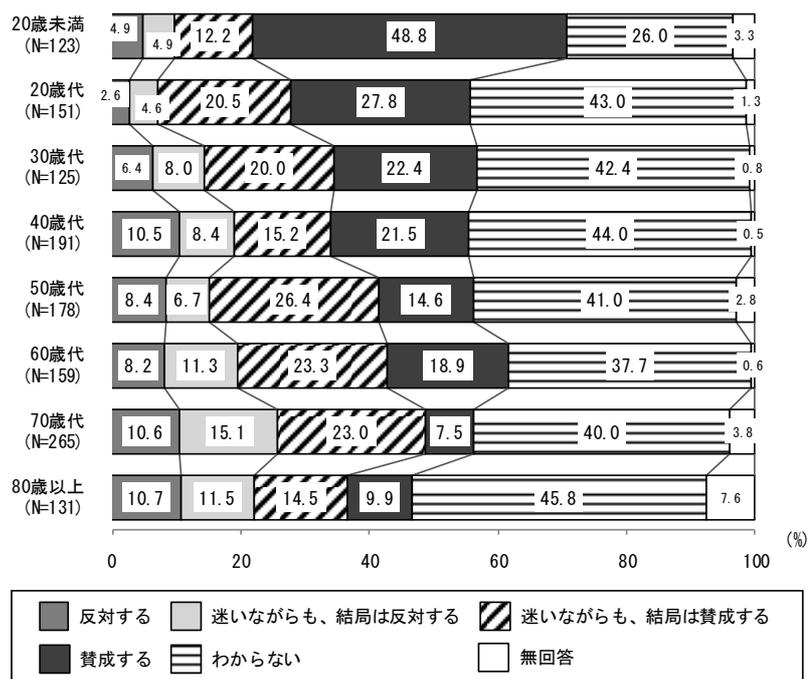
【図表 3-4 同和地区の方との結婚について】



同和地区の方との結婚について、「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」の質問に対しては“賛成派”（「迷いながらも、結局は賛成する」と「賛成する」を合わせた数）が“反対派”（「反対する」と「迷いながらも、結局は反対する」を合わせた数）に比べ18.5ポイント高い。

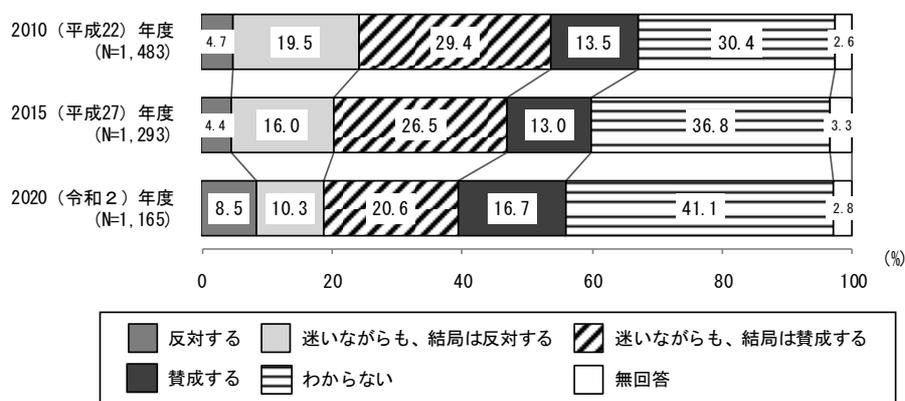
一方で、「②あなたの身近な人（おじ、おば、兄弟姉妹など）は、どのような態度をとると思いますか」の質問に対しては“反対派”が“賛成派”に比べ7.2ポイント高く、“反対派”が上回っている。（図表3-4）

【図表 3-4-1 年齢別 ①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか】



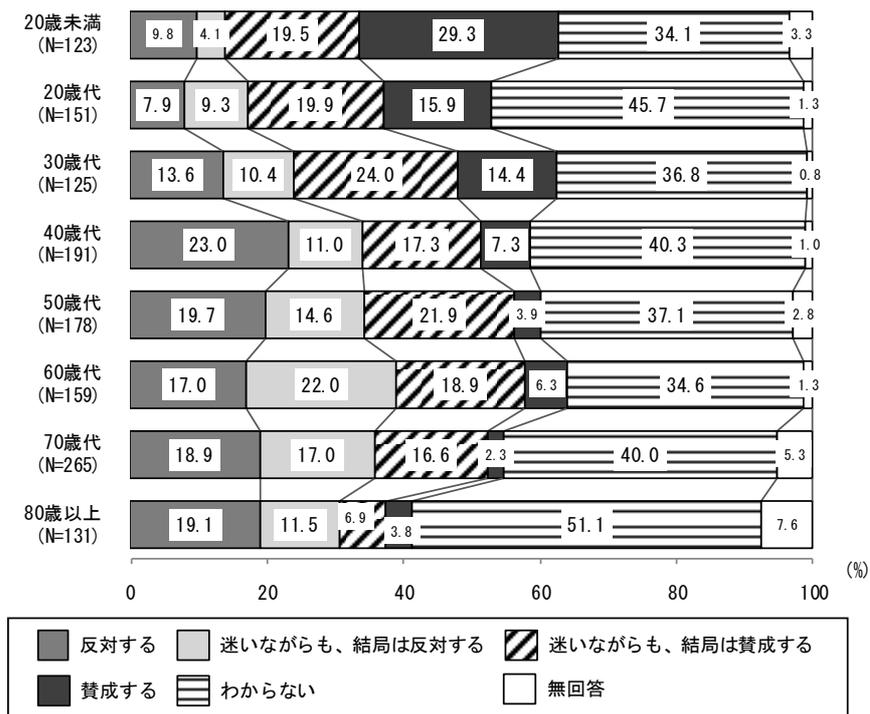
「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」を年齢別にみると、20歳未満は“賛成派”が61.0%と大幅に高く、「賛成する」は48.8%にのぼる。次いで20歳代も“賛成派”が48.3%と高い。70歳以上は“賛成派”が比較的低く、70歳代は30.5%、80歳以上は24.4%となっている。(図表 3-4-1)

【図表 3-4-2 経年比較 ①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか】



「①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか」の経年比較をみると“反対派”、“賛成派”共に減少傾向にあり、「わからない」が調査を重ねるごとに増加している。ただし、前回調査に比べ「反対する」は4.1ポイントの増加、「賛成する」は3.7ポイントの増加となっている。(図表 3-4-2)

【図表 3-4-3 年齢別 ②あなたの身近な人（おじ、おば、兄弟姉妹など）は、どのような態度をとると思いますか】

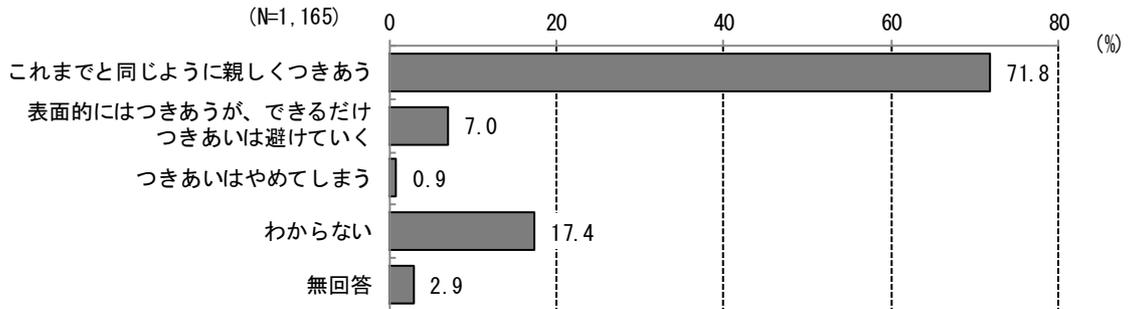


「②あなたの身近な人（おじ、おば、兄弟姉妹など）は、どのような態度をとると思いますか」を年齢別でみると、30歳代以下は“賛成派”が3～4割台と比較的高い。特に20歳未満は“賛成派”が48.8%と約半数を占めている。40歳以上は“反対派”が3割台みられ、60歳代は“反対派”が39.0%と比較的高い。また、70歳以上は“賛成派”が10%台と比較的低くなっている。（図表 3-4-3）

(5) 日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合

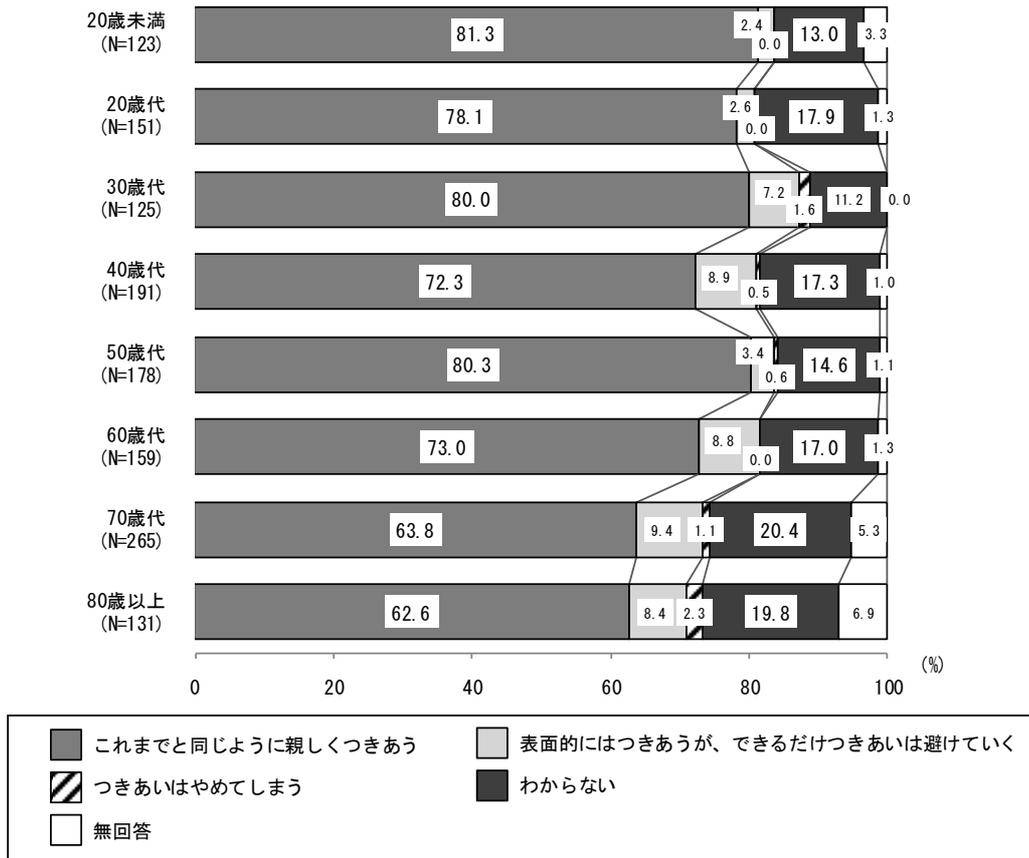
問 16 もし、日頃から親しくつきあっている人が、なにかのことで同和地区出身の人であることがわかった場合、あなたはどうしますか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 3-5 日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合】



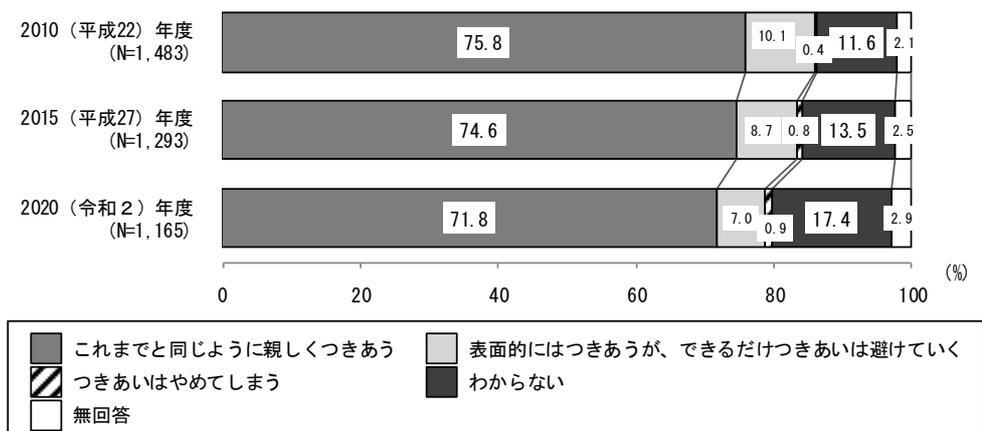
日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合については、「これまでと同じように親しくつきあう」が71.8%と圧倒的に高くなっている。次いで「わからない」(17.4%)が高い。(図表3-5)

【図表 3-5-1 年齢別 日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合】



日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合を年齢別にみると、いずれの年齢も「これまでと同じように親しくつきあう」が過半数を占めており、30歳代以下及び50歳代では8割前後と高くなっている。一方で、70歳以上は「これまでと同じように親しくつきあう」が6割程度と他の年齢に比べ低くなっている。(図表 3-5-1)

【図表 3-5-2 経年比較 日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合】

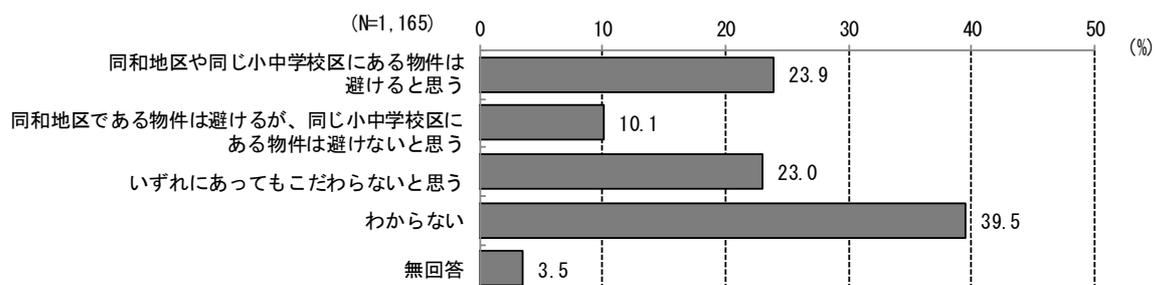


日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合の経年比較をみると、「これまでと同じように親しくつきあう」及び「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」は微減傾向にあり、それぞれ前回調査に比べ2.8ポイント、1.7ポイントの低下がみられる。(図表 3-5-2)

(6) 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて

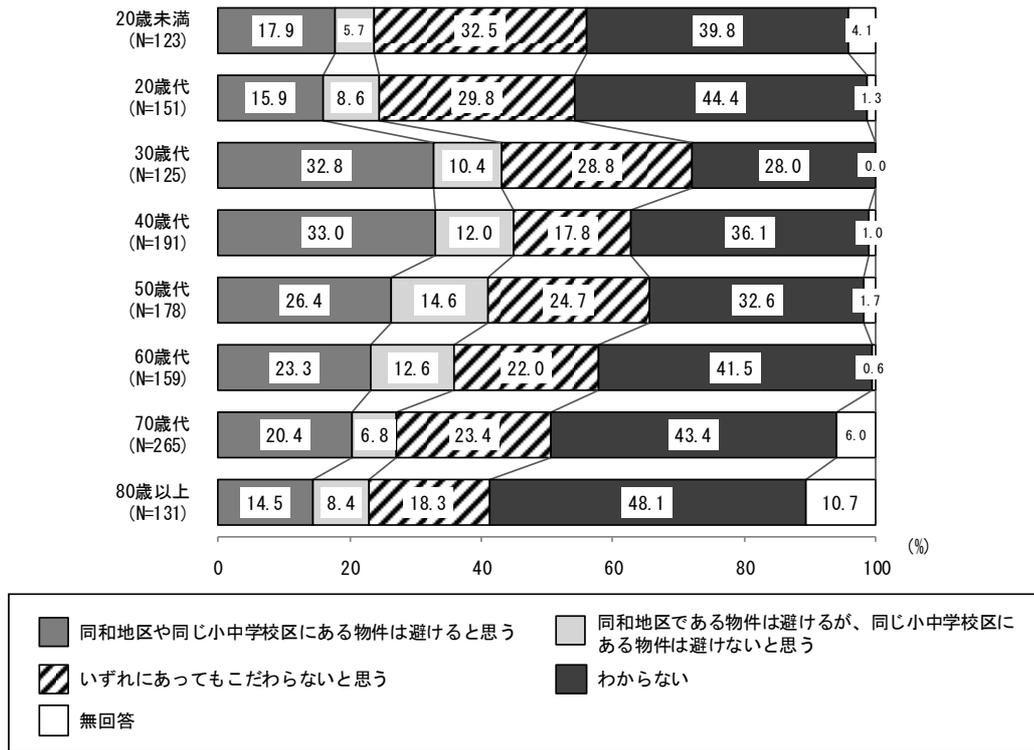
問17 もし、あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区にある物件、もしくは小中学校区に同和地区がある物件ならばどのようにすると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 3-6 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて】



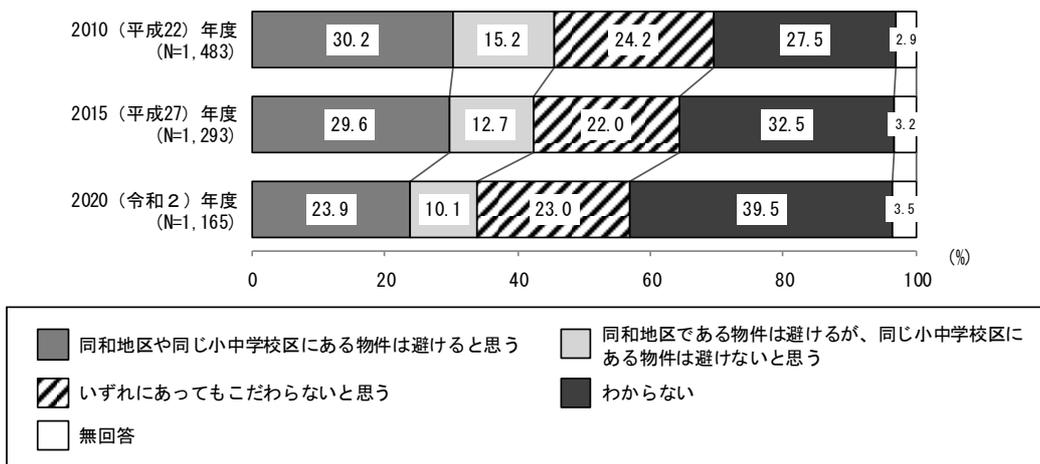
同和地区内で住宅を購入、賃貸することについては、「わからない」が39.5%と最も高くなっており、次いで「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」が23.9%、「いずれにあってもこだわらないと思う」が23.0%、「同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けないと思う」が10.1%となっている。(図表 3-6)

【図表 3-6-1 年齢別 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて】



同和地区内で住宅を購入、賃貸することについてを年齢別で見ると、「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」は、20歳代以下では1割台と他の年齢に比べ低く、30～40歳代では3割あまりと高いが、50歳以上では年齢が上がるにつれ再び低くなる傾向にある。(図表 3-6-1)

【図表 3-6-2 経年比較 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて】



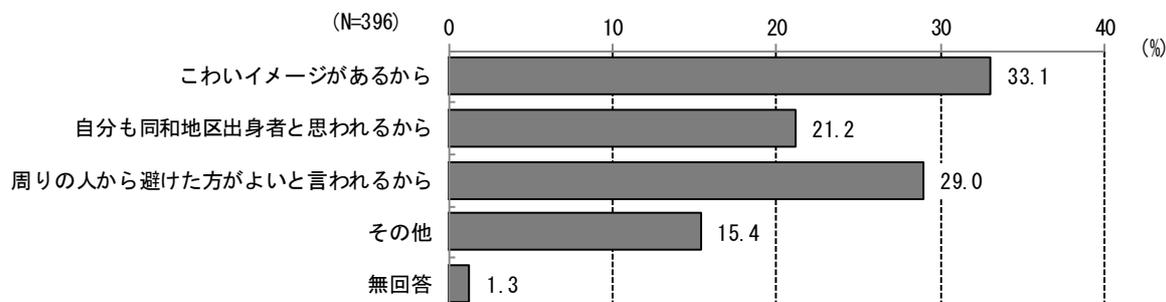
同和地区内で住宅を購入、賃貸することについての経年比較をみると、「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」及び「同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けたいと思う」は減少傾向にあり、それぞれ前回調査から5.7ポイント、2.6ポイント減少している。一方で、「わからない」は調査を重ねるごとに増加している。(図表 3-6-2)

(7) 同和地区を避ける理由

問18 問17で、「1」「2」と答えた方にお聞きします。

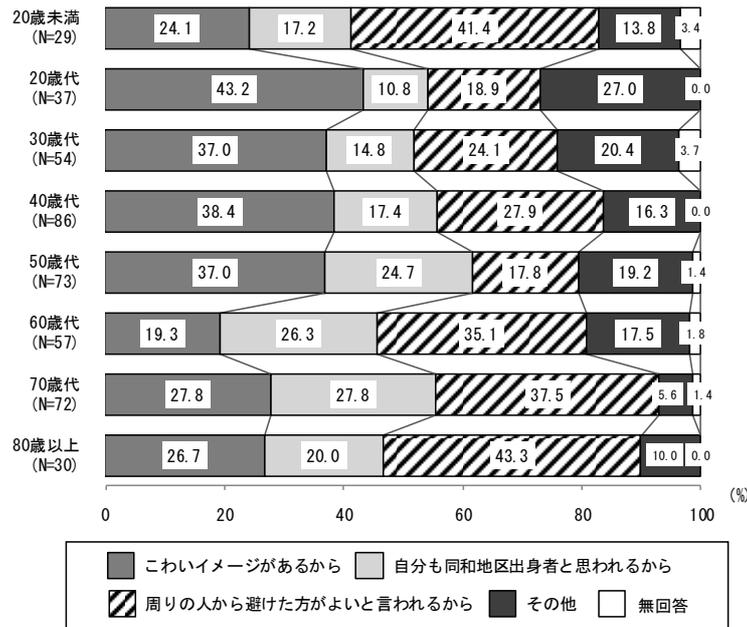
あなたはなぜそのように思うのですか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 3-7 同和地区を避ける理由】



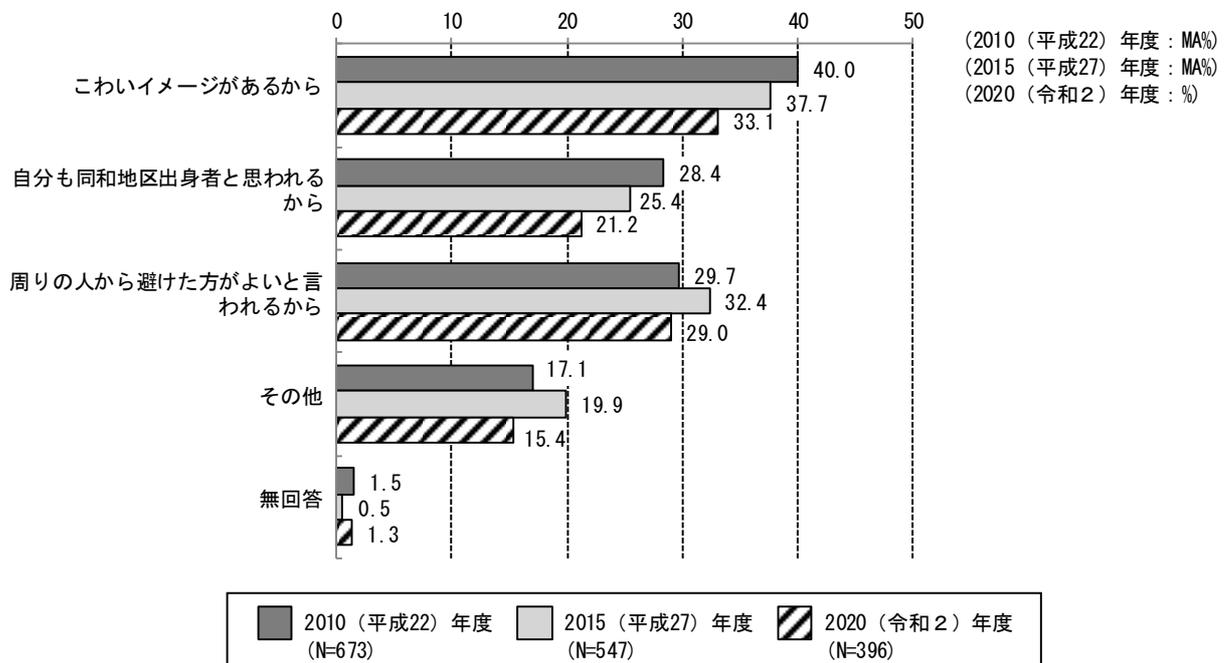
同和地区を避ける理由については、「こわいイメージがあるから」が33.1%と最も高く、次いで「周りの人から避けた方がよいと言われるから」が29.0%、「自分も同和地区出身者と思われるから」が21.2%となっている。(図表 3-7)

【図表 3-7-1 年齢別 同和地区を避ける理由】



同和地区を避ける理由を年齢別で見ると、20歳未満及び60歳以上は「周りの人から避けた方がよいと言われるから」が最も高く、20～50歳代は「こわいイメージがあるから」となっている。(図表 3-7-1)

【図表 3-7-2 経年比較 同和地区を避ける理由】

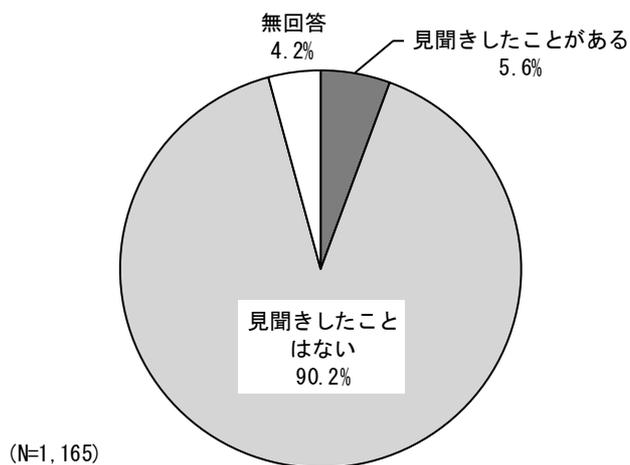


同和地区を避ける理由の経年比較をみると、いずれの調査も「こわいイメージがあるから」が最も高く、次いで「周りの人から避けた方がよいと言われるから」、「自分も同和地区出身者と思われるから」の順で割合が高くなっている。なお、本設問は、前回調査及び前々回調査では複数回答形式であったが、今回調査より単一回答形式となっているため、数値の比較は行っていない。(図表 3-7-2)

(8) 過去5年以内に同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験

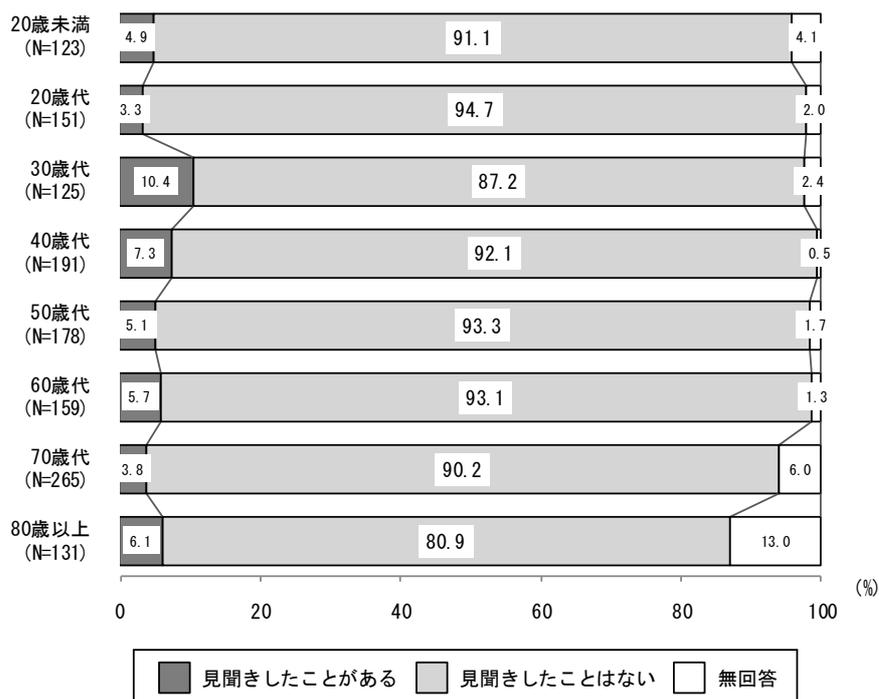
問19 あなたは、過去5年ほどの間に、同和地区の人々に対する差別的な言動や落書きを見聞きしたことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 3-8 過去5年以内に同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験】



過去5年以内に同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験については、「見聞きしたことはない」が90.2%と圧倒的に高く、「見聞きしたことがある」は5.6%に留まっている。(図表 3-8)

【図表 3-8-1 年齢別 過去5年以内に同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験】

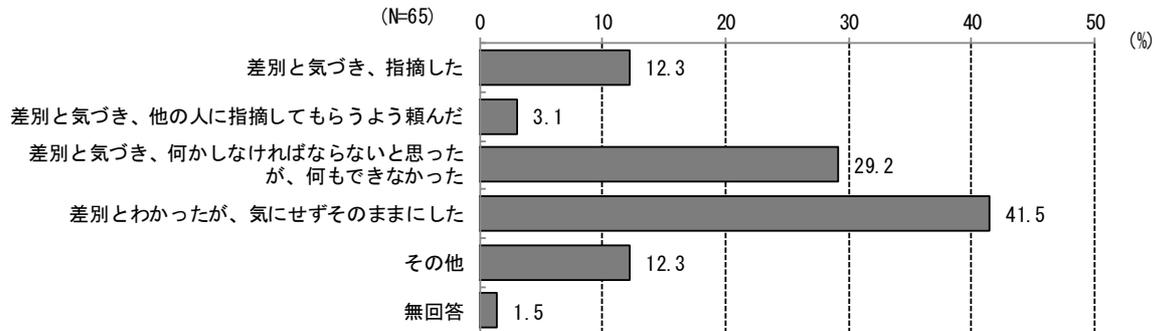


過去5年以内に同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験を年齢別でみると、30歳代は「見聞きしたことがある」が10.4%と他の年齢に比べやや高くなっている以外は、年齢別の大きな変化はみられない。(図表 3-8-1)

(9) 同和地区の人々への差別を見聞きした時の反応

問20 問19で、「1.見聞きしたことがある」と答えた方にお聞きします。
その時あなたは、どうしましたか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 3-9 同和地区の人々への差別を見聞きした時の反応】



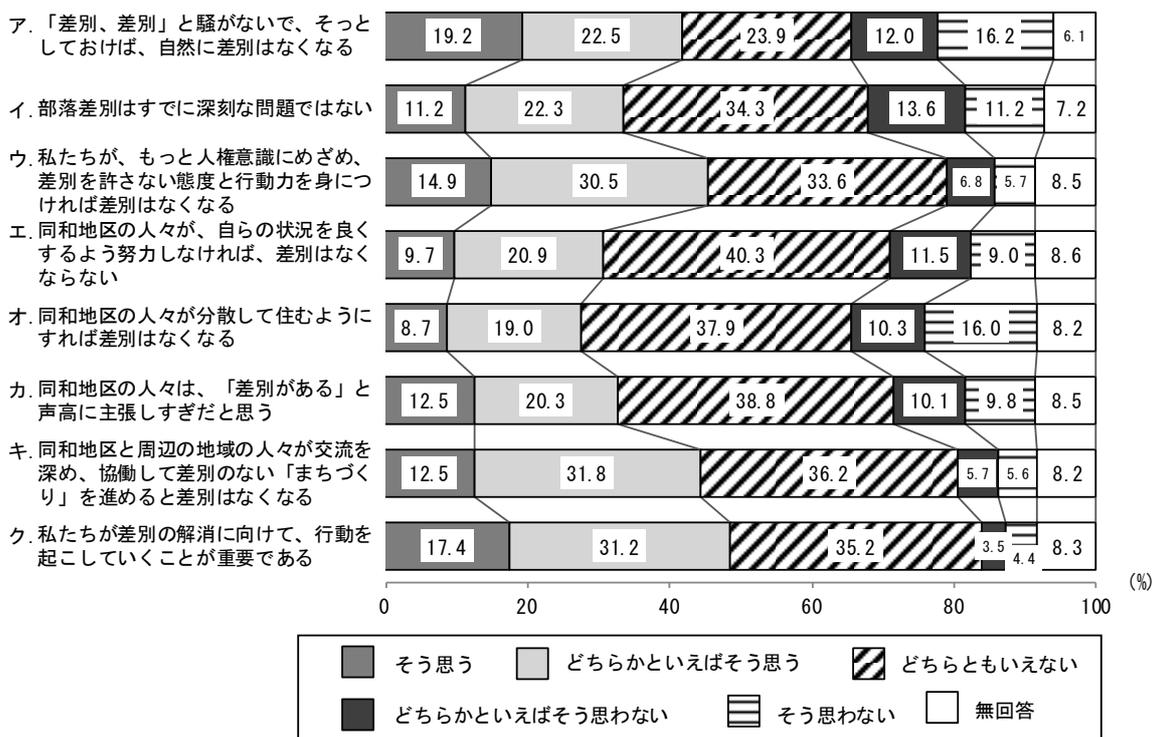
同和地区の人々への差別を見聞きした時の反応については、「差別と分かったが、気にせずそのままにした」が41.5%と最も高く、次いで「差別と気づき、何かしなければならなかったが、何もできなかった」が29.2%、「差別と気づき、指摘した」が12.3%となっている。(図表 3-9)

(10) 部落差別をなくす方法に関する意見

問 21 部落差別をなくすことについて、次のような考え方があります。あなたはどのように思いますか。
(それぞれあてはまる番号1つに○)

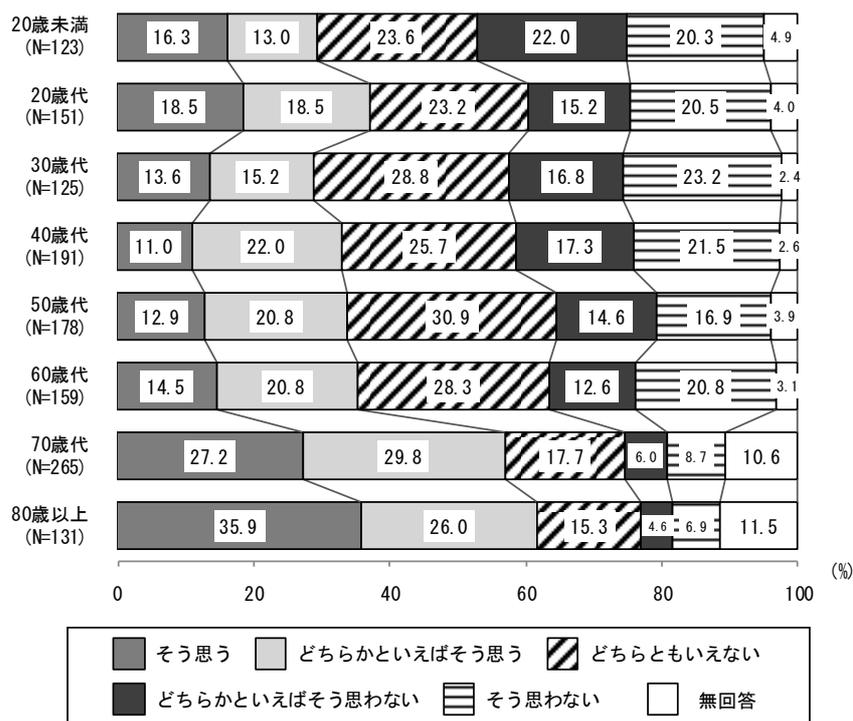
【図表 3-10 部落差別をなくす方法に関する意見】

(N=1,165)



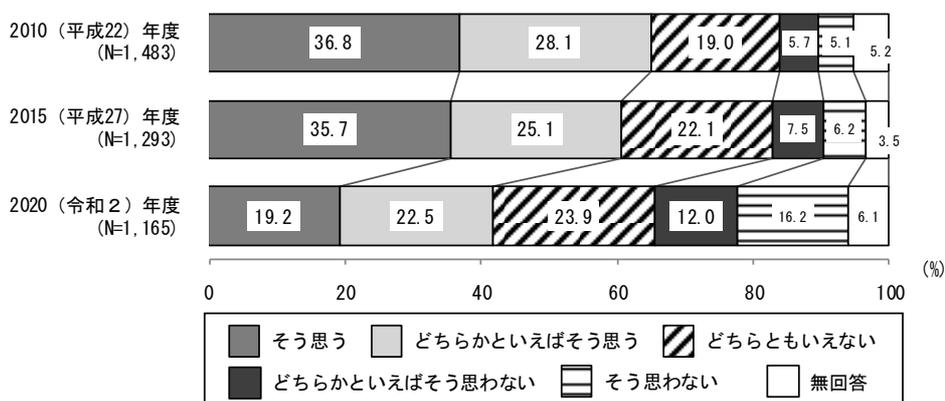
部落差別をなくす方法に関する意見について、いずれの項目も“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回っている。“そう思う”の上位5項目は、割合が高い順に「ク. 私たちが差別の解消に向けて、行動を起こしていくことが重要である」（48.6%）、「ウ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」（45.4%）、「キ. 同和地区と周辺の地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進めると差別はなくなる」（44.3%）、「ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる」（41.7%）、「イ. 部落差別はすでに深刻な問題ではない」（33.5%）となっている。（図表 3-10）

【図表 3-10-1 年齢別 ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる】



「ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる」を年齢別で見ると、20歳未満及び30～40歳代は“そう思わない”が“そう思う”に比べ高く、20歳代及び50歳以上は“そう思う”が“そう思わない”に比べ高くなっている。特に、20歳未満及び30歳代は“そう思わない”が4割を超えている。一方で、70歳代以上は“そう思う”が6割前後と高くなっている。(図表 3-10-1)

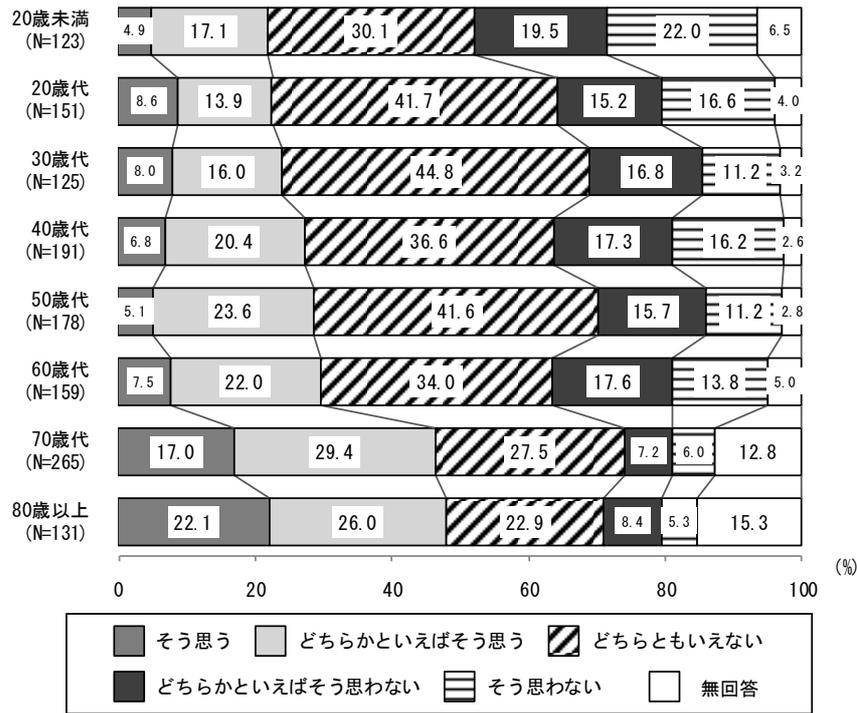
【図表 3-10-2 経年比較 ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる】



「ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておけば、自然に差別はなくなる」の経年比較をみると、“そう思う”は前回調査に比べ19.1ポイントの大幅な減少がみられ、“そう思わない”は前回調査に比べ14.5ポイント増加している。

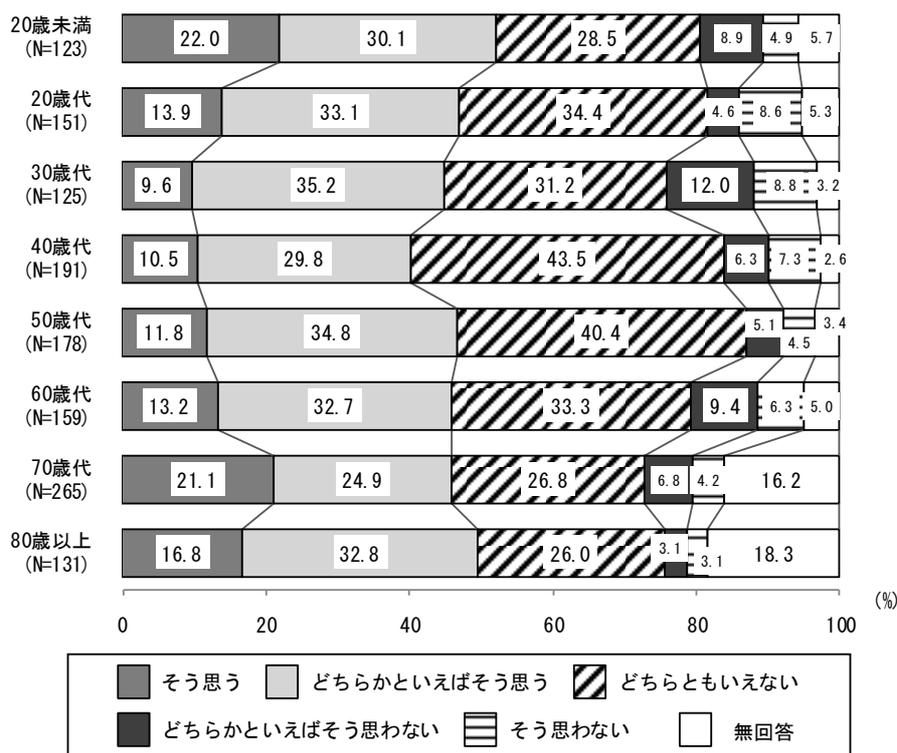
なお、前回及び前々回調査では、本項目文は「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい」であり、今回調査とは異なっている点に留意が必要である。(図表 3-10-2)

【図表 3-10-3 年齢別 イ. 部落差別はすでに深刻な問題ではない】



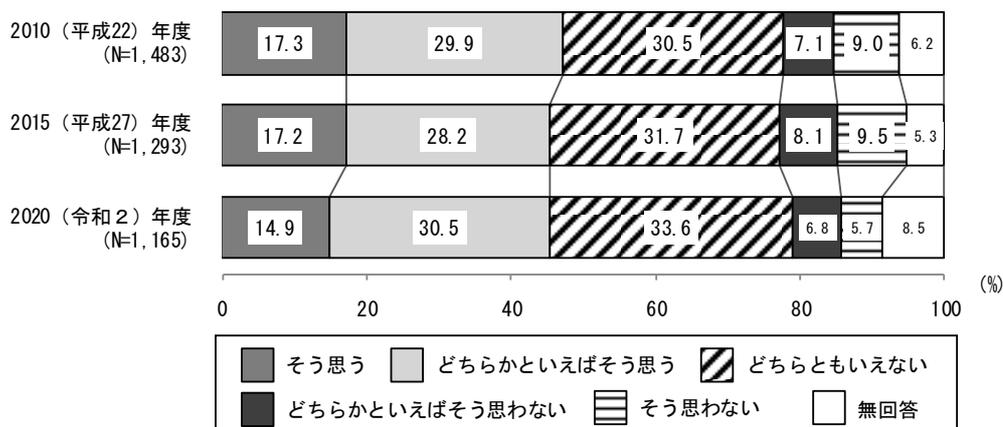
「イ. 部落差別はすでに深刻な問題ではない」を年齢別で見ると、“そう思う”の割合は、60歳代以下では年齢が上がるにつれ徐々に高くなっており、70歳以上では5割近くと大幅に高くなっている。“そう思わない”は20歳未満が4割程度と最も高く、20～60歳代では3割前後、70歳以上では約1割となっている。(図表 3-10-3)

【図表 3-10-4 年齢別 ウ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる】



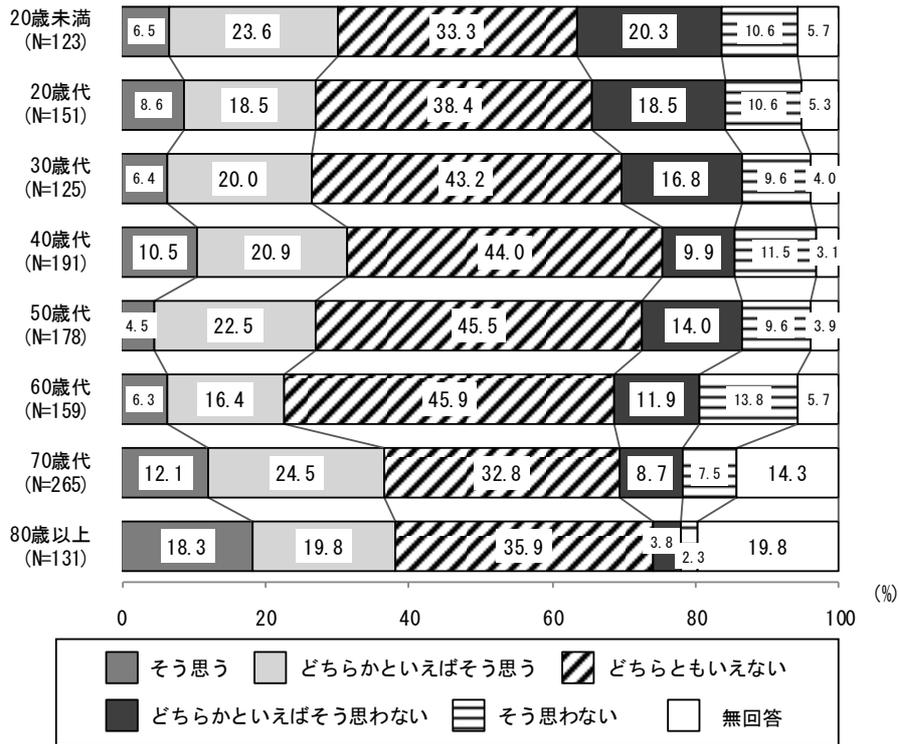
「ウ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が4～5割程度を占めている。“そう思う”が最も高い年齢は20歳未満（52.1%）で、最も低い年齢は40歳代（40.3%）となっている。“そう思わない”は30歳代で20.8%と最も高く、80歳以上で6.2%と最も低い。（図表 3-10-4）

【図表 3-10-5 経年比較 ウ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる】



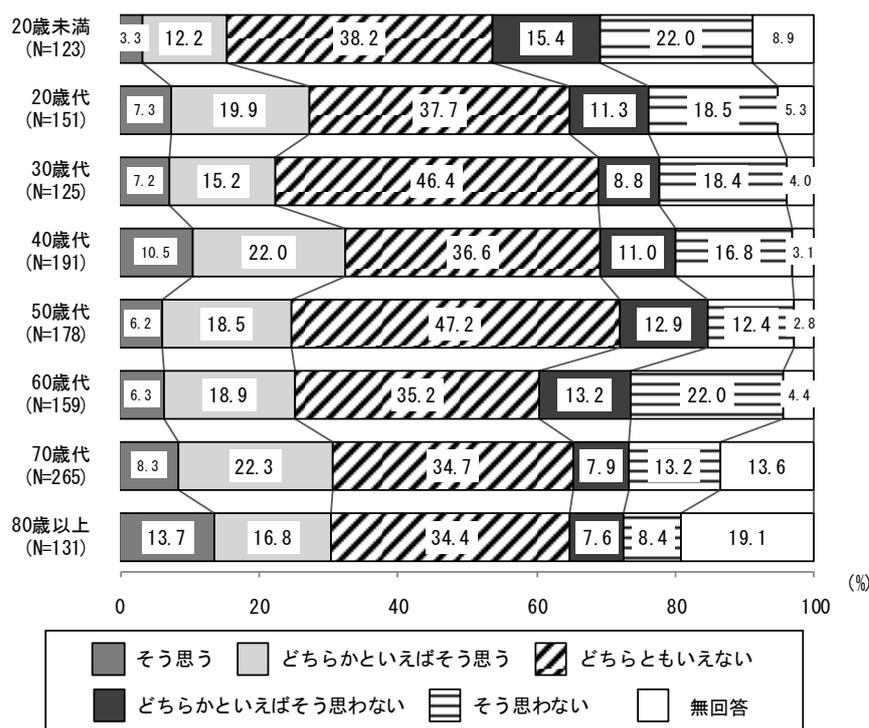
「ウ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」の経年比較をみると、「そう思う」は前回調査に比べ2.3ポイント減少しているものの、“そう思う”は前回調査と同値となっている。“そう思わない”は前回調査に比べ5.1ポイント減少している。（図表 3-10-5）

【図表 3-10-6 年齢別 エ. 同和地区の人々が、
自らの状況を良くするよう努力しなければ、差別はなくなる】



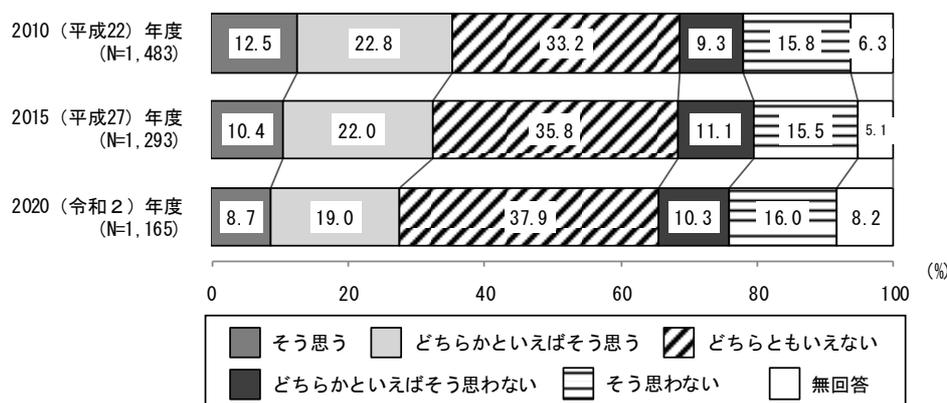
「エ. 同和地区の人々が、自らの状況を良くするよう努力しなければ、差別はなくなる」を年齢別で見ると、30歳代以下は“そう思う”と“そう思わない”が拮抗しており、40～50歳代及び70歳以上は“そう思う”が多数、60歳代は“そう思わない”が多数となっている。(図表 3-10-6)

【図表 3-10-7 年齢別 オ. 同和地区の人々が分散して住むようにすれば差別はなくなる】



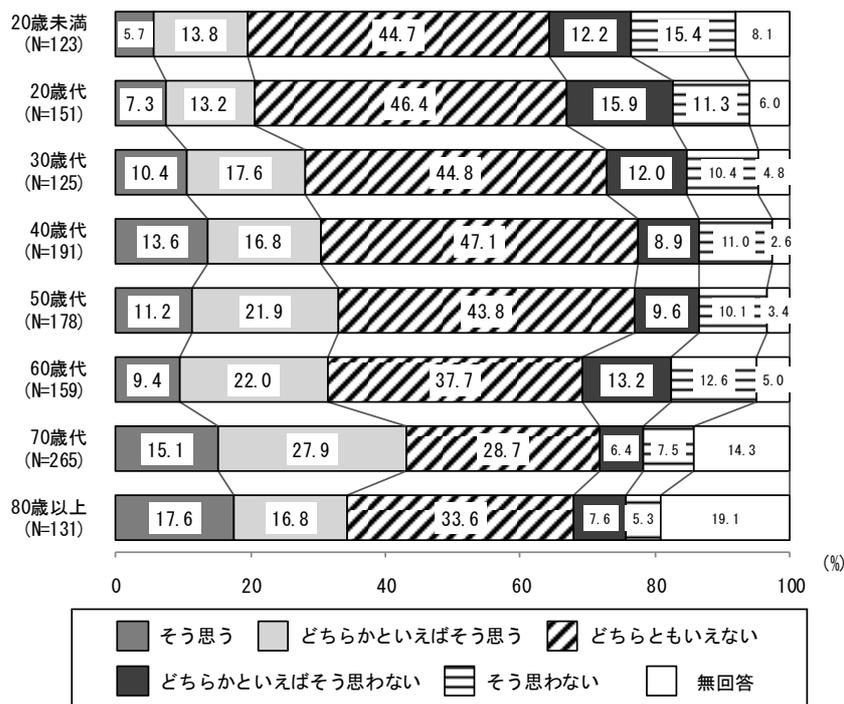
「オ. 同和地区の人々が分散して住むようにすれば差別はなくなる」を年齢別で見ると、30歳代以下及び50～60歳代は“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、特に20歳未満は“そう思わない”が37.4%と高くなっている。40歳代及び70歳以上は“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思う”は3割程度みられる。(図表 3-10-7)

【図表 3-10-8 経年比較 オ. 同和地区の人々が分散して住むようにすれば差別はなくなる】



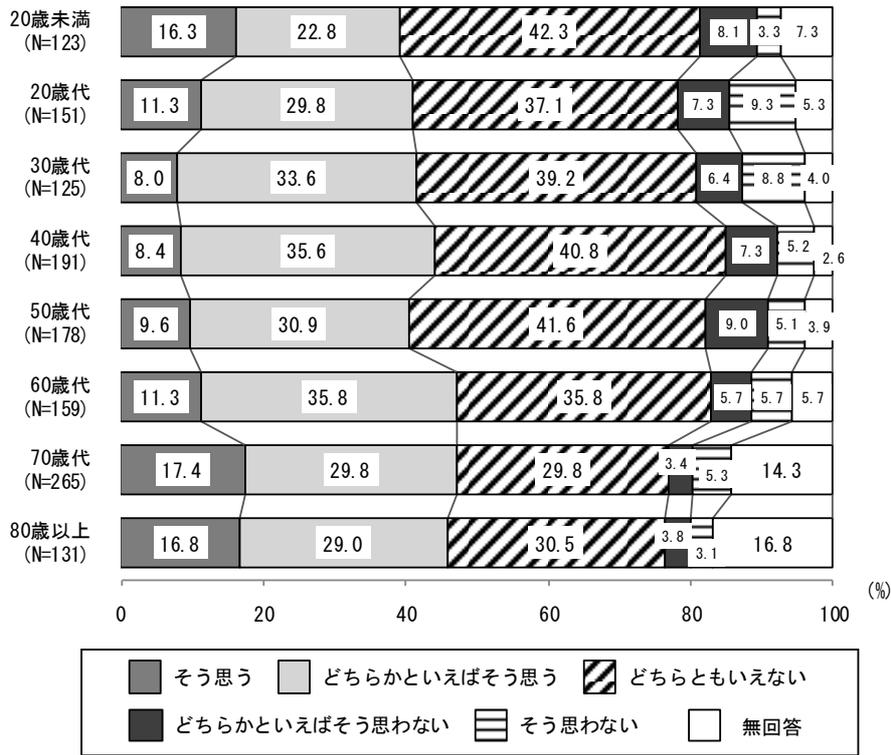
「オ. 同和地区の人々が分散して住むようにすれば差別はなくなる」の経年比較をみると、“そう思う”は減少傾向にあり、前回調査に比べ4.7ポイント減少している。“そう思わない”は前回調査とほぼ同様となっている。(図表 3-10-8)

【図表 3-10-9 年齢別 カ. 同和地区の人々は、「差別がある」と声高に主張しすぎだと思う】



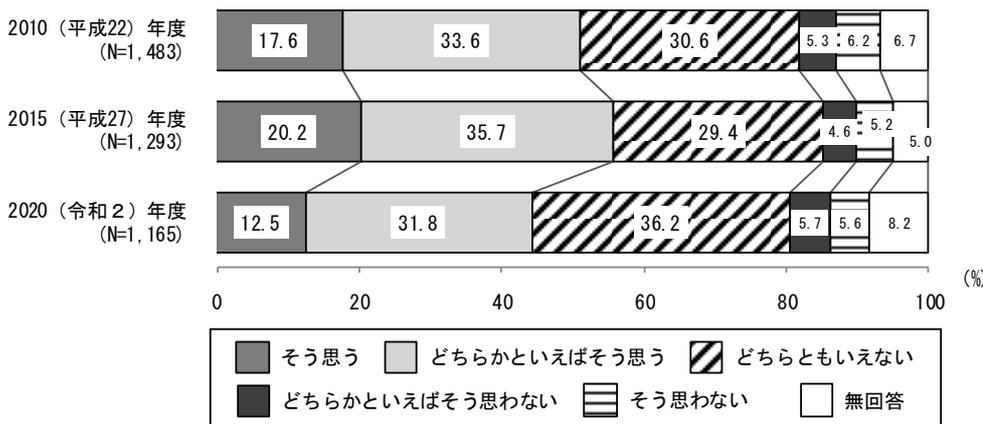
「カ. 同和地区の人々は、「差別がある」と声高に主張しすぎだと思う」を年齢別で見ると、概ね年齢が上がるにつれ、“そう思う”の割合も高くなる傾向にある。ただし、70歳代は“そう思う”が43.0%と突出して高い。30歳以上は“そう思わない”に比べ“そう思う”の方が高く、20歳代以下は“そう思う”に比べ“そう思わない”の方が高くなっている。(図表 3-10-9)

【図表 3-10-10 年齢別 キ. 同和地区と周辺の地域の人々が交流を深め、
協働して差別のない「まちづくり」を進めると差別はなくなる】



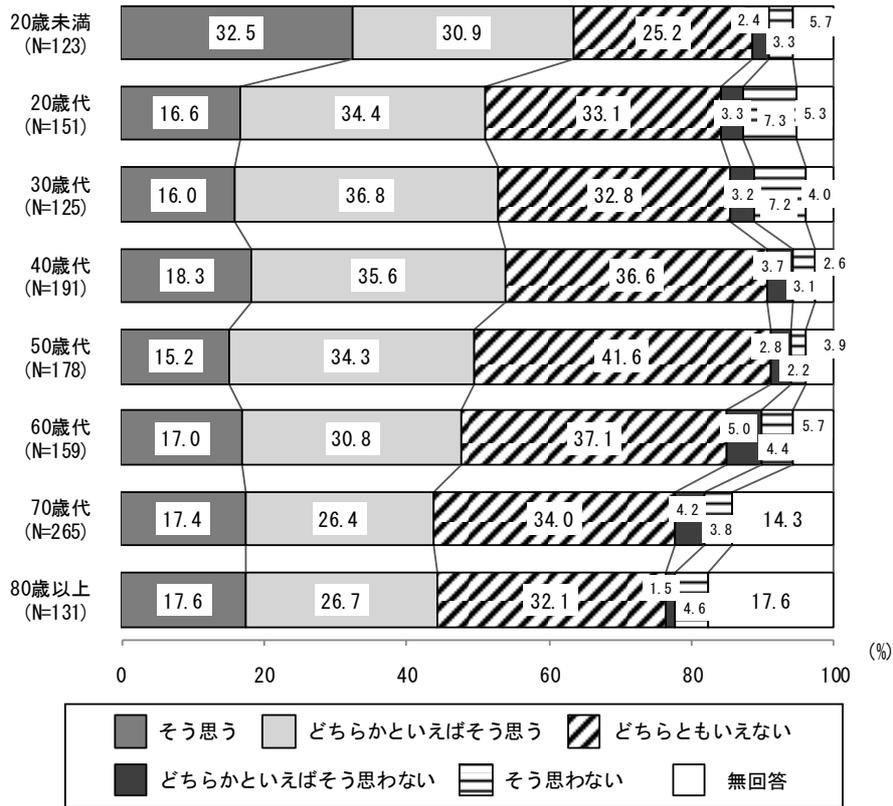
「キ. 同和地区と周辺の地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進めると差別はなくなる」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”に比べ高くなっており、その割合は概ね4割台となっている。(図表 3-10-10)

【図表 3-10-11 経年比較 キ. 同和地区と周辺の地域の人々が交流を深め、
協働して差別のない「まちづくり」を進めると差別はなくなる】



「キ. 同和地区と周辺の地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進めると差別はなくなる」の経年比較をみると、“そう思う”は前回調査に比べ 11.6 ポイント減少しており、中でも「そう思う」は前回調査から 7.7 ポイントの減少がみられる。“そう思わない”は前回調査に比べ 1.5 ポイントの微増であり、前々回調査とほぼ同様の値となっている。なお、前回及び前々回調査では、本項目文は「同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める」であり、今回調査とは異なっている点に留意が必要である。(図表 3-10-11)

【図表 3-10-12 年齢別 ク. 私たちが差別の解消に向けて、行動を起こしていくことが重要である】

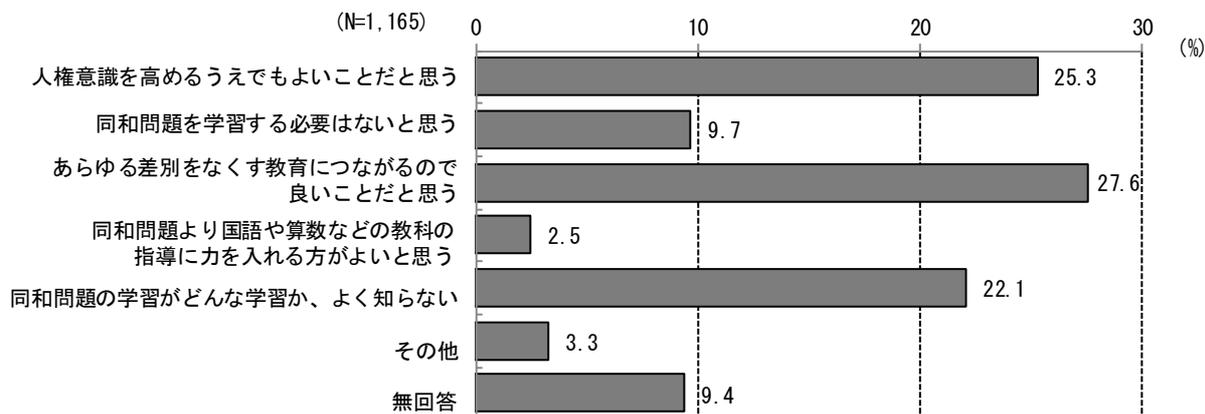


「ク. 私たちが差別の解消に向けて、行動を起こしていくことが重要である」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”に比べ大幅に高くなっている。“そう思う”は20歳未満で63.4%と最も高く、20～40歳代では5割台、50歳以上では4割台となっている。(図表 3-10-12)

(11) 学校での同和教育について

問 22 堺市では、学校で人権教育の一環として同和問題の学習が行われていますが、あなたは
どう思いますか。(あてはまる番号 1 つに○)

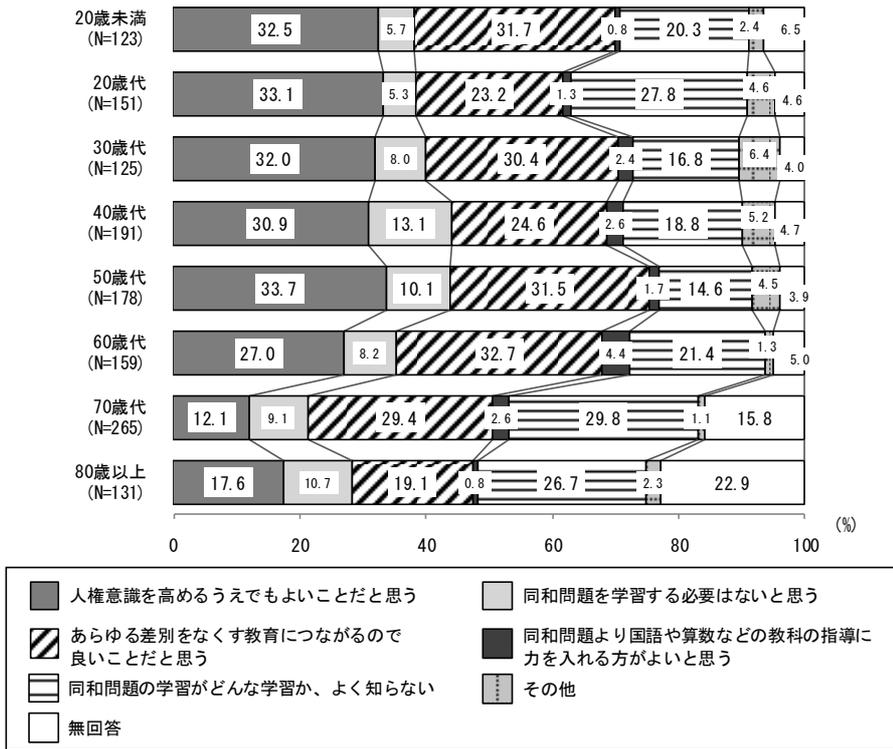
【図表 3-11 学校での同和教育について】



学校での同和教育については、「あらゆる差別をなくす教育につながるので良いことだと思う」が 27.6%と最も高く、次いで「人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」が 25.3%、「同和問題の学習がどんな学習か、よく知らない」が 22.1%となっている。

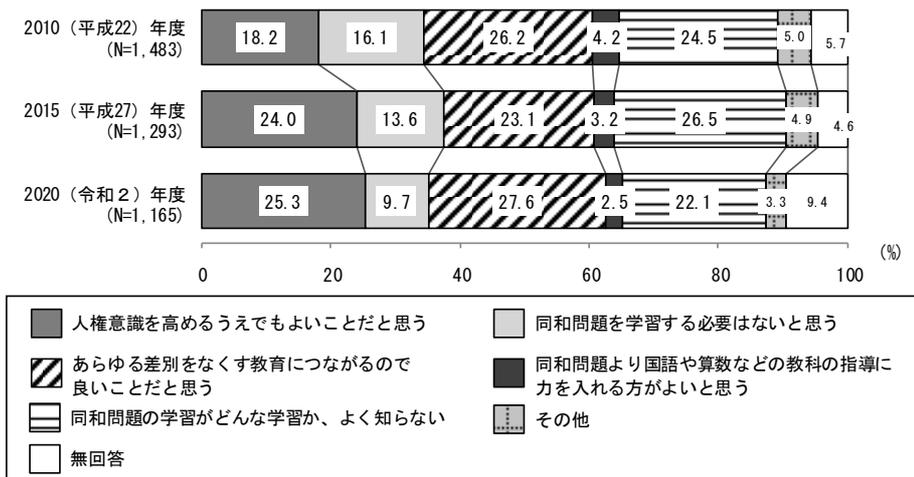
同和教育に否定的な項目（「同和問題を学習する必要はないと思う」と「同和問題より国語や算数などの教科の指導に力を入れる方がよいと思う」）は合わせて 12.2%と低い。（図表 3-11）

【図表 3-11-1 年齢別 学校での同和教育について】



学校での同和教育についてを年齢別でみると、50歳代以下は「人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」が各項目の中で最も高くなっている。60歳代は「あらゆる差別をなくす教育につながるのでよいことだと思う」が最も高く、70歳以上は「同和問題の学習がどんな学習か、よく知らない」が最も高い。(図表 3-11-1)

【図表 3-11-2 経年比較 学校での同和教育について】



学校での同和教育についての経年比較をみると、「人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」は増加傾向にあり、「同和問題を学習する必要はないと思う」は減少傾向にある。「あらゆる差別をなくす教育につながるのでよいことだと思う」は前回調査との比較では1.4ポイントの微増だが、前回調査との比較では4.5ポイントの増加となっている。(図表 3-11-2)

4 女性の人権について

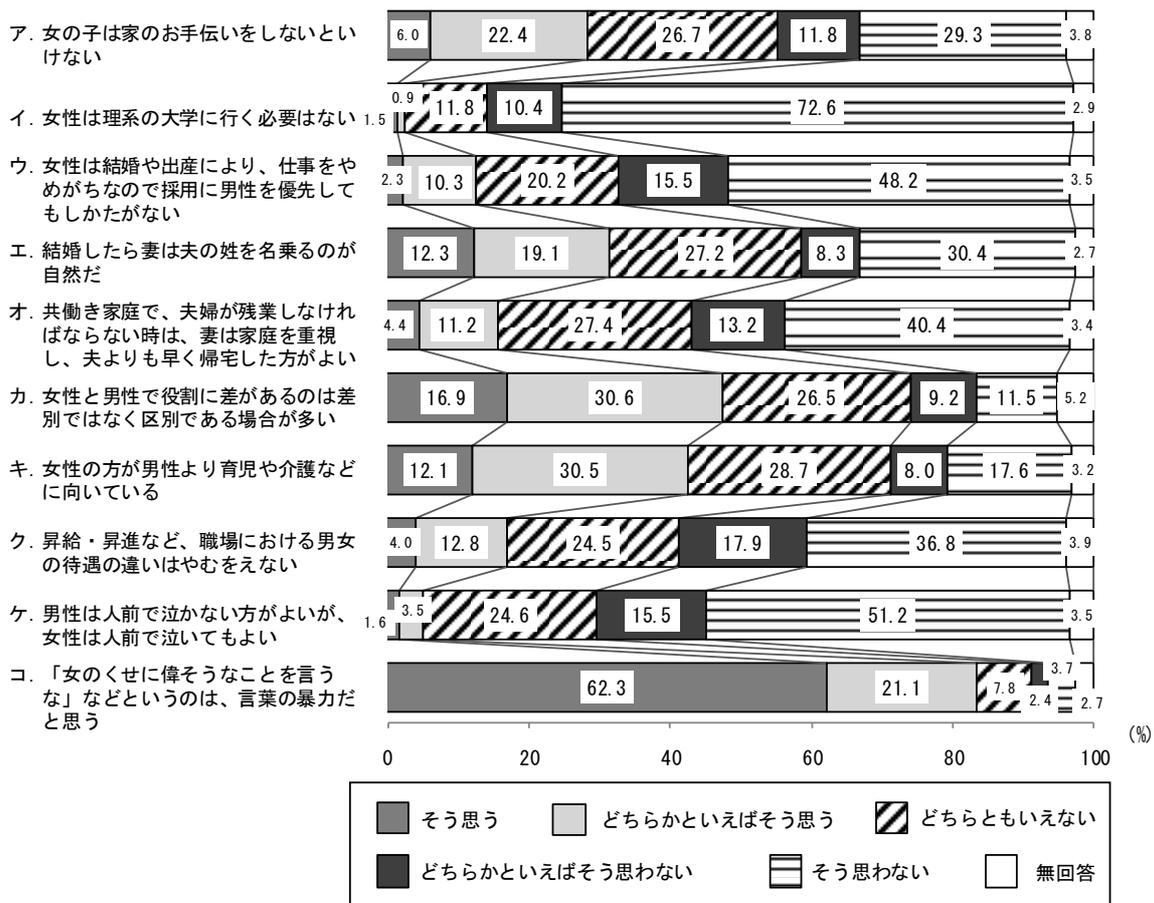
(1) 女性に対する人権問題についての考え方

問23 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 4-1 女性に対する人権問題についての考え方】

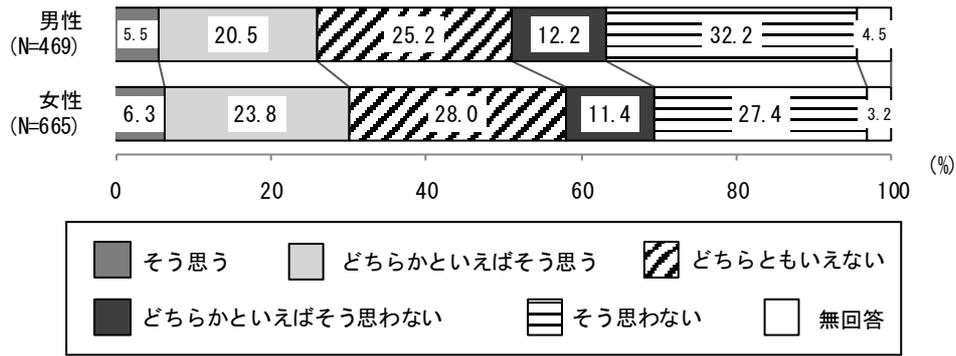
(N=1,165)



女性に対する人権問題についての考え方で、「そう思う」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思う」を合わせた数）を上回る項目は、割合が高い順に「コ. 「女のくせに偉そうなことを言うな」などというのは、言葉の暴力だと思う」（83.4%）、「カ. 女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い」（47.5%）、「キ. 女性の方が男性より育児や介護などに向いている」（42.6%）となっている。

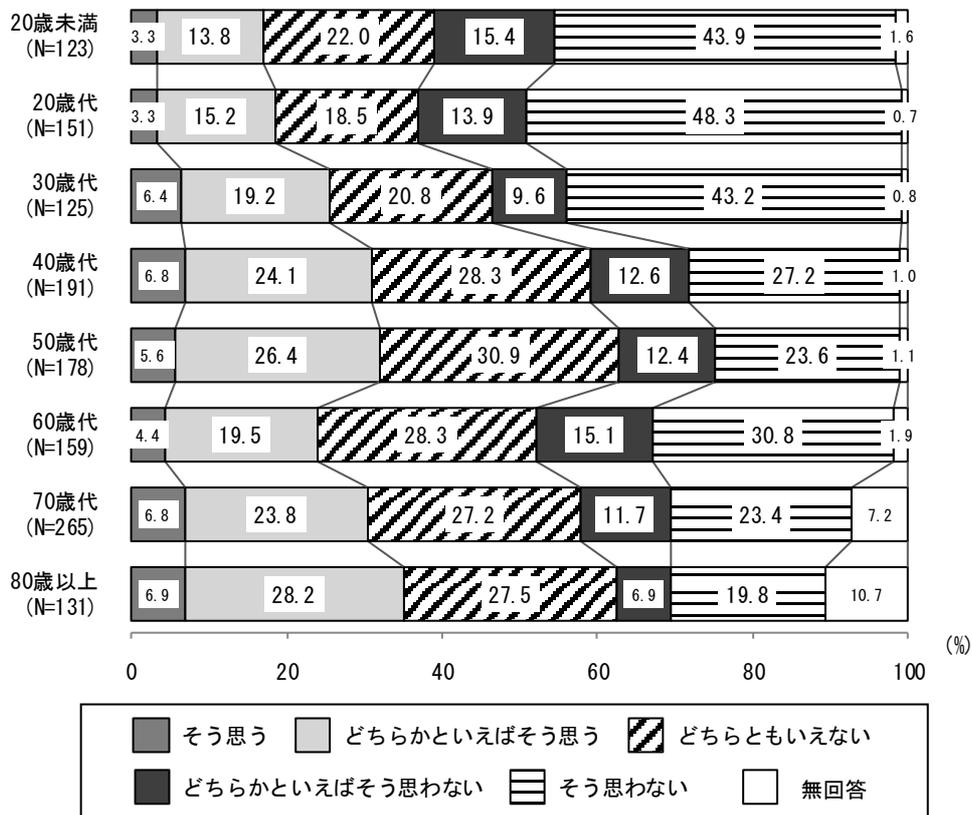
「そう思わない」が「そう思う」を上回る項目は、割合が高い順に「イ. 女性は理系の大学に行く必要はない」（83.0%）、「ケ. 男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい」（66.7%）、「ウ. 女性は結婚や出産により、仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない」（63.7%）、「ク. 昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむをえない」（54.7%）、「オ. 共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい」（53.6%）となっている。（図表 4-1）

【図表 4-1-1 性別 ア. 女の子は家のお手伝いをしないといけない】



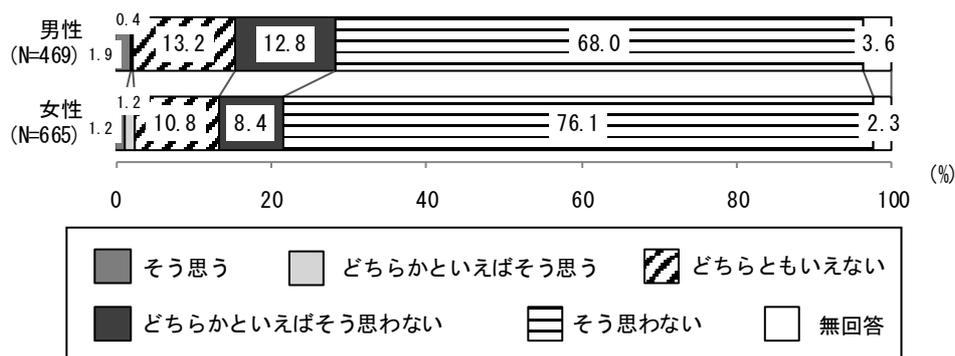
「ア. 女の子は家のお手伝いをしないといけない」を性別で見ると、“そう思う”は女性が男性に比べ4.1ポイント高く、“そう思わない”は男性が女性に比べ5.6ポイント高くなっている。(図表 4-1-1)

【図表 4-1-2 年齢別 ア. 女の子は家のお手伝いをしないといけない】



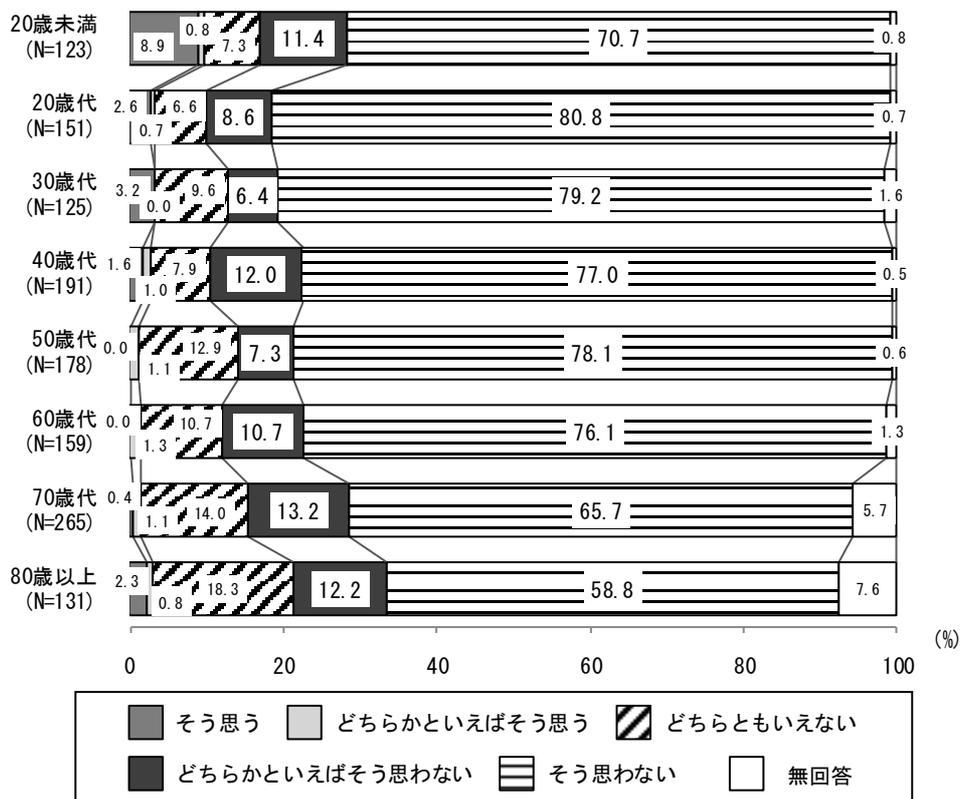
「ア. 女の子は家のお手伝いをしないといけない」を年齢別で見ると、80歳以上を除く年齢で“そう思う”に比べ“そう思わない”が高くなっており、30歳代以下では“そう思わない”が過半数を占めている。“そう思う”は40～50歳代及び70歳以上で3割台となっている。(図表 4-1-2)

【図表 4-1-3 性別 イ. 女性は理系の大学に行く必要はない】



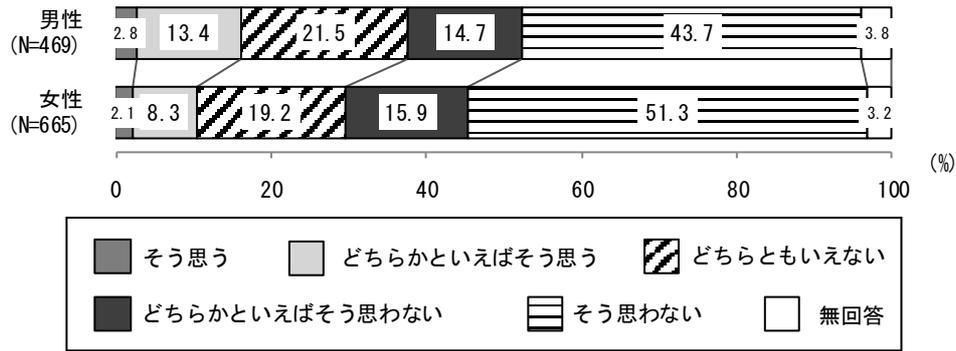
「イ. 女性は理系の大学に行く必要はない」を性別で見ると、“そう思う”は男性と女性でほぼ同様だが、“そう思わない”は女性が男性に比べ3.7ポイント高くなっている。(図表 4-1-3)

【図表 4-1-4 年齢別 イ. 女性は理系の大学に行く必要はない】



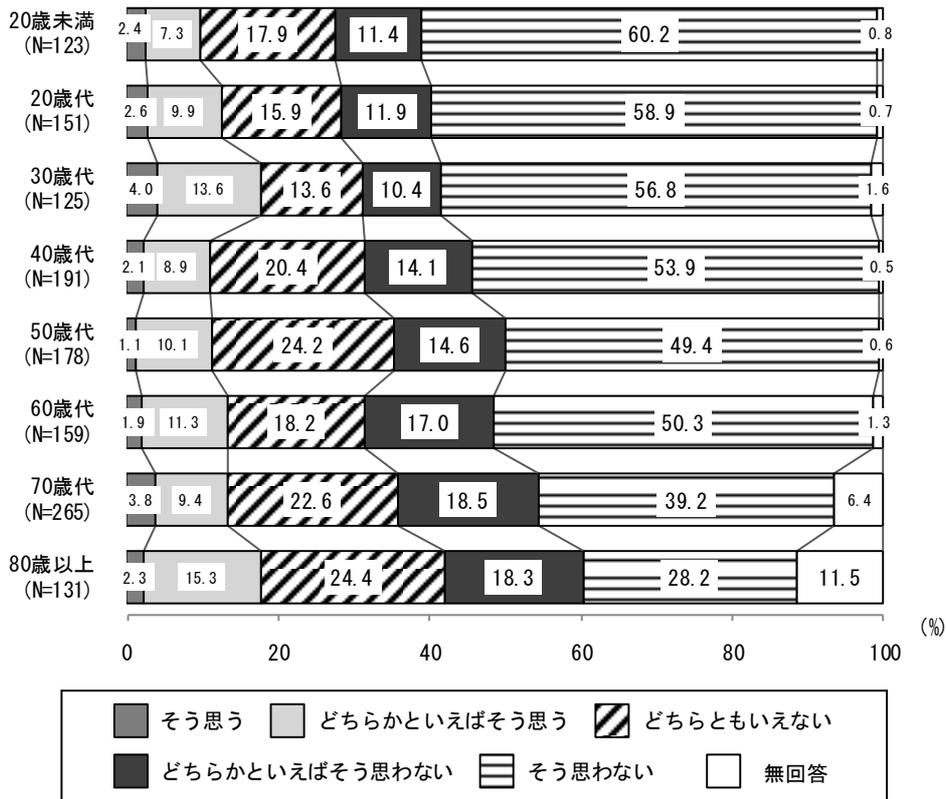
「イ. 女性は理系の大学に行く必要はない」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思わない”が7～8割程度と高くなっている。中でも、20歳代及び40歳代は“そう思わない”が9割近くを占めている。“そう思う”はいずれの年齢も1割未満と低いが、20歳未満は“そう思う”が9.7%と他の年齢に比べ6～8ポイント程度高くなっている。(図表 4-1-4)

【図表 4-1-5 性別 ウ. 女性は結婚や出産により、
仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない】



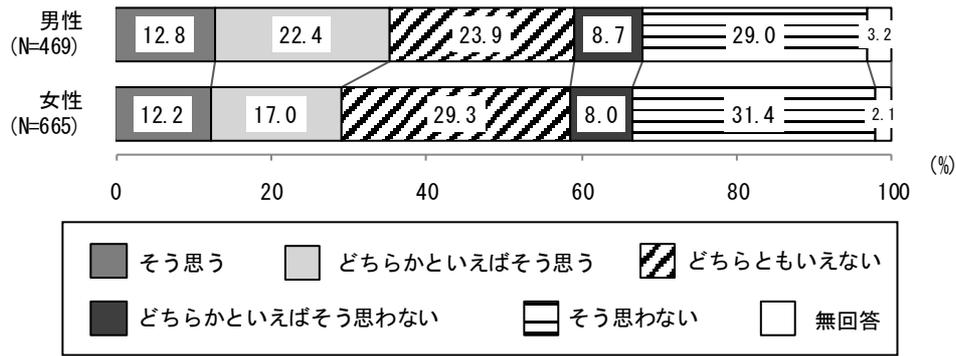
「ウ. 女性は結婚や出産により、仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない」を性別で見ると、「そう思う」は男性が女性に比べ5.8ポイント高く、「そう思わない」は女性が男性に比べ8.8ポイント高くなっている。特に女性は「そう思わない」が51.3%と過半数を占めている。(図表 4-1-5)

【図表 4-1-6 年齢別 ウ. 女性は結婚や出産により、
仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない】



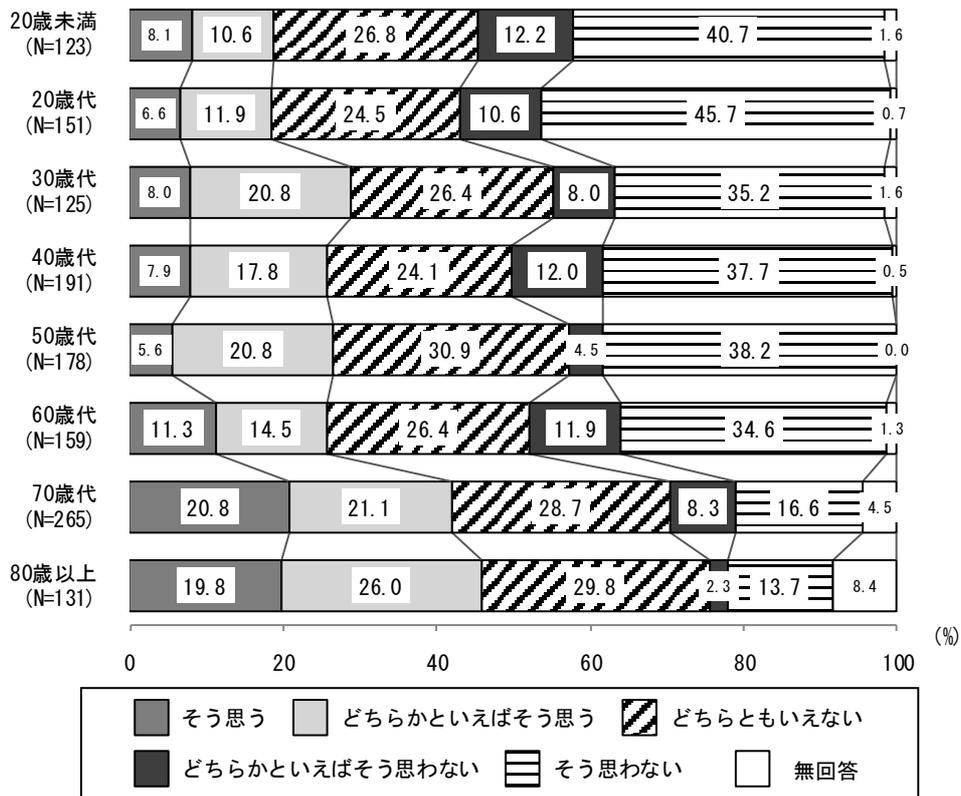
「ウ. 女性は結婚や出産により、仕事をやめがちなので採用に男性を優先してもしかたがない」を年齢別で見ると、「そう思わない」は20歳未満が最も高く、年齢が上がるにつれ概ね低くなっている。「そう思う」は年齢による大きな変化はあまりみられないが、30歳代及び80歳以上で17.6%と最も高くなっている。(図表 4-1-6)

【図表 4-1-7 性別 エ. 結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ】



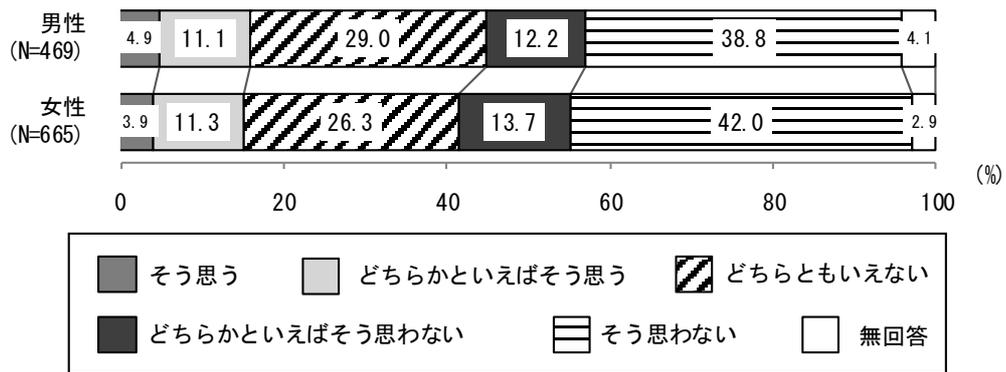
「エ. 結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ」を性別で見ると、“そう思わない”は性別で大きな変化はみられないが、“そう思う”は男性が女性に比べ6.0ポイント高くなっている。(図表 4-1-7)

【図表 4-1-8 年齢別 エ. 結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ】



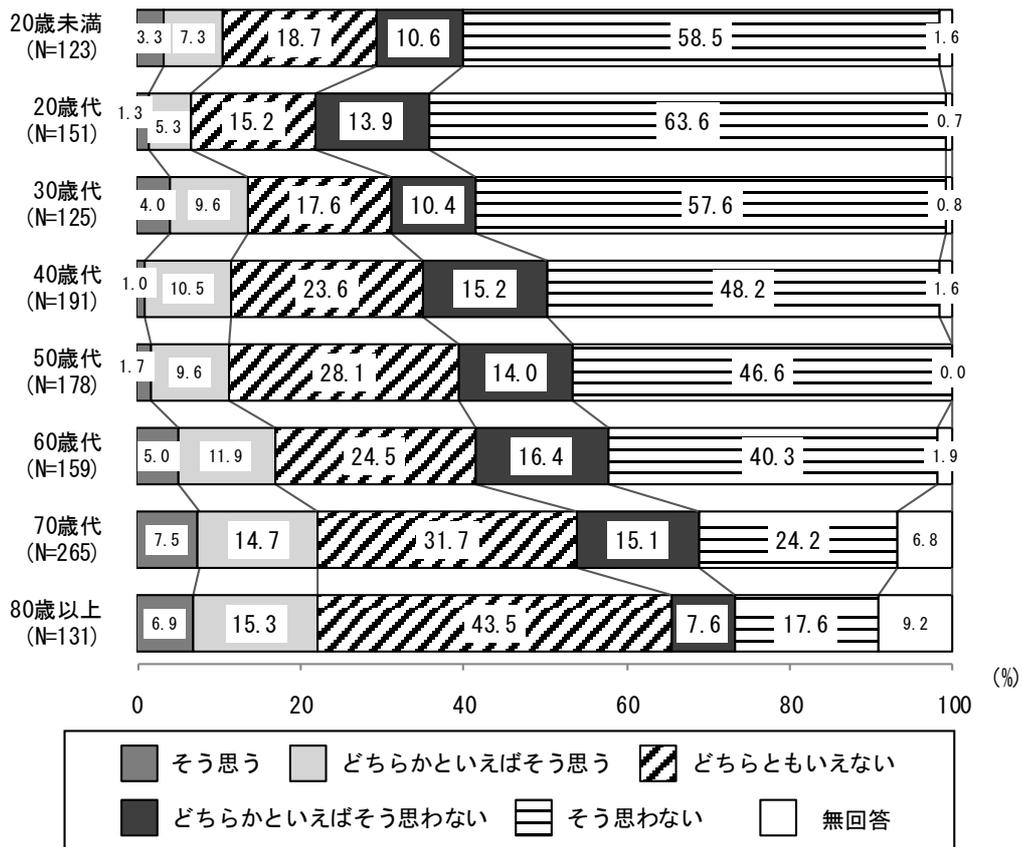
「エ. 結婚したら妻は夫の姓を名乗るのが自然だ」を年齢別で見ると、20歳代以下は“そう思わない”が過半数を超えており、“そう思う”は2割未満と他の年齢に比べ低い。一方で、70歳以上は“そう思う”が4割台となっており、“そう思わない”は2割前後と低くなっている。(図表 4-1-8)

【図表 4-1-9 性別 オ.共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい】



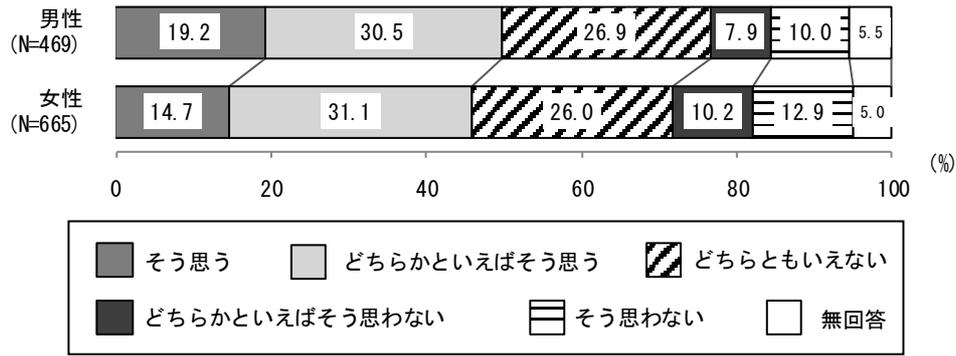
「オ.共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい」を性別で見ると、“そう思わない”は男性に比べ女性の方が4.7ポイント高い。(図表 4-1-9)

【図表 4-1-10 年齢別 オ.共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい】



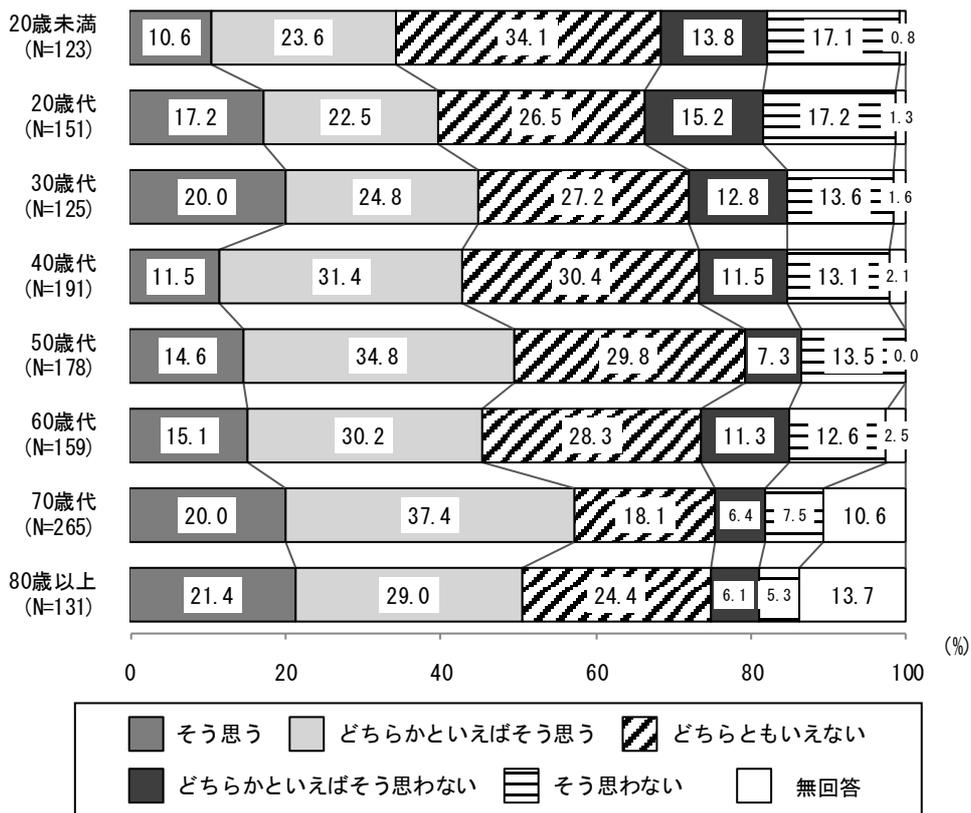
「オ.共働き家庭で、夫婦が残業しなければならない時は、妻は家庭を重視し、夫よりも早く帰宅した方がよい」を年齢別で見ると、60歳代以下は“そう思わない”が過半数を占めており、特に20歳代は77.5%と他の年齢に比べ高い。70歳以上も“そう思わない”は“そう思う”に比べ高いが、その割合は70歳代で39.3%、80歳以上で25.2%と低くなっている。(図表 4-1-10)

【図表 4-1-11 性別 カ. 女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い】



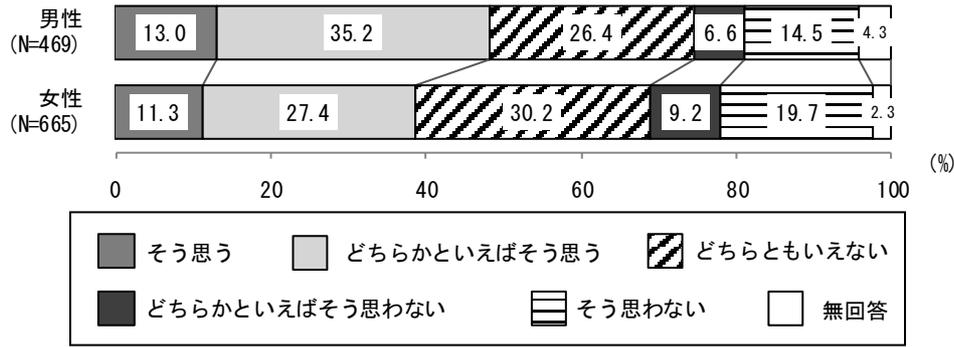
「カ. 女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い」を性別でみると、“そう思う”は男性が女性に比べ3.9ポイント高く、“そう思わない”は女性が男性に比べ5.2ポイント高くなっている。(図表 4-1-11)

【図表 4-1-12 年齢別 カ. 女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い】



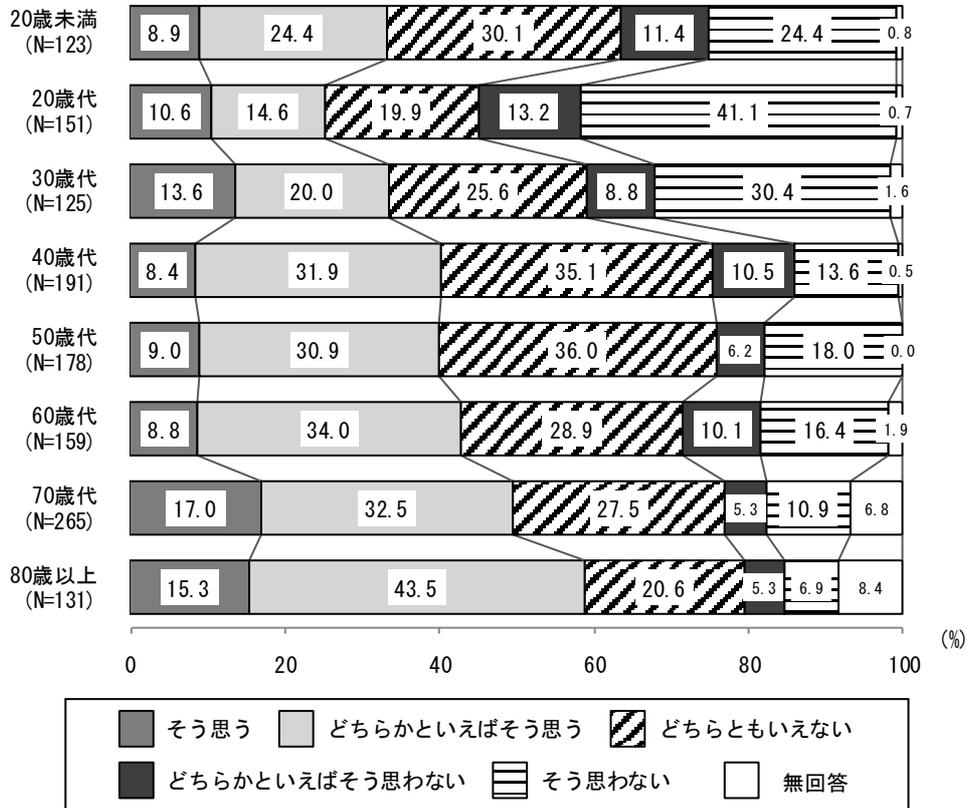
「カ. 女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”に比べ高く、“そう思う”が最も高い年齢は70歳代(57.4%)となっている。概ね年齢が上がるにつれ“そう思わない”の割合は低下しており、20歳代以下は“そう思わない”が約3割、70歳以上は“そう思わない”が約1割となっている。(図表 4-1-12)

【図表 4-1-13 性別 キ. 女性の方が男性より育児や介護などに向いている】



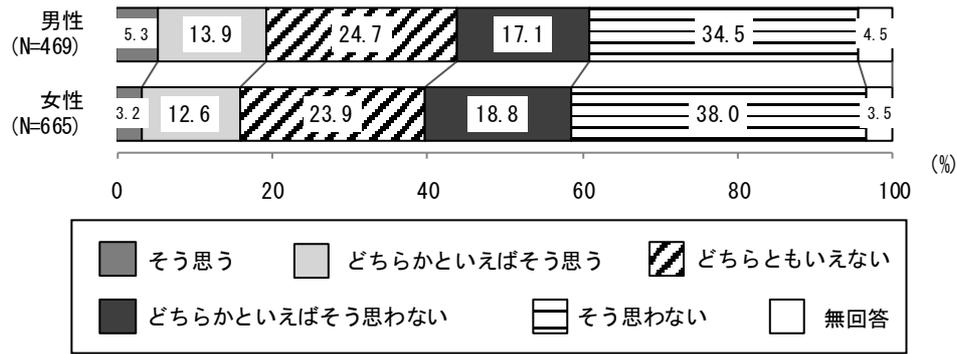
「キ. 女性の方が男性より育児や介護などに向いている」を性別で見ると、“そう思う”は男性が女性に比べ9.5ポイント高く、“そう思わない”は女性が男性に比べ7.8ポイント高い。(図表 4-1-13)

【図表 4-1-14 年齢別 キ. 女性の方が男性より育児や介護などに向いている】



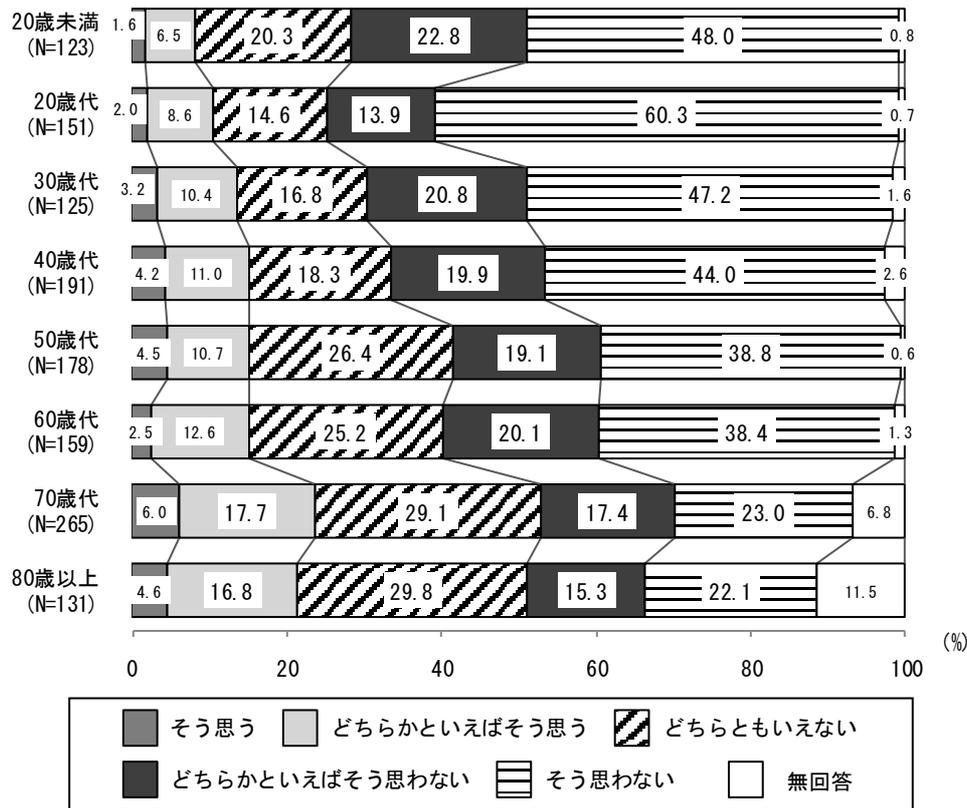
「キ. 女性の方が男性より育児や介護などに向いている」を年齢別で見ると、“そう思う”が最も低い年齢は20歳代(25.2%)、最も高い年齢は80歳以上(58.8%)となっている。20歳以上では、年齢が上がるにつれ“そう思う”は概ね高くなっている。(図表 4-1-14)

【図表 4-1-15 性別 ク.昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむをえない】



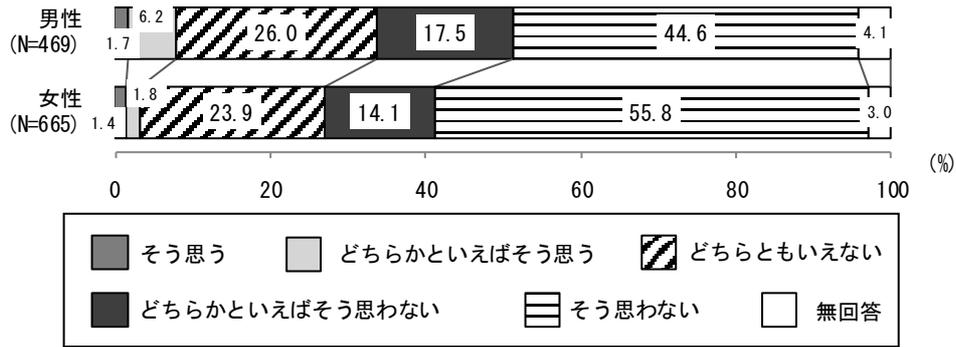
「ク.昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむをえない」を性別でみると、“そう思う”は男性が女性に比べ3.4ポイントとやや高く、“そう思わない”は女性が男性に比べ5.2ポイント高くなっている。(図表 4-1-15)

【図表 4-1-16 年齢別 ク.昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむをえない】



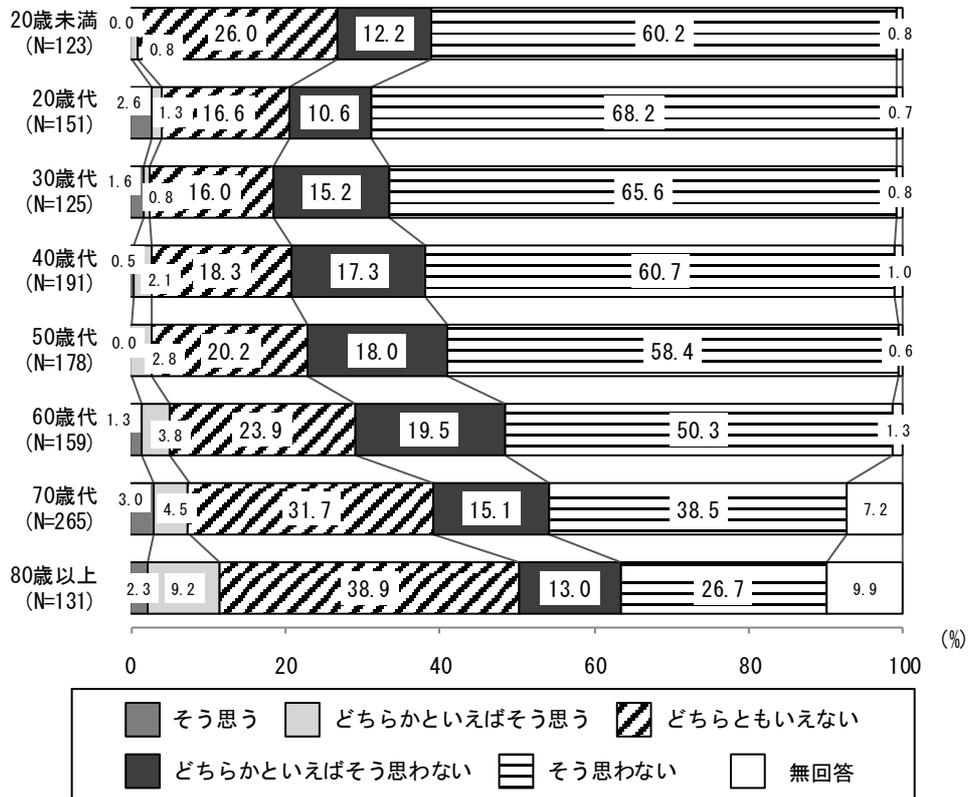
「ク.昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむをえない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。特に、30歳代以下は“そう思わない”が7割前後と高い。70歳以上は“そう思う”が約2割と比較的高く、“そう思わない”は4割前後となっている。(図表 4-1-16)

【図表 4-1-17 性別 ケ. 男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい】



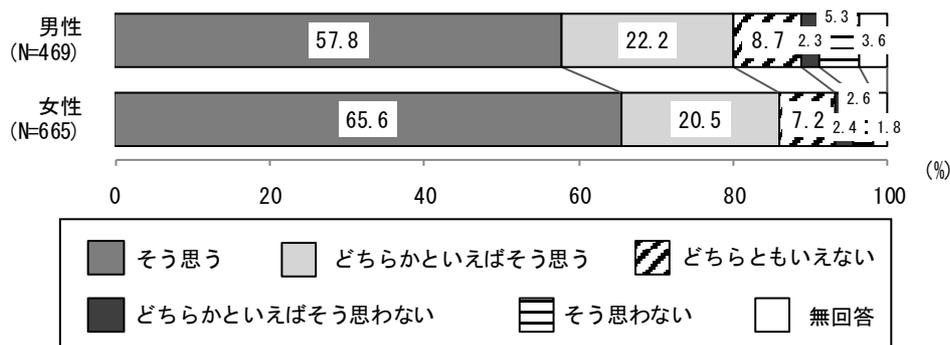
「ケ. 男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい」を性別でみると、「そう思う」は男性が女性に比べ4.7ポイント高く、「そう思わない」は女性が男性に比べ7.8ポイント高くなっている。特に、女性は「そう思わない」が55.8%と過半数を占めている。(図表 4-1-17)

【図表 4-1-18 年齢別 ケ. 男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい】



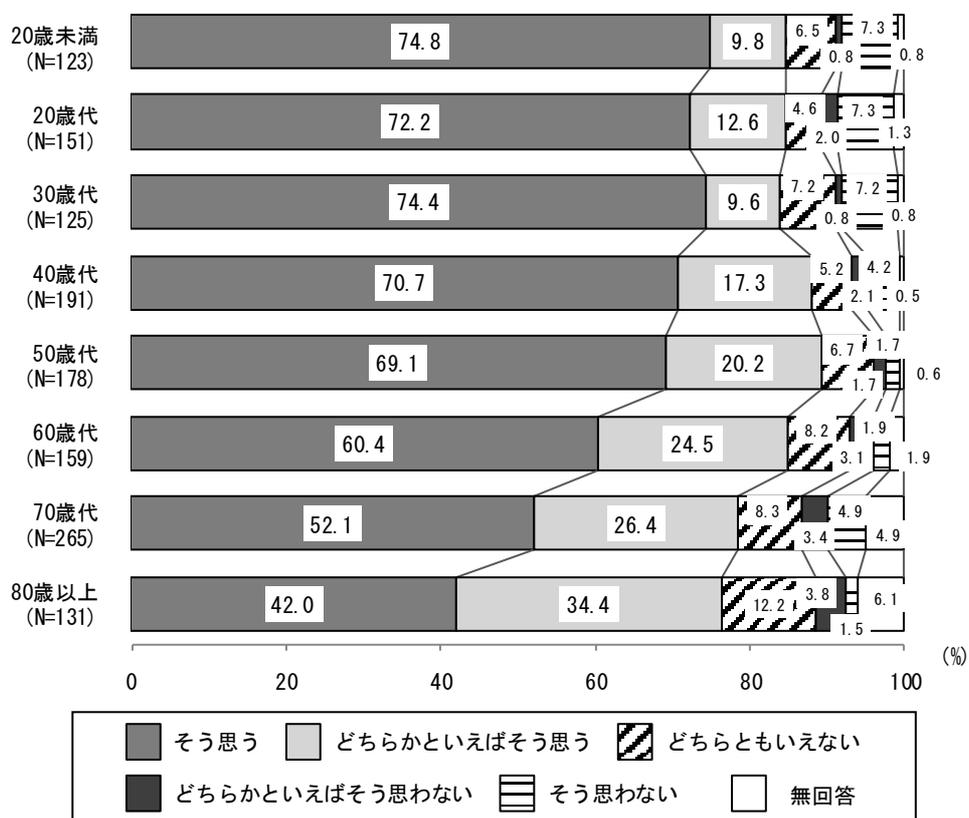
「ケ. 男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい」を年齢別でみると、「そう思わない」は30歳代を頂点として年齢が上がるまたは下がるにつれ低くなっている。「そう思わない」は20歳代(68.2%)で最も高い。「そう思う」はいずれの年齢も概ね1割以下となっている。(図表 4-1-18)

【図表 4-1-19 性別 コ.「女のくせに偉そうなことを言うな」などというのは、言葉の暴力だと思う】



「コ.「女のくせに偉そうなことを言うな」などというのは、言葉の暴力だと思う」を性別で見ると、男女ともに「そう思う」が過半数を占めている。「そう思う」は女性が男性に比べ6.1ポイント高い。「そう思わない」は男性が女性に比べ2.6ポイント高くなっている。(図表 4-1-19)

【図表 4-1-20 年齢別 コ.「女のくせに偉そうなことを言うな」などというのは、言葉の暴力だと思う】

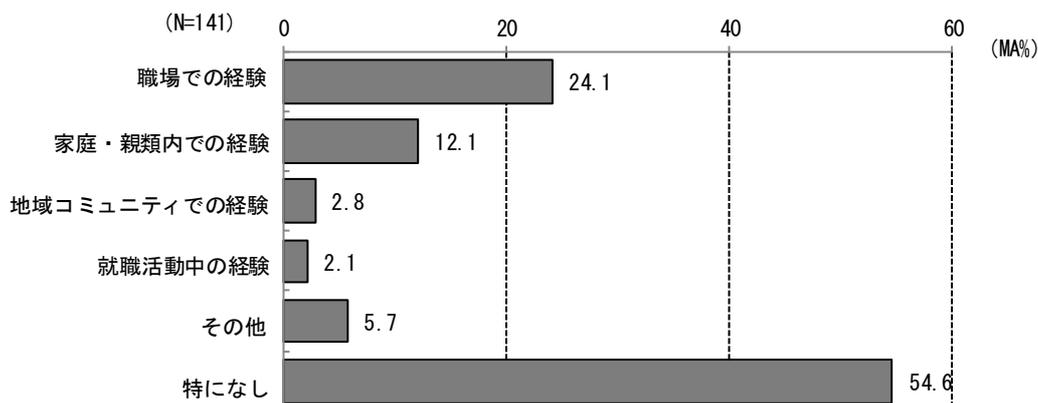


「コ.「女のくせに偉そうなことを言うな」などというのは、言葉の暴力だと思う」を年齢別で見ると、いずれの年齢も「そう思う」が「そう思わない」を大幅に上回っている。「そう思う」はいずれの年齢も7～8割程度だが、「そう思う」は概ね年齢が上がるにつれ低くなる傾向がみられ、80歳以上では42.0%となっている。「そう思わない」はいずれの年齢も1割未満に留まっている。(図表 4-1-20)

(2) 性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験

問 24 あなたは、過去5年ほどの間に、性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験がありますか。もしそのような経験があれば、どのような内容であったか、覚えている範囲で記入してください。

【図表 4-2 性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験】



【図表 4-2-1 回答件数 性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験】

上段：回答者数 (人) 下段：構成比率 (%)	回 答 者 数	2	2	3	4	5	6	7	8	無 回 答
		0 歳 未 満	0 歳 代							
全 体	64 100.0	1 1.6	9 14.1	16 25.0	14 21.9	12 18.8	5 7.8	3 4.7	3 4.7	1 1.6
男性	12 100.0	1 8.3	-	-	3 25.0	3 25.0	1 8.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3
女性	51 100.0	-	9 17.6	16 31.4	11 21.6	8 15.7	4 7.8	2 3.9	1 2.0	-
その他	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-

※「特になし」等の記載があった回答は除外して集計

【性・年齢別 主な内容】

【職場での経験】

- (20歳代 女性) 私は短大卒でホテルへ就職し、手取り給料15万です。5年目です。1年目新卒で4大卒の後輩は手取り17万くらいです。おかしいですね？世の中はスキル重視ではありません。私の家は母子家庭で4大へ行くお金の余裕はありませんでした（私は奨学金を借り、入学金はお母さんが教育ローンを組んでくれ、ようやく行けたくらいです）。私の将来の夢は関西外大へ入学し、英語の先生になることでした。あきらめました・・・。4大は“人生の夏休み”と言われるほど、みんなあそび倒してます。その中、2年で大学卒業してがんばってハタチから働いているのに給料は1年目より低い・・・。差別です！！お金がない人には稼ぐチャンス（努力）もみとめてくれないんですね・・・。
- (20歳代 女性) 旦那の職場が定時でおられない。残業代もつかない。17:15定時だが20:00すぎることもある（女性がかえるらしい）
- (20歳代 女性) 体力や力が必要な職場で男性の中で働いていました。どれほど仕事に慣れても体力には差があるので、負担の少ない役割をもらっていました。また、女性としか対応しないという客もいました。必要な区別もあると感じています。
- (20歳代 女性) お茶を出す、電話対応をする、会社の掃除をする、同じ職場でも女性・男性の役割が自然に決まっていること。
- (20歳代 女性) 会社でお客さんにお茶出しをするのに、わざわざ女性が呼ばれ、お茶出しをさせられる。
- (30歳代 女性) 職場でのイベントの準備や接客は女性がするように言われたこと。
- (30歳代 女性) 出産・育児で退職したこと。その後、仕事を再開するのが難しい事。
- (30歳代 女性) ・職場で電話対応は女性の方が良いと言われた。
- (30歳代 女性) 職場で女性の産休育休制度へのマイナスイメージ。
- (30歳代 女性) ・ある ・時間外や休日勤務が発生するような業務への配属（男性優先）
- (30歳代 女性) 職場での給与、待遇
- (30歳代 女性) 「お茶出しは女性がするもの」という風習がある会社にいた時、違和感を覚えました。
- (40歳代 女性) 育児の為に「時短制度」を使用していた時、上司から「時短中の昇進はない」と言われた。
- (40歳代 女性) 同じ職種、内容であるが、男性ということで男性手当が支給されている。
- (40歳代 女性) 昼休みのご飯の準備を（片付けも）働いている女性だけが当番にあてられていた。炊事的なことを女性がすべきという考えのようだった。男性9割の職場で45才以上の人ばかりの所は男女の差別や偏見は昭和のまま。
- (40歳代 女性) 出産を期に会社から退職するように言われた。
- (40歳代 女性) 職場で同期は昇級、昇進がはやすい。お茶やそうじは女性がいれたほうがよい。
- (40歳代 女性) 会社内で「事務系職種」が廃止になったにもかかわらず、都合がいい時だけ「事務担当者」呼ばわりされ、成果は総合職と同じことを要求される。1円も待遇が上がったわけでもないのに。元々の総合職からは総合職として認定されず、人数換算にも入れてもらえない。ならば「事務系職種」を廃止しなければいいと思う。
- (40歳代 男性) 職務中来庁された方が、「男性（私）ではなく女性の方に相談したい」とおっしゃった。
- (40歳代 女性) 私が働いてきた職場は殆ど男性社会で男性優位だったと感じます。トラブルが起こった時男性側のいいようにもっていくことが多いと思います。
- (40歳代 女性) 女性なので、管理職につけない。ただ実際に出産・育児のために仕事を辞めたので、女性だけしかできない役割を考慮されるのは仕方ないと思う。
- (40歳代 男性) 上司が「女性は、結婚、出産などしたら、どうせ仕事は辞める」と言ったことにに対し、苛立った。
- (50歳代 女性) ・妊娠したから昇格できないと言われた（周囲に迷惑がかかるためらしい）、・女性は電話を取るべき（職場）、・女性は家事育児をメインでするべき。
- (50歳代 女性) 職場でのトイレ掃除、水回りの掃除は自然と女子のみ。
- (50歳代 女性) 産休により退職をせまられた。
- (50歳代 女性) 今だにお茶くみを頼まれます（来客時）。その他の雑用・庶務が当り前のように私にまわって来ます。
- (50歳代 女性) 福祉業に従事しているが、現場ではないにもかかわらず、上司の好み（男性優先？）なのか後から入った職員が「あの人は男性だから」と上司が大切にしている。
- (50歳代 女性) ホームヘルパーの仕事をしている時、女性ヘルパー要望があり、差があると思った。案の定、男性ヘルパーには暴力はしないが、女性ヘルパー（私）に暴力行為があり退職した経験あり。障害者だからヘルパーに暴力をふるっても許される事がくやしい。
- (50歳代 男性) 男性であるがゆえに力仕事などは任されることが多い。
- (50歳代 男性) 力仕事を任された。
- (50歳代 女性) 上司に意見が言えない、言っても却下されました。
- (60歳代 女性) 定年退職した後、再雇用してもらえなかった。男性は再雇用で働いている。
- (60歳代 男性) 責任の重いことを男だからとふられる。
- (年齢不詳 男性) 現状日本社会ではまだまだ女性が働きにくい環境が多く残っている！！特に考えが古い、50～70代の社員が多く残っている会社にはそういう風潮がある！！。

【家庭・親類内での経験】

- (20歳代 女性) 出産してから私が育児をしていると”普通”や”当たり前”だが男性が家で育児をしていると”すごい””いい人ね”と言われ嫌な気持ちになった。
- (20歳代 女性) 「女の子は偉いね、お手伝いをして」と言われた時。家などでも男性である父が家事を行わない、手伝おうともしない。家事・育児をするのが当たり前な女性に対して、少しでも家事をする男性が「育メン」などと取り上げられることに不満を感じる。
- (20歳代 女性) 私の母親の両親は田舎であるため、女性は家事をし、男性におしゃくをつぎ、お風呂も一番最後というのが当たり前です。そんな中で母は育ててきているため、女性は何事も我慢し男性をたてなければならないと言います。私は兄と弟がいるため、何をするにしても兄弟の中では優先順位が低いです。
- (20歳代 女性) 子どもが3歳（保育園などに入れる年齢）になるまでは一緒に過ごしてあげるべきと言われてた。働かなければ金銭的に以前より苦しくなることはわかっている反面、働かず子供を育てる難しさも感じる。
- (30歳代 女性) 育児は母親がすべきと世間の目がある気がする。父親もいるのになぜ母親ばかりが、病院につれていったりしなければならぬのか、父親が夜出かけたり、遅く帰るのはよくて母親がだめなのかがわからない。
- (30歳代 女性) 嫁ぎ先で旦那がミスを犯すと”嫁がちゃんとしてないから”となぜか嫁のせいになる。
- (30歳代 女性) 田舎での法事等での立ち振る舞い。
- (30歳代 女性) 家事はほとんど女。
- (30歳代 女性) 夫の姓を選ばされたこと
- (40歳代 女性) 元夫から仕事と家事ができて当たり前と言われ、こなしていたが体をこわした。家事をあまり手伝ってもらった記憶はない。その後、元夫の年収を超えたので離婚した。
- (40歳代 女性) 義母によく「男は・・・」と言われる 家庭内の事を分担するにあたり
- (40歳代 女性) 自分が夫より子供や家族の為に時間を割くことがあたりまえという考えの中で育ったので、今であれば均等に振り分けられる役割も自分がするものだと今でも思っているのでよく分かりません。
- (50歳代 女性) 性別によるものかわからないが、妻、母親という立場を、さげすまれ、虐げられてハラスメントを受けた経験がある。待遇の差については、生活費を極端な少額しかもらえなかった。「お前はどうぞでもいい」という扱いであった。外に出してもらえなかった。夜は寝させてもらえなかった。友人、知人と話したり会う事を許されなかった。子どもの前でいつも「お前が悪い、悪い女だ」と叱られた。
- (70歳代 女性) 家庭内ではある。
- (70歳代 女性) ・家族間、親類同士の付き合いにおいて男女の差別は残っている。介護、法事等で経験あり。
- (70歳代 男性) 昭和生まれの男の人は家事は女性がするものと思っている。
- (80歳以上 女性) 1日中一緒に働いていたけれど休みの日は男の人は遊びに行っていた。女は家の事で大変でした。

【地域コミュニティでの経験】

- (30歳代 女性) 幼稚園の門のおじさんに毎朝バカにされる。嫌味を言われ、怒られる。旦那に行ってもらおうと、何も言わない。人を選んで言ってるんだと思うと悔しくて仕方ない。
- (60歳代 女性) 町会等の集まりの時、お茶を入れたり、配ったり、洗ったりは、絶対に女がしているのはおかしい！女が台所？男でも茶を入れたり洗ったりできる。交代にすべき。
- (60歳代 女性) 学校のPTAでも、女性は副であるのが多かった。お茶くみは女性の仕事だと思われていた。
- (80歳以上 男性) クラブ活動の責任者、自治会の責任者（会長、部長等）に女性を推薦しても男性がやるべきだと多数が申し出て、結果、男性がすることになる。上記の2つ、グループ等は女性が80%ぐらいですが仕方ありません。しかし実際の実行、行動の口出しは女性が多く、その方向で実行されます。

【就職活動中の経験】

- (30歳代 女性) 「20代30代女性は出産するから…」と採用をためらう会社があった。
- (30歳代 女性) 就職採用試験の際に「女性は仕事をすぐやめるので採用したいと思わない」と言われました。
- (50歳代 性別その他) あります。髪の毛の長い男性(トランスジェンダー)というだけで、就労ができなかった。

【その他】

- (20歳未満 男性) 男子だから重い物を運ばされた
- (30歳代 女性) 女だと、ここっていう時になめられたりする。
- (30歳代 女性) 女性だから見下されたことがある（同じ男性には見下す態度を取らないのに）。
- (40歳代 男性) 男のくせに女のくせになどとほざくやからがいる。
- (50歳代 男性) 男のくせにと言われた事がある。
- (60歳代 女性) 60代を過ぎた年齢であれば、女性に対する差別、あるいは区別は常在化している。ただそれを当然だと思う人は少ないと思う。
- (70歳代 女性) ・差別といえるかどうか微妙ですが近くの整形外科を受診した時、医師が名前を呼ばず「お母さん」と呼びかけました。年配の女性をひとくくりにして「お母さん」と呼ぶことに違和感あり。
- (80歳以上 男性) 退職後25年程なり、それまでのことしか答えられない。

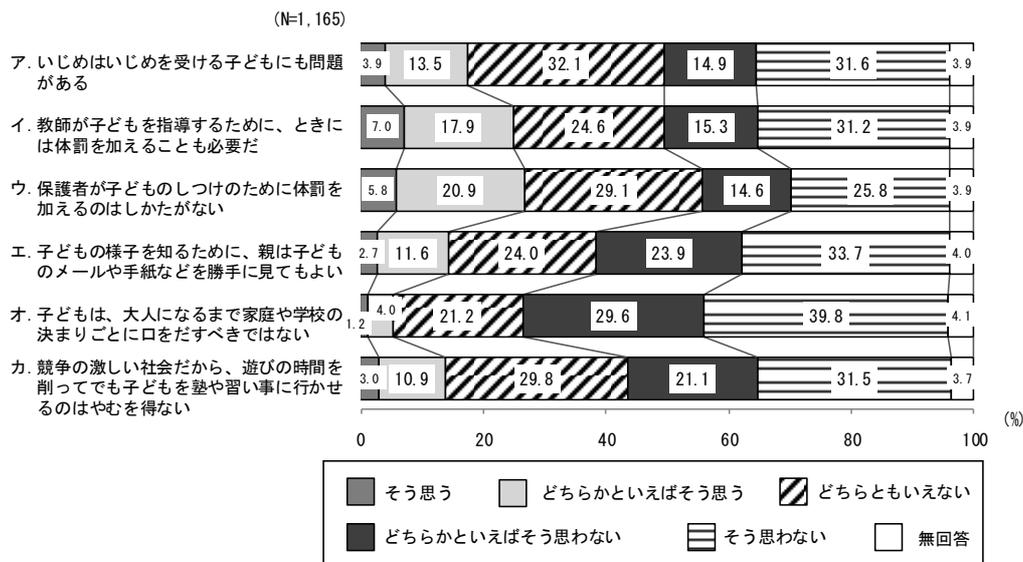
5 子どもの人権について

(1) 子どもに対する人権問題についての考え方

問25 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

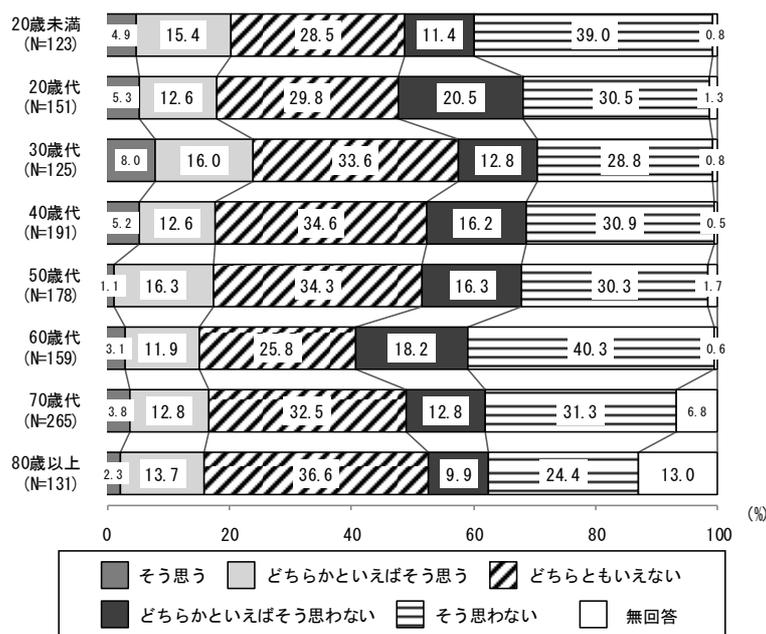
【図表 5-1 子どもに対する人権問題についての考え方】



子どもに対する人権問題についての考え方は、いずれの項目も“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）が“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）に比べ高い。中でも「オ. 子どもは、大人になるまで家庭や学校の決まりごとに口をだすべきではない」は“そう思わない”が69.4%と最も高くなっている。次いで「エ. 子どもの様子を知るために、親は子どものメールや手紙などを勝手に見てもよい」が57.6%、「カ. 競争の激しい社会だから、遊びの時間を削ってでも子どもを塾や習い事に行かせるのはやむを得ない」が52.6%、「ア. いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある」及び「イ. 教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」がそれぞれ46.5%となっている。

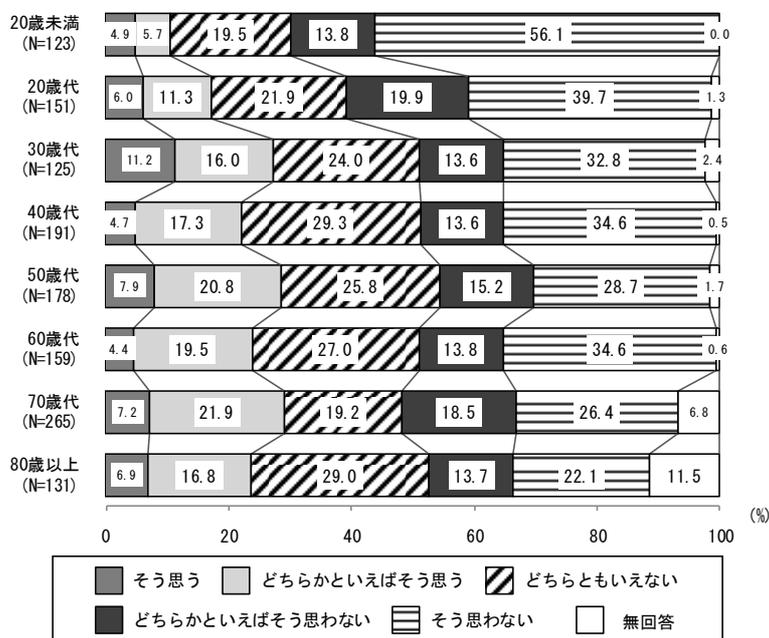
“そう思う”はいずれの項目も3割未満となっている。“そう思う”が各項目の中で最も高いのは「ウ. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのはしかたがない」で26.7%、最も低いのは「オ. 子どもは、大人になるまで家庭や学校の決まりごとに口をだすべきではない」で5.2%となっている。（図表 5-1）

【図表 5-1-1 年齢別 ア. いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある】



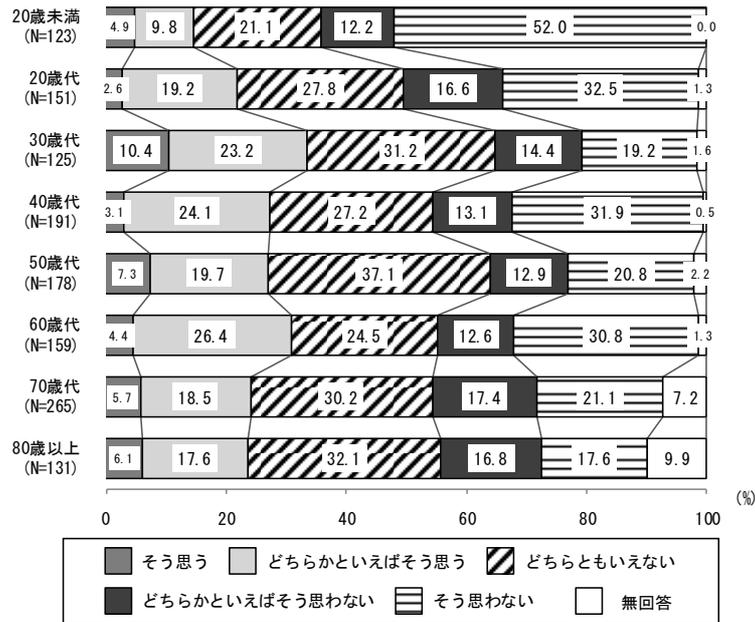
「ア. いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある」を年齢別で見ると、“そう思う”は20歳未満と30歳代で2割台、それ以外の年齢では1割台となっている。“そう思わない”は60歳代で58.5%と最も高く、80歳以上で34.3%と最も低くなっている。(図表 5-1-1)

【図表 5-1-2 年齢別 イ. 教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ】



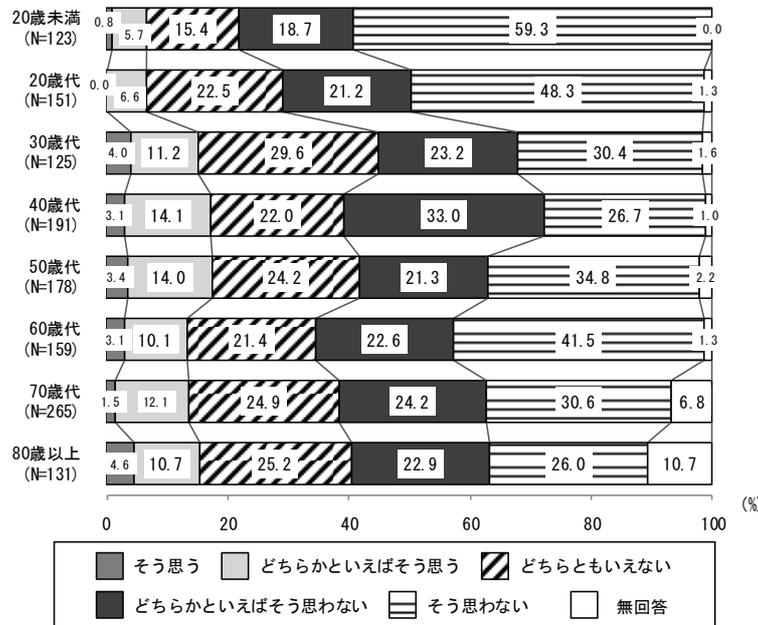
「イ. 教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」を年齢別で見ると、“そう思わない”は20歳代以下では約6～7割、30～70歳では4割台、80歳以上では3割台と、年齢が上がるにつれ低下している。(図表 5-1-2)

【図表 5-1-3 年齢別 ウ. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのはしかたがない】



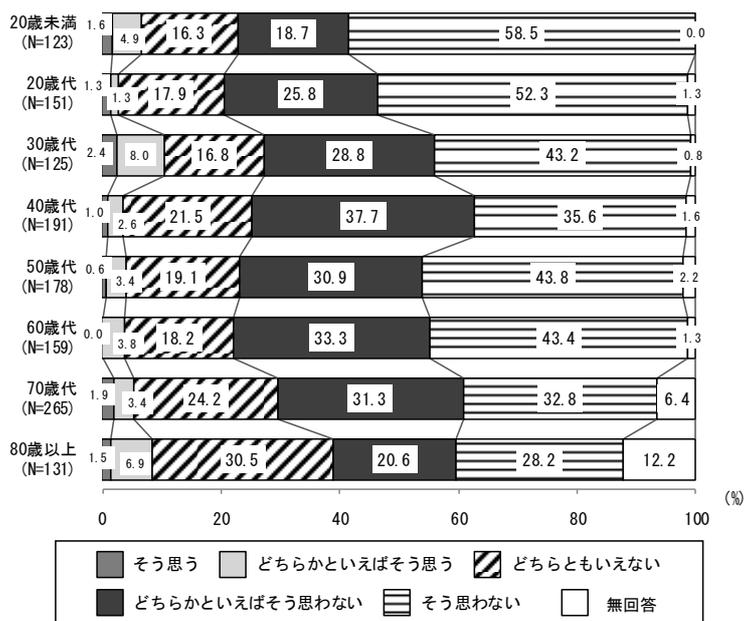
「ウ. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのはしかたがない」を年齢別でみると、概ね全ての年齢で“そう思わない”は“そう思う”に比べ高い。20歳未満は“そう思わない”が64.2%と最も高く、「そう思わない」(52.0%)は過半数にのぼる。“そう思う”は20歳未満で1割台、30歳以上で2～3割台となっている。(図表 5-1-3)

【図表 5-1-4 年齢別 エ. 子どもの様子を知るために、親は子どものメールや手紙などを勝手に見てもよい】



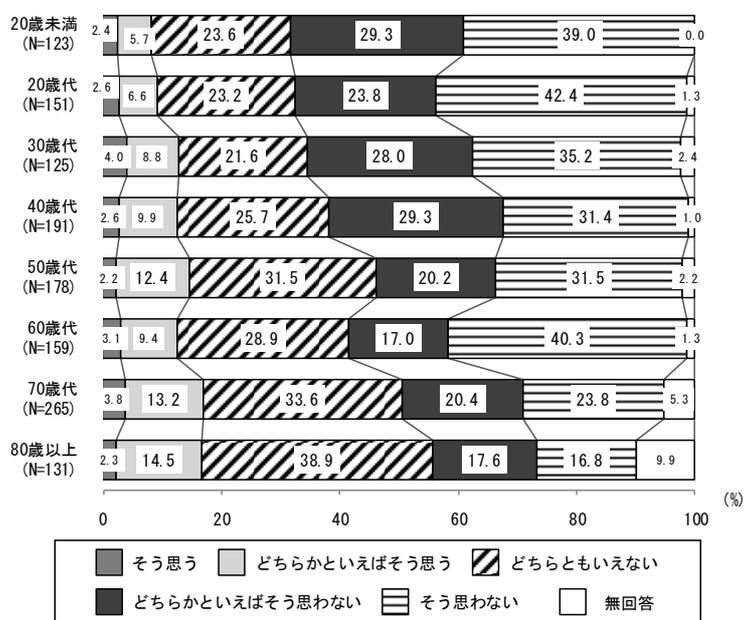
「エ. 子どもの様子を知るために、親は子どものメールや手紙などを勝手に見てもよい」を年齢別でみると、80歳以上を除く全ての年齢で“そう思わない”が過半数となっている。特に、20歳未満及び20歳代は“そう思わない”がそれぞれ78.0%、69.5%と高く、“そう思う”は約6%と低い。30歳以上では、“そう思う”は1割台となっている。(図表 5-1-4)

【図表 5-1-5 年齢別 オ. 子どもは、大人になるまで家庭や学校の決まりごとに口をだすべきではない】



「オ. 子どもは、大人になるまで家庭や学校の決まりごとに口をだすべきではない」を年齢別でみると、“そう思わない”は60歳代以下で7割台、70歳代で6割台、80歳以上は4割台となっている。“そう思う”はいずれの年齢も1割以下と低い。(図表 5-1-5)

【図表 5-1-6 年齢別 カ. 競争の激しい社会だから、遊びの時間を削ってでも子どもを塾や習い事に行かせるのはやむを得ない】



「カ. 競争の激しい社会だから、遊びの時間を削ってでも子どもを塾や習い事に行かせるのはやむを得ない」を年齢別でみると、“そう思わない”は40歳代以下で6割台、50～60歳で5割台、70歳以上で3～4割台となっている。“そう思う”はいずれの年齢も2割未満だが、60歳代を除く各年齢で、年齢が上がるごとに割合も概ね高くなっている。(図表 5-1-6)

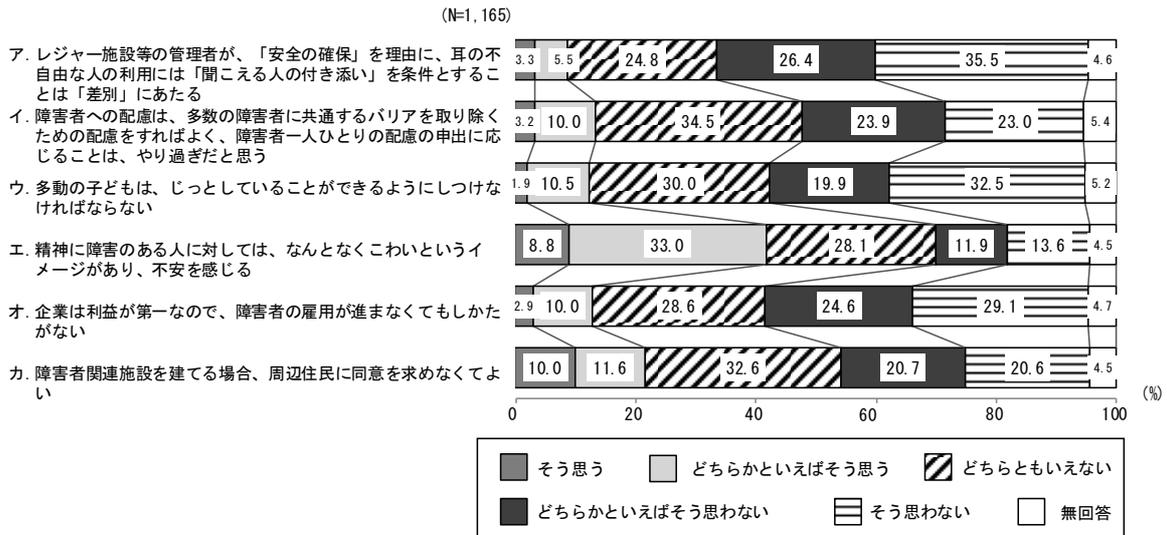
6 障害者の人権について

(1) 障害者に対する人権問題についての考え方

問 26 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

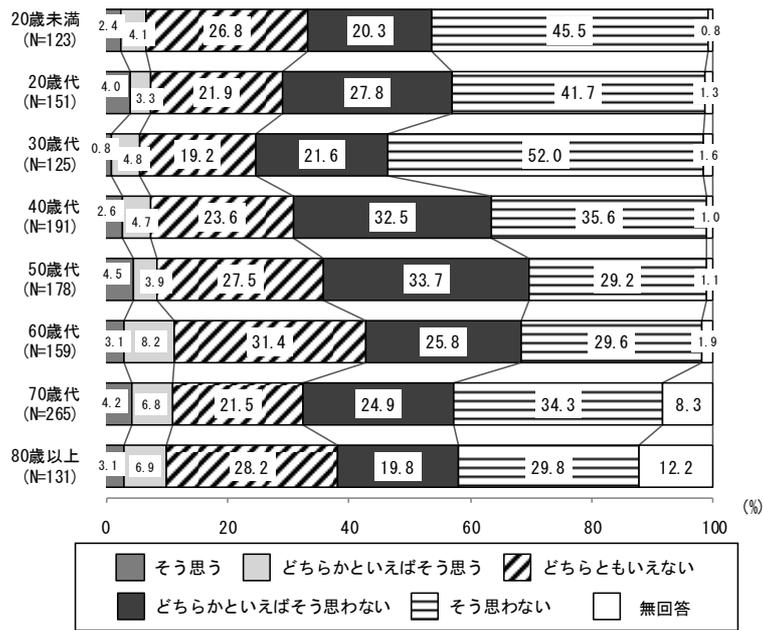
【図表 6-1 障害者に対する人権問題についての考え方】



障害者に対する人権問題についての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、「エ. 精神に障害のある人に対しては、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる」のみで、41.8%となっている。

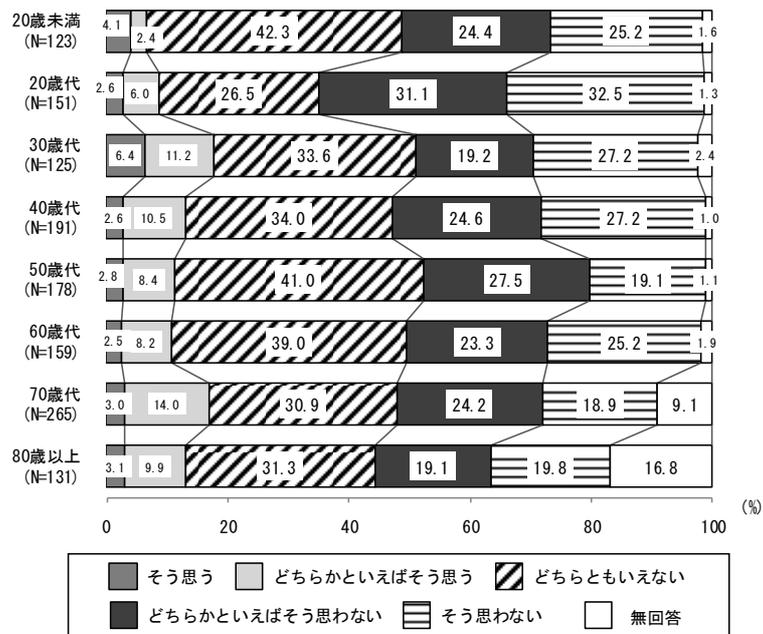
その他の項目は“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、割合が高い順に「ア. レジャー施設等の管理者が、「安全の確保」を理由に、耳の不自由な人の利用には「聞こえる人の付き添い」を条件とすることは「差別」にあたる」（61.9%）、「オ. 企業は利益が第一なので、障害者の雇用が進まなくてもしかたがない」（53.7%）、「ウ. 多動の子どもは、じっとしていることができるようにしつけなければならない」（52.4%）となっている。（図表 6-1）

【図表 6-1-1 年齢別 ア. レジャー施設等の管理者が、「安全の確保」を理由に、
耳の不自由な人の利用には「聞こえる人の付き添い」を条件とすることは「差別」にあたる】



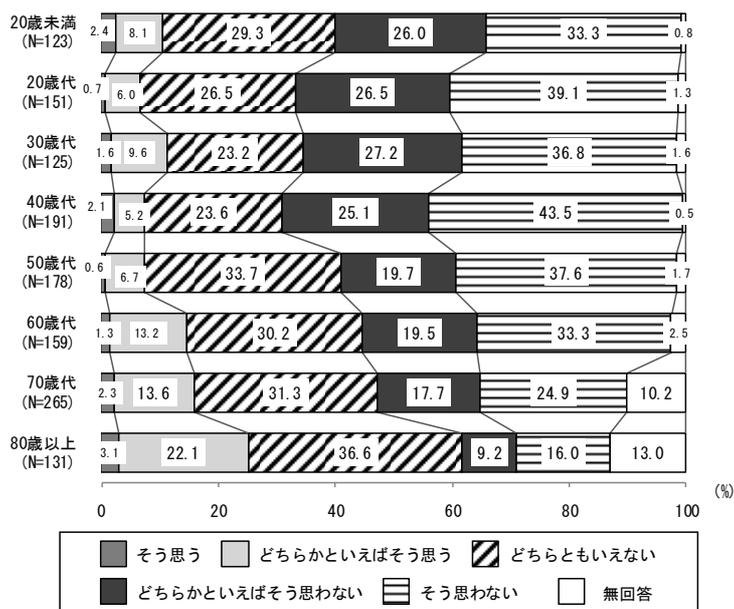
「ア. レジャー施設等の管理者が、「安全の確保」を理由に、耳の不自由な人の利用には「聞こえる人の付き添い」を条件とすることは「差別」にあたる」を年齢別でみると、30歳代は「そう思わない」が52.0%と過半数を占めており、“そう思わない”の割合も73.6%と各年齢の中で最も高い。その他の年齢では、“そう思わない”は5～6割程度となっている。(図表 6-1-1)

【図表 6-1-2 年齢別 イ. 障害者への配慮は、多数の障害者に共通するバリアを取り除くための
配慮をすればよく、障害者一人ひとりの配慮の申出に応じることは、やり過ぎだと思う】



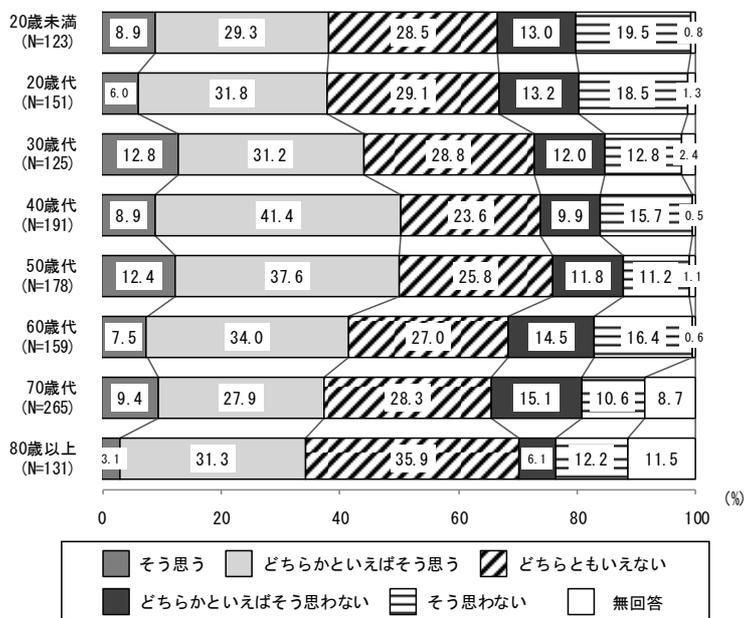
「イ. 障害者への配慮は、多数の障害者に共通するバリアを取り除くための配慮をすればよく、障害者一人ひとりの配慮の申出に応じることは、やり過ぎだと思う」を年齢別でみると、30歳代及び70歳代は“そう思う”が2割近くあり、他の年齢に比べやや高い。20歳代は“そう思わない”が約6割と他の年齢に比べ高く、その他の年齢は4～5割程度である。(図表 6-1-2)

【図表 6-1-3 年齢別 ウ. 多動の子どもは、じっとしていることができるようにしつけないといけない】



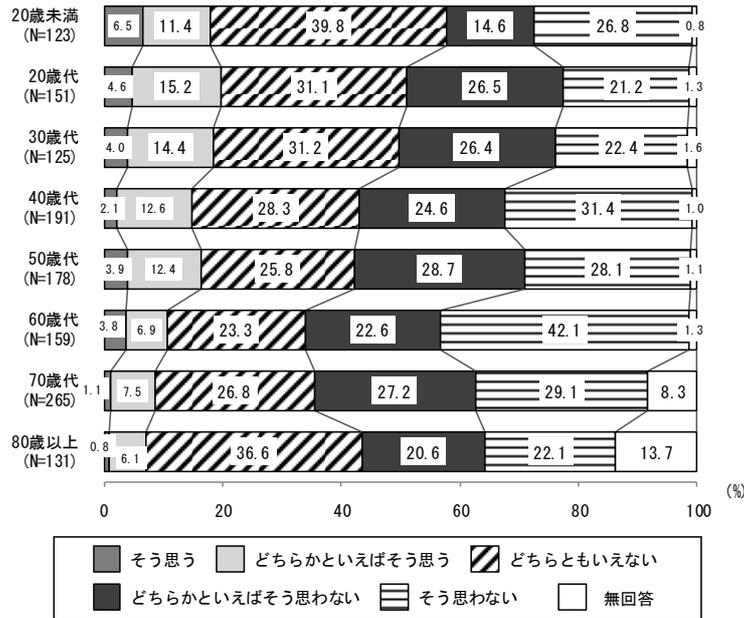
「ウ. 多動の子どもは、じっとしていることができるようにしつけないといけない」を年齢別でみると、70歳代以下は“そう思わない”が多数派となっており、20～40歳は6割程度と他の年齢に比べ高くなっている。80歳以上では“そう思わない”が25.2%と大幅に低下し、“そう思う”（25.2%）と同じ割合となっている。（図表 6-1-3）

【図表 6-1-4 年齢別 エ. 精神に障害のある人に対しては、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる】



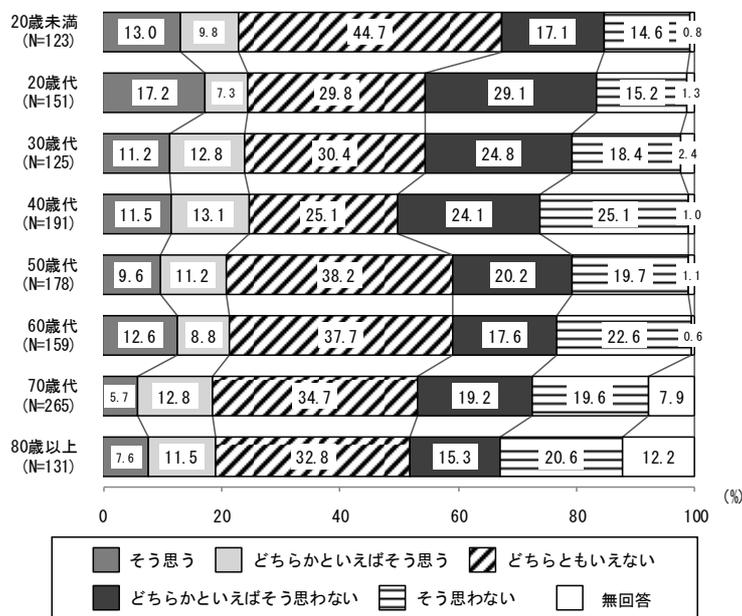
「エ. 精神に障害のある人に対しては、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる」を年齢別でみると、40～50歳で“そう思う”が5割となっており、それ以外の年齢は40～50歳の年齢から下がるまたは上がるにつれ“そう思う”の割合が低下している。（図表 6-1-4）

【図表 6-1-5 年齢別 オ. 企業は利益が第一なので、障害者の雇用が進まなくてもしかたがない】



「オ. 企業は利益が第一なので、障害者の雇用が進まなくてもしかたがない」を年齢別でみると、“そう思わない”は各年齢の中で60歳代が64.7%と最も高く、全体をみると60歳代を頂点として“そう思わない”が低くなる傾向にある。“そう思う”は60歳代以下で1割台、70歳以上で1割未満となっている。(図表 6-1-5)

【図表 6-1-6 年齢別 カ. 障害者関連施設を建てる場合、周辺住民に同意を求めなくてよい】



「カ. 障害者関連施設を建てる場合、周辺住民に同意を求めなくてよい」を年齢別でみると、“そう思う”はいずれの年齢も2割前後となっている。20歳代は「そう思う」が17.2%と他の年齢に比べ高い。“そう思わない”が最も高いのは40歳代(49.2%)、最も低いのは20歳未満(31.7%)で、その他の年齢は4割前後となっている。(図表 6-1-6)

7 高齢者の人権について

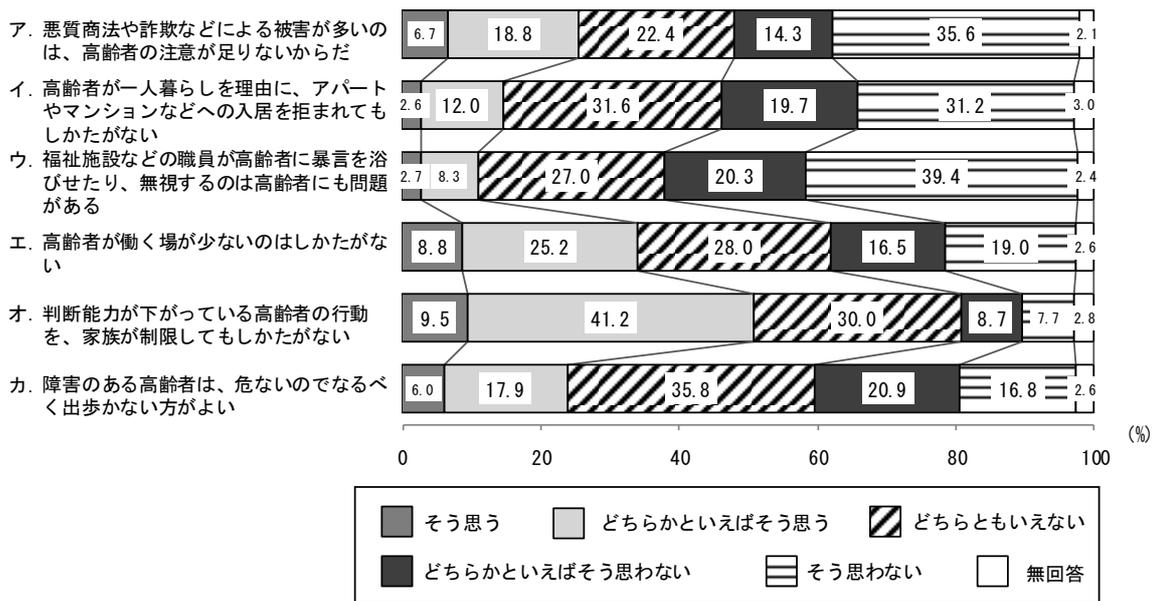
(1) 高齢者に対する人権問題についての考え方

問27 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 7-1 高齢者に対する人権問題についての考え方】

(N=1,165)

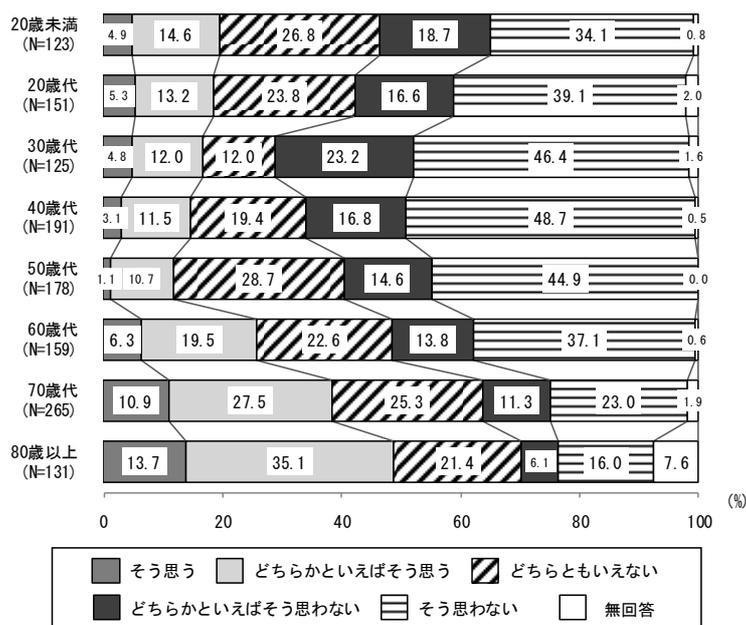


高齢者に対する人権問題についての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、「オ. 判断能力が下がっている高齢者の行動を、家族が制限してもしかたがない」（50.7%）のみである。

“そう思わない”が“そう思う”を上回る項目は、「ウ. 福祉施設などの職員が高齢者に暴言を浴びせたり、無視するのは高齢者にも問題がある」（59.7%）、「イ. 高齢者が一人暮らしを理由に、アパートやマンションなどへの入居を拒まれてもしかたがない」（50.9%）、「ア. 悪質商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ」（49.9%）、「カ. 障害のある高齢者は、危ないのでなるべく出歩かない方がよい」（37.7%）となっている。

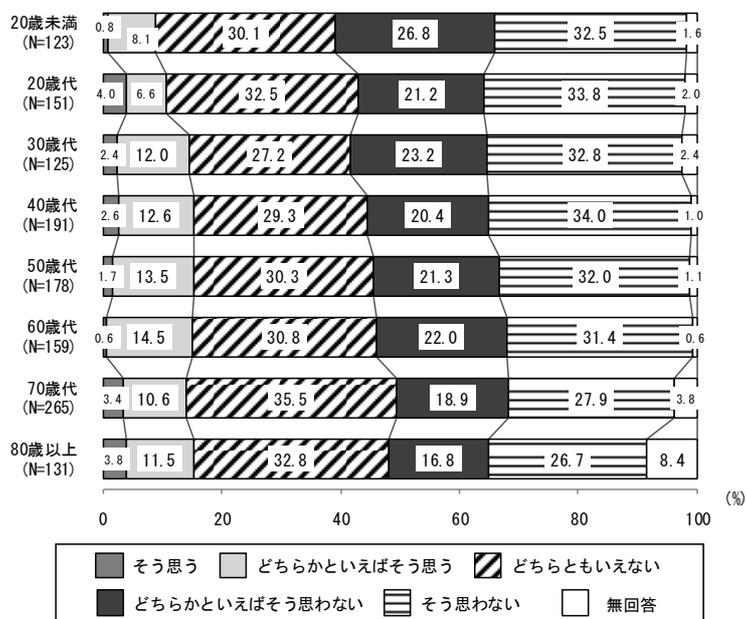
「エ. 高齢者が働く場が少ないのはしかたがない」は“そう思う”（34.0%）と“そう思わない”（35.5%）が拮抗している。（図表 7-1）

【図表 7-1-1 年齢別 ア. 悪質商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ】



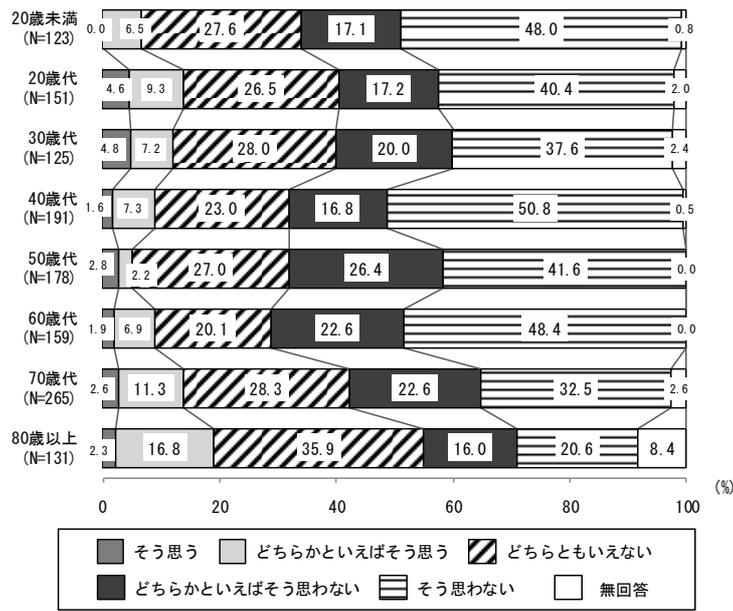
「ア. 悪質商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ」を年齢別でみると、「そう思う」は50歳代以下では年齢が上がるにつれ低下しているが、60歳以上では一転して年齢が上がるにつれ高くなっている。「そう思わない」は30歳代（69.6%）を頂点として割合が低下している。（図表 7-1-1）

【図表 7-1-2 年齢別 イ. 高齢者が一人暮らしを理由に、アパートやマンションなどへの入居を拒まれてもしかたがない】



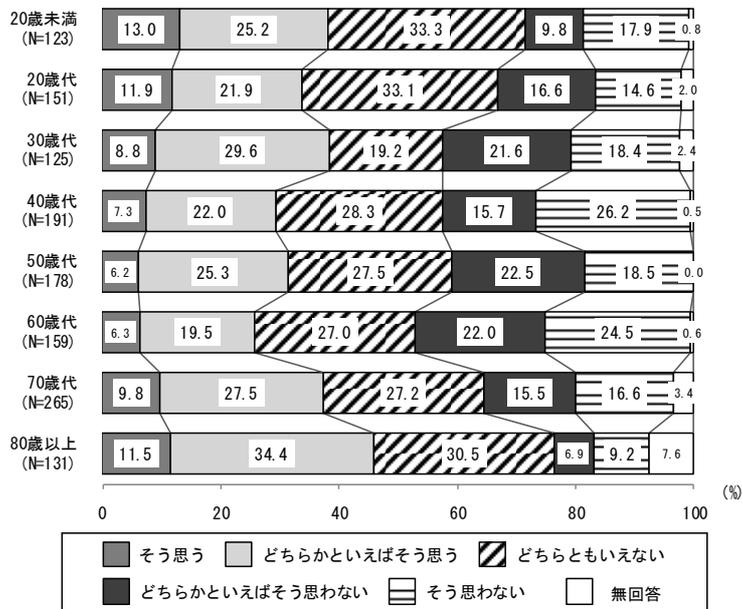
「イ. 高齢者が一人暮らしを理由に、アパートやマンションなどへの入居を拒まれてもしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年齢も「そう思わない」が「そう思う」を上回っている。60歳代以下は「そう思わない」が5割程度、70歳以上は「そう思わない」が4割程度となっている他は、年齢による大きな差はあまりみられない。（図表 7-1-2）

【図表 7-1-3 年齢別 ウ. 福祉施設などの職員が高齢者に暴言を浴びせたり、無視するのは高齢者にも問題がある】



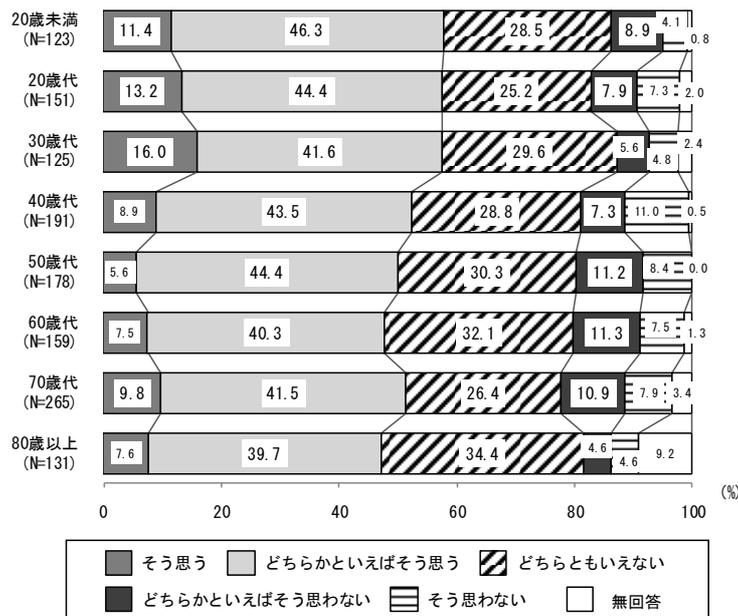
「ウ. 福祉施設などの職員が高齢者に暴言を浴びせたり、無視するのは高齢者にも問題がある」を年齢別でみると、“そう思う”は80歳以上で19.1%と最も高く、50歳代で5.0%と最も低い。“そう思わない”は40～60歳で7割前後、30歳代以下及び70歳代は5～6割台、80歳以上は3割台となっている。20歳未満、40歳代、60歳代は「そう思わない」が約5割となっている。(図表 7-1-3)

【図表 7-1-4 年齢別 エ. 高齢者が働く場が少ないのはしかたがない】



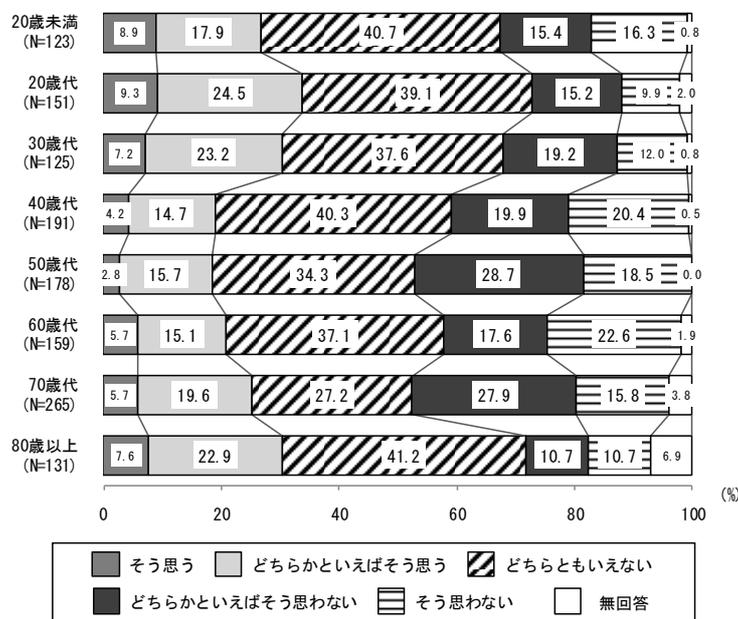
「エ. 高齢者が働く場が少ないのはしかたがない」を年齢別でみると、“そう思う”は80歳以上で45.9%と最も高く、その他の年齢は2～3割程度となっている。“そう思わない”は60歳代(46.5%)を頂点として各年齢の割合は概ね低くなっている。(図表 7-1-4)

【図表 7-1-5 年齢別 オ. 判断能力が下がっている高齢者の行動を、家族が制限してもしかたがない】



「オ. 判断能力が下がっている高齢者の行動を、家族が制限してもしかたがない」を年齢別でみると、「そう思う」はいずれの年齢も5割前後となっており、30歳代以下は約57%と他の年齢に比べやや高い。「そう思わない」はいずれの年齢も2割以下だが、中でも80歳以上は9.2%と低くなっている。(図表 7-1-5)

【図表 7-1-6 年齢別 カ. 障害のある高齢者は、危ないのでなるべく出歩かない方がよい】

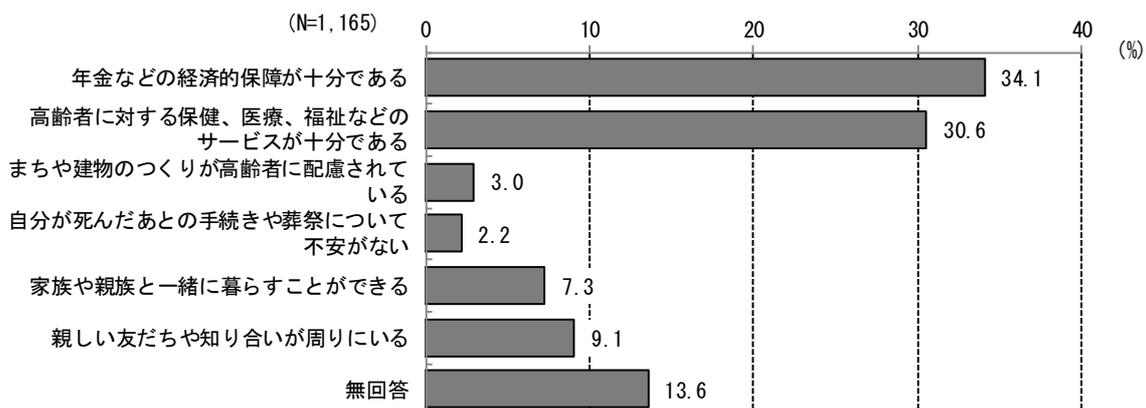


「カ. 障害のある高齢者は、危ないのでなるべく出歩かない方がよい」を年齢別でみると、20歳及び80歳以上は「そう思う」が「そう思わない」に比べ高く、3割程度となっている。40～70歳は「そう思わない」が「そう思う」に比べ高く、4割台となっている。20歳未満及び30歳代も「そう思わない」が「そう思う」に比べ高いが、そのポイント差は5ポイント未満と他の年齢に比べ小さい。(図表 7-1-6)

(2) 高齢者が安心して暮らせる社会についての考え方

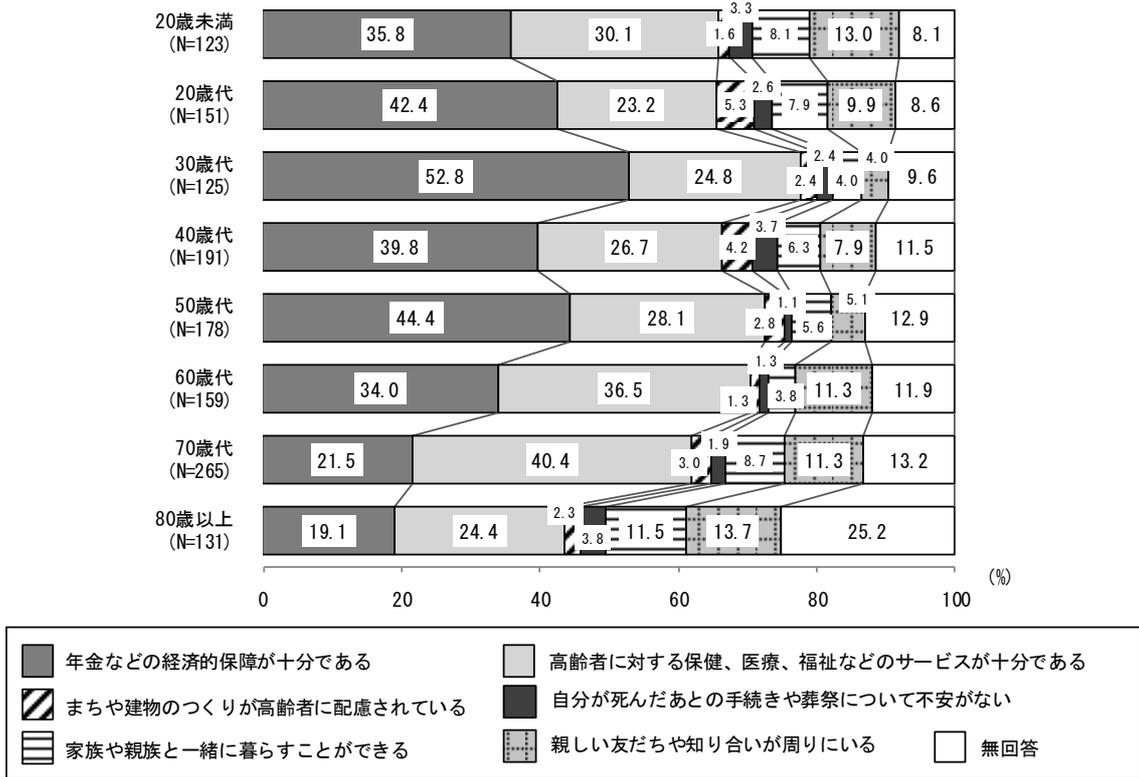
問28 あなたが高齢になったときに、安心して暮らせる社会とはどのような社会だと思いますか。
高齢者の方は、今の状況をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

【図表 7-2 高齢者が安心して暮らせる社会についての考え方】



高齢者が安心して暮らせる社会についての考え方は、「年金などの経済的保障が十分である」が34.1%と最も高く、次いで、「高齢者に対する保健、医療、福祉などのサービスが十分である」が30.6%、「親しい友だちや知り合いが周りにいる」が9.1%、「家族や親族と一緒に暮らすことができる」が7.3%、「まちや建物のづくりが高齢者に配慮されている」が3.0%、「自分が死んだあとの手続きや葬祭について不安がない」が2.2%となっている。(図表 7-2)

【図表 7-2-1 年齢別 高齢者が安心して暮らせる社会についての考え方】



高齢者が安心して暮らせる社会についての考え方を年齢別で見ると、50歳代以下では「年金などの経済的保証が十分である」が最も高い割合を占めており、中でも30歳代は52.8%と唯一割合が半数を超えている。60歳以上は「高齢者に対する保健、医療、福祉などのサービスが十分である」が最も高い割合を占めている。(図表 7-2-1)

8 日本に住む外国籍住民の人権について

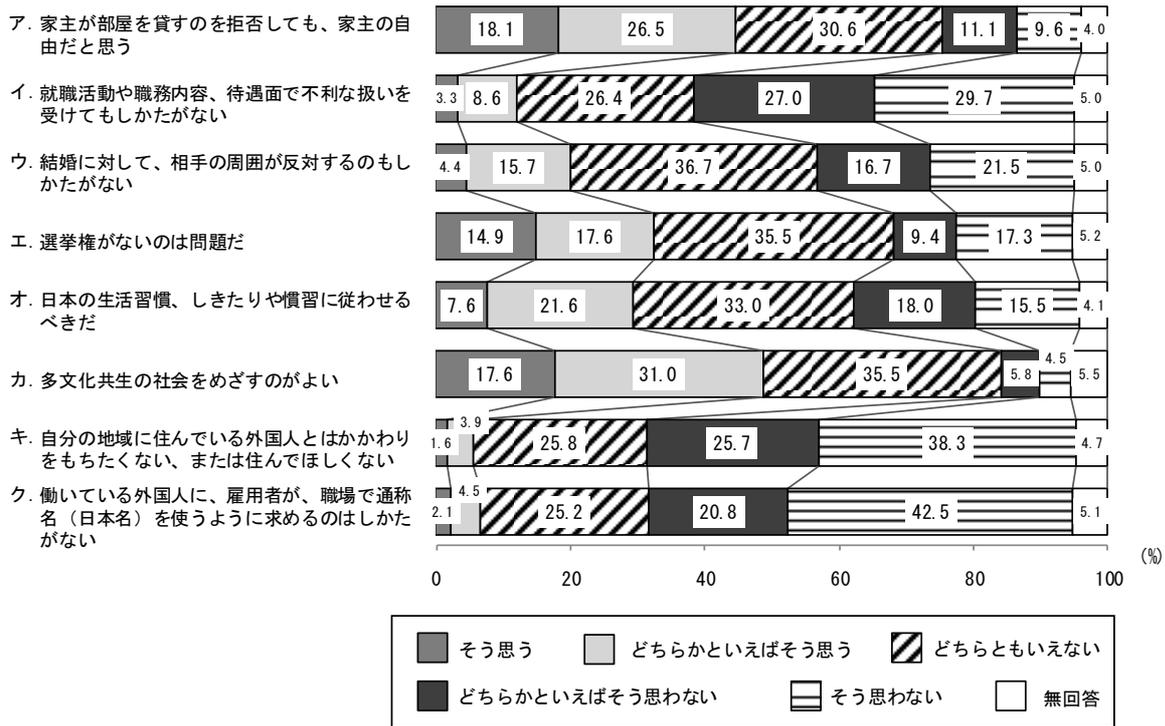
(1) 外国籍住民への差別についての考え方

問29 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 8-1 外国籍住民への差別についての考え方】

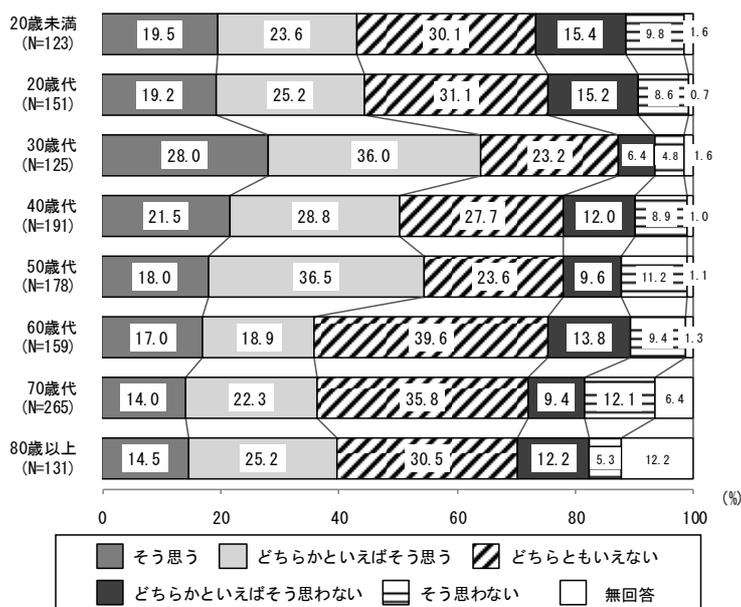
(N=1,165)



外国籍住民への差別についての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、割合が高い順に「カ. 多文化共生の社会をめざすのがよい」（48.6%）、「ア. 家主が部屋を貸すのを拒否しても、家主の自由だと思う」（44.6%）、「エ. 選挙権がないのは問題だ」（32.5%）となっている。

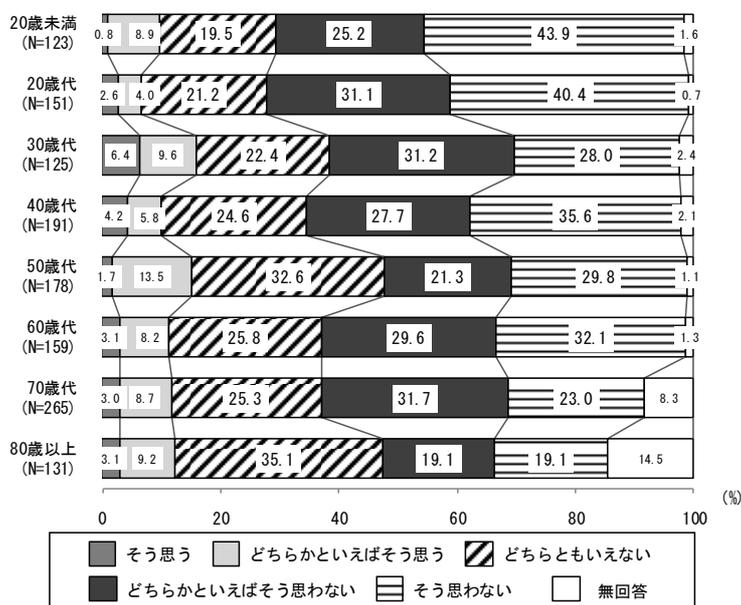
“そう思わない”が“そう思う”を上回る項目は、割合が高い順に「キ. 自分の地域に住んでいる外国人とはかかわりを持ちたくない、または住んでほしくない」（64.0%）、「ク. 働いている外国人に、雇用者が、職場で通称名（日本名）を使うように求めるのはしかたがない」（63.3%）、「イ. 就職活動や職務内容、待遇面で不利な扱いを受けてもしかたがない」（56.7%）、「ウ. 結婚に対して、相手の周囲が反対するのもしかたがない」（38.2%）、「オ. 日本の生活習慣、しきたりや慣習に従わせるべきだ」（33.5%）となっている。（図表 8-1）

【図表 8-1-1 年齢別 ア. 家主が部屋を貸すのを拒否しても、家主の自由だと思う】



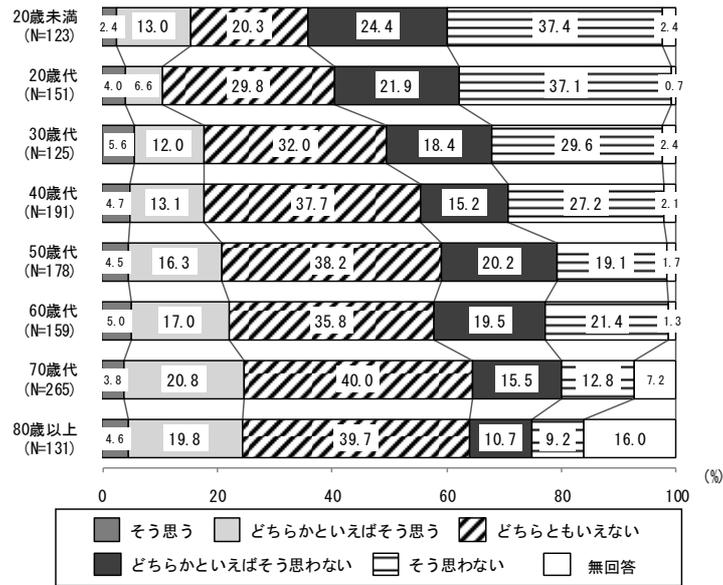
「ア. 家主が部屋を貸すのを拒否しても、家主の自由だと思う」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、特に30歳代(64.0%)、50歳代(54.5%)、40歳代(50.3%)では“そう思う”が過半数を占めている。(図表 8-1-1)

【図表 8-1-2 年齢別 イ. 就職活動や職務内容、待遇面で不利な扱いを受けてもしかたがない】



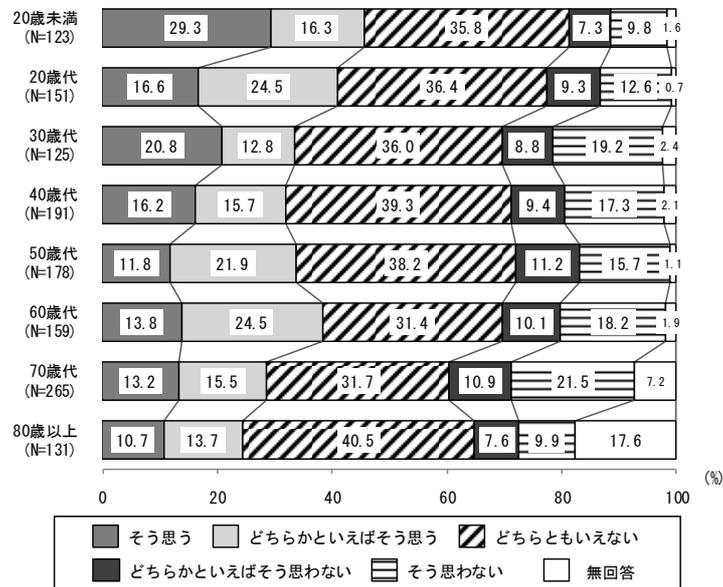
「イ. 就職活動や職務内容、待遇面で不利な扱いを受けてもしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、中でも20歳代(71.5%)及び20歳未満(69.1%)で割合が高くなっている。なお、“そう思わない”は80歳以上(38.2%)を除く全ての年齢で過半数を占めている。(図表 8-1-2)

【図表 8-1-3 年齢別 ウ. 結婚に対して、相手の周囲が反対するのもしかたがない】



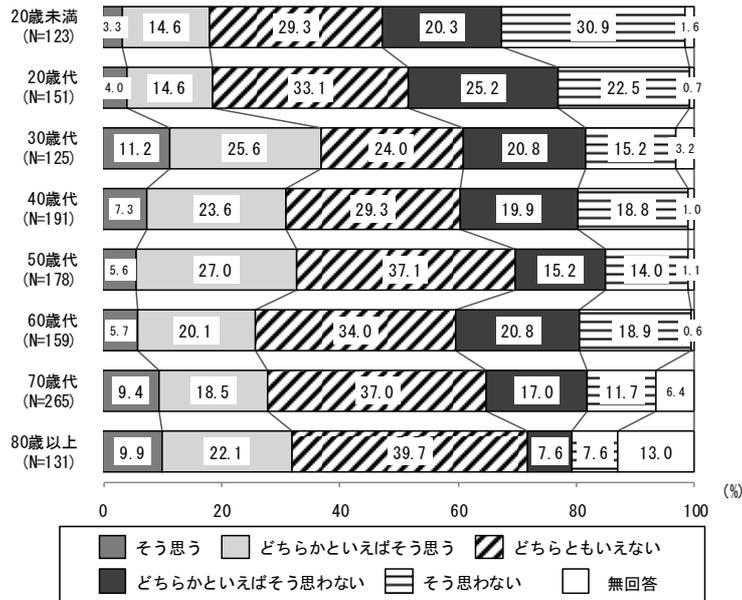
「ウ. 結婚に対して、相手の周囲が反対するのもしかたがない」を年齢別でみると、70歳代以下の各年齢で“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。また、概ね年齢が上がるにつれて“そう思わない”の割合は低下している。20歳代以下は“そう思わない”が6割前後を占めており、他の年齢に比べ高い。(図表 8-1-3)

【図表 8-1-4 年齢別 エ. 選挙権がないのは問題だ】



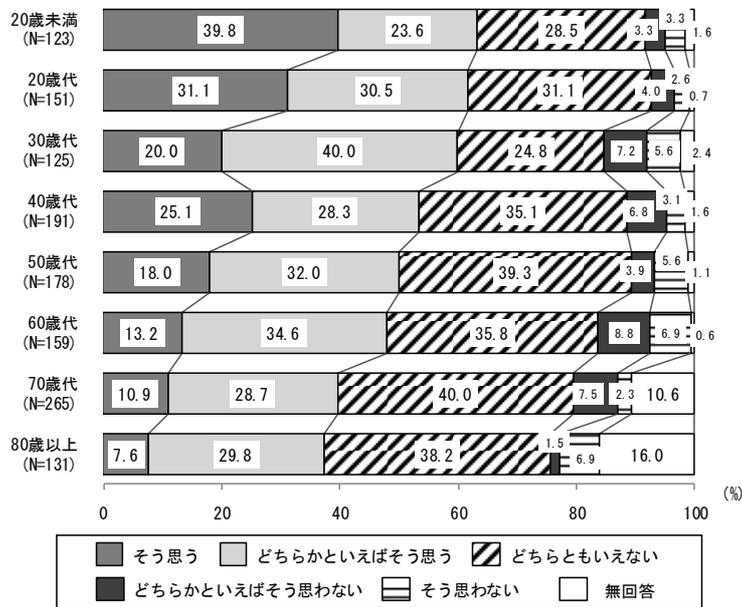
「エ. 選挙権がないのは問題だ」を年齢別でみると、70歳代を除く全ての年齢で、“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。“そう思う”は20歳未満(45.6%)、20歳代(41.1%)、60歳代(38.3%)の順に高い。70歳代は“そう思わない”が“そう思う”に比べ3.7ポイント高くなっている。(図表 8-1-4)

【図表 8-1-5 年齢別 オ. 日本の生活習慣、しきたりや慣習に従わせるべきだ】



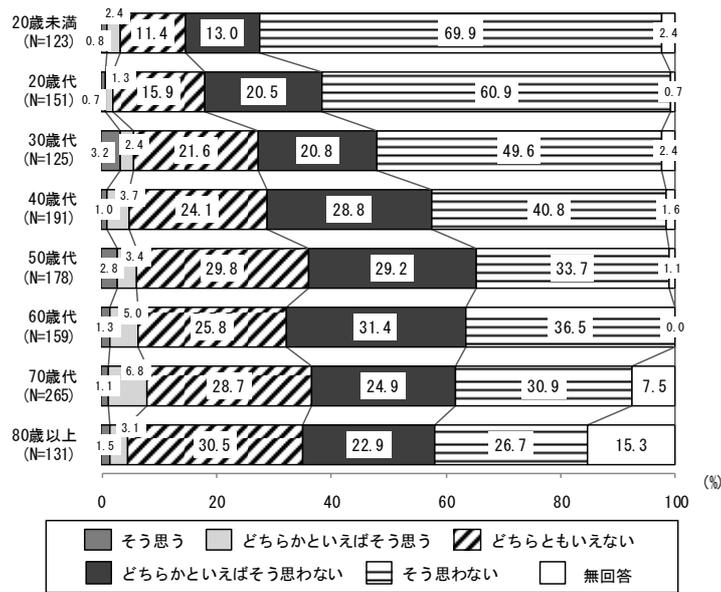
「オ. 日本の生活習慣、しきたりや慣習に従わせるべきだ」を年齢別で見ると、“そう思う”が“そう思わない”に比べ高い年齢は50歳代及び80歳以上で、30歳代及び70歳代は、“そう思う”と“そう思わない”が拮抗している。その他の年齢では、“そう思わない”が“そう思う”に比べ高くなっている。(図表 8-1-5)

【図表 8-1-6 年齢別 カ. 多文化共生の社会をめざすのがよい】



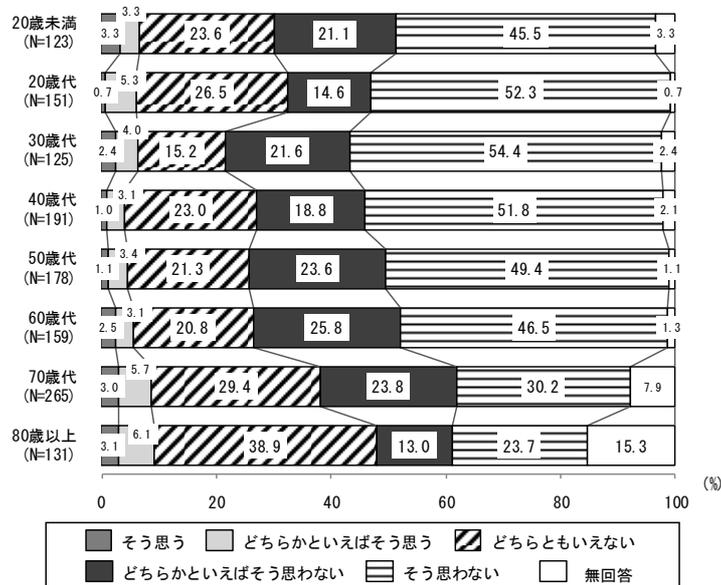
「カ. 多文化共生の社会をめざすのがよい」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思う”の割合は年齢が下がるにつれ高くなっている。中でも50歳代以下の年齢は“そう思う”が半数以上となっている。(図表 8-1-6)

【図表 8-1-7 年齢別 キ. 自分の地域に住んでいる外国人とは
かかわりを持ちたくない、または住んでほしくない】



「キ. 自分の地域に住んでいる外国人とはかかわりを持ちたくない、または住んでほしくない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、“そう思わない”の割合は年齢が下がるにつれ高くなる傾向がみられる。“そう思わない”は70歳代以下で過半数を占めており、特に20歳代以下は8割以上と高い。(図表 8-1-7)

【図表 8-1-8 年齢別 ク. 働いている外国人に、雇用者が、
職場で通称名（日本名）を使うように求めるのはしかたがない】

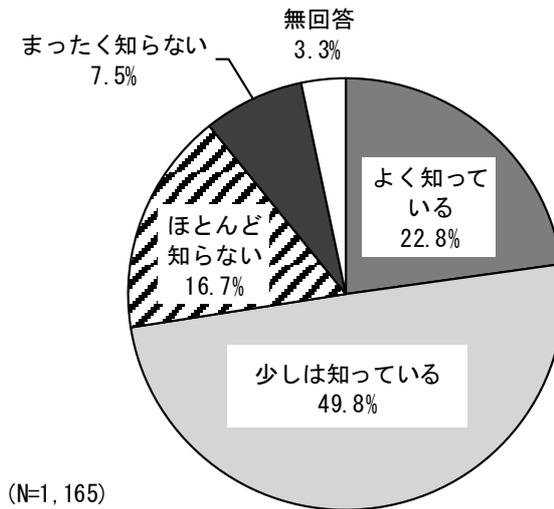


「ク. 働いている外国人に、雇用者が、職場で通称名（日本名）を使うように求めるのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”は1割未満と低く、“そう思わない”の方が高くなっている。“そう思わない”の割合は30歳代が76.0%と最も高く、80歳以上で36.7%と最も低い。(図表 8-1-8)

(2) 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況

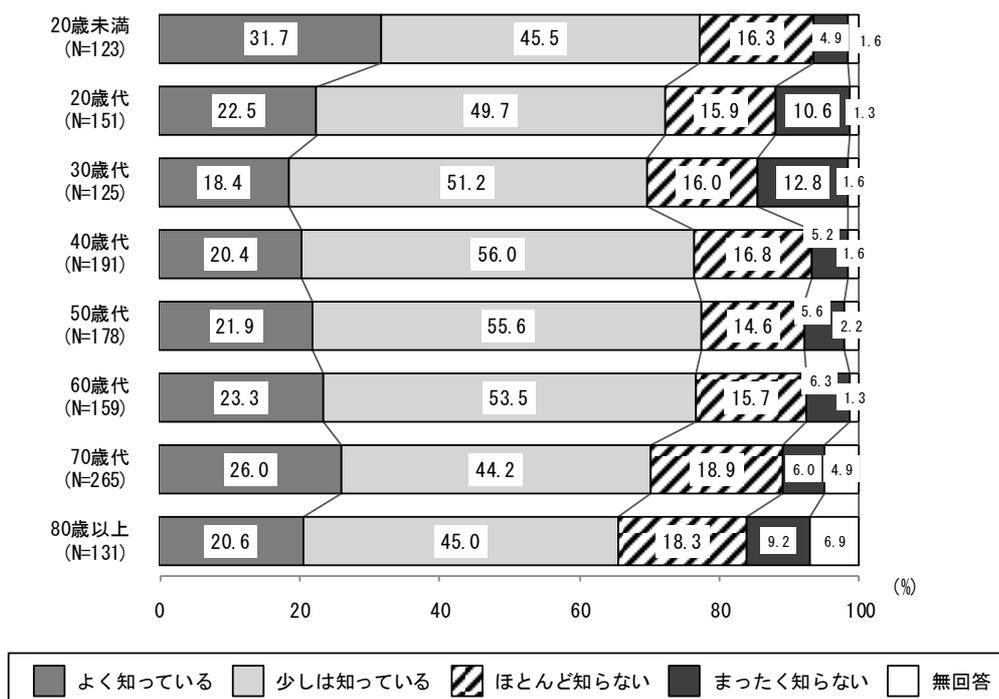
問30 あなたは、戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことを知っていますか。(あてはまる番号1つに○)

【図表 8-2 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】



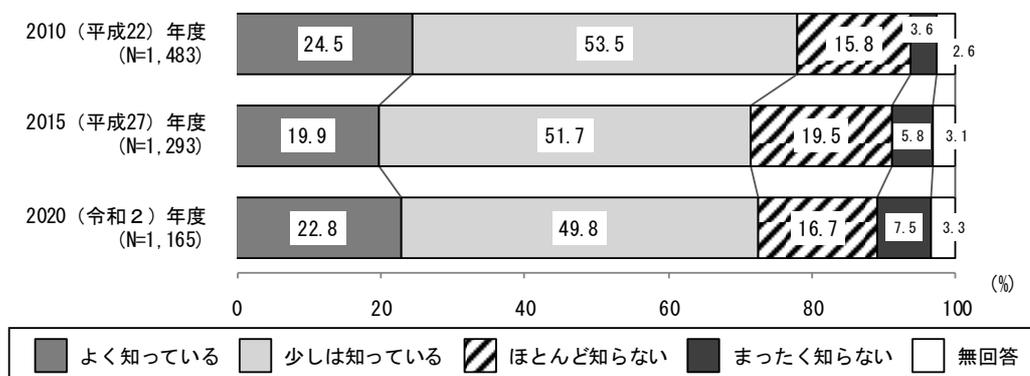
戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況については、「少しは知っている」が49.8%と最も高く、次いで「よく知っている」が22.8%、「ほとんど知らない」が16.7%、「まったく知らない」が7.5%となっており、“知っている”（「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた数）が約7割を占めている。（図表 8-2）

【図表 8-2-1 年齢別 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】



戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況を年齢別でみると、いずれの年齢も“知っている”は概ね7割台となっており、30～60歳代では「少しは知っている」が過半数を占めている。20歳未満は「よく知っている」が各年齢の中で最も高い。(図表 8-2-1)

【図表 8-2-2 経年比較 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】

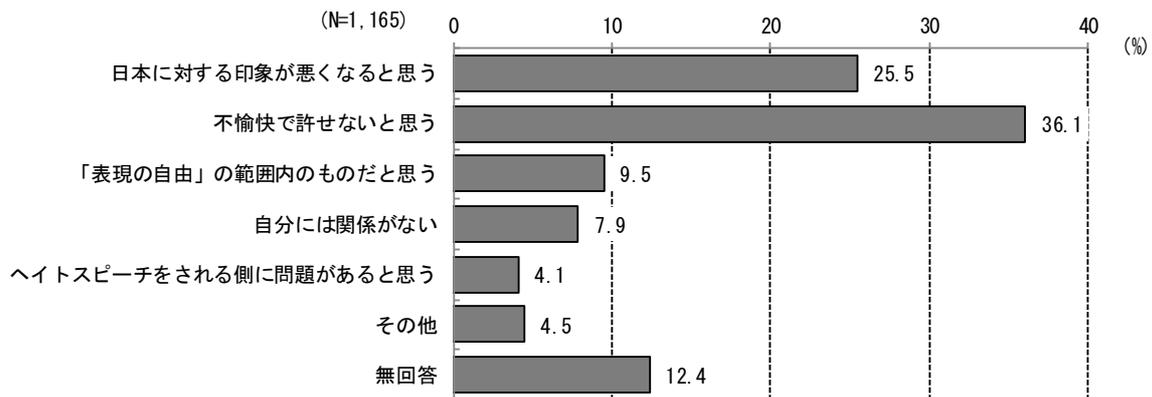


戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況について経年比較をみると、「よく知っている」は前回調査に比べ2.9ポイント増加しており、「知っている」は前回調査から1.0ポイント微増しているが、前々回調査との比較では5.4ポイント減少している。「まったく知らない」は微増傾向にある。(図表 8-2-2)

(3) 差別的言動（ヘイトスピーチ）についての考え方

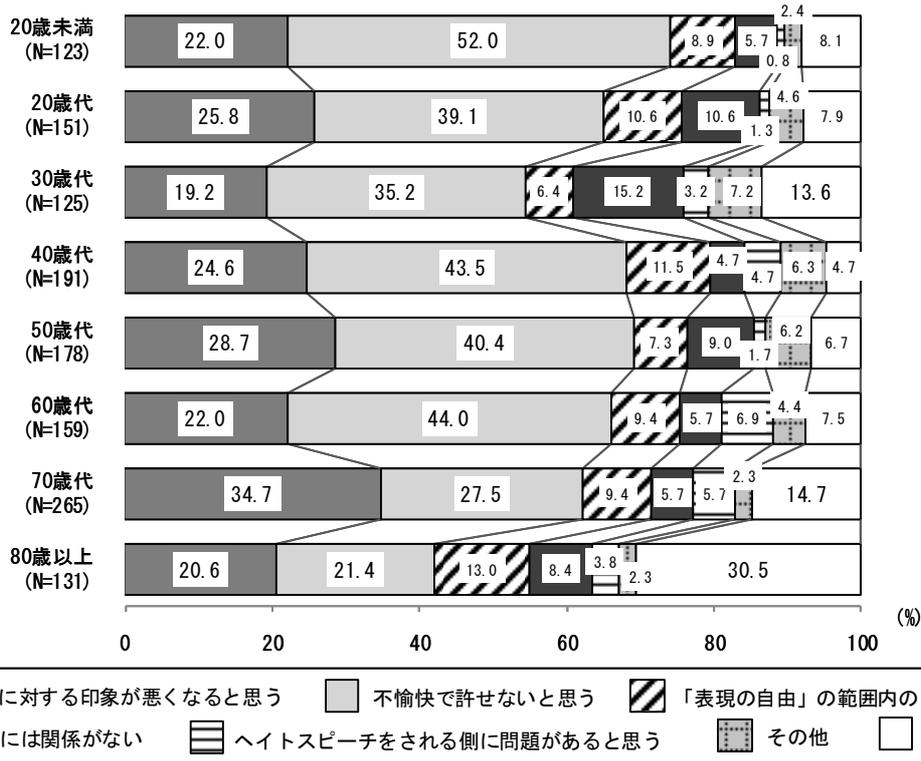
問31 特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（ヘイトスピーチ）について、あなたはどのように思いますか。（あてはまる番号1つに○）

【図表 8-3 差別的言動（ヘイトスピーチ）についての考え方】



差別的言動（ヘイトスピーチ）についての考え方について、「不愉快で許せないと思う」が36.1%と最も高く、次いで「日本に対する印象が悪くなると思う」が25.5%、「「表現の自由」の範囲内のものだと思う」が9.5%、「自分には関係がない」が7.9%、「ヘイトスピーチをされる側に問題があると思う」が4.1%となっている。（図表 8-3）

【図表 8-3-1 年齢別 差別的言動（ヘイトスピーチ）についての考え方】



差別的言動（ヘイトスピーチ）についての考え方を年齢別にみると、60歳代以下の年齢では「不愉快で許せないと思う」が最も高く、中でも20歳未満は過半数を占めている。なお、80歳以上でも無回答を除くと同項目が最も高い。70歳代では「日本に対する印象が悪くなると思う」が最も高くなっている。（図表 8-3-1）

9 さまざまな人権について

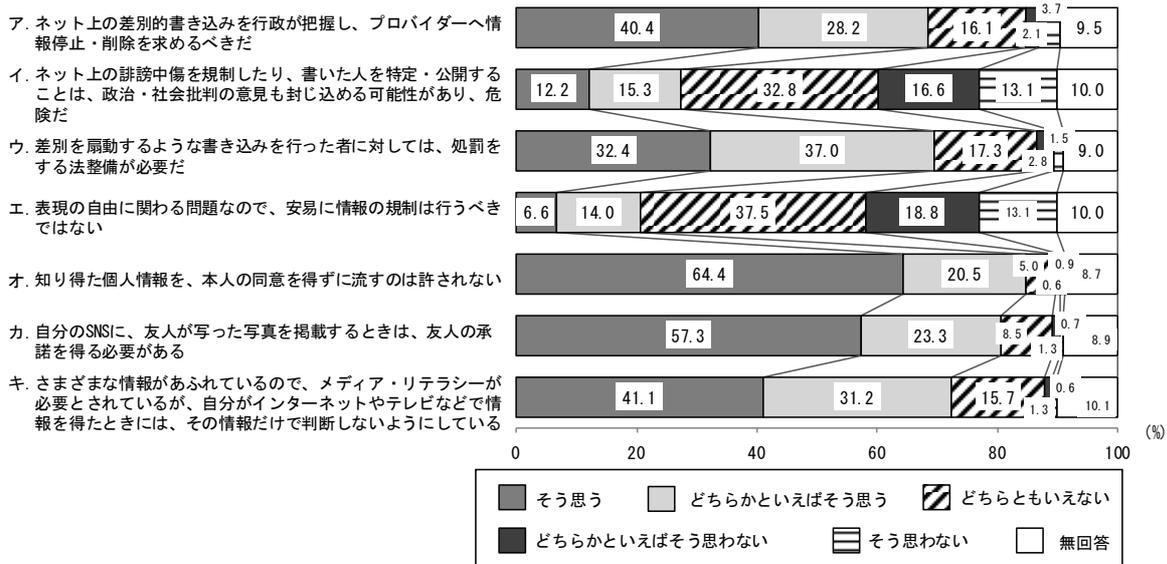
(1) インターネットについての考え方

問 32 インターネットに関する次の考え方について、あなたはどのように思いますか。

(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

【図表 9-1 インターネットについての考え方】

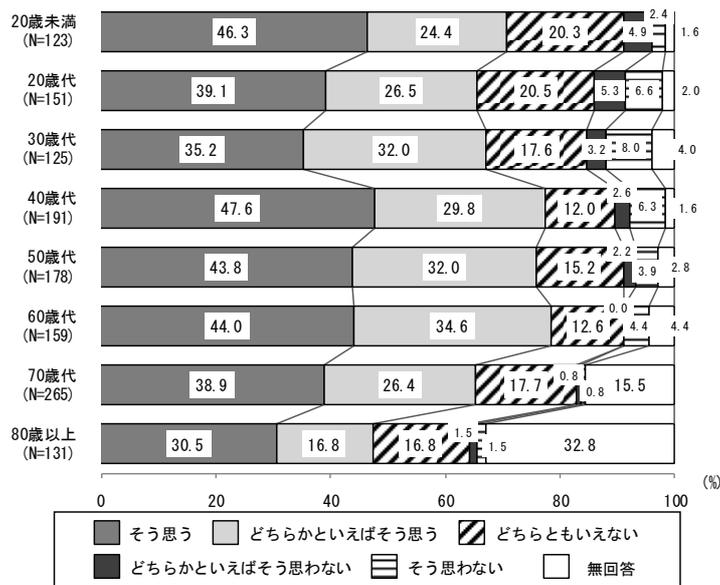
(N=1,165)



インターネットについての考え方で、「そう思う」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、割合が高い順に「オ. 知り得た個人情報を、本人の同意を得ずに流すのは許されない」（84.9%）、「カ. 自分の SNS に、友人が写った写真を掲載するときは、友人の承諾を得る必要がある」（80.6%）、「キ. さまざまな情報があふれているので、メディア・リテラシーが必要とされているが、自分がインターネットやテレビなどで情報を得たときには、その情報だけで判断しないようにしている」（72.3%）、「ウ. 差別を扇動するような書き込みを行った者に対しては、処罰をする法整備が必要だ」（69.4%）、「ア. ネット上の差別的書き込みを行政が把握し、プロバイダーへ情報停止・削除を求めるべきだ」（68.6%）となっている。

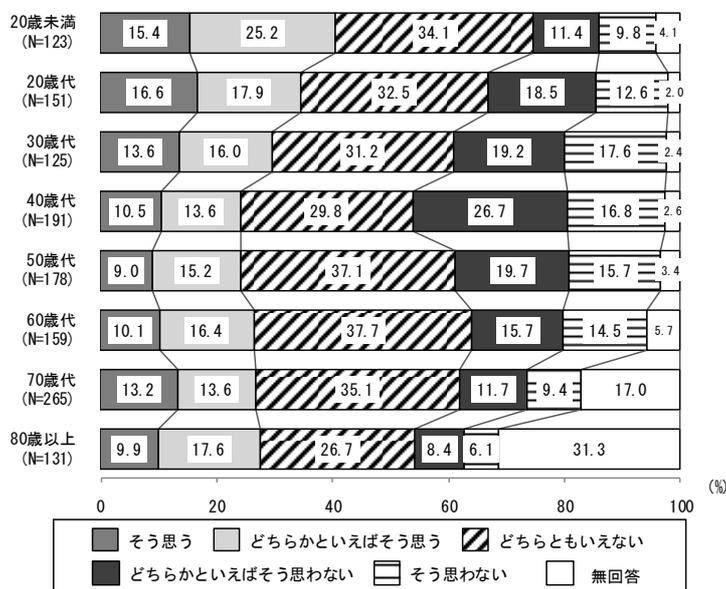
「そう思わない」が「そう思う」を上回る項目は、割合が高い順に「エ. 表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない」（31.9%）、「イ. ネット上の誹謗中傷を規制したり、書いた人を特定・公開することは、政治・社会批判の意見も封じ込める可能性があり、危険だ」（29.7%）となっている。（図表 9-1）

【図表 9-1-1 年齢別 ア. ネット上の差別的書き込みを行政が把握し、プロバイダーへ情報停止・削除を求めるべきだ】



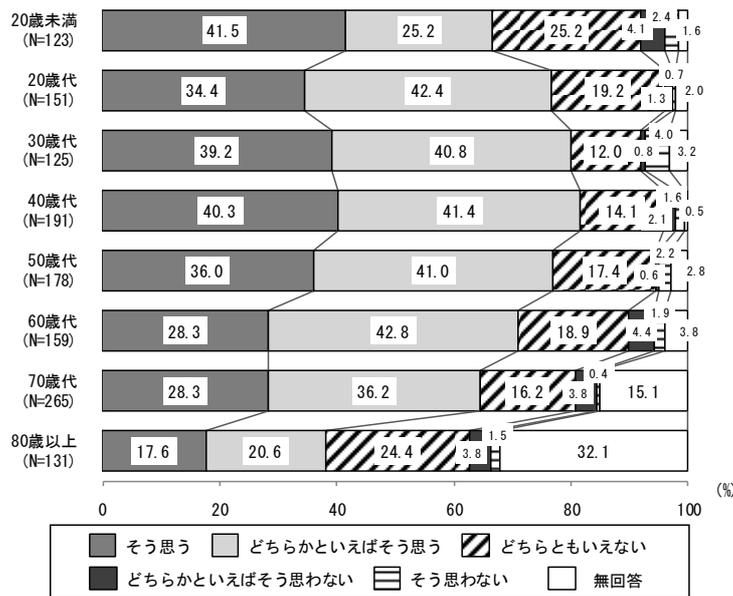
「ア. ネット上の差別的書き込みを行政が把握し、プロバイダーへ情報停止・削除を求めるべきだ」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を大幅に上回っており、“そう思う”の割合は80歳以上（47.3%）を除く全ての年齢で6～7割台となっている。（図表 9-1-1）

【図表 9-1-2 年齢別 イ. ネット上の誹謗中傷を規制したり、書いた人を特定・公開することは、政治・社会批判の意見も封じ込める可能性があり、危険だ】



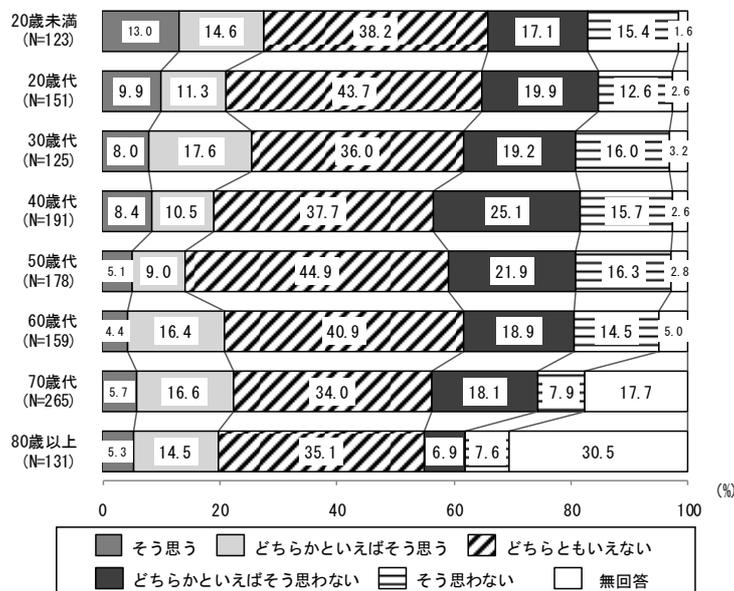
「イ. ネット上の誹謗中傷を規制したり、書いた人を特定・公開することは、政治・社会批判の意見も封じ込める可能性があり、危険だ」を年齢別で見ると、20歳代以下及び70歳以上で“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、20歳未満は“そう思う”が4割程度と高い。30～60歳代では“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、中でも40歳代は“そう思わない”が4割程度と高い。（図表 9-1-2）

【図表 9-1-3 年齢別 ウ. 差別を扇動するような書き込みを行った者に対しては、
処罰をする法整備が必要だ】



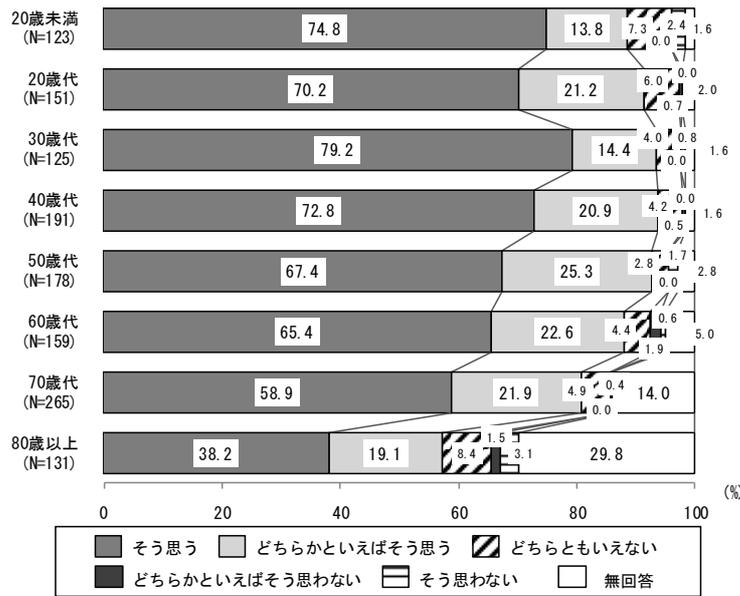
「ウ. 差別を扇動するような書き込みを行った者に対しては、処罰をする法整備が必要だ」を年齢別で見ると、“そう思わない”はいずれの年齢も1割未満となっている。“そう思う”の割合は、80歳以上では3割台だが、その他の年齢では6割以上となっており、中でも30～40歳代では8割程度と高い。(図表 9-1-3)

【図表 9-1-4 年齢別 エ. 表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない】



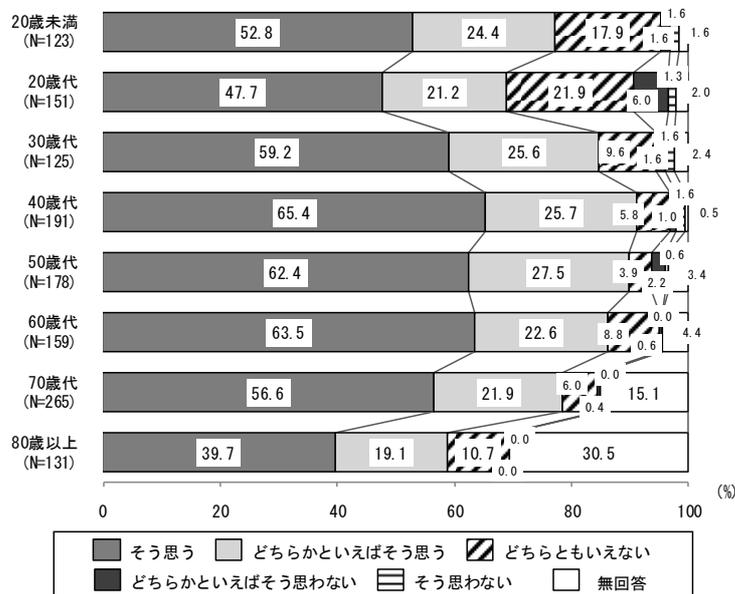
「エ. 表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない」を年齢別で見ると、いずれの年齢も「どちらともいえない」が最も高い割合となっている。70歳代以下の各年齢では“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、40歳代を頂点に年齢が離れるにつれ、その割合は概ね低下傾向にある。80歳代のみ“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。(図表 9-1-4)

【図表 9-1-5 年齢別 オ. 知り得た個人情報、本人の同意を得ずに流すのは許されない】



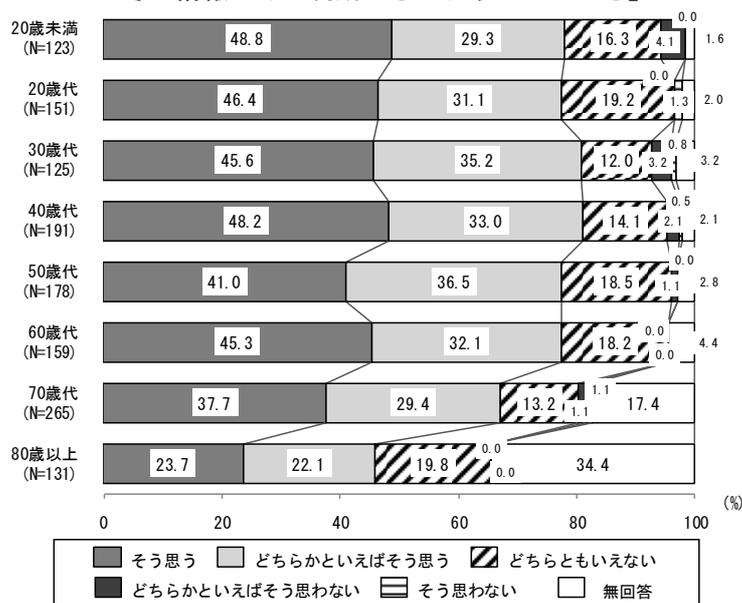
「オ. 知り得た個人情報、本人の同意を得ずに流すのは許されない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、中でも20～50歳代では“そう思う”が9割を占めている。80歳以上は“そう思う”の割合が各年齢で最も低いものの、その割合は半数を超えている。(図表 9-1-5)

【図表 9-1-6 年齢別 カ. 自分の SNS に、友人が写った写真を掲載するときは、友人の承諾を得る必要がある】



「カ. 自分の SNS に、友人が写った写真を掲載するときは、友人の承諾を得る必要がある」を年齢別でみると、全ての年齢で“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、特に40歳代は“そう思う”が9割を占めている。また、20歳代及び80歳以上を除く年齢では「そう思う」が5～6割台となっている。(図表 9-1-6)

【図表 9-1-7 年齢別 キ. さまざまな情報があふれているので、メディア・リテラシーが必要とされているが、自分がインターネットやテレビなどで情報を得たときには、その情報だけで判断しないようにしている】

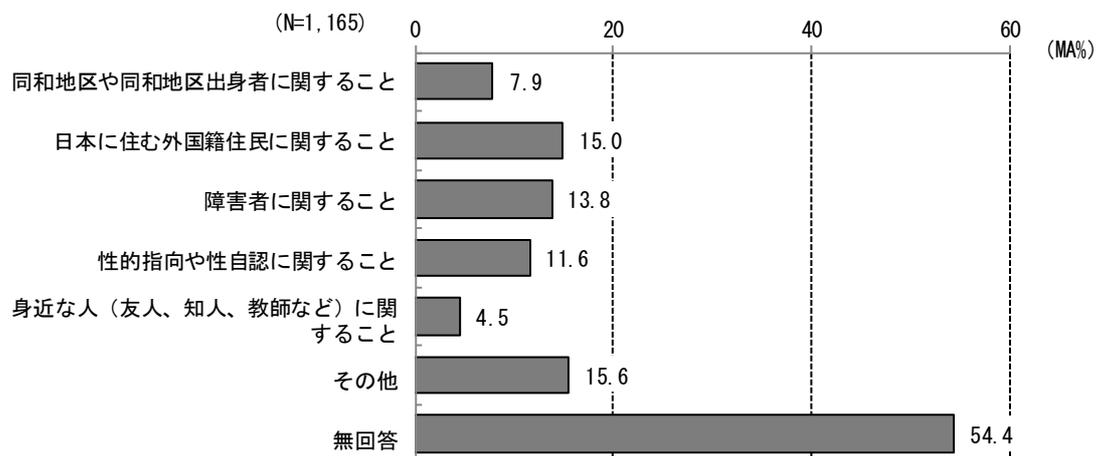


「キ. さまざまな情報があふれているので、メディア・リテラシーが必要とされているが、自分がインターネットやテレビなどで情報を得たときには、その情報だけで判断しないようにしている」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思う”の割合は、80歳以上を除く全ての年齢で6～8割程度となっている。また、“そう思わない”の割合は全ての年齢で5.0%未満となっており、60歳代及び80歳以上では全くみられない。(図表 9-1-7)

(2) インターネット上の誹謗中傷などを助長・誘発する書き込みを目にした経験

問 33 あなたは次のことで、インターネット上で誹謗中傷や差別を助長・誘発する書き込みを見たことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

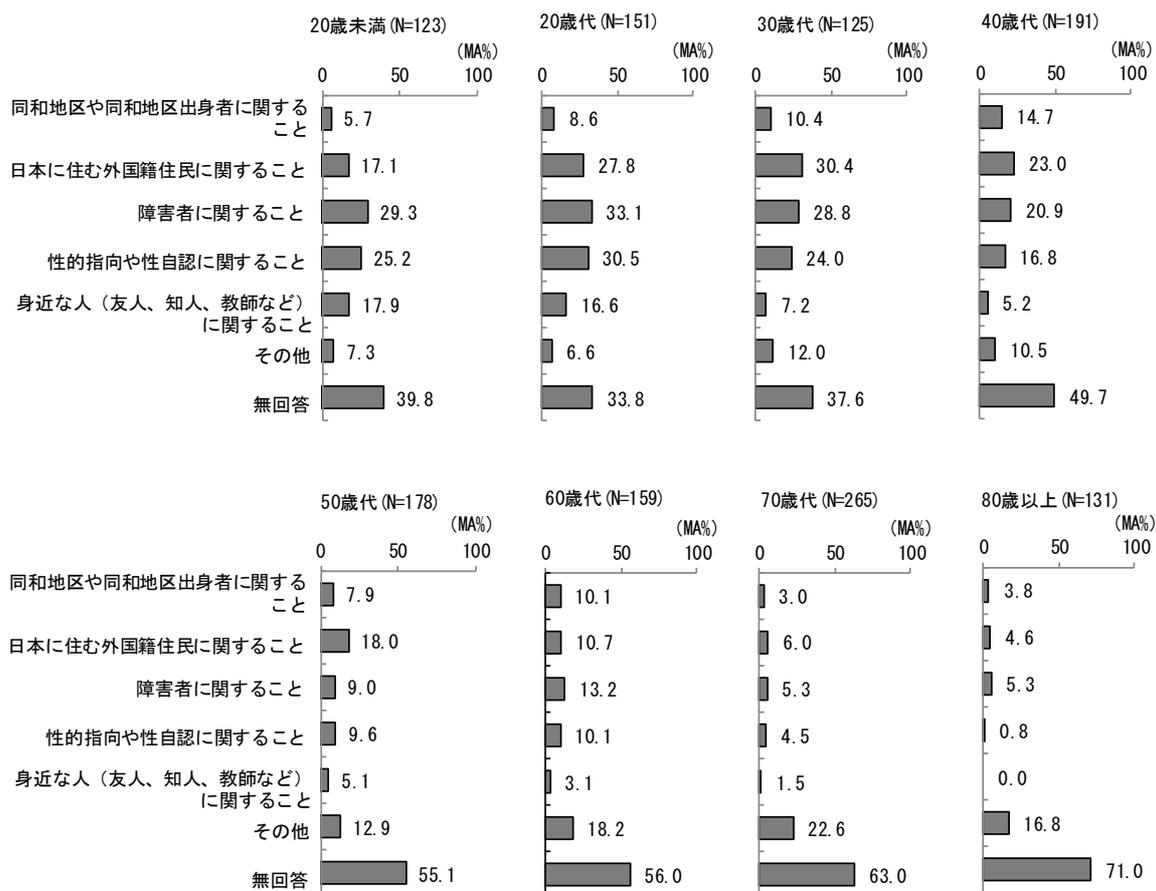
【図表 9-2 インターネット上の誹謗中傷などを助長・誘発する書き込みを目にした経験】



インターネット上の誹謗中傷などを助長・誘発する書き込みを目にした経験については、「日本に住む外国籍住民に関すること」が15.0%と最も高く、次いで「障害者に関すること」が13.8%、「性的指向や性自認に関すること」が11.6%、「同和地区や同和地区出身者に関すること」が7.9%、「身近な人(友人、知人、教師など)に関すること」が4.5%となっている。

なお、「普段インターネットを使用しない、または使用したことがない」、「(そのような書き込みを)目にしたことが無い」といった回答選択肢を本設問に設けなかったことにより、「無回答」(54.4%)、「その他」(15.6%)が高くなっていることに留意が必要である。(図表 9-2)

【図表 9-2-1 年齢別 インターネット上の誹謗中傷などを助長・誘発する書き込みを目にした経験】

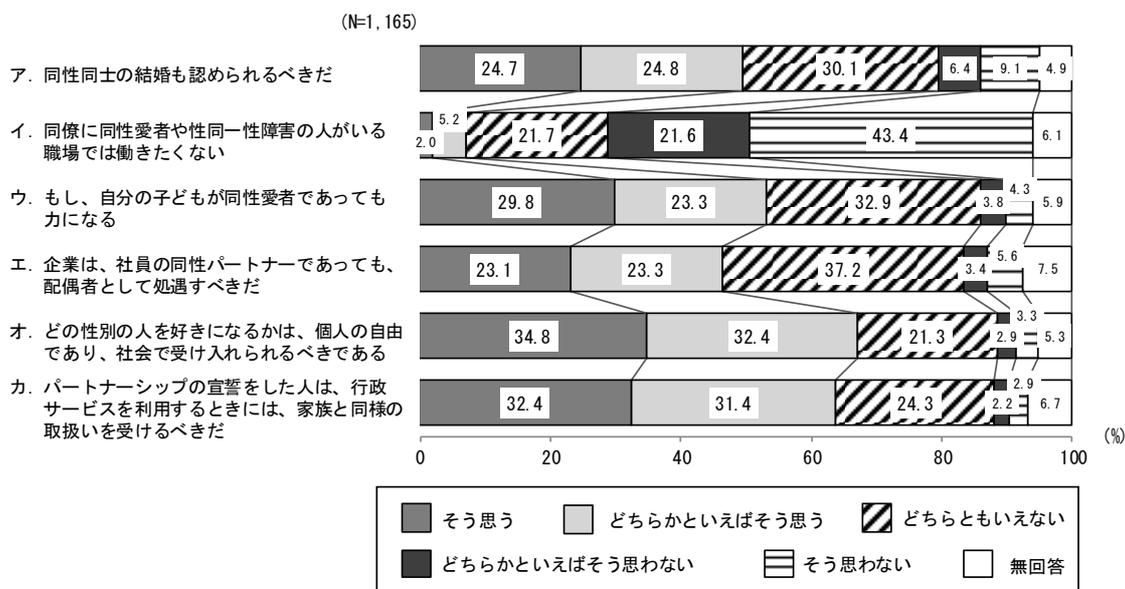


インターネット上の誹謗中傷などを助長・誘発する書き込みを目にした経験を年齢別でみると、いずれの年齢も「無回答」が最も高くなっている。各項目をみると、20歳代以下は「障害者に関する事」が最も高く、30～50歳代は「日本に住む外国籍住民に関する事」が最も高くなっている。50歳以上では「無回答」が5割を超えており、60歳代以上では各項目で「その他」が最も高くなっている。また、70歳代以上は「その他」以外の選択肢の各割合が1割未満となっている。(図表 9-2-1)

(3) 性的指向や性自認についての考え方

問 34 性的指向や性自認に関する次の考え方について、あなたはどのように思いますか。
(それぞれあてはまる番号1つに○)

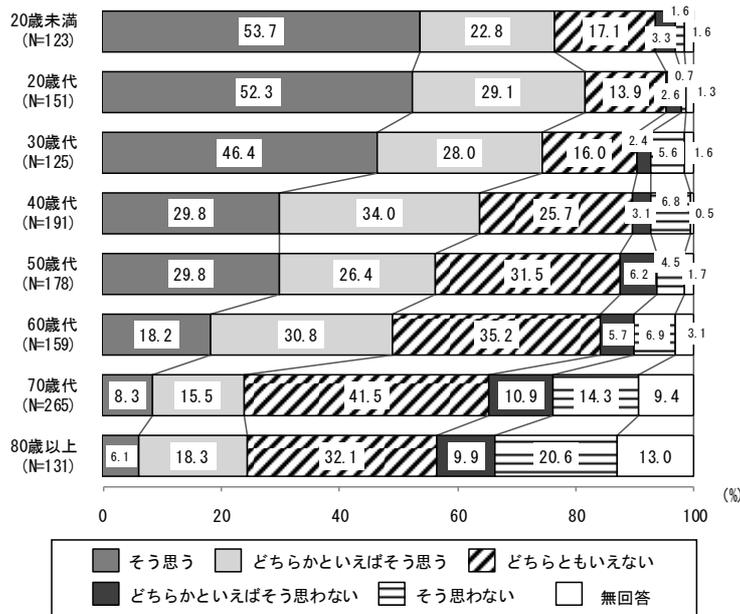
【図表 9-3 性的指向や性自認についての考え方】



性的指向や性自認についての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、割合が高い順に「オ. どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである」（67.2%）、「カ. パートナーシップの宣誓をした人は、行政サービスを利用するときには、家族と同様の取扱いを受けるべきだ」（63.8%）、「ウ. もし、自分の子どもが同性愛者であっても力になる」（53.1%）、「ア. 同性同士の結婚も認められるべきだ」（49.5%）、「エ. 企業は、社員の同性パートナーであっても、配偶者として処遇すべきだ」（46.4%）となっている。

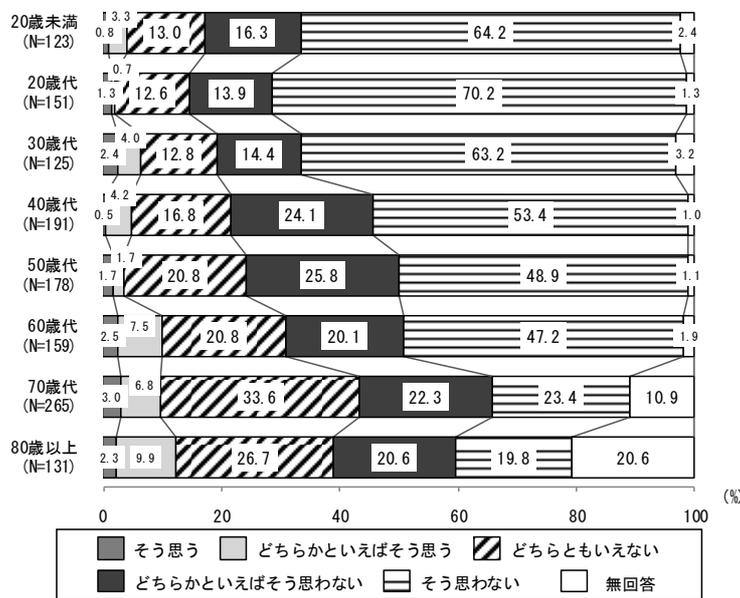
“そう思わない”が“そう思う”を上回る項目は、「イ. 同僚に同性愛者や性同一性障害の人がいる職場では働きたくない」（65.0%）のみとなっている。（図表 9-3）

【図表 9-3-1 年齢別 ア. 同性同士の結婚も認められるべきだ】



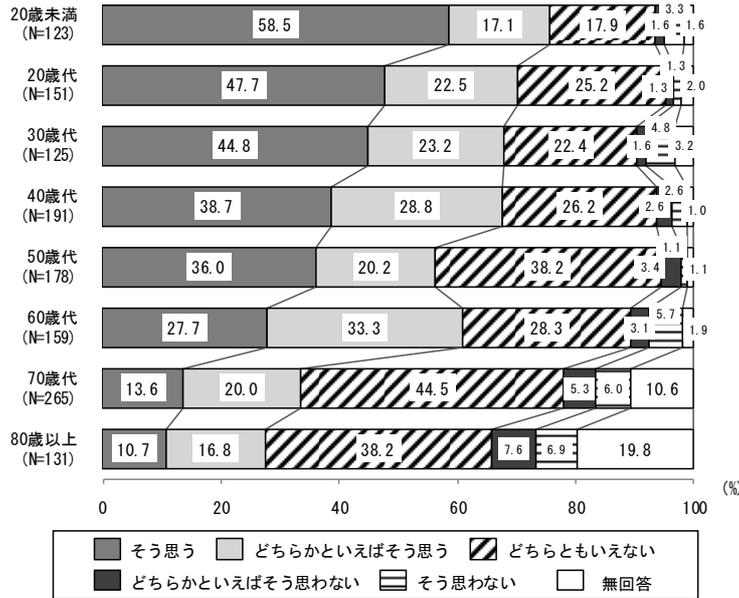
「ア. 同性同士の結婚も認められるべきだ」を年齢別で見ると、60歳代以下の年齢では“そう思う”が“そう思わない”を大幅に上回っている。中でも、20歳代は“そう思う”が8割と高い。70歳代以上では、“そう思わない”が“そう思う”を上回っているが、その差は約6ポイント以内となっている。(図表 9-3-1)

【図表 9-3-2 年齢別 イ. 同僚に同性愛者や性同一性障害の人がいる職場では働きたくない】



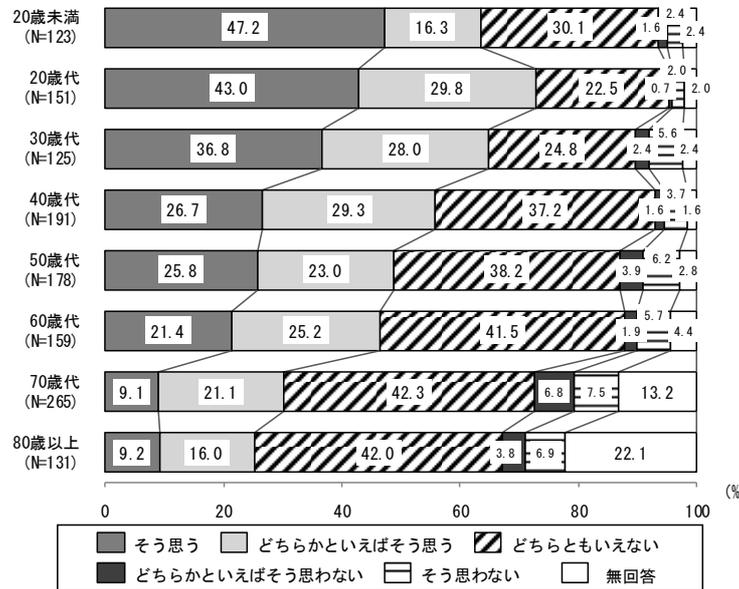
「イ. 同僚に同性愛者や性同一性障害の人がいる職場では働きたくない」を年齢別で見ると、全ての年齢で“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、“そう思う”は1割以下となっている。“そう思わない”が最も高い年齢は20歳代で、20歳以上では年齢が上がるにつれ“そう思わない”の割合が低下している。(図表 9-3-2)

【図表 9-3-3 年齢別 ウ.もし、自分の子どもが同性愛者であっても力になる】



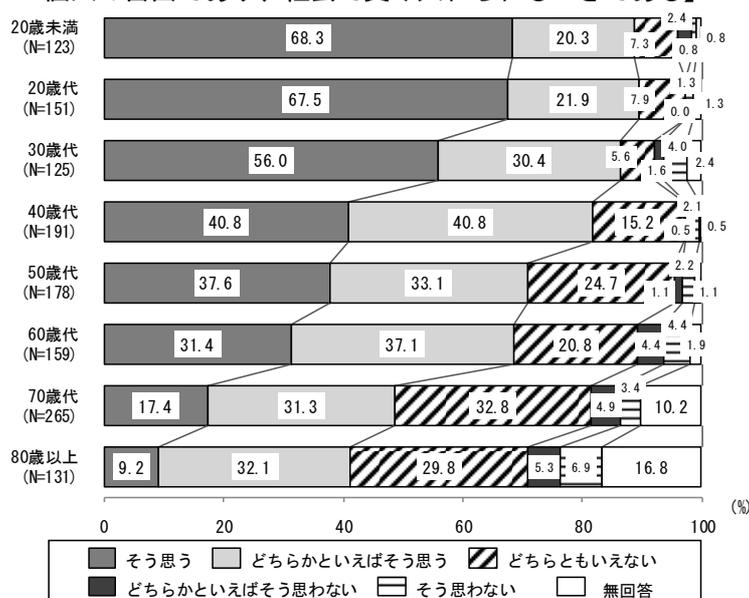
「ウ.もし、自分の子どもが同性愛者であっても力になる」を年齢別で見ると、全ての年齢で“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。また、「そう思う」の割合は、年齢が下がるにつれ高くなっており、20歳未満では58.5%、80歳以上では10.7%となっている。(図表 9-3-3)

【図表 9-3-4 年齢別 エ.企業は、社員の同性パートナーであっても、配偶者として処遇すべきだ】



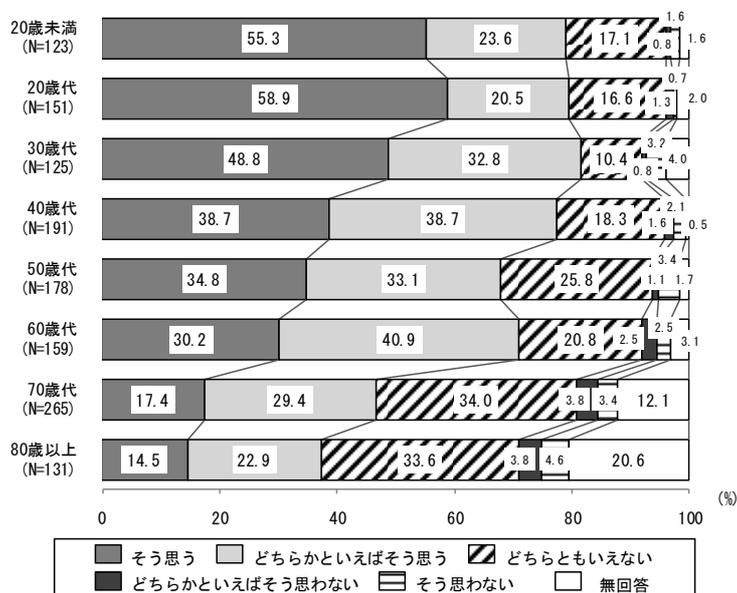
「エ.企業は、社員の同性パートナーであっても、配偶者として処遇すべきだ」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”に比べ高くなっており、40歳代以下では“そう思う”が過半数を占めている。また、“そう思う”の割合は20歳代を頂点に年齢が離れるにつれ低下しているが、“そう思う”の割合は年齢が下がるにつれ高くなっている。(図表 9-3-4)

【図表 9-3-5 年齢別 オ. どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである】



「オ. どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、40歳代以下は“そう思う”が8割台となっている。“そう思う”が最も低いのは80歳以上であるが、“そう思わない”とは29.1ポイントの差がみられる。(図表 9-3-5)

【図表 9-3-6 年齢別 カ. パートナーシップの宣誓をした人は、行政サービスを利用するときには、家族と同様の取扱いを受けるべきだ】



「カ. パートナーシップの宣誓をした人は、行政サービスを利用するときには、家族と同様の取扱いを受けるべきだ」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、60歳代及び40歳代以下は“そう思う”が7割以上みられる。70歳以上は“そう思う”が半数を下回っており、60歳代以下と70歳以上で“そう思う”の割合は20ポイント以上の差がある。(図表 9-3-6)

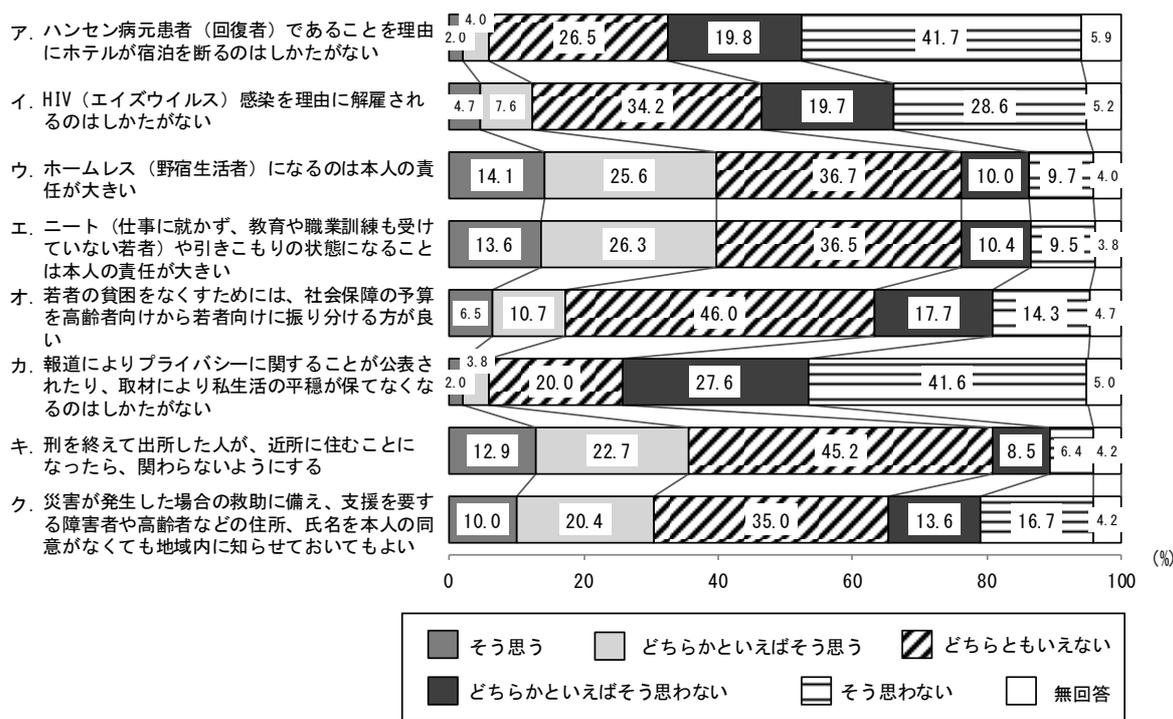
(4) さまざまな人権問題についての考え方

問35 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

【図表 9-4 様々な人権問題についての考え方】

(N=1,165)

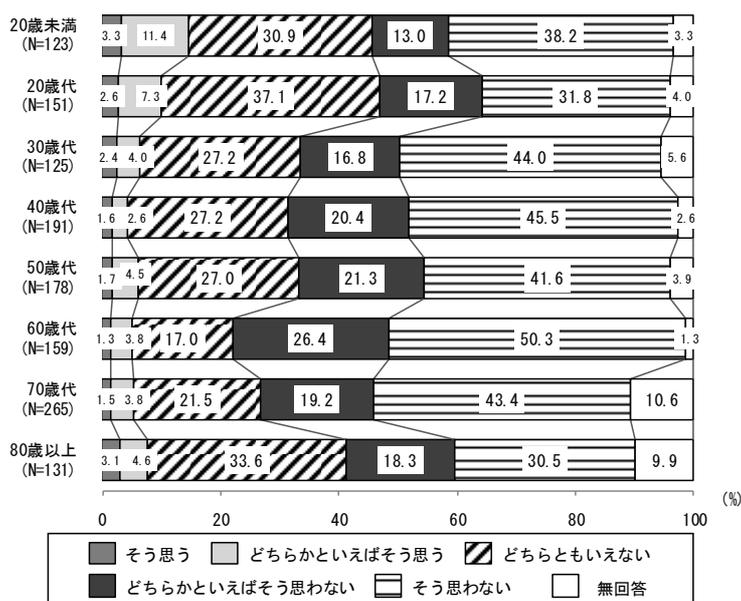


様々な人権問題についての考え方で、「そう思う」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、「エ. ニート（仕事に就かず、教育や職業訓練も受けていない若者）や引きこもりの状態になることは本人の責任が大きい」（39.9%）、「ウ. ホームレス（野宿生活者）になるのは本人の責任が大きい」（39.7%）、「キ. 刑を終えて出所した人が、近所に住むことになったら、関わらないようにする」（35.6%）となっている。

“そう思わない”が“そう思う”を上回る項目は、「カ. 報道によりプライバシーに関することが公表されたり、取材により私生活の平穏が保てなくなるのはしかたがない」（69.2%）、「ア. ハンセン病患者（回復者）であることを理由にホテルが宿泊を断るのはしかたがない」（61.5%）、「イ. HIV（エイズウイルス）感染を理由に解雇されるのはしかたがない」（48.3%）、「オ. 若者の貧困をなくすためには、社会保障の予算を高齢者向けから若者向けに振り分ける方がよい」（32.0%）となっている。

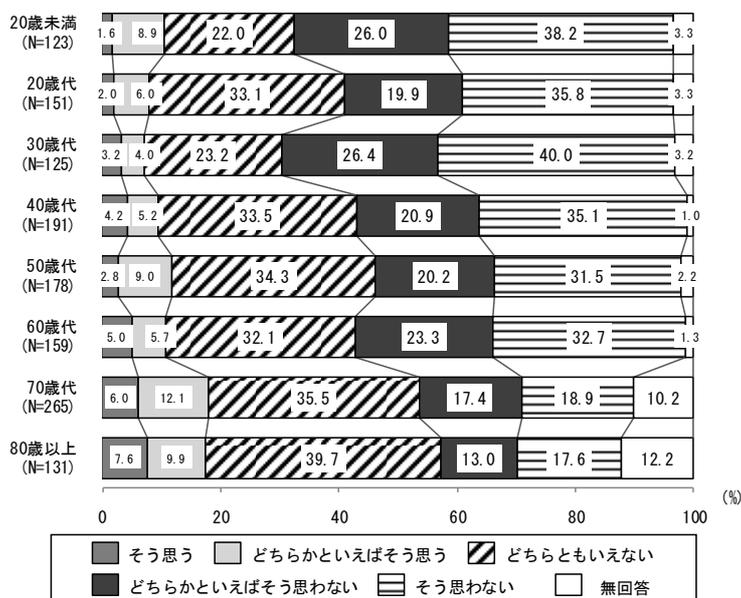
「ク. 災害が発生した場合の救助に備え、支援を要する障害者や高齢者などの住所、氏名を本人の同意がなくても地域内に知らせておいてもよい」は、「そう思う」（30.4%）と「そう思わない」（30.3%）の割合がほぼ同様となっている。（図表 9-4）

【図表 9-4-1 年齢別 ア.ハンセン病元患者（回復者）であることを理由にホテルが宿泊を断るのはしかたがない】



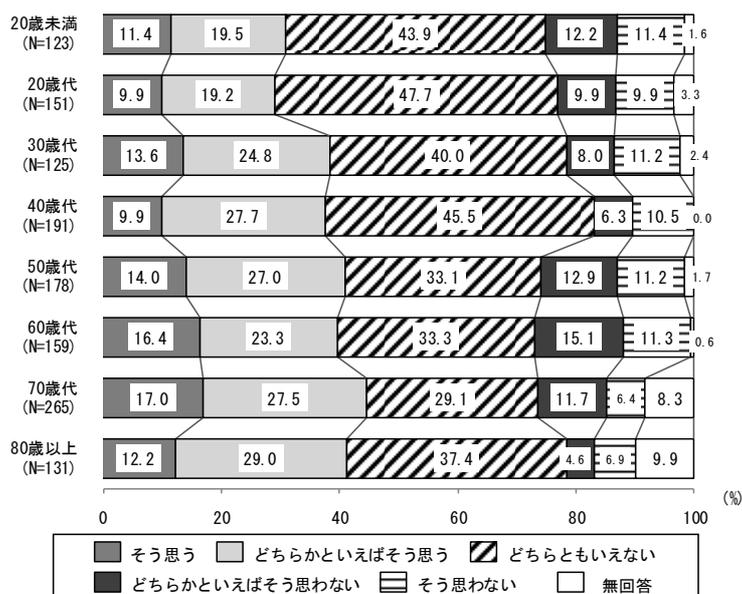
「ア.ハンセン病元患者（回復者）であることを理由にホテルが宿泊を断るのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。また、30～70歳代では「そう思わない」が4～5割を占めている。また、20歳以上は“そう思う”が1割未満だが、20歳未満のみ“そう思う”が14.7%となっている。（図表 9-4-1）

【図表 9-4-2 年齢別 イ.HIV（エイズウイルス）感染を理由に解雇されるのはしかたがない】



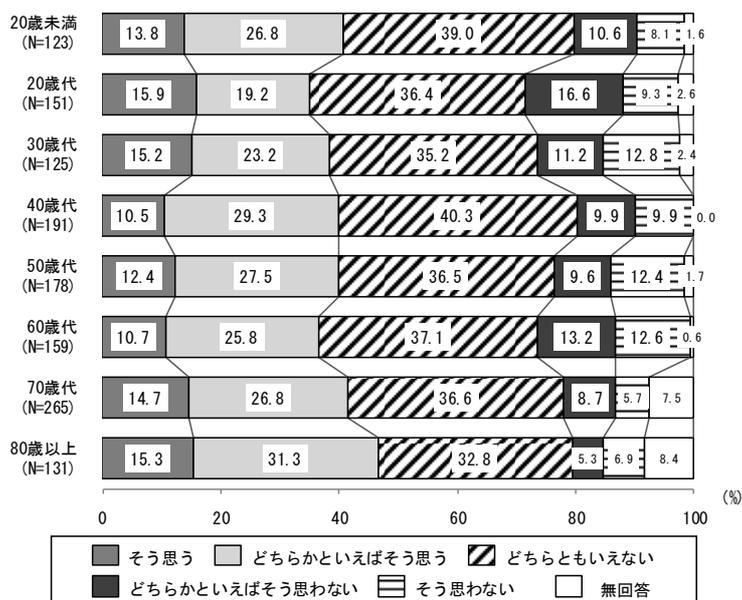
「イ.HIV（エイズウイルス）感染を理由に解雇されるのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”の割合は60歳代以下では5～6割、70歳代以上では3割台となっている。（図表 9-4-2）

【図表 9-4-3 年齢別 ウ. ホームレス（野宿生活者）になるのは本人の責任が大きい】



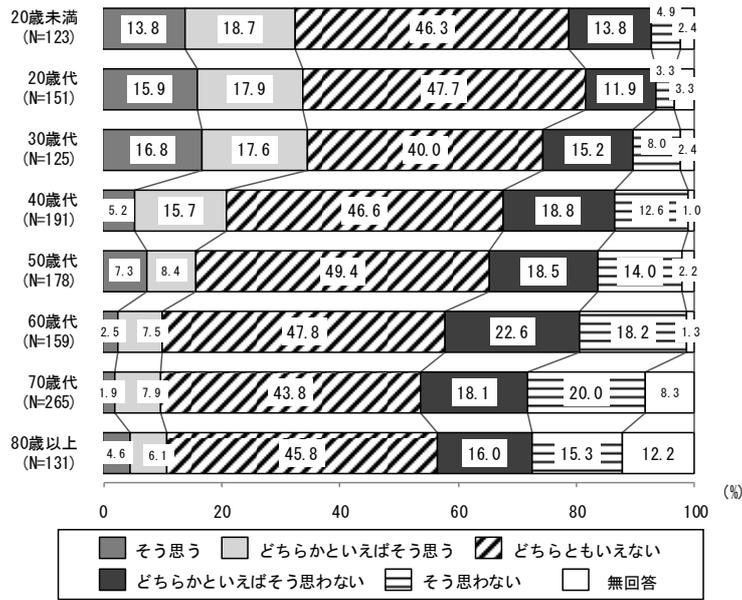
「ウ. ホームレス（野宿生活者）になるのは本人の責任が大きい」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。“そう思う”は20歳代（29.1%）で最も低く、70歳代（44.5%）で最も高い。また、“そう思わない”は60歳代（26.4%）で最も高く、80歳以上（11.5%）で最も低くなっている。（図表 9-4-3）

【図表 9-4-4 年齢別 エ. ニート（仕事に就かず、教育や職業訓練も受けていない若者）や引きこもりの状態になることは本人の責任が大きい】



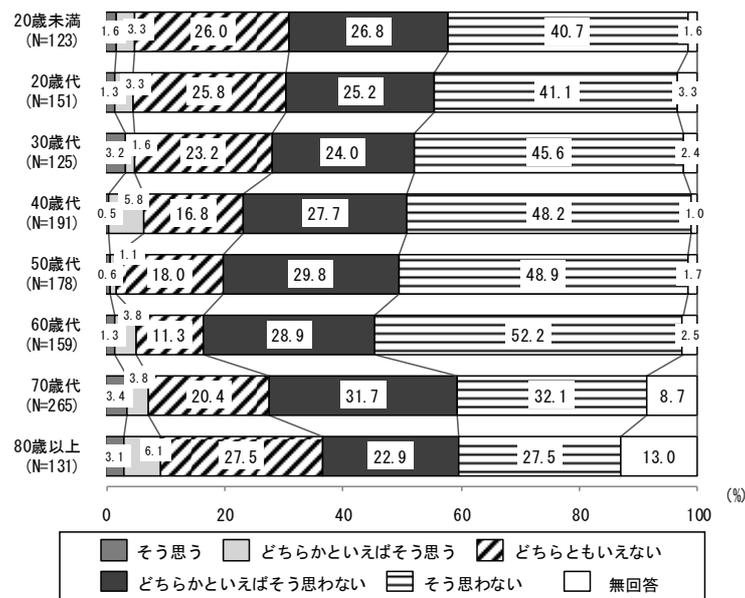
「エ. ニート（仕事に就かず、教育や職業訓練も受けていない若者）や引きこもりの状態になることは本人の責任が大きい」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、いずれの年齢も“そう思う”の割合は4割前後となっている。（図表 9-4-4）

【図表 9-4-5 年齢別 オ. 若者の貧困をなくすためには、
社会保障の予算を高齢者向けから若者向けに振り分ける方が良い】



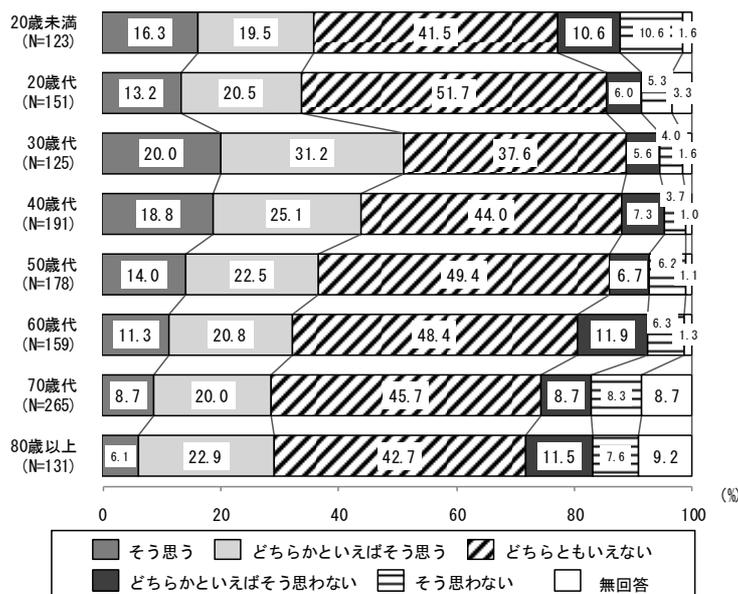
「オ. 若者の貧困をなくすためには、社会保障の予算を高齢者向けから若者向けに振り分ける方が良い」を年齢別でみると、30歳代以下では“そう思う”が“そう思わない”を上回っているが、40歳代以上では“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。特に60歳代は、“そう思わない”が40.8%と他の年齢に比べ高くなっている。(図表 9-4-5)

【図表 9-4-6 年齢別 カ. 報道によりプライバシーに関することが公表されたり、
取材により私生活の平穏が保てなくなるのはしかたがない】



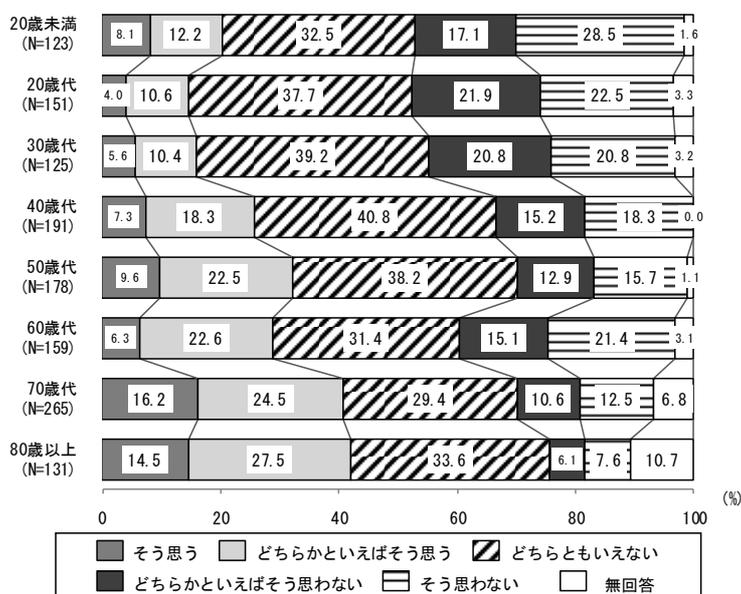
「カ. 報道によりプライバシーに関することが公表されたり、取材により私生活の平穏が保てなくなるのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、“そう思わない”は60歳代を頂点に年齢が離れるにつれ低くなっている。(図表 9-4-6)

【図表 9-4-7 年齢別 キ. 刑を終えて出所した人が、近所に住むことになったら、関わらないようにする】



「キ. 刑を終えて出所した人が、近所に住むことになったら、関わらないようにする」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っている。中でも30歳代は“そう思う”が51.2%と過半数を占めている。“そう思わない”は、20歳未満が21.2%と最も高い。(図表 9-4-7)

【図表 9-4-8 年齢別 ク. 災害が発生した場合の救助に備え、支援を要する障害者や高齢者などの住所、氏名を本人の同意がなくても地域内に知らせておいてもよい】

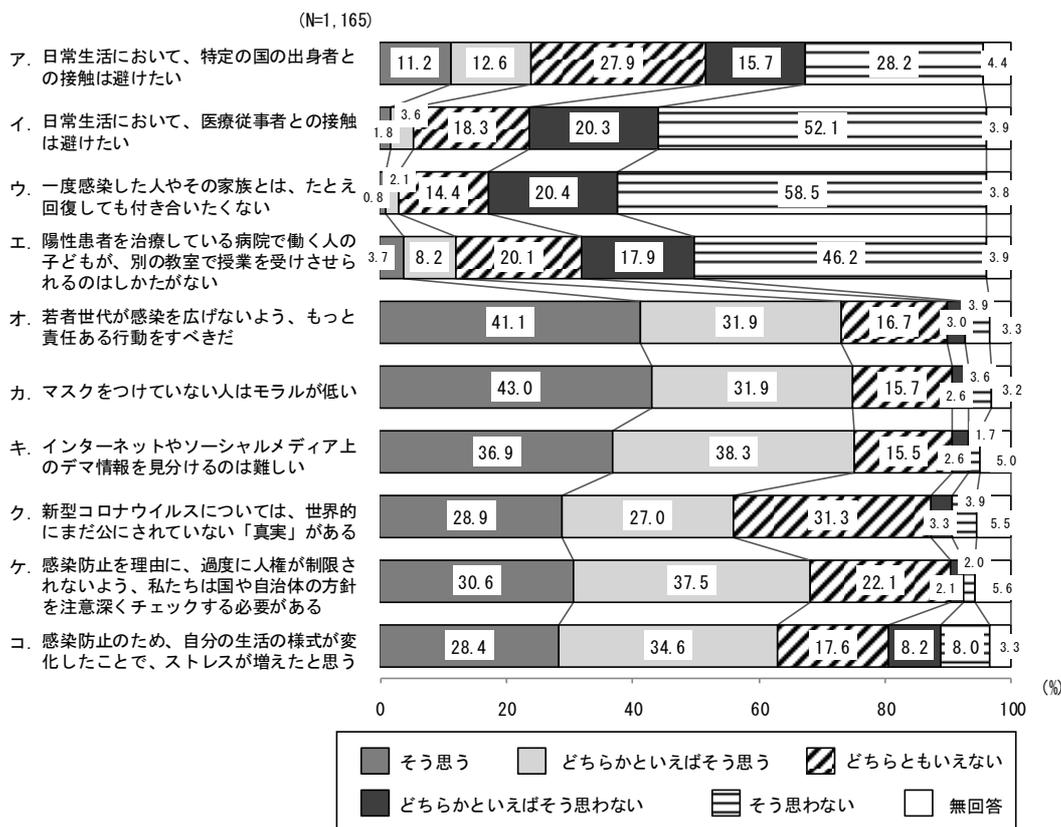


「ク. 災害が発生した場合の救助に備え、支援を要する障害者や高齢者などの住所、氏名を本人の同意がなくても地域内に知らせておいてもよい」を年齢別でみると、“そう思う”が“そう思わない”を上回るのは、50歳代及び70歳以上となっている。“そう思わない”は20歳未満で最も高い。(図表 9-4-8)

(5) 新型コロナウイルスについての考え方

問 36 新型コロナウイルスに関して以下のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。
(それぞれあてはまる番号1つに○)

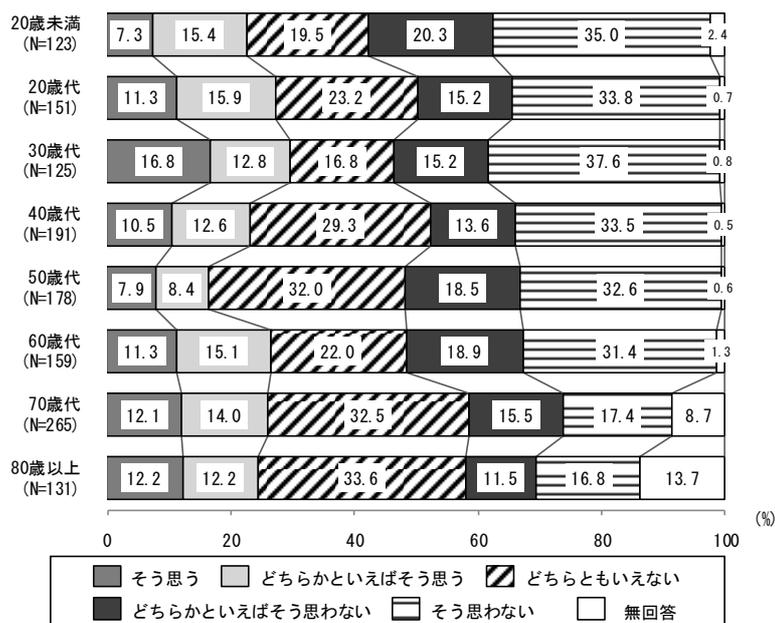
【図表 9-5 新型コロナウイルスについての考え方】



新型コロナウイルスについての考え方で、“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数）を上回る項目は、割合が高い順に「キ. インターネットやソーシャルメディア上のデマ情報を見分けるのは難しい」（75.2%）、「カ. マスクをつけていない人はモラルが低い」（74.9%）、「オ. 若者世代が感染を広げないよう、もっと責任ある行動をすべきだ」（73.0%）、「ケ. 感染防止を理由に、過度に人権が制限されないよう、私たちは国や自治体の方針を注意深くチェックする必要がある」（68.1%）、「コ. 感染防止のため、自分の生活の様式が変化したことで、ストレスが増えたと思う」（63.0%）「ク. 新型コロナウイルスについては、世界的にまだ公にされていない「真実」がある」（55.9%）となっている。

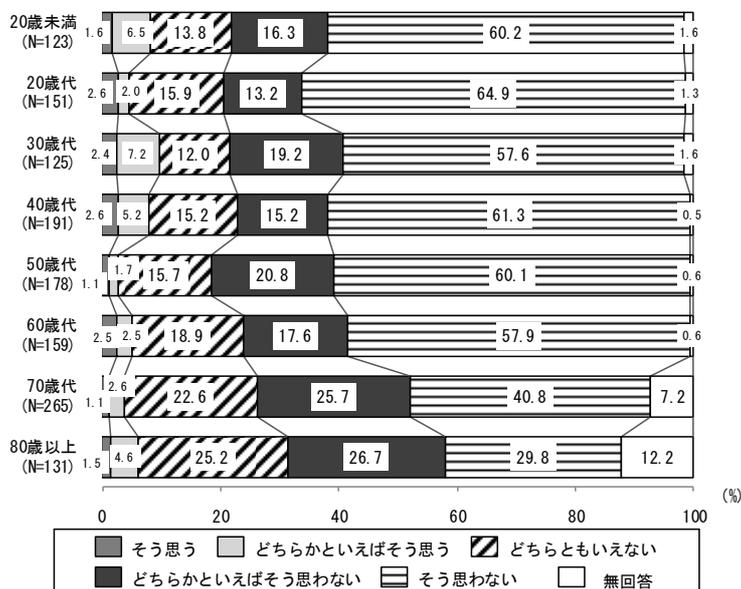
“そう思わない”が“そう思う”を上回る項目は、割合が高い順に「ウ. 一度感染した人やその家族とは、たとえ回復しても付き合いたくない」（78.9%）、「イ. 日常生活において、医療従事者との接触は避けたい」（72.4%）、「エ. 陽性患者を治療している病院で働く人の子どもが、別の教室で授業を受けさせられるのはしかたがない」（64.1%）、「ア. 日常生活において、特定の国の出身者との接触は避けたい」（43.9%）となっている。（図表 9-5）

【図表 9-5-1 年齢別 ア. 日常生活において、特定の国の出身者との接触は避けたい】



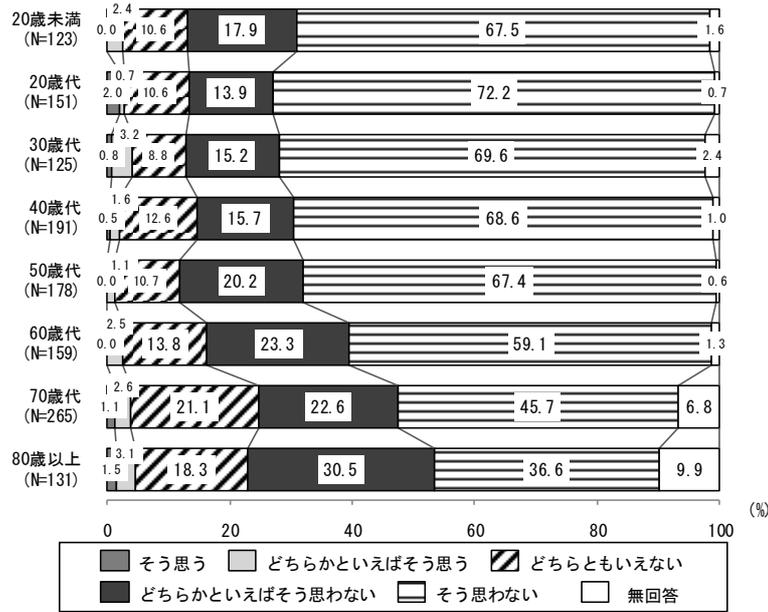
「ア. 日常生活において、特定の国の出身者との接触は避けたい」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っている。“そう思わない”は20歳未満で最も高く、80歳代で最も低い。“そう思う”は30歳代で最も高く、50歳代で最も低い。(図表 9-5-1)

【図表 9-5-2 年齢別 イ. 日常生活において、医療従事者との接触は避けたい】



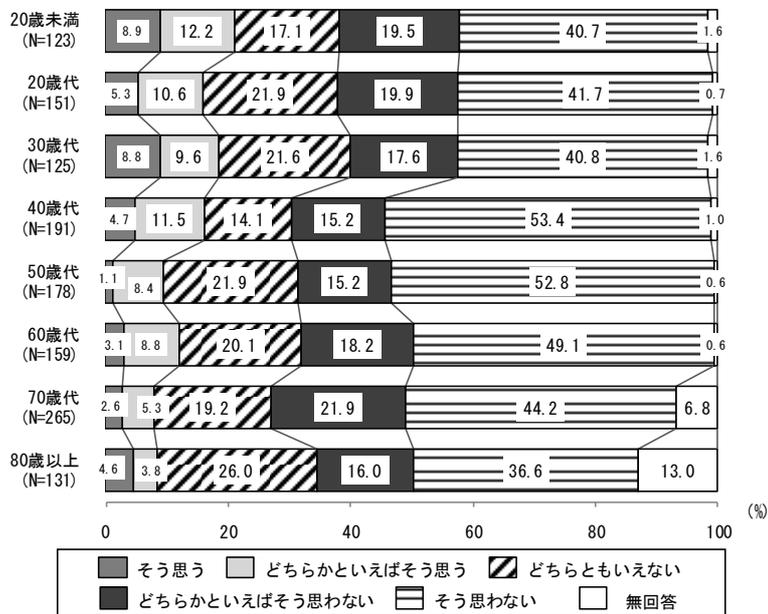
「イ. 日常生活において、医療従事者との接触は避けたい」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、“そう思う”は各年齢とも1割未満である。“そう思わない”が最も高いのは50歳代で、最も低いのは80歳以上であるが、いずれの年齢も半数を超えている。(図表 9-5-2)

【図表 9-5-3 年齢別 ウ. 一度感染した人やその家族とは、たとえ回復しても付き合いたくない】



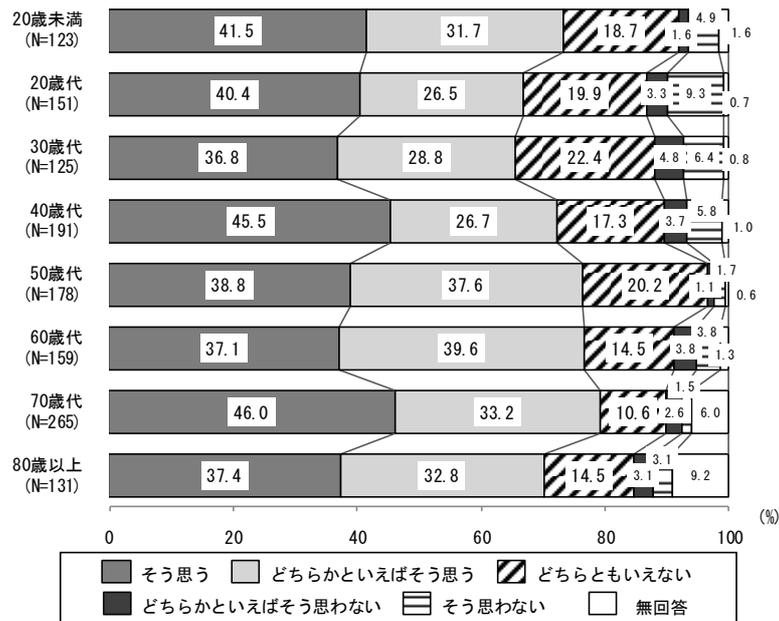
「ウ. 一度感染した人やその家族とは、たとえ回復しても付き合いたくない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、“そう思う”の割合は5.0%未満となっている。“そう思わない”の割合は、60歳代以下では8割台、70歳以上では6割台である。(図表 9-5-3)

【図表 9-5-4 年齢別 エ. 陽性患者を治療している病院で働く人の子どもが、別の教室で授業を受けさせられるのはしかたがない】



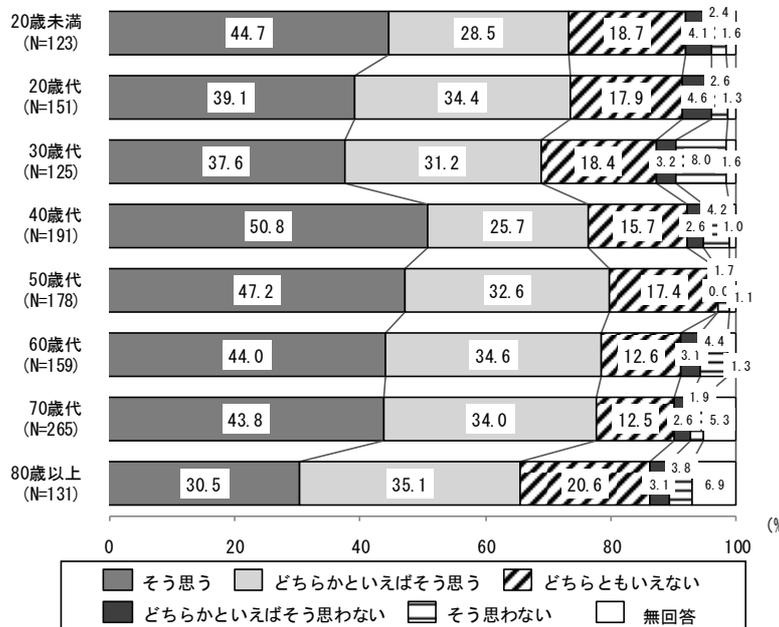
「エ. 陽性患者を治療している病院で働く人の子どもが、別の教室で授業を受けさせられるのはしかたがない」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思わない”が“そう思う”を上回っており、“そう思わない”の割合は5～6割程度となっている。“そう思う”は20歳未満で約2割と最も高い。(図表 9-5-4)

【図表 9-5-5 年齢別 オ. 若者世代が感染を広げないよう、もっと責任ある行動をすべきだ】



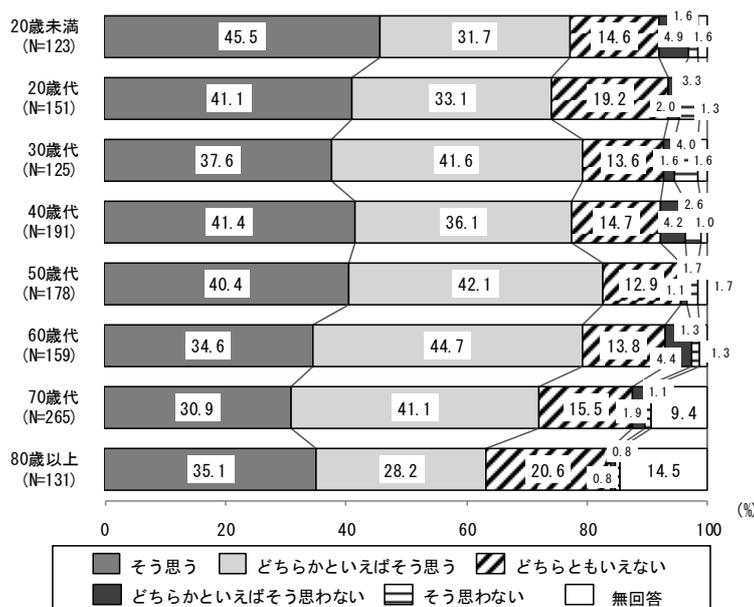
「オ. 若者世代が感染を広げないよう、もっと責任ある行動をすべきだ」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、20～30歳代は6割台、それ以外の年齢では7割台となっている。“そう思わない”は20～30歳代では1割程度みられるが、それ以外の年齢では1割未満となっている。(図表 9-5-5)

【図表 9-5-6 年齢別 カ. マスクをつけていない人はモラルが低い】



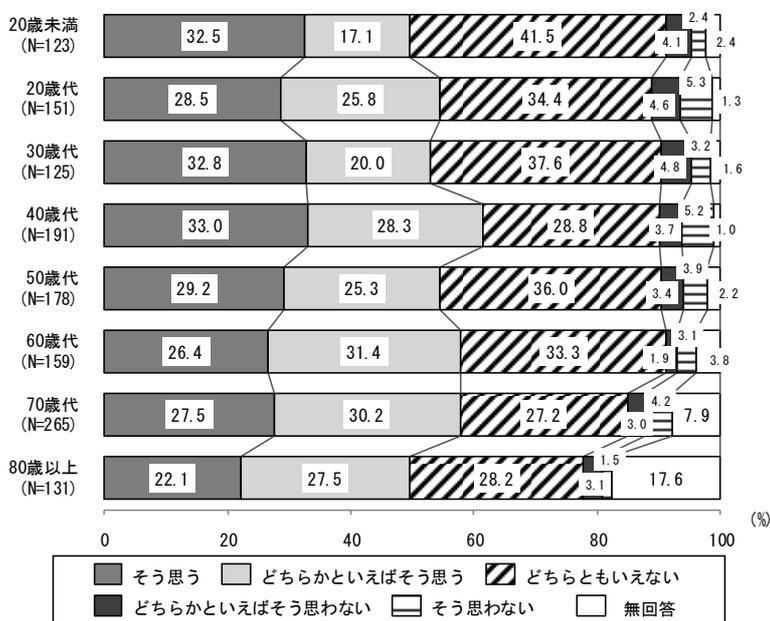
「カ. マスクをつけていない人はモラルが低い」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思う”の割合は6～7割台となっている。“そう思わない”は、30歳代は約1割みられるものの、それ以外の年齢では1割未満となっている。(図表 9-5-6)

【図表 9-5-7 年齢別 キ. インターネットやソーシャルメディア上のデマ情報を見分けるのは難しい】



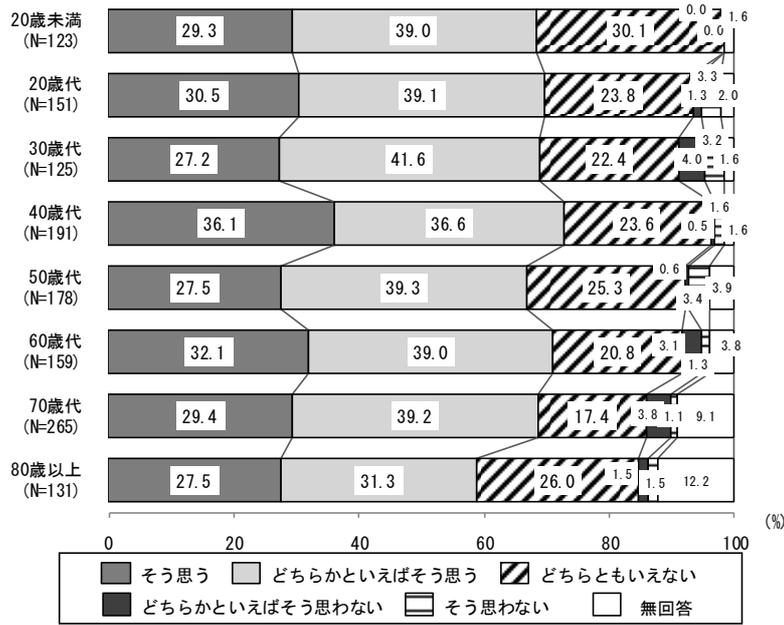
「キ. インターネットやソーシャルメディア上のデマ情報を見分けるのは難しい」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思わない”は1割未満となっている。“そう思う”は50歳代で最も高く、80歳以上で最も低い。(図表 9-5-7)

【図表 9-5-8 年齢別 ク. 新型コロナウイルスについては、世界的にまだ公にされていない「真実」がある】



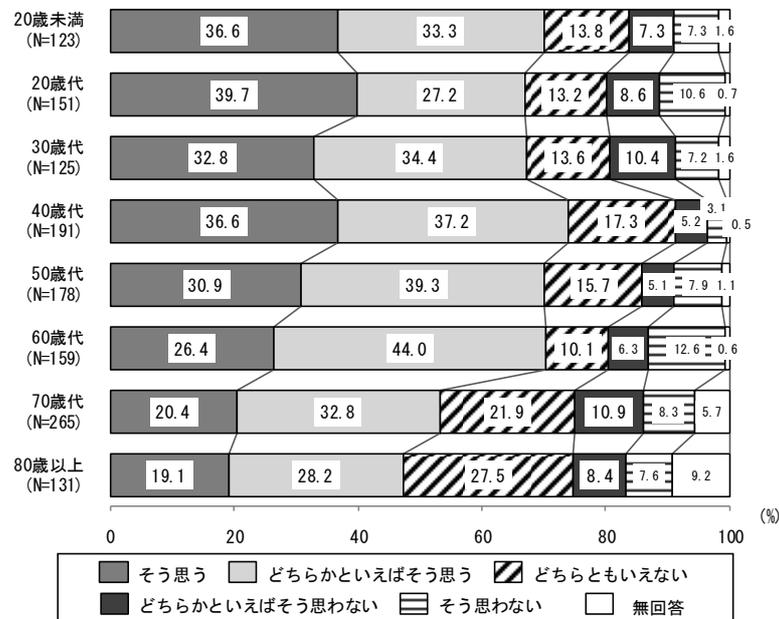
「ク. 新型コロナウイルスについては、世界的にまだ公にされていない「真実」がある」を年齢別でみると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、20～70歳代では“そう思う”が過半数を占めている。また、“そう思わない”はいずれの年齢も1割未満となっている。(図表 9-5-8)

【図表 9-5-9 年齢別 ケ. 感染防止を理由に、過度に人権が制限されないよう、
私たちは国や自治体の方針を注意深くチェックする必要がある】



「ケ. 感染防止を理由に、過度に人権が制限されないよう、私たちは国や自治体の方針を注意深くチェックする必要がある」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、全ての年齢で概ね6割以上となっている。また、“そう思わない”はいずれの年齢も1割未満で、中でも20歳未満では0.0%と全く見られない。(図表 9-5-9)

【図表 9-5-10 年齢別 コ. 感染防止のため、自分の生活の様式が変化したことで、ストレスが増えたと思う】



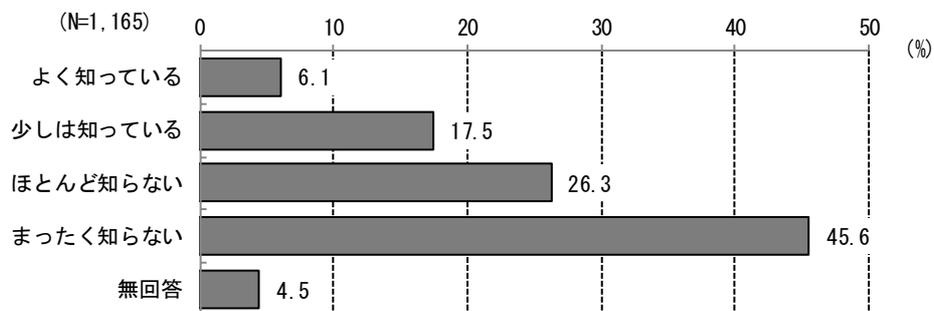
「コ. 感染防止のため、自分の生活の様式が変化したことで、ストレスが増えたと思う」を年齢別で見ると、いずれの年齢も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、60歳代以下では7割前後となっている。“そう思わない”は40歳代のみ1割未満で、それ以外の年齢は1割台となっている。(図表 9-5-10)

(6) SDGs (持続可能な開発目標) の認知状況

問37 あなたはSDGs (持続可能な開発目標) のことを知っていますか。

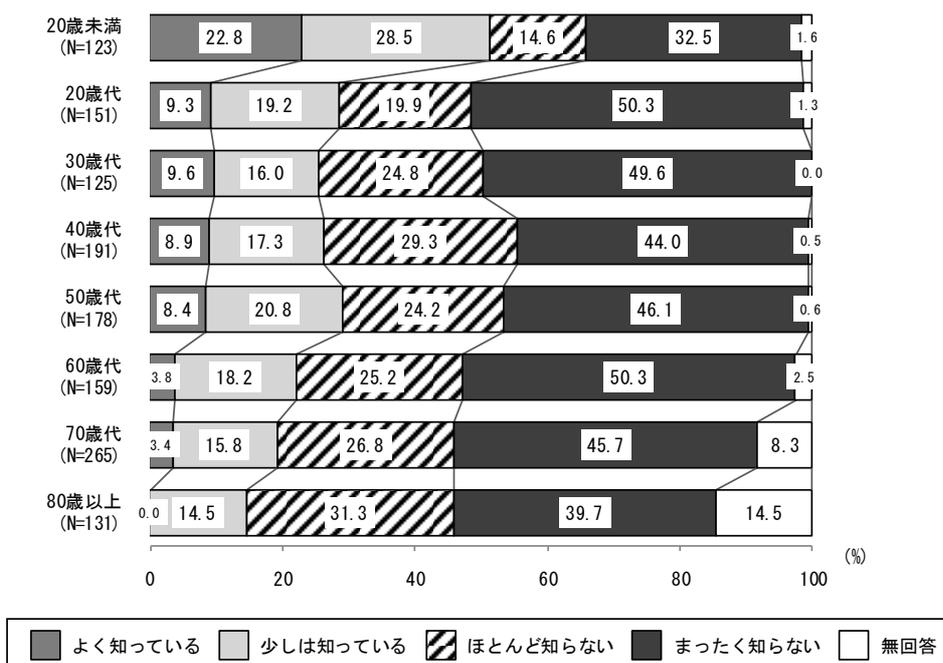
(あてはまる番号1つに○)

【図表 9-6 SDGs (持続可能な開発目標) の認知状況】



SDGs (持続可能な開発目標) の認知状況については、「まったく知らない」が45.6%と最も高く、次いで「ほとんど知らない」が26.3%、「少しは知っている」が17.5%、「よく知っている」が6.1%となっており、“知らない”(「ほとんど知らない」と「まったく知らない」を合わせた数)が“知っている”(「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた数)を大幅に上回っている。(図表 9-6)

【図表 9-6-1 年齢別 SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況】

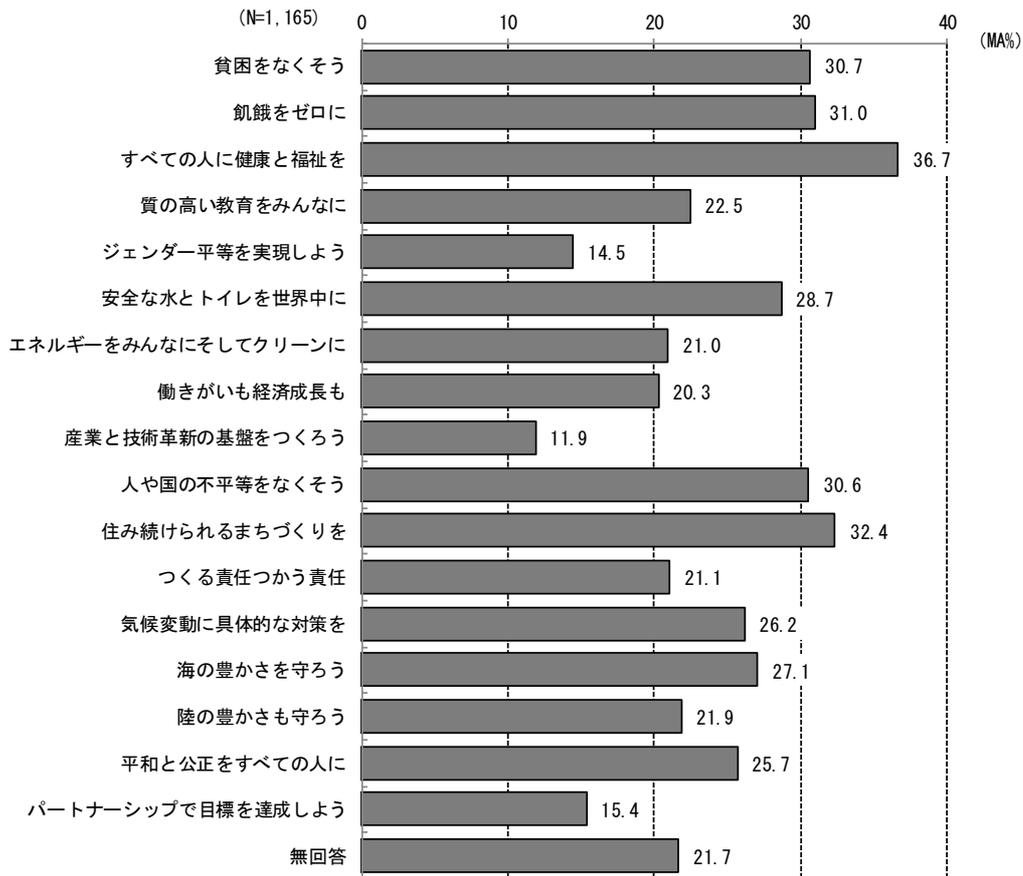


SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況を年齢別で見ると、“知っている”が“知らない”を上回ったのは20歳未満のみで、その他の年齢は“知らない”が多数派となっている。また、20歳未満においても“知っている”と“知らない”の差は4.2ポイントと大きな差は開いていない。20歳以上の“知っている”割合は、20～60歳代で2割台、70歳以上で1割台となっている。（図表 9-6-1）

(7) SDGs の目標に繋がっていると思う普段の行動

問 38 SDGs では、下記の 17 のゴールを目標としています。
 あなたが普段の行動の中で、SDGs の目標につながっていると思われるものはどれですか。
 (あてはまる番号すべてに○)

【図表 9-7 SDGs の目標に繋がっていると思う普段の行動】



SDGs の目標に繋がっていると思う普段の行動について、割合が高い上位 5 項目は「すべての人に健康と福祉を」が 36.7%と最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」が 32.4%、「飢餓をゼロに」が 31.0%、「貧困をなくそう」が 30.7%、「人や国の不平等をなくそう」が 30.6%となっている。(図表 9-7)

【図表 9-7-1 年齢別 SDGs の目標に繋がっていると思う普段の行動】

	回答者数	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう	無回答	
上段：回答者数 (人)	123	30	23	27	24	32	26	24	14	6	36	36	28	19	38	31	31	11	28	
下段：構成比率 (%)	100.0	24.4	18.7	22.0	19.5	26.0	21.1	19.5	11.4	4.9	29.3	29.3	22.8	15.4	30.9	25.2	25.2	8.9	22.8	
年齢別	20歳未満	123	30	23	27	24	32	26	24	14	6	36	36	28	19	38	31	31	11	28
	20歳代	151	38	28	49	24	39	27	16	25	12	45	39	35	20	35	31	38	26	30
		100.0	25.2	18.5	32.5	15.9	25.8	17.9	10.6	16.6	7.9	29.8	25.8	23.2	13.2	23.2	20.5	25.2	17.2	19.9
	30歳代	125	28	29	42	26	23	20	21	26	16	29	33	26	17	32	25	23	17	34
		100.0	22.4	23.2	33.6	20.8	18.4	16.0	16.8	20.8	12.8	23.2	26.4	20.8	13.6	25.6	20.0	18.4	13.6	27.2
	40歳代	191	62	66	65	53	33	53	44	61	27	62	61	45	42	48	39	46	31	34
		100.0	32.5	34.6	34.0	27.7	17.3	27.7	23.0	31.9	14.1	32.5	31.9	23.6	22.0	25.1	20.4	24.1	16.2	17.8
	50歳代	178	48	50	59	36	28	52	43	33	23	49	57	42	45	44	30	42	25	27
		100.0	27.0	28.1	33.1	20.2	15.7	29.2	24.2	18.5	12.9	27.5	32.0	23.6	25.3	24.7	16.9	23.6	14.0	15.2
60歳代	159	59	63	62	33	16	49	34	33	13	49	54	30	48	49	40	40	20	28	
	100.0	37.1	39.6	39.0	20.8	10.1	30.8	21.4	20.8	8.2	30.8	34.0	18.9	30.2	30.8	25.2	25.2	12.6	17.6	
70歳代	265	99	101	123	72	33	98	68	50	44	93	99	58	111	80	65	87	47	56	
	100.0	37.4	38.1	46.4	27.2	12.5	37.0	25.7	18.9	16.6	35.1	37.4	21.9	41.9	30.2	24.5	32.8	17.7	21.1	
80歳以上	131	37	30	45	24	14	38	23	23	9	39	47	19	31	36	35	32	24	47	
	100.0	28.2	22.9	34.4	18.3	10.7	29.0	17.6	17.6	6.9	29.8	35.9	14.5	23.7	27.5	26.7	24.4	18.3	35.9	

SDGs の目標に繋がっていると思う普段の行動についてを年齢別で見ると、20～30 歳代、50 歳代、70 歳代は「すべての人に健康と福祉を」が最も高く、40 歳代及び60 歳代は「飢餓をゼロに」、20 歳未満は「海の豊かさを守ろう」、80 歳以上は「住み続けられるまちづくりを」がそれぞれ最も高くなっている。70 歳代は他の年齢に比べ多くの項目が高い割合となっている。(図表 9-7-1)

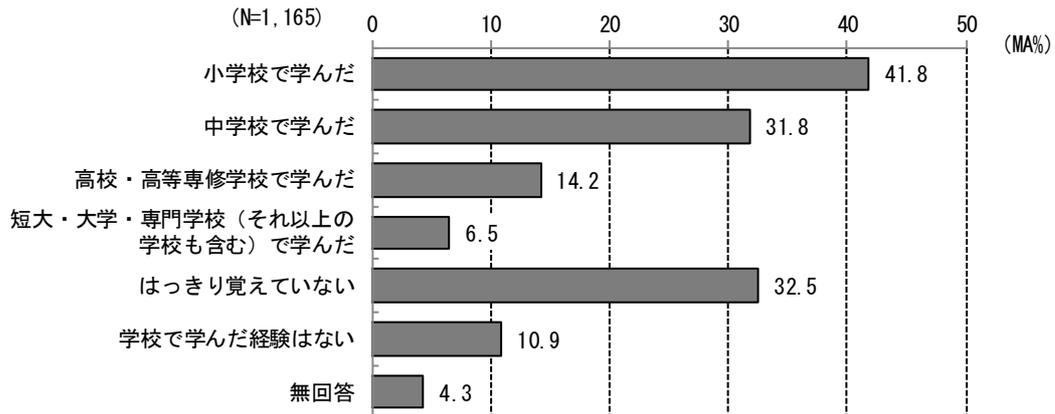
10 人権問題の啓発活動について

(1) 人権についての学習の経験

問 39 あなたは学校で人権について学んだ経験はありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

【図表 10-1 人権についての学習の経験】



人権についての学習の経験は、「小学校で学んだ」が41.8%と最も高く、次いで「はっきり覚えていない」が32.5%、「中学校で学んだ」が31.8%、「高校・高等専修学校で学んだ」が14.2%、「学校で学んだ経験はない」が10.9%となっている。(図表 10-1)

【図表 10-1-1 年齢別 人権についての学習の経験】

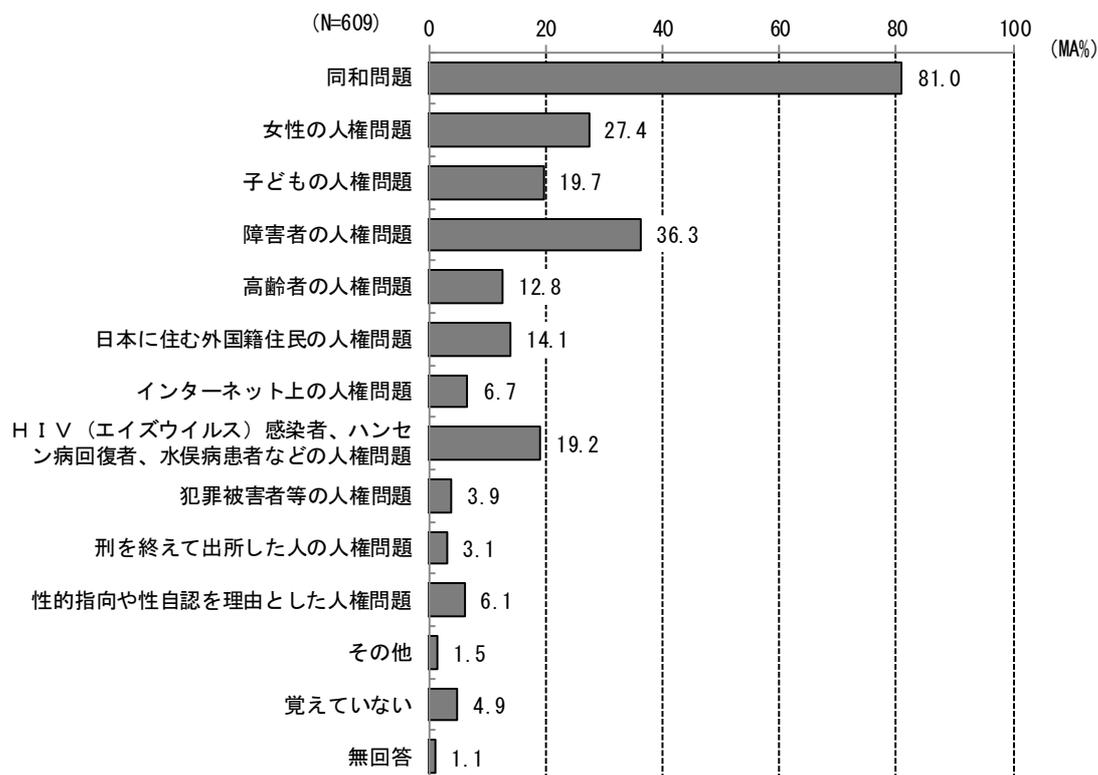
	上段：回答者数 (人) 下段：構成比率 (%)	回答者数	小学校で学んだ	中学校で学んだ	高校・高等専修学校で学んだ	（それ以上の学校も含む）	短大・大学・専門学校	はつきり覚えていない	い	無回答
			小学校で学んだ経験はない							
年齢別	20歳未満	123 100.0	88 71.5	94 76.4	86 69.9	12 9.8	11 8.9	-	-	2 1.6
	20歳代	151 100.0	89 58.9	77 51.0	62 41.1	33 21.9	39 25.8	3 2.0	3 2.0	2 1.3
	30歳代	125 100.0	79 63.2	53 42.4	19 15.2	16 12.8	36 28.8	3 2.4	3 2.4	1 0.8
	40歳代	191 100.0	136 71.2	89 46.6	25 13.1	19 9.9	33 17.3	2 1.0	2 1.0	1 0.5
	50歳代	178 100.0	126 70.8	78 43.8	23 12.9	13 7.3	38 21.3	3 1.7	3 1.7	2 1.1
	60歳代	159 100.0	52 32.7	46 28.9	24 15.1	6 3.8	62 39.0	17 10.7	17 10.7	4 2.5
	70歳代	265 100.0	19 7.2	39 14.7	20 7.5	4 1.5	126 47.5	56 21.1	56 21.1	25 9.4
	80歳以上	131 100.0	13 9.9	10 7.6	6 4.6	3 2.3	51 38.9	44 33.6	44 33.6	11 8.4

人権についての学習の経験を年齢別でみると、20～50歳代は「小学校で学んだ」、20歳未満は「中学校で学んだ」が最も高い。60歳以上は「はつきり覚えていない」が最も高く、「小学校で学んだ」、「中学校で学んだ」、「高校・高等専修学校で学んだ」は3割以下と低い。また、70歳以上は「学校で学んだ経験はない」が2～3割と他の年齢に比べ高くなっている。（図表 10-1-1）

(2) 学校で学んだ人権問題の分野

問40 問39で「1～4」と答えた方にお聞きします。
 それはどのような分野でしたか。(あてはまる番号すべてに○)

【図表 10-2 学校で学んだ人権問題の分野】



学校で学んだ人権問題の分野について、割合の高い上位5項目は、「同和問題」が81.0%と最も高く、次いで「障害者の人権問題」が36.3%、「女性の人権問題」が27.4%、「子どもの人権問題」が19.7%、「H I V (エイズウイルス) 感染者、ハンセン病回復者、水俣病患者」が19.2%となっている。(図表 10-2)

【図表 10-2-1 年齢別 学校で学んだ人権問題の分野】

上段：回答者数 下段：構成比率 (%)	回答者数	同和問題	女性の人権問題	子どもの人権問題	障害者の人権問題	高齢者の人権問題	日本に住む外国籍住民の人権問題	インターネット上の人権問題	HIV（エイズウイルス）感染者、ハンセン病回復者、水俣病患者などの人権問題	犯罪被害者等の人権問題	刑を終えて出所した人権問題	性的指向や性自認を理由とした人権問題	その他	覚えていない	無回答
20歳未満	110 100.0	56 50.9	65 59.1	55 50.0	70 63.6	30 27.3	27 24.5	60 54.5	44 40.0	8 7.3	4 3.6	31 28.2	2 1.8	5 4.5	-
20歳代	107 100.0	49 45.8	64 59.8	49 45.8	68 63.6	34 31.8	33 30.8	42 39.3	47 43.9	17 15.9	5 4.7	29 27.1	2 1.9	9 8.4	2 1.9
30歳代	85 100.0	69 81.2	27 31.8	23 27.1	40 47.1	11 12.9	11 12.9	6 7.1	27 31.8	2 2.4	1 1.2	8 9.4	2 2.4	3 3.5	1 1.2
40歳代	155 100.0	137 88.4	40 25.8	28 18.1	49 31.6	15 9.7	23 14.8	4 2.6	35 22.6	8 5.2	5 3.2	2 1.3	2 1.3	9 5.8	1 0.6
50歳代	135 100.0	130 96.3	25 18.5	15 11.1	36 26.7	11 8.1	10 7.4	1 0.7	15 11.1	2 1.5	-	3 2.2	-	3 2.2	-
60歳代	76 100.0	70 92.1	11 14.5	7 9.2	13 17.1	2 2.6	5 6.6	1 1.3	1 1.3	-	1 1.3	1 1.3	1 1.3	2 2.6	1 1.3
70歳代	58 100.0	43 74.1	13 22.4	11 19.0	23 39.7	7 12.1	5 8.6	1 1.7	5 8.6	3 5.2	5 8.6	2 3.4	-	4 6.9	1 1.7
80歳以上	25 100.0	15 60.0	4 16.0	2 8.0	9 36.0	4 16.0	4 16.0	1 4.0	2 8.0	2 8.0	3 12.0	-	1 4.0	3 12.0	2 8.0

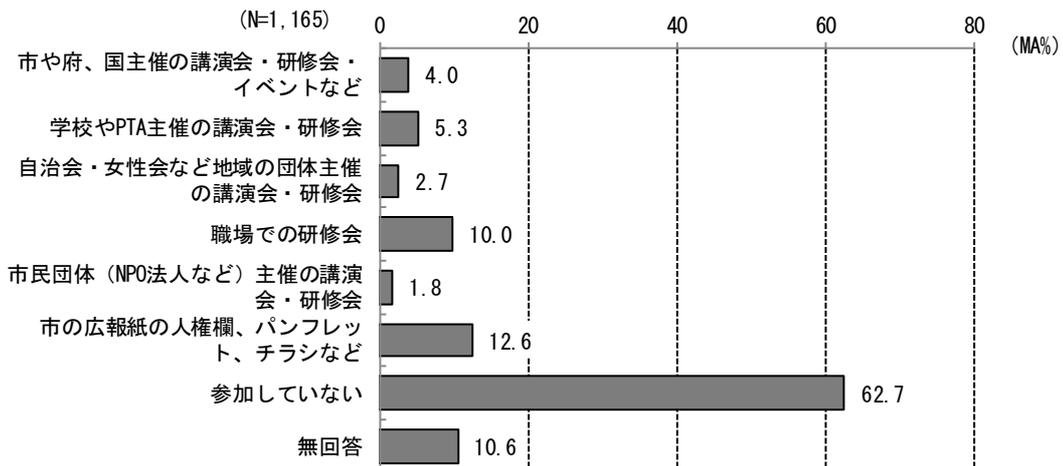
学校で学んだ人権問題の分野を年齢別で見ると、20歳代以下は「障害者の人権問題」が最も高く、30歳以上は「同和問題」が最も高い。20歳代以下は幅広い項目で他の年齢に比べ割合が高くなっているが、30歳以上は「同和問題」の割合が飛び抜けて高く、それ以外の項目は概ね「同和問題」の半分以下の割合となっている。（図表 10-2-1）

(3) 人権に関する講演会や研修会での学習経験

問 41 あなたは過去5年ほどの間に、人権についての講演会や研修会などで学んだことはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

【図表 10-3 人権に関する講演会や研修会での学習経験】



人権に関する講演会や研修会での学習経験については、「参加していない」が62.7%と他の項目に比べ大幅に高くなっている。次いで「市の広報紙の人権欄、パンフレット、チラシなど」(12.6%)、「職場での研修会」(10.0%)、「学校やPTA主催の講演会・研修会」(5.3%)、「市や府、国主催の講演会・研修会・イベントなど」(4.0%)、「自治会・女性会など地域の団体主催の講演会・研修会」(2.7%)、「市民団体 (NPO法人など) 主催の講演会・研修会」(1.8%)となっている。(図表 10-3)

【図表 10-3-1 年齢別 人権に関する講演会や研修会での学習経験】

	上段：回答者数 (人) 下段：構成比率 (%)	回答者数	市や府、国主催の講演会・研修会・イベント	学校やPTA主催の講演会・研修会	地域の団体主催の講演会	自治会・女性会など地	職場での研修会	市民団体（NPO法人など）主催の講演会・研修会	市の広報紙の人権欄、パンフレット、チラシなど	参加していない	無回答
年齢別	20歳未満	123	4	47	2	2	2	2	5	63	6
		100.0	3.3	38.2	1.6	1.6	1.6	1.6	4.1	51.2	4.9
	20歳代	151	4	14	-	15	2	2	2	118	5
		100.0	2.6	9.3	-	9.9	1.3	1.3	1.3	78.1	3.3
	30歳代	125	2	5	-	21	-	-	3	94	5
		100.0	1.6	4.0	-	16.8	-	-	2.4	75.2	4.0
	40歳代	191	4	16	1	28	3	3	16	126	13
		100.0	2.1	8.4	0.5	14.7	1.6	1.6	8.4	66.0	6.8
	50歳代	178	9	13	4	31	3	3	14	109	20
	100.0	5.1	7.3	2.2	17.4	1.7	1.7	7.9	61.2	11.2	
60歳代	159	14	6	8	18	1	1	26	91	16	
	100.0	8.8	3.8	5.0	11.3	0.6	0.6	16.4	57.2	10.1	
70歳代	265	10	4	14	6	6	6	58	154	38	
	100.0	3.8	1.5	5.3	2.3	2.3	2.3	21.9	58.1	14.3	
80歳以上	131	5	3	5	1	5	5	24	73	26	
	100.0	3.8	2.3	3.8	0.8	3.8	3.8	18.3	55.7	19.8	

人権に関する講演会や研修会での学習経験を年齢別でみると、いずれの年齢も「参加していない」が最も高く、過半数を占めている。20歳未満は「参加していない」（51.2%）が各年齢の中で最も低く、「学校やPTA主催の講演会・研修会」（38.2%）が大幅に高い。また、「職場での研修会」は30～60歳で1割台、「市の広報紙の人権欄、パンフレット、チラシなど」は60歳以上で1～2割程度となっている。（図表 10-3-1）

【図表 10-3-2 職業別 人権に関する講演会や研修会での学習経験】

	上段：回答者数 (人) 下段：構成比率 (%)	回答者数	市や府、国主催の講演会・研修会・イベント	学校やPTA主催の講演会	地域の団体主催の講演会	自治会・女性会など地	職場での研修会	市民団体（NPO法人など）主催の講演会・研修会	市の広報紙の人権欄、パンフレット、チラシなど	参加していない	無回答
職業	自営業、またはその手伝い (農林水産業を含む)	77	3	-	3	2	1	16	47	10	
		100.0	3.9	-	3.9	2.6	1.3	20.8	61.0	13.0	
	民間企業の経営者・役員	34	2	1	-	6	-	4	21	2	
		100.0	5.9	2.9	-	17.6	-	11.8	61.8	5.9	
	民間企業の正社員	250	10	11	-	45	4	10	180	14	
		100.0	4.0	4.4	-	18.0	1.6	4.0	72.0	5.6	
	公務員または教員 (正規雇用)	37	6	5	1	25	1	6	9	1	
		100.0	16.2	13.5	2.7	67.6	2.7	16.2	24.3	2.7	
	派遣、パート、アルバイト など非正規雇用	207	5	16	8	24	3	24	126	18	
		100.0	2.4	7.7	3.9	11.6	1.4	11.6	60.9	8.7	
	生徒・学生	45	-	12	-	1	1	1	30	2	
	100.0	-	26.7	-	2.2	2.2	2.2	66.7	4.4		
家事専業	188	6	9	5	3	2	24	118	29		
	100.0	3.2	4.8	2.7	1.6	1.1	12.8	62.8	15.4		
無職	281	13	5	12	6	8	55	168	46		
	100.0	4.6	1.8	4.3	2.1	2.8	19.6	59.8	16.4		
その他	30	1	2	2	3	-	5	21	-		
	100.0	3.3	6.7	6.7	10.0	-	16.7	70.0	-		

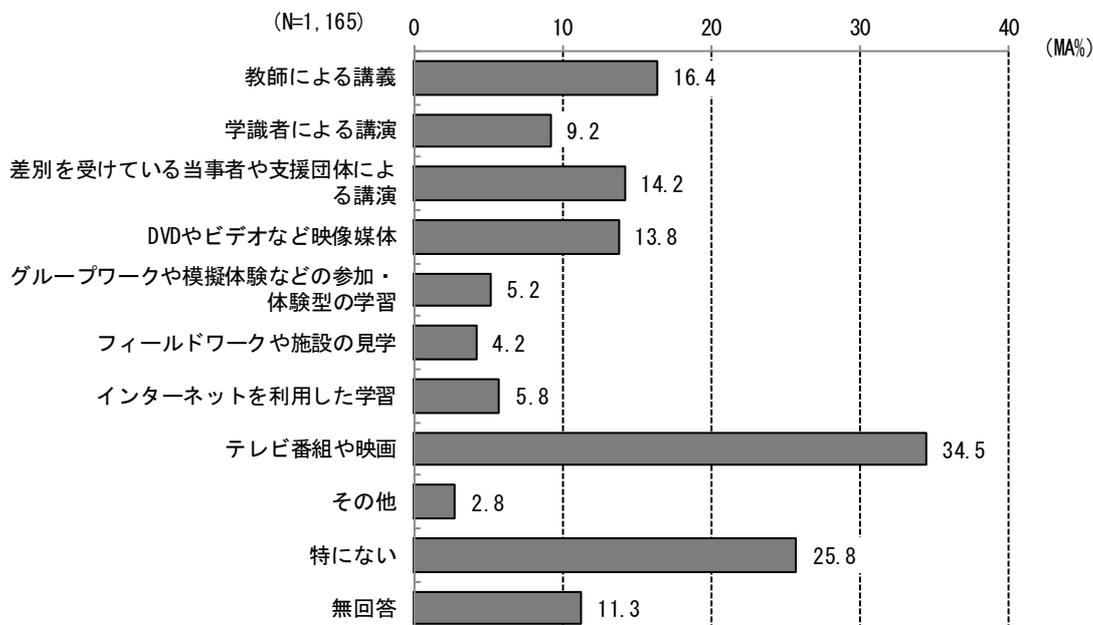
人権に関する講演会や研修会での学習経験を職業別でみると、公務員または教員（正規雇用）は「参加していない」が24.3%と他の職業に比べ大幅に低く、「職場での研修会」は67.6%と他の職業に比べ大幅に高くなっている。また、民間企業の経営者・役員、民間企業の正社員は「職場での研修会」が18%前後みられるほか、生徒・学生は「学校やPTA主催の講演会・研修会」が26.7%と他の職業に比べ高い。

（図表 10-3-2）

(4) 人権への理解を深めるために役立った機会や手段

問 42 あなたが人権について、理解を深めるために役立ったと思うものはどれですか。
(あてはまる番号すべてに○)

【図表 10-4 人権への理解を深めるために役立った機会や手段】



人権への理解を深めるために役立った機会や手段については、「テレビ番組や映画」が34.5%と最も高く、次いで「特にない」が25.8%、「教師による講義」が16.4%、「差別を受けている当事者や支援団体による講演」が14.2%、「DVDやビデオなど映像媒体を用いたもの」が13.8%、「学識者による講演」が9.2%となっている。(図表 10-4)

【図表 10-4-1 年齢別 人権への理解を深めるために役立った機会や手段】

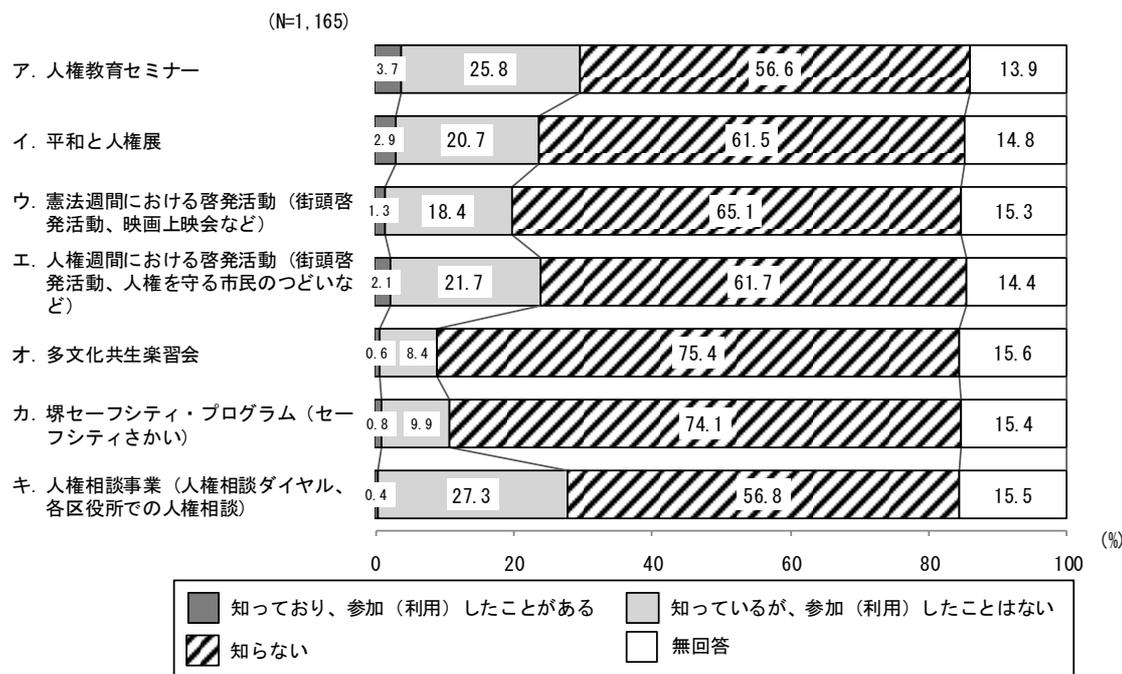
年齢別	上段：回答者数 (人)	回答者数	教師による講義	学識者による講演	演者や支援団体による講義	差別を受けている当事者	映像媒体	DVDやビデオなど映像の学習	グループワークや模擬体験などの参加・体験	フィールドワークや施設の見学	インターネットを利用した学習	テレビ番組や映画	その他	特にない	無回答
	下段：構成比率 (%)														
年齢別	20歳未満	123	50	23	36	47	19	6	15	33	2	14	5		
		100.0	40.7	18.7	29.3	38.2	15.4	4.9	12.2	26.8	1.6	11.4	4.1		
	20歳代	151	53	23	23	33	21	10	22	51	2	30	6		
		100.0	35.1	15.2	15.2	21.9	13.9	6.6	14.6	33.8	1.3	19.9	4.0		
	30歳代	125	29	7	15	25	7	5	16	35	5	32	12		
		100.0	23.2	5.6	12.0	20.0	5.6	4.0	12.8	28.0	4.0	25.6	9.6		
	40歳代	191	45	17	26	25	12	13	17	56	4	56	9		
		100.0	23.6	8.9	13.6	13.1	6.3	6.8	8.9	29.3	2.1	29.3	4.7		
	50歳代	178	39	16	25	23	9	7	10	60	2	41	12		
		100.0	21.9	9.0	14.0	12.9	5.1	3.9	5.6	33.7	1.1	23.0	6.7		
60歳代	159	18	15	34	24	9	5	8	67	3	33	13			
	100.0	11.3	9.4	21.4	15.1	5.7	3.1	5.0	42.1	1.9	20.8	8.2			
70歳代	265	17	24	27	25	8	9	1	105	9	82	42			
	100.0	6.4	9.1	10.2	9.4	3.0	3.4	0.4	39.6	3.4	30.9	15.8			
80歳以上	131	7	13	12	7	1	1	2	47	6	38	32			
	100.0	5.3	9.9	9.2	5.3	0.8	0.8	1.5	35.9	4.6	29.0	24.4			

人権への理解を深めるために役立った機会や手段を年齢別でみると、20歳代以下は「教師による講義」が最も高く、30歳代以上は「テレビ番組や映画」が最も高くなっている。なお、40歳代は「特にない」と「テレビ番組や映画」が同値となっている。20歳未満は「特にない」が比較的低く、「フィールドワークや施設の見学」、「テレビ番組や映画」以外の各項目で割合が比較的高い。(図表 10-4-1)

(5) 堺市の人権に関する事業についての認知状況

問 43 あなたは、堺市が実施する人権に関する事業や人権に関する施設を知っていますか。
また、過去5年ほどの間に参加（利用）したことがありますか。
(あてはまる番号1つに○)

【図表 10-5 堺市の人権に関する事業についての認知状況】



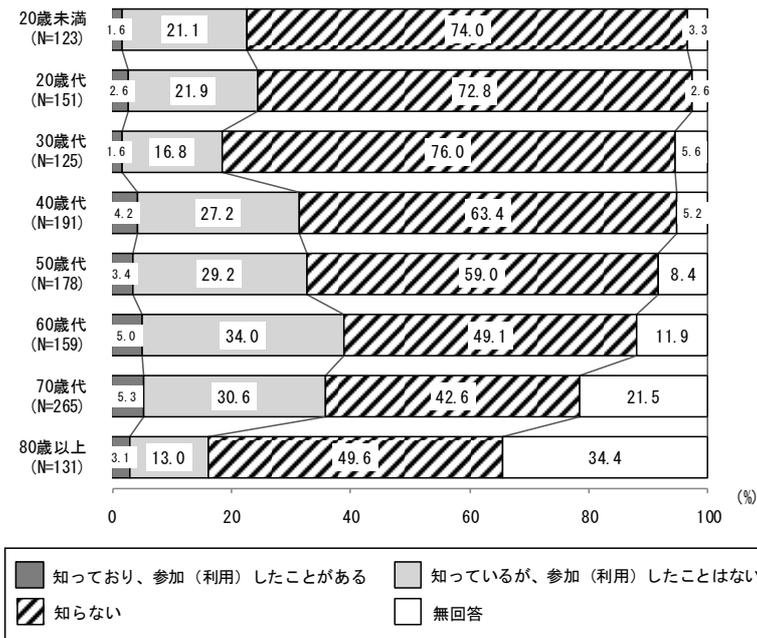
※本設問は、調査票設問文に「あてはまる番号1つに○」とすべきところを「あてはまる番号すべてに○」と誤って表記していたが、全ての有効回答に複数回答が見られなかったため、回答の除外処理等は行っていない。

堺市の人権に関する事業についての認知状況は、いずれの項目も「知らない」が最も高く、「知っており、参加（利用）したことがある」は5.0%未満となっている。「知っており、参加（利用）したことがある」が高い項目は、「ア. 人権教育セミナー」（3.7%）、「イ. 平和と人権展」（2.9%）、「エ. 人権週間における啓発活動（街頭啓発活動、人権を守る市民のつどいなど）」（2.1%）である。

「知っているが、参加（利用）したことはない」が高い項目は、「キ. 人権相談事業（人権相談ダイヤル、各区役所での人権相談）」（27.3%）、「ア. 人権教育セミナー」（25.8%）、「エ. 人権週間における啓発活動（街頭啓発活動、人権を守る市民のつどいなど）」（21.7%）、となっている。

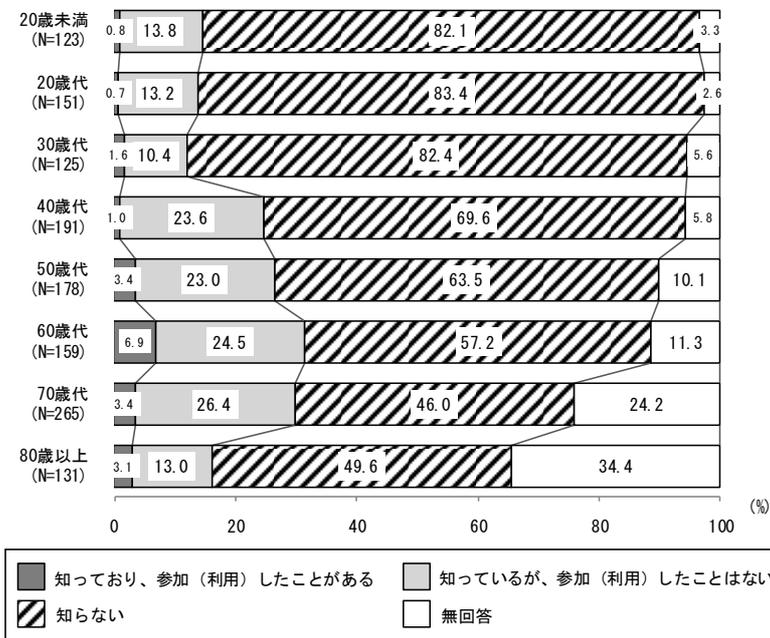
「知らない」が高い項目は、「オ. 多文化共生楽習会」（75.4%）、「カ. 堺セーフシティ・プログラム（セーフシティさかい）」（74.1%）、「ウ. 憲法週間における啓発活動（街頭啓発活動、映画上映会など）」（65.1%）となっている。（図表 10-5）

【図表 10-5-1 年齢別 ア. 人権教育セミナー】



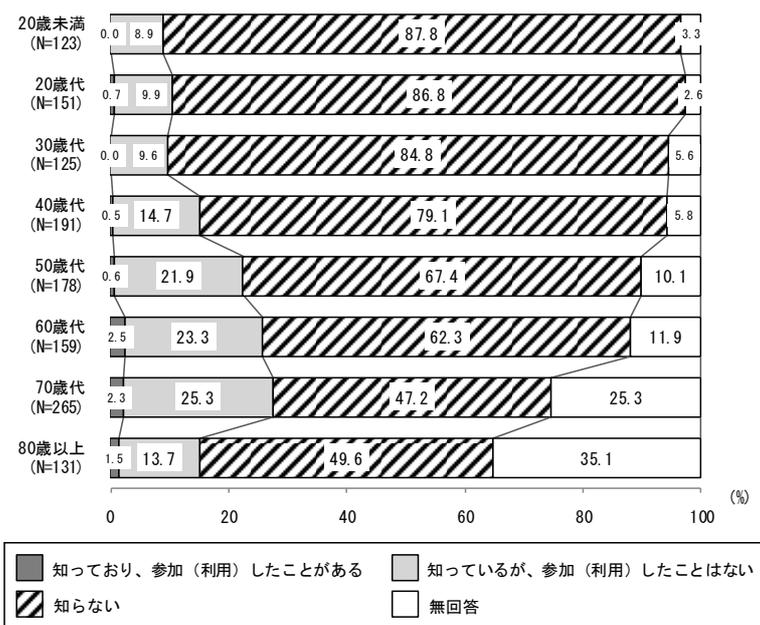
「ア. 人権教育セミナー」を年齢別で見ると、50歳代以下は「知らない」が過半数を占めており、特に30歳代以下は7割台と高くなっている。60～70歳代は「知っているが、参加したことはない」が3割台、「知っているが、参加したことがある」は約5%となっている。(図表 10-5-1)

【図表 10-5-2 年齢別 イ. 平和と人権展】



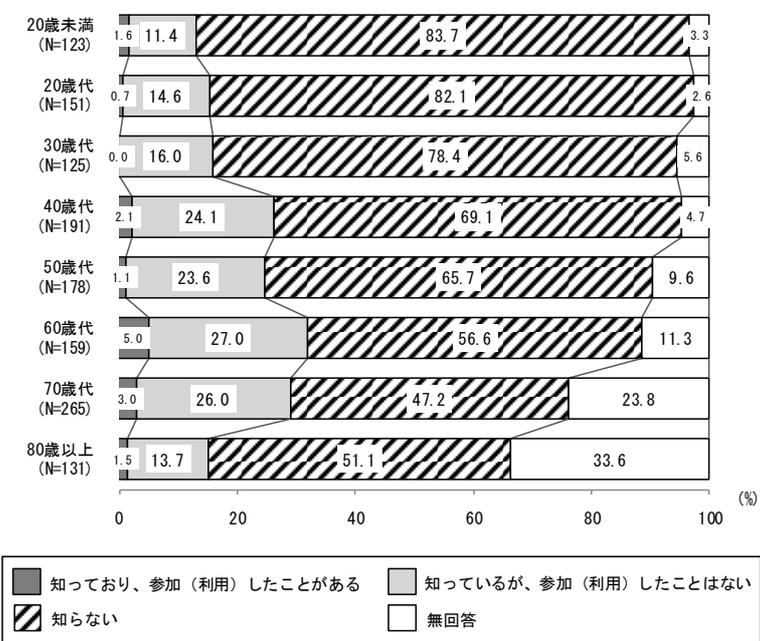
「イ. 平和と人権展」を年齢別で見ると、60歳代以下は「知らない」が過半数を占めており、特に30歳代以下は8割程度と高い。「知っているが、参加したことはない」は40～70歳代で2割台となっている。「知っているが、参加したことがある」は60歳代(6.9%)で最も高い。(図表 10-5-2)

【図表 10-5-3 年齢別 ウ. 憲法週間における啓発活動（街頭啓発活動、映画上映会など）】



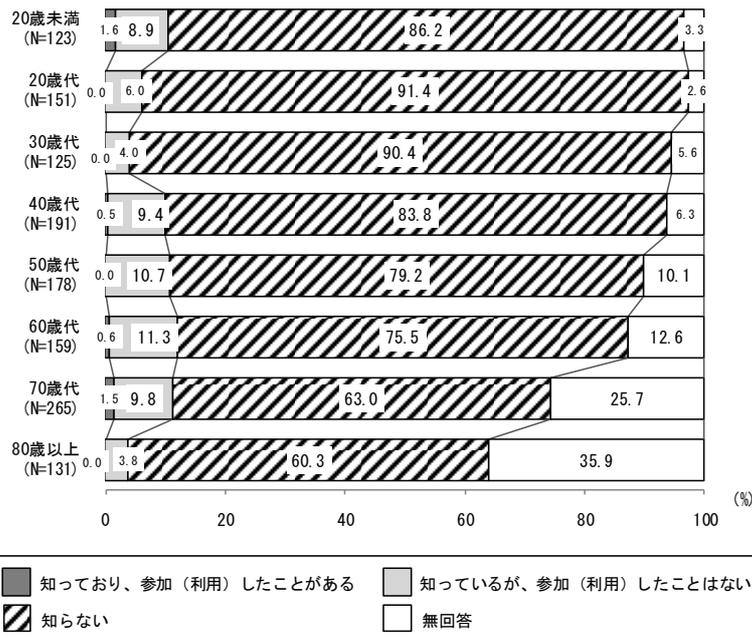
「ウ. 憲法週間における啓発活動（街頭啓発活動、映画上映会など）」を年齢別でみると、「知らない」は60歳代以下で6割以上となっており、年齢が下がるにつれその割合は高くなっている。「知っているが、参加したことはない」は50～70歳代で2割台となっている。また、「知っている、参加したことがある」はいずれの年齢も3%に満たない。（図表 10-5-3）

【図表 10-5-4 年齢別 エ. 人権週間における啓発活動（街頭啓発活動、人権を守る市民のつどいなど）】



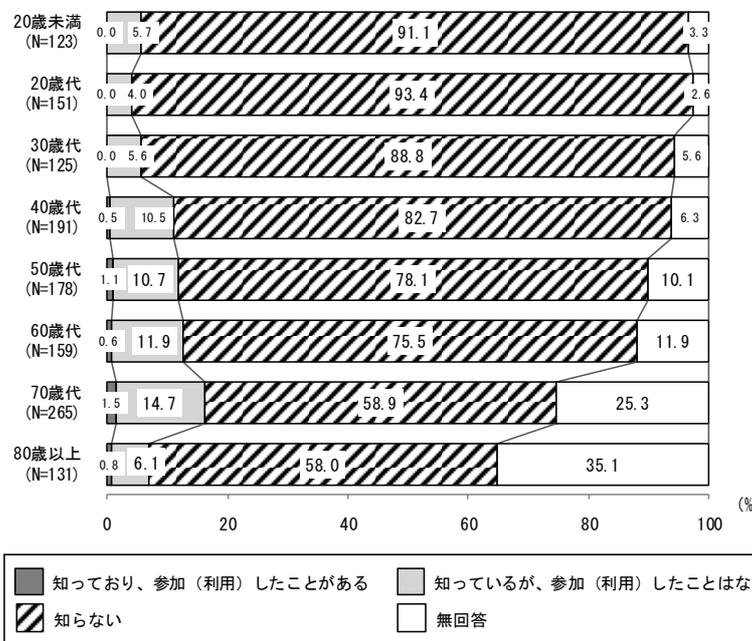
「エ. 人権週間における啓発活動（街頭啓発活動、人権を守る市民のつどいなど）」を年齢別でみると、「知らない」は50歳代以下で6割以上となっており、「知らない」が半数に満たないのは70歳代のみである。「知っているが、参加したことはない」は、40～70歳代で2割台となっている。「知っている、参加したことがある」は60歳代（5.0%）で最も高い。（図表 10-5-4）

【図表 10-5-5 年齢別 オ. 多文化共生楽習会】



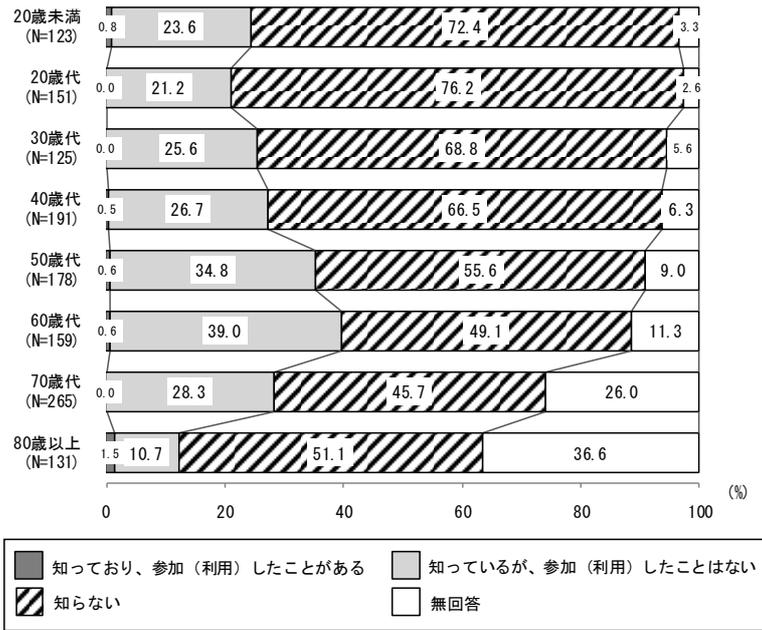
「オ. 多文化共生楽習会」を年齢別で見ると、いずれの年齢も「知らない」が6割以上を占めており、20～30歳では9割以上になっている。「知っており、参加したことがある」は、いずれの年齢も2.0%未満と低く、20～30歳代、50歳代、80歳以上は0.0%と全く見られない。「知っているが、参加したことはない」は20歳未満及び40～70歳代で1割前後となっている。(図表 10-5-5)

【図表 10-5-6 年齢別 カ. 堺セーフシティ・プログラム（セーフシティさかい）】



「カ. 堺セーフシティ・プログラム（セーフシティさかい）」を年齢別で見ると、いずれの年齢も「知らない」が過半数を占めており、中でも20歳代以下では9割程度と高い。いずれの年齢も「知っており、参加したことがある」は2.0%未満と低い。「知っているが、参加したことはない」は70歳（14.7%）で最も高い。(図表 10-5-6)

【図表 10-5-7 年齢別 キ. 人権相談事業（人権相談ダイヤル、各役所での人権相談）】

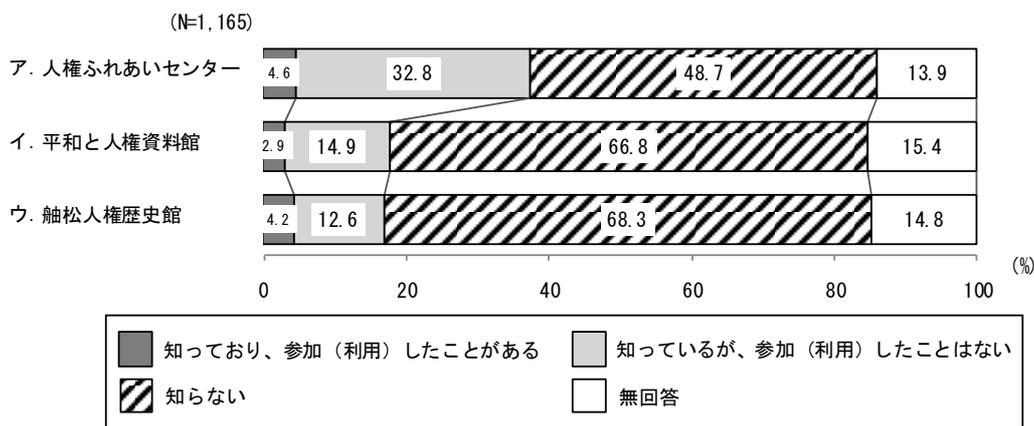


「キ. 人権相談事業（人権相談ダイヤル、各役所での人権相談）」を年齢別で見ると、「知らない」は50歳代以下及び80歳以上で過半数を占めている。「知っているが、利用したことがある」はいずれの年齢も2.0%未満と低いものの、「知っているが、利用したことはない」は70歳代以下で2～3割台となっており、中でも60歳代は39.0%と各年齢の中で最も高い。（図表 10-5-7）

(6) 堺市の人権に関する施設についての認知状況

問 43 あなたは、堺市が実施する人権に関する事業や人権に関する施設を知っていますか。
また、過去5年ほどの間に参加（利用）したことがありますか。
(あてはまる番号ひとつに○)

【図表 10-6 堺市の人権に関する施設についての認知状況】



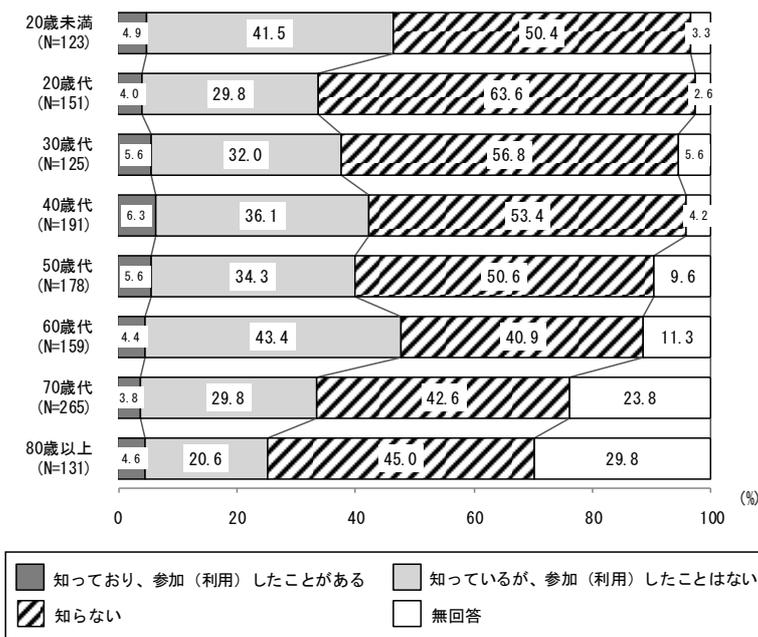
※本設問は、調査票設問文に「あてはまる番号1つに○」とすべきところを「あてはまる番号すべてに○」と誤って表記していたが、全ての有効回答に複数回答が見られなかったため、回答の除外処理等は行っていない。

堺市の人権に関する施設についての認知状況は、いずれの項目も「知らない」が最も高い。「知っている、参加（利用）したことがある」はいずれも5%未満であり、「ア. 人権ふれあいセンター」(4.6%)、「ウ. 舩松人権歴史館」(4.2%)、「イ. 平和と人権資料館」(2.9%)の順に高い。

「知っているが、参加（利用）したことはない」は「ア. 人権ふれあいセンター」(32.8%)が大幅に高く、次いで「イ. 平和と人権資料館」(14.9%)、「ウ. 舩松人権歴史館」(12.6%)となっている。

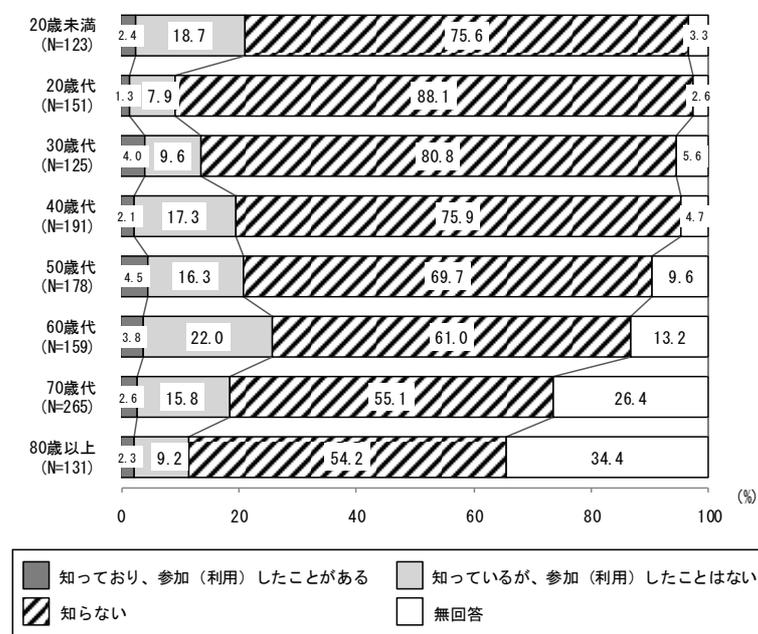
「知らない」は「ア. 人権ふれあいセンター」(48.7%)が大幅に低く、「イ. 平和と人権資料館」(66.8%)、「ウ. 舩松人権歴史館」(68.3%)は同程度となっている。(図表 10-6)

【図表 10-6-1 年齢別 ア. 人権ふれあいセンター】



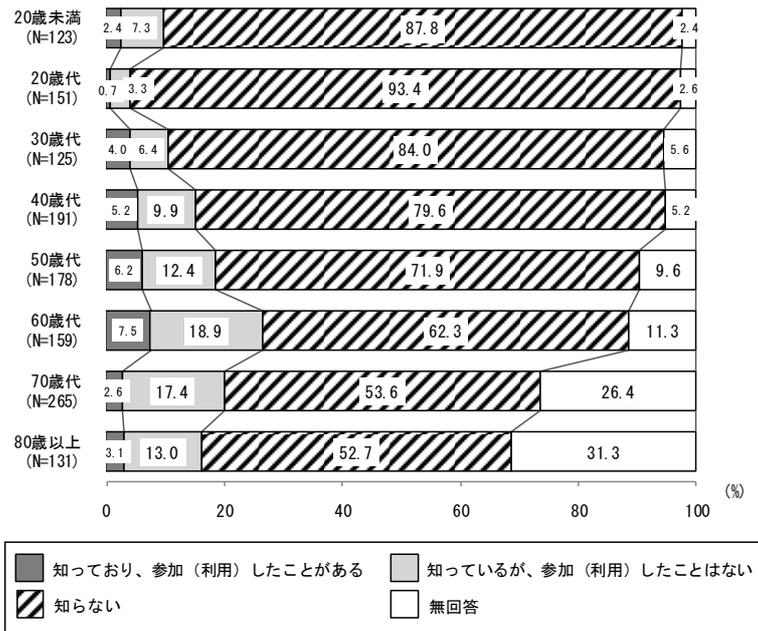
「ア. 人権ふれあいセンター」を年齢別で見ると、「知らない」は50歳代以下で5～6割、60歳以上では4割程度となっている。「知っており、利用したことがある」はいずれの年齢も概ね4～6%程度である。「知っているが、利用したことはない」は60歳代が43.4%と最も高く、次いで20歳未満で41.5%となっている。(図表 10-6-1)

【図表 10-6-2 年齢別 イ. 平和と人権資料館】



「イ. 平和と人権資料館」を年齢別で見ると、「知らない」はいずれの年齢も過半数を占めており、中でも20～30歳代は8割台と高い。「知っており、利用したことがある」は50歳代(4.5%)で最も高い。「知っているが、参加したことはない」は60歳代(22.0%)で最も高くなっている。(図表 10-6-2)

【図表 10-6-3 年齢別 ウ. 舳松人権歴史館】



「ウ. 舳松人権歴史館」を年齢別で見ると、「知らない」はいずれの年齢も過半数を占めており、20歳代（93.4%）を頂点に年齢が離れるにつれその割合が低くなっている。「知っており、利用したことがある」は60歳代（7.5%）で最も高い。「知っているが、利用したことはない」は50歳以上で1割台となっている。（図表 10-6-3）